

板山館跡 発掘調査報告書

県営担い手育成基盤整備事業（加治川右岸地区）
に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書 IV

2018

新発田市教育委員会

例　　言

- 1 本報告書は、新潟県新発田市板山字館ノ越 2279 番 1 ほかに所在する板山館跡（いたやまやかたあと）の発掘調査記録である。
- 2 発掘調査は、「県営担い手育成基盤整備事業（加治川右岸地区）」に伴う本発掘調査であり、新潟県新発田地域振興局から委託を受けて、新発田市教育委員会が調査主体となって実施した。平成 25(2013) 年 5 月 29 日から 12 月 25 日に現地調査を行い、整理作業は、発掘調査終了後の平成 25 年度と翌 26 年度に基礎整理作業を、平成 27～29 年度に本格整理作業・報告書作成を行った。
- 3 本発掘調査に要した経費は、総額の 92.5% を事業者である新潟県新発田地域振興局が負担し、残りの 7.5% を文化財保護担当部局である新発田市が負担した。なお、文化財保護担当部局負担分については、その半額を国庫補助、残りを県費補助と市費で負担した。
- 4 遺物と図面・写真ネガ・日誌などの記録類は、新発田市教育委員会が一括保管している。遺物の注記は、土器・陶磁器類については遺跡名を「板山」と略記し、グリッド・遺構・層位・遺物番号・年月日を記したうえで分類・収納している。
- 5 本報告書の作成は、本田祐二（新発田市教育委員会）を中心に行い、田中耕作（新発田市教育委員会）と坂野岳史（新発田市教育委員会 臨時職員）、整理作業員がこれを補助した。
- 6 本書掲載の写真は、遺構を本田が撮影し、遺物は縄文土器を田中が、木製品・石器を㈱ノガミが、残りを本田が撮影した。
- 7 第IV章の自然科学分析は、1 を㈱パレオ・ラボ、2 を㈱加速器分析研究所、3 を㈱古環境研究所に委託し、それぞれの業務報告と結果を掲載した。
- 8 本書の編集は本田が行い、第III章 6 を田中が、第IV章を除くほかを本田が執筆した。
- 9 石製品・石器の石材の同定は、鈴木 晓（新発田市教育委員会）が肉眼観察により行った。
- 10 遺物番号は、挿図・写真図版とも同一の通し番号を付したが、第IV章のみ節ごとに独立した番号である。
- 11 表番号・挿図番号・図版番号は、第IV章のみ節ごとに独立した番号である。
- 12 発掘調査から本書の作成まで、下記の多くの諸氏・機関からご助言・ご支援を賜わった。記して感謝の意を表す次第である。（五十音順、敬称略）

相羽重徳 伊藤久司 小林 弘 関 雅之 高橋春栄 増子正三 水澤幸一 新潟県教育庁文化行政課 新潟県
新発田地域振興局 川東土地改良区

目 次

第Ⅰ章 遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置と立地	1
2 歴史的環境と周辺の遺跡	2

第Ⅱ章 調査の概要

1 調査に至る経緯と調査体制	6
2 調査経過	7

第Ⅲ章 遺構と遺物

1 グリッドの設定と基本土層	9
2 遺構の概要と記載方法	9
3 遺構各説	20
4 遺物の概要と記載方法	75
5 中・近世の遺物	75
6 先史時代の遺物	94

第Ⅳ章 自然科学分析

1 板山館跡出土木製品の樹種同定	116
2 板山館跡における放射性炭素年代測定（AMS 測定）	119
3 板山館跡採取土壤分析（トイレ遺構分析）	128

第Ⅴ章 まとめ

1 土器・陶磁器の変遷	140
2 建物の消長と遺跡の変遷	141
3 結語	144
引用・参考文献	145
報告書抄録	後付

挿 図 目 次

第1図	遺跡の位置.....	1	第32図	17号掘立柱建物（2）・18号 掘立柱建物.....	35
第2図	周辺の主な中世遺跡.....	3	第33図	19号掘立柱建物	36
第3図	遺跡の立地と周辺の遺跡.....	4	第34図	20・21号掘立柱建物	37
第4図	遺跡範囲と確認トレンチ.....	7	第35図	22・23号掘立柱建物	38
第5図	グリッドと基本土層.....	10	第36図	24号掘立柱建物（1）.....	39
第6図	調査区全体図.....	12	第37図	24号掘立柱建物（2）.....	40
第7図	平面分割図（1）.....	13	第38図	25号掘立柱建物（1）.....	41
第8図	平面分割図（2）.....	14	第39図	25号掘立柱建物（2）・26号 掘立柱建物.....	42
第9図	平面分割図（3）.....	15	第40図	27号掘立柱建物	43
第10図	平面分割図（4）.....	16	第41図	28号掘立柱建物	44
第11図	平面分割図（5）－1（掘立柱 建物・柵列）.....(16-17折込)		第42図	29号掘立柱建物	45
第12図	平面分割図（5）－2（その他の遺構）(16-17折込)		第43図	30号掘立柱建物	46
第13図	平面分割図（6）.....	17	第44図	31号掘立柱建物	47
第14図	平面分割図（7）.....	18	第45図	32号掘立柱建物	48
第15図	平面分割図（8）.....	19	第46図	33号掘立柱建物	49
第16図	1号掘立柱建物.....	20	第47図	34号掘立柱建物	50
第17図	2号掘立柱建物（1）.....	21	第48図	35号掘立柱建物	51
第18図	2号掘立柱建物（2）.....	22	第49図	36号掘立柱建物	52
第19図	3号掘立柱建物（1）(22-23折込)		第50図	37号掘立柱建物	53
第20図	3号掘立柱建物（2）.....	23	第51図	1号堅穴建物.....	54
第21図	4・5号掘立柱建物.....	24	第52図	1～3号柵列.....	55
第22図	6・7号掘立柱建物.....	25	第53図	1～3号井戸.....	56
第23図	8号掘立柱建物.....	26	第54図	1～10・13号土坑	58
第24図	9号掘立柱建物（1）.....	27	第55図	11・12・14～18号土坑	59
第25図	9号掘立柱建物（2）.....	28	第56図	19～26号土坑	61
第26図	10号掘立柱建物	29	第57図	27～36号土坑	62
第27図	11・12号掘立柱建物	30	第58図	37～41号土坑	64
第28図	13・14号掘立柱建物	31	第59図	42～48号土坑	65
第29図	15・16号掘立柱建物（1）.....	32	第60図	49～54号土坑	66
第30図	16号掘立柱建物（2）.....	33	第61図	55・56号土坑	67
第31図	17号掘立柱建物（1）.....	34	第62図	柱根を検出したピット.....	68
			第63図	1～10・12～20号溝.....	70
			第64図	20～32号溝、1号杭列	72

第 65 図	堀	73	第 76 図	石製品（2）	86
第 66 図	川跡	74	第 77 図	銭貨・金属製品	87
第 67 図	掘立柱建物出土 土器・陶磁器	76	第 78 図	木製品（1）	88
第 68 図	掘立柱建物・堅穴建物・井戸・ 土坑出土 土器・陶磁器	78	第 79 図	木製品（2）	89
第 69 図	土坑出土 土器・陶磁器	79	第 80 図	木製品（3）	90
第 70 図	ピット・溝出土 土器・陶磁器	80	第 81 図	木製品（4）	91
第 71 図	溝・堀・攢乱出土 土器・ 陶磁器	81	第 82 図	木製品（5）	92
第 72 図	遺構外出土 土器・陶磁器（1）	82	第 83 図	木製品（6）	93
第 73 図	遺構外出土 土器・陶磁器（2）	83	第 84 図	縄文土器	95
第 74 図	土製品	84	第 85 図	石器	96
第 75 図	石製品（1）	85	第 86 図	土器・陶磁器の組成と消長	140
			第 87 図	建物類の変遷（1）	142
			第 88 図	建物類の変遷（2）	143

表 目 次

表 1 調査体制	6	表 3 遺物観察表	107
表 2 遺構一覧表	97		

図 版 目 次

図版 1	調査区遠景・全景	図版 8	土器・陶磁器（1）
図版 2	基本土層、遺構検出状態、1・2号柵列	図版 9	土器・陶磁器（2）
図版 3	3・9・17・24号掘立柱建物柱穴	図版 10	土器・陶磁器（3）
図版 4	25・26・33号掘立柱建物柱穴、1号堅穴建物、 1・3号井戸	図版 11	土器・陶磁器（4）、土製品、石製品、銭貨、 金属製品
図版 5	2号井戸、20・40・50号土坑	図版 12	石製品、石器
図版 6	4・10・14・20号溝、1号柵列、堀	図版 13	木製品（1）
図版 7	堀、川跡	図版 14	木製品（2）

凡 例

- 1 本書掲載の地形図は、国土地理院発行の1/50,000「新発田」(平成15年)・「中条」(平成15年), 1/25,000「上赤谷」(平成14年)および新発田市作成1/200「板山館跡本発掘調査地形測量業務委託平面図」を縮小したものを使用している。
- 2 地形図は図の「天」が真北で、遺構図の方位記号は真北を示す。
- 3 グリッド杭の国家座標は第VII系である。基準となる杭とその座標については、第III章1を参照願いたい。なお、南北グリッド軸の方位は、真北に対してN-19° 42' 30"-Wである。
- 4 掘図の縮尺は、遺構平面図・断面図とともに1/40~1/100、遺物は1/3を基本とする他、2/3・1/6・1/8とし、適宜スケールと縮尺を示した。
- 5 土層説明および遺物の色調での土色は、小山正忠・竹原秀雄2003『新版 標準土色帖』日本色研事業株式会社を使用した。
- 6 遺構図に示した遺物の原位置は、土器・陶磁器・土製品を●、石製品を■、木製品を▲とした。
- 7 遺構写真で、スケールとして用いたピンポールは、直線部分が50cmの長さである。
- 8 引用・参考文献は巻末に一括掲載し、本文中では著者と発行年を括弧書きで示した。ただし、業務委託した第IV章は、各節の文末に記した。
- 9 掘図中の網掛け等で示す範囲は、下記の内容を表す。

〈土器・陶磁器〉

— — — 施釉範囲
— — — 目跡
□ 漆
□ 青磁釉(肥前系磁器)
□ 薄い鉄釉
□ 銅緑釉
□ 濃い鉄釉
■ スス

〈石製品・木製品〉

□ 磨面
□ 砂付着
□ 赤漆
□ 黒漆
■ 炭化

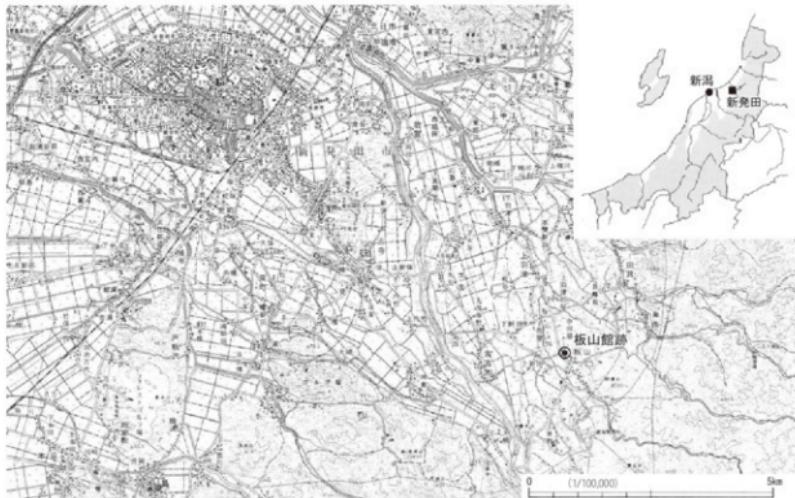
第Ⅰ章 遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置と立地

新潟県新発田市は、新潟市の東に隣接する人口約9万8千人の県北部の地方都市である。市域は、東は山形県との県境となっている飯豊山地から、西は日本海に面する藤塚浜までの範囲にわたり、総面積は533.10 km²である。市街地は、旧新発田藩城下町とその周辺部に発達し、その周囲には加治川水系の恵みを豊かに受けて営まれる稲作農村地帯が広がる。

市域の東側は、飯豊山地・櫛形山脈・五頭山地といった山々が連なり、平野に面して五十公野丘陵や真木山丘陵などの独立丘陵が点在している。山々から西流する加治川水系の河川は、越後平野の一部を成す河成段丘や扇状地、沖積低地を形成した。かつてこれらの河川は、下流域で海岸線に並行して延びる新潟砂丘にぶつかり、日本海へは直接注ぎ込むことができず、福島潟や塩津潟（紫雲寺潟）などの潟湖へ流れのほか、砂丘沿いを流れて阿賀野川と合流していた。また、その阿賀野川は河口付近で信濃川と合流し、日本海へと流れていった。このような自然条件の元、当時の人々は、海や河川、潟を利用した水上交通を媒介として、盛んに交易を行っていたと考えられている。

板山館跡は、新発田市板山字節ノ越2279番1ほかに所在する中世の城館跡である。市街地中心部から南東へ約8.5 kmに位置し、周辺の標高は約64 m、加治川によって開析された河成段丘を板山川が開析して形成した河成段丘中位面の、板山川右岸に遺跡は立地している。遺跡の周囲には、東にある丘陵から延びる緩傾斜地を造成した田畠が広がり、丘陵の裾部から湧出する水がこれらの田畠を潤している。今回の調査でも旧河川が検出されており、当時もこの河川が下流域の田畠を潤していたと想像されよう。



第1図 遺跡の位置

2 歴史的環境と周辺の遺跡

市域東縁の山麓部は、市内でも旧石器時代や繩文時代、中世の遺跡が多く集中している場所である。板山館跡が所在する加治川中流域も同様で、本遺跡を含む加治川右岸の板山地区・小戸地区、同左岸の山内地区にもそれら時代の遺跡が多く分布している。

旧石器時代から古代 本遺跡から南へ約2kmに広がる車野原には、上車野A遺跡（第3図109）をはじめとした旧石器時代の遺跡が広がり、「上車野・上ノ山遺跡群」を形成している。また本遺跡の西へ400mの地点には上新田B遺跡（108）（鈴木・田中ほか2004）が所在する。本遺跡と同地区のほ場整備事業に伴い平成14・15年度に本発掘調査が行われ、後期旧石器時代にあたる尖頭器石器群の製作跡が確認されている。

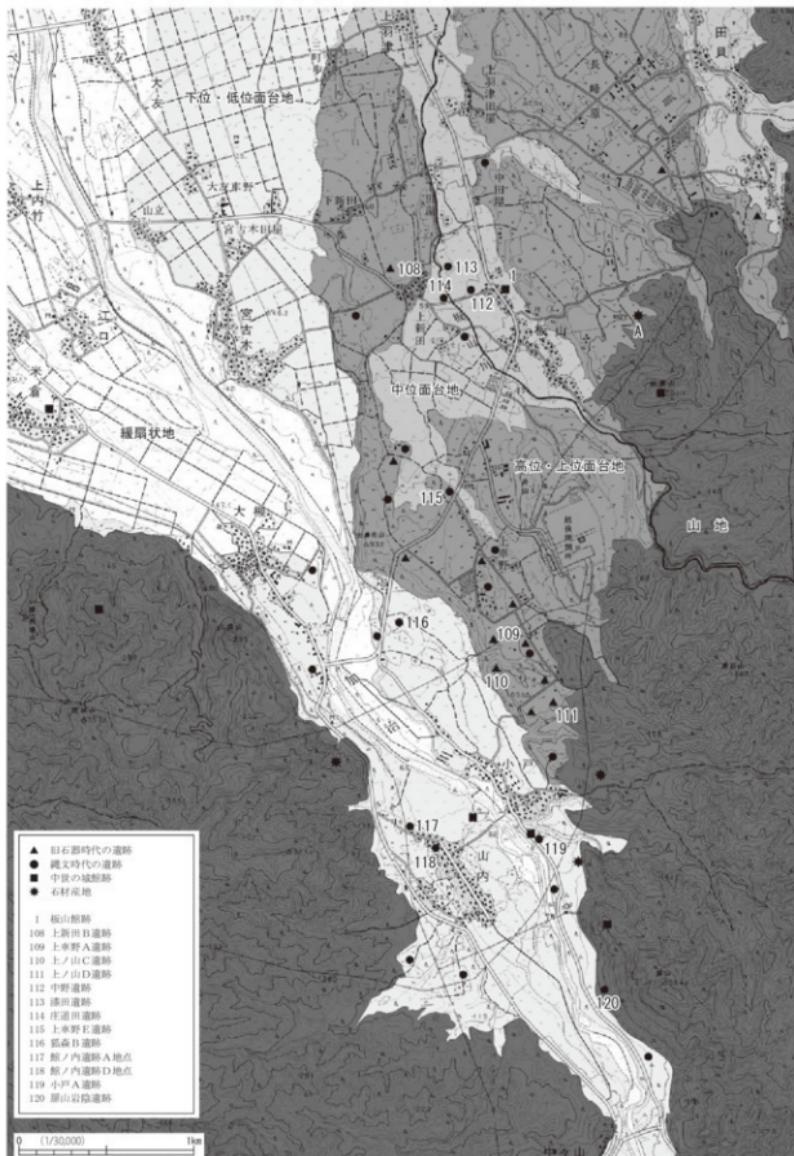
また、繩文時代の遺跡も、本遺跡の周辺で数多く確認されている。過去に発掘調査が行われた遺跡だけでも、繩文時代早期前葉から中期前葉の扉山岩陰遺跡（120）（扉山遺跡発掘調査会1988）、早期中葉と前期前葉から末葉の小戸A遺跡（119）（田中1983）、早期中葉と前期前葉から末葉の孤森B遺跡（116）（田中・坂野井ほか2007）、中期中葉の上車野E遺跡（115）がある。また、本遺跡から200m圏内の同じ段丘上に立地する中期後葉から後期初頭の塗田遺跡（113）、中期末葉から晩期末葉の中野遺跡（112）、中期末葉から晩期初頭の庄道田遺跡（114）（田中・鈴木ほか2014）、加治川対岸の山内地区にある中期末葉の館ノ内遺跡A地点（117）、中期末葉と晩期中葉の館ノ内遺跡D地点（118）（田中・鶴巻1992）があげられる。

弥生時代については、小戸A遺跡で中期前半、上車野E遺跡で後期後半の土器がごく少量出土している。古墳時代については、孤森B遺跡で前期の土器が出土している。この土器は、本遺跡と同地区のほ場整備事業に伴い平成17年度に本発掘調査を実施した際に出土したものである。それ以外には目ぼしい資料は見られず、両時代とも本遺跡の周辺の状況は詳細不明である。また、古代に至っては、本遺跡周辺では明確な遺跡は見つかっていない。この時期の市内では平野部への進出が著しい一方、加治川沿いの河成段丘上の様相はほとんどわかつていない。

中世 平安時代後半になると、律令国家を支える公地公民制の維持が難しくなり、各地で在地有力者により荘園が開発される。その後の土地の支配制度は、荘園と国領領を元とする公領による、いわゆる荘園公領制へと移行する。新発田市を含む下越地方では荘園が多く立てられ、現在の市内には、北部に楫間家領の奥山荘、その南には金剛院領加地荘、旧豊浦町を中心とした市域南部に東大寺領豊田莊、赤谷地区には小川荘が存在していた（新発田市史編纂委員会編1980）。なお、板山地区がどの荘域に属していたか、中世以前の当地域に関する資料が残存せず不明である。文治元（1185）年に源頼朝は、全国に守護・地頭を設置する勅許を得て、御家人や在地領主を各地の守護・地頭に補任した。奥山荘には三浦和田氏、加地荘には佐々木氏、豊田莊には関（関）瀬氏が地頭に任じられている（小川荘は不明）。関（関）瀬氏は建仁二（1202）年の史料を最後にその消息は不明となるが、三浦和田氏や佐々木氏の子孫は在地領主となる。新発田市内を根拠地とした佐々木氏は、後に加地氏を称して在地領主化し、その領地は分割相続され、新発田・竹俣・五十公野などの諸氏が派生した。惣領家である加地氏と新発田・竹俣・五十公野の四氏は、戦国時代の初期の頃には肩を並べる存在となり、国人領主としてそれぞれ独立した存在となっていたことがわかつている（阿部2017）。なお、史料や伝承、地名などから、加治川右岸北西部の地域を加地氏、加治川右岸南東部の地域を竹俣氏、加治川左岸の地域を新発田氏が（戸根・田中ほか2017）、また、板山の北西に近接する上・下羽津を現在の阿賀野市内に本拠を持つ大見安田氏が（菅編1961）、赤谷地区を会津芦名氏の家臣小田切氏がそれぞれ領有していたと考えられている。その後、越後国主の座を巡る管領上杉氏と守護代長尾氏の争い、上杉謙信の死後、上杉氏の跡目を巡る争いを経て、上杉景勝と新発田重家の間で行われた新発田合戦と新発田氏の滅亡、上杉氏の会津への移封をもって当地区も新たな時代を迎えることとなる。



第2図 周辺の主な中世遺跡



第3図 遺跡の立地と周辺の遺跡

当遺跡の存続時期である室町時代以降の遺跡のうち、発掘調査を行ったものについて概観していく。

城館跡では、宝積寺館跡（第2回12）・三光館跡（13）・箱館跡（22）・寺内館跡（5）・新発田城跡（35）・五十公野館跡（37）・太畜館跡（43）などで調査が行われている。宝積寺館跡は、一辺が200 m以上の単郭式方形居館である（田中・鶴巻ほか1990）。掘立柱建物51棟・柵列28列のほか堀や茶毬跡と想定される土坑25基などが検出されている。出土遺物は、15世紀を主体に14～16世紀のものが大部分を占めている。15世紀頃の竹俣氏の本拠地と考えられ、16世紀以降は寺院となり竹俣氏の菩提寺として存続していたと言われている。三光館跡は、東西100 m、南北85 mの方形居館である（田中・鶴巻ほか1990）。狭い範囲での調査のため、堀を除き遺構の詳細は不明であるが、宝積寺館跡と同様に15世紀を主体とする14世紀後半から16世紀代の遺物が出土している。箱館跡は、佐々木加地氏の本拠と考えられる加治城跡（58）の麓に位置する一辺約70 mの方形居館である（伊藤・鶴巻ほか2006）。堀の一部などが検出され、14世紀後半から15世紀後半を主体とする13世紀から16世紀代の遺物が出土している。惣領家加地氏の庶子や被官の館跡と考えられ、16世紀前半には館は廃絶されたとする。寺内館跡は、一辺74 mの方形居館である（鶴巻・高橋1999）。掘立柱建物5棟・堅穴建物1棟などが検出され、12世紀から16世紀前半の遺物が出土し、館の存続時期を13世紀から16世紀前半としている。箱館跡と同様、小領主の館跡と想定されている。新発田城跡は近世の城郭跡であるが、第8地点として調査した箇所は古丸と呼ばれ、新発田氏の居館がかつてあったとの伝承がある（鶴巻・清水ほか1997）。堀や土塁は検出されず、掘立柱建物も1棟が復元されているのみで、館としての詳細は不明であるが、9世紀から19世紀代までの遺物が出土し、中でも中世土師器の変遷を追えることが注目される。五十公野館跡は、新発田合戦の際に上杉景勝に攻め落とされた五十公野城の西麓に立地する根小屋式の居館または同城の副郭と考えられる方形居館である（戸根・田中ほか2017）。13世紀から16世紀の遺物が出土し、15～16世紀を主体とする。太畜館跡は、一辺約80 mの単郭式方形居館である（津田2011）。堀と郭内的一部が調査され、13世紀から16世紀前半の遺物が出土しているが、14世紀から15世紀前半のものではほぼ占められ、15世紀前半には館としての機能は終息したとされる。

このように、14世紀代から15世紀を中心とする城館跡と16世紀まで存続する城館跡がある一方で、集落跡の多くは鎌倉時代である13世紀から14世紀前半代を中心とする遺跡が多く、16世紀代に営まれる集落跡は市内ではわずかに確認されるだけである。加治天王前遺跡（89）はその一つで、加治城跡の麓に位置する集落である（伊藤・鈴木ほか2008）。15世紀後半以降の居住地と、それに隣接する畠地が検出されているほか、16世紀前半に比定される大型掘立柱建物と想定される柱穴列が検出されており、富裕者の居住地と考えられている。荒神裏A遺跡（101）は、加治川扇状地の自然堤防上に立地する、古墳時代から戦国時代まで断続的に存続する集落遺跡である（鶴巻・永井ほか2005）。中世の掘立柱建物や木棺墓などが検出されているが、中世集落の様相はあまり判然としていない。12世紀後半から17世紀初頭までの遺物が出土している。小船渡遺跡（99）は、加治川扇状地扇端部に位置する古代と中世の集落遺跡である（加藤・石垣ほか2014）。12世紀後半から15世紀末まで、途中洪水による被害を受けながらも継続的に集落が営まれていたことがわかっている。

近世 上杉氏が会津へ移封されると、板山地区を含む周辺の村々は村上氏の支配下に組み込まれることとなり、江戸時代には村上藩領となる（新発田市史編纂委員会編1980）。当初の藩主村上氏は領内を十余組に分かち、その下に各村を置いて領内を統治、上・下板山村は加治組に属していた。寛永十九（1642）年村上氏の跡を受け藩主となつた堀氏が断絶、加治組の村々は幕領となつた。正保元（1644）年に本多氏が村上藩主に移封されると、それに伴い加治組の村々も村上藩領に復する。慶安二（1649）年に松平氏が村上藩主に任じられた頃、領内の組の細分・再編が行われ、上・下板山村は通称加治六組の大友組に属した。その後、宝永六（1709）年に村上藩主の死去に伴い大友組の村々は再び幕領に収公され、享保九（1724）年黒川藩領となり、そのまま幕末を迎えた。

第Ⅱ章 調査の概要

1 調査に至る経緯と調査体制

板山館跡が所在する県営担い手育成基盤整備事業加治川右岸地区は、平成10年に事業が採択され、事業面積は396haである。新発田市教育委員会（以下、「市教委」）は、事業者である新潟県新発田農地事務所（以下、「県農地事務所」）や地元代表者である川東土地改良区と協議を行い、同地区内に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地のうち7遺跡が確認調査の対象となった。市教委は、平成11年11月の上新田B遺跡の確認調査を皮切りに、平成15年11月の板山館跡まで、秋の稲刈り後の時期に7遺跡の確認調査を行った。また、平成14・15年に上新田B遺跡、平成17年に糸森B遺跡、平成22年に中野遺跡、平成23年に庄道遺跡の本調査を実施している。

板山館遺跡周辺の工事が平成17年度に着手される計画となつたため、平成14年12月に県農地事務所と市教委は協議を行い、板山館跡の範囲確認調査を平成15年度秋季に実施することで合意した。事業主体である県農地事務所長は、平成15年8月27日付け芝農地第557号の1で文化財保護法（昭和25年法律第214号）第57条の3第1項に基づく埋蔵文化財発掘の通知で周知の埋蔵文化財包蔵地内の工事計画を提出した。それを受け、新潟県教育委員会教育長（以下、「県教育長」）は、平成15年9月8日付け教文第819号で確認調査の実施を市教委に通知した。市教委は、平成15年10月27日付け生学836号で確認調査への着手を県教育長へ報告し、11月18日から11月28日の期間に板山館跡の範囲確認調査を実施した。市教委はトレーニング4か所を調査して遺跡範囲の把握に努め、工事対象地内の約4,000m²規模に遺跡が広がることを確認。平成15年12月5日付け生字第953号で、県教育長へ確認調査の終了を報告した。その後、新潟県新発田地域振興局（旧県農地、以下「県振興局」）と市教委は、施工計画の見直しを含めた協議を重ねていった。その後、平成24年10月の協議で、遺跡範囲内の面工事部分南半分と用排水路部分、農道沿いの側溝部分の合計1,700m²を、平成25年5月から9月に市教委が直営により本発掘調査を実施することで合意した。なお、調査体制は表1のとおりである。

表1 調査体制

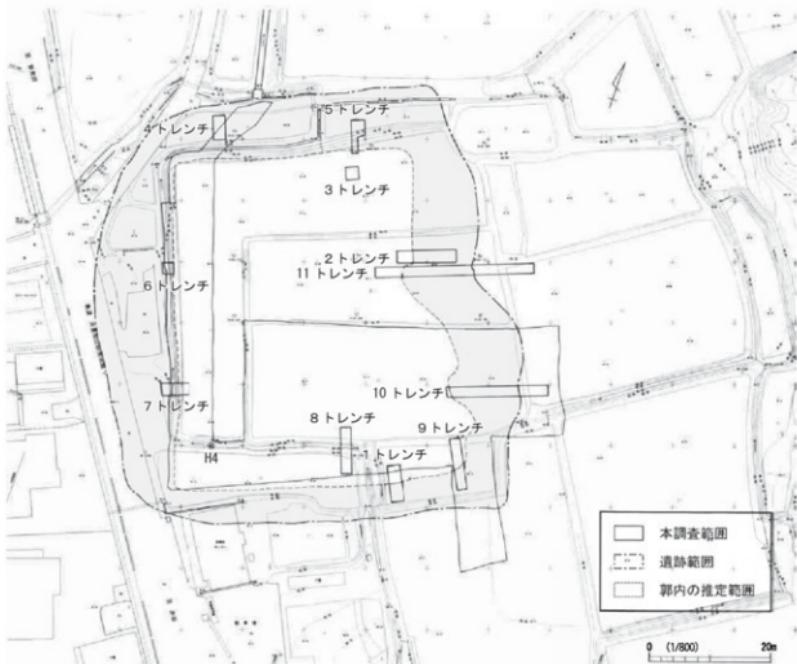
平成15年度（確認調査）			
調査主体者	新発田市教育委員会（教育長 大瀧 弁）	調査担当者	田中 耕作（生涯学習課 副参事）
監理	内木 隆（教育部長）	調査員	鈴木 晚（生涯学習課 文化財技師）
総括	小島 一修（生涯学習課長）	庶務	青木 勇（生涯学習課 主事）
平成25年度（本発掘調査）			
調査主体者	新発田市教育委員会（教育長 大山 康一）	調査担当者	本田 祐二（生涯学習課 文化行政室 主任）
監理	船山 隆（生涯学習課長）	調査員	渡邊美穂子（生涯学習課 文化行政室 主任）
総括	田中 耕作（生涯学習課 文化行政室長）	庶務	鈴木 晚（生涯学習課 文化行政室 主任）
平成26年度（整理作業）			
調査主体者	新発田市教育委員会（教育長 大山 康一）	調査担当者	本田 祐二（生涯学習課 文化行政室 主任）
監理	船山 隆（生涯学習課長）	調査員	坂野 岳史（生涯学習課 文化行政室 臨時職員）
総括	田中 耕作（生涯学習課 文化行政室長）	庶務	鈴木 晚（生涯学習課 文化行政室 主任）
平成27年度（整理作業）			
調査主体者	新発田市教育委員会（教育長 大山 康一）	調査担当者	本田 祐二（文化行政課 主任）
監理	田中 耕作（文化行政課長）	調査員	坂野 岳史（文化行政課 臨時職員）
総括	平山 真（文化行政課長補佐）	庶務	渡邊美穂子（文化行政課 主任）
平成28年度（整理作業・平成29年度（整理作業・報告書作成）			
調査主体者	新発田市教育委員会（教育長 大山 康一）	調査担当者	本田 祐二（文化行政課 主任）
監理	平山 真（文化行政課長）	調査員	坂野 岳史（文化行政課 臨時職員）
総括	坂井 喜行（文化行政課長補佐）	庶務	渡邊美穂子（文化行政課 埋蔵文化財係長）

そして、県振興局長は平成25年3月4日付け芝振農整第1119号埋蔵文化財発掘の通知により、市教委との合意内容に基づいた遺跡部分の工事計画を県教育長へ提出した。それを受けた県教育長は、平成25年3月13日付け教文第1333号の2で工事に着手する前に本発掘調査を実施するよう通知した。また、県振興局長は市教委に対し、平成25年4月2日付け芝振農整第10号で本発掘調査の実施を依頼し、両者は平成25年4月10日に発掘調査費用の負担契約を締結した。なお、調査費用の負担割合は例年を参照されたい。その後、市教委は平成25年4月30日付け文行第100号で県教育長へ発掘調査の着手を報告し、同年5月29日に調査に着手した。

2 調査経過

発掘調査の経過（調査日誌抄） 平成25年5月8日～6月6日 測量業者に委託して、発掘調査前の地形測量と調査で使用する基準点を打設する（成果品は5月31日に納品）。この間、県振興局が調査区の丁張りと用排水路の迂回工事を行う。地形測量終了後、発掘調査支援業者に委託し、現場器材と設備の設営作業を実施する。

6月7日～27日 現場器材の引越しや現場事務所の設営を行う。まず、遺跡の範囲と現況確認のためトレンチ6か所を掘削する。その後、用排水路部分のうち、調査区西側と南西部の調査を行う。地山の粘性が強く、掘削・検出作業に手間取る。堀の肩は大幅に擾乱を受けており、原形をとどめているのはわずかな範囲と判明する。



第4図 遺跡範囲と確認トレンチ

6月28日～7月31日 雨が多く、作業が滞る。調査区西側の遺構掘削と記録作成を継続しつつ、調査区南側と面工事部分南西部、調査区南東部の調査に着手する。一段低い調査区南側は大幅に削平され、遺構がほとんど残っていない。その後、調査区南東部を重機掘削するが、降雨の影響や所々に使用中の水道管が埋設しており作業が滞る。重機掘削の結果、東辺の堀は川を利用したものと判明する。西側調査区で新たに小規模な掘立柱建物1棟を検出する。面工事部分南西部の遺構調査に着手し、多数の溝や土坑、小穴と井戸1基を検出。そのうちの土坑1基から、桶が据えられていたと思われる状態で掘が出土し、分析用の土壤サンプルを採取する。

8月1日～8月30日 面工事・用排水路南東部の遺構調査に着手する。調査区南西部で井戸1基を検出する。7日に県振興局・施工業者と現地で協議する。東辺の堀と川跡は底面まで完掘しないことと、調査期間の延長について了承を得る。東辺の堀・川跡の断面の記録作成のためトレンチを掘削する。お盆休みを挟み、クローラーの通路を兼ねた調査区土層帶の記録を作成し撤去する。面工事北東部の遺構調査に着手する。

8月31日 地元向けの現地説明会を開催する。20名が来場する。

9月1日～25日 面工事北西部の遺構調査に着手する。遺構検出の結果、相当数の遺構が集中していると判明する。館東辺の川跡を掘削する。館周辺では中世の遺物が出土し、調査区南東部では繩文土器片数点が出土する。

9月26日～10月18日 県振興局と現地で協議を行う。その結果、遺跡北側農道沿いの側溝部分は工法変更により調査対象外とし、遺跡北側は現存する集水橋へつなぐ管理設部分のみを調査対象とすることに決まる。他の区画の遺構調査は概ね終了してきたことから、面工事北西部の遺構調査を中心に進めつつ、空中写真撮影に向けた準備を行う。なお、遺構をすべて完掘してからでは写真撮影が困難な時期となるため、未掘の遺構は、上空から遺構の位置を確認できる深さまで掘り下げた状態で撮影を行う。10月18日に空中写真撮影を実施する。

10月19日～12月2日 面工事部分北西部の遺構調査と並行して、堀・川跡の図面を作成する。調査区外の遺跡部分保護のため敷設した鉄板を搬出、重機の通行用に残していた畔を掘削する。その後は雨天続きの中、面工事北西部の遺構調査を進めつつ、管理設部分にあたる堀北辺の調査を行うが、地盤が軟弱で作業に手間取る。

12月3日～12月16日 悪天候が続き、降雨・降雪の中、作業を行う。面工事部分北西部を中心記録作成を進めながら、調査区壁で基本土層の記録作成と遺構の断ち割り・記録作成作業を行う。

12月17日～25日 残りの記録作成を行いながら撤収準備を進める。19日に現地での最終確認を行い、撤収作業と一部器材の片づけ、25日は現場設備の撤去を行い、現地調査を終了する。

平成26年3月12日～14日 残った現場器材の水洗・片づけを行う。

現地調査終了後、平成25年12月27日付け文行第647号で新発田警察署長に遺物発見届を、同年同日付け文行第648号で県教育長に遺物保管証を提出した。これらの出土遺物は、平成26年2月18日付け教文第1399号の2で文化財認定を受けている。また、市教委は平成26年1月16日付け文行第699号で、県教育長へ発掘調査の終了を報告した。

整理作業の経過 現地調査終了後は、遺物の水洗や写真・図面等記録類の基礎的な整理作業を行った。平成26年度は、遺構図面の整理作業と、遺物の注記・接合・復元作業を行った。また、出土木製品の樹種同定及び放射性炭素年代測定、採取土壤の寄生虫卵等分析といった自然科学分析を、外部の専門業者に委託して実施した。その成果は、第IV章に掲載している。平成27年度は、引き続き遺構図面の整理作業と、出土遺物の実測図作成・トレース・拓本採取を行い、報告書版下作成のためのレイアウト作成作業に着手した。なお、出土遺物のうち石器と木製品は、外部の業者に委託して実測図作成・トレース・写真撮影を行った。平成28年度は、現場図面から建物を復元する作業とその図面作成・トレース作業と並行し、報告書のレイアウトや版下の作成、報告書掲載写真の選び出し、遺構・遺物の一覧表作成作業を行った。平成29年度は、残りの版下作成作業と遺物の写真撮影、原稿執筆を行い、発掘調査報告書を印刷・刊行した。また、出土遺物や調査記録の収蔵・納収作業を行った。

第III章 遺構と遺物

1 グリッドの設定と基本土層

調査区とグリッドの設定（第4・5図） 板山館跡は中世の城館跡で、一边が約44～58m、方半町規模のいわゆる方形居館である。遺跡範囲は、地籍図の区画を基に、平成15年度に行われた確認調査成果と合わせて周知化されている。館部分の土地区画は、当時の地形や区画を明瞭に残していると考えられていたことから、今回の調査で使用するグリッドは、館の軸線に合わせて設定することが合理的と判断し、そのようにグリッド軸を定め、遺跡範囲全面を覆うようにグリッドを設定した。

ほ場整備工事のために打設されたH4杭（国家座標 X=211302, 969, Y=79978, 267）を起点に、 $70^{\circ} - 17' - 30''$ 東方向へ25mの位置（Eh グリッド杭）から、直角に北方向へ20m移動した地点をEf グリッド杭（X=211330, 228, Y=79995, 058）とした。そして、Ef-Eh ラインをグリッドの南北軸とし、10mメッシュの大グリッドを設定した。グリッドは、西から東へアルファベットの大文字で「A」・「B」・「C」…、北から南へアルファベットの小文字で「a」・「b」・「c」…として、両者の組み合わせで、「Aa」や「Be」のように呼称し、10mメッシュの北西の杭を各グリッドの起点とした。さらに、大グリッドを東西・南北の各方向に五等分した2mメッシュを小グリッドとして、西から東、北から南へそれぞれ「1」・「2」…として、「1-1」・「1-2」…と呼称し、大小のグリッドを組み合わせて「Aa1-1」・「Ab1-2」と表示した。

また、標高の原点は、ほ場整備工事のために打設されたB.M. 10 (H=64.380 m) を基準点とし、調査区へ標高を移した。

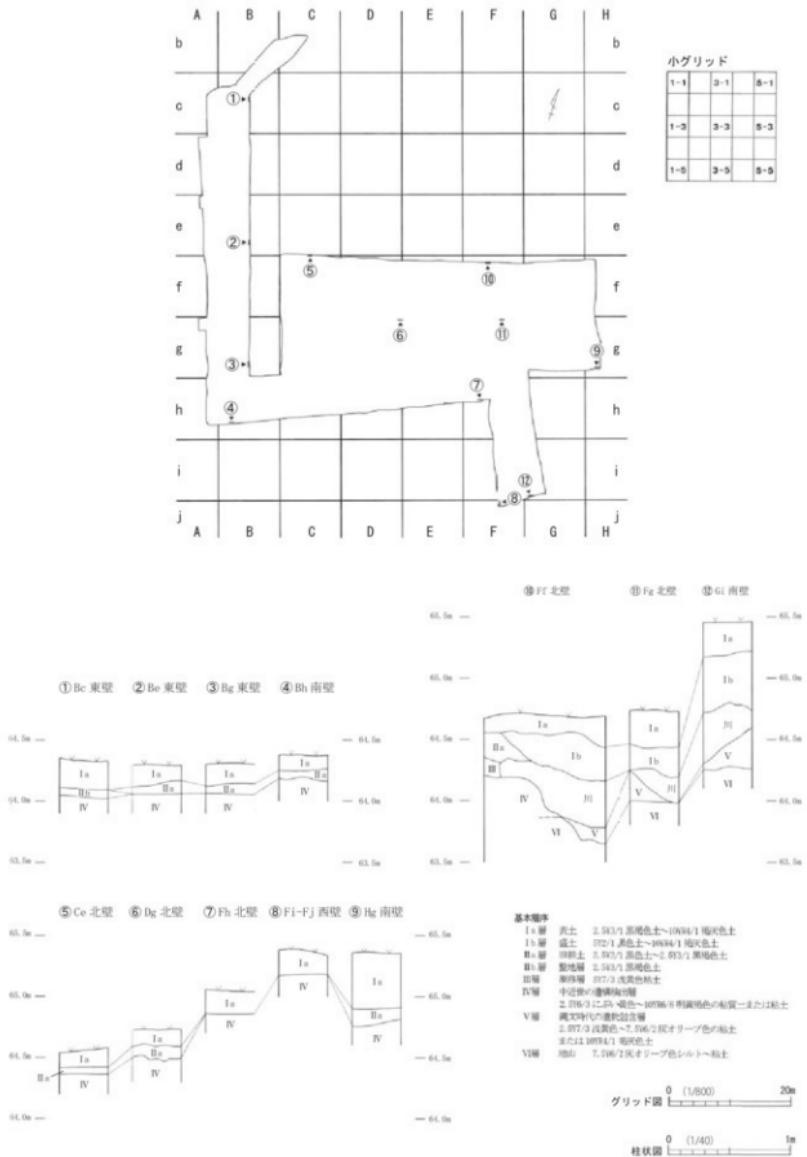
基本土層（第5図） 基本土層の観察は、調査区壁を利用し、攪乱などの影響を受けていない箇所で観察・記録を行った。基本土層はローマ数字、遺構埋土は算用数字で表記し、その細分にはアルファベットの小文字を付している。

調査区の基本的な層序は、表土を含めI～VI層に分類できる。I層は表土で、耕土であるa層と盛土であるb層に分けられる。II層は、表土直下の現代の層で旧耕土（a層）と整地層（b層）に細分される。現代に田畑を造成した際の盛土層や、整地後の作付のために耕された土である。III層は上層とIV層との漸移層であり、調査区の東側でのみ検出されている。IV層は中近世の遺構検出層で、にぶい黄色～明黄褐色の粘土または粘質土である。遺構はいずれもこの層からのみ掘り込みを確認でき、中近世の遺物包含層は確認されていない。V層は、縄文時代の中期後葉から後期中葉の遺物を包含する層で、調査区東側を流れていた川跡とその周辺でのみ確認されている。VI層は地山で、灰オリーブ色のシルトまたは粘土である。

今回の発掘調査では、I～III層の掘削には重機を使用し、中近世の遺構検出層であるIV層上面で人力により遺構検出の作業を行った。なお、中近世の遺構面検出標高は64.0～65.0 m程度であり、調査区の南東から北西へと緩やかに下っている。

2 遺構の概要と記載方法

遺構の概要 今回の調査では遺跡範囲の約半分を調査し、800基を超えるピットと、それらから復元した掘立柱建物37棟と柵列3列、井戸3基と土坑57基、溝31条と杭列1列、館周囲を巡る堀と川跡1筋を検出した。



第5図 グリッドと基本上層

なお、調査区は全体に地下水位が高く、柱根や杭、木製品が比較的良好な状態で遺存していた。

遺構の多くは Cf・Cg・Df・Dg・Ef・Eg グリッドに集中しており、調査区西側と南側の堀際部分と調査東側の川跡沿いには遺構がほぼ見られない。このことから、館が存在していた当時はこれらの箇所に土堤が築かれていたと考えられる。また、柱穴と考えられるピットの大多数が郭内の Cf・Cg・Df グリッドに集中し、多数の建物がこの範囲で復元できることから、限られた狭い範囲の中で幾度も建物が改築されたようである。そのため、現地調査時に建物を復元できたものはごくわずかであり、それらのほとんどが現地調査終了後に図面を基に復元したものである。なお、Bh・Ch・Dh グリッドは、後世に大幅な削平を受けたと考えられ、井戸 1 基を除き、遺構は検出できていない。

今回の調査で検出した遺構は出土遺物の年代から、14 世紀中頃から 18 世紀前半頃のものと考えられる。中世に築かれた堀に囲まれた館の敷地を、近世もそのまま屋敷地として利用していたことが、今回の調査により判明した。各遺構の帰属時期や、跡跡の変遷については後述するとしている。

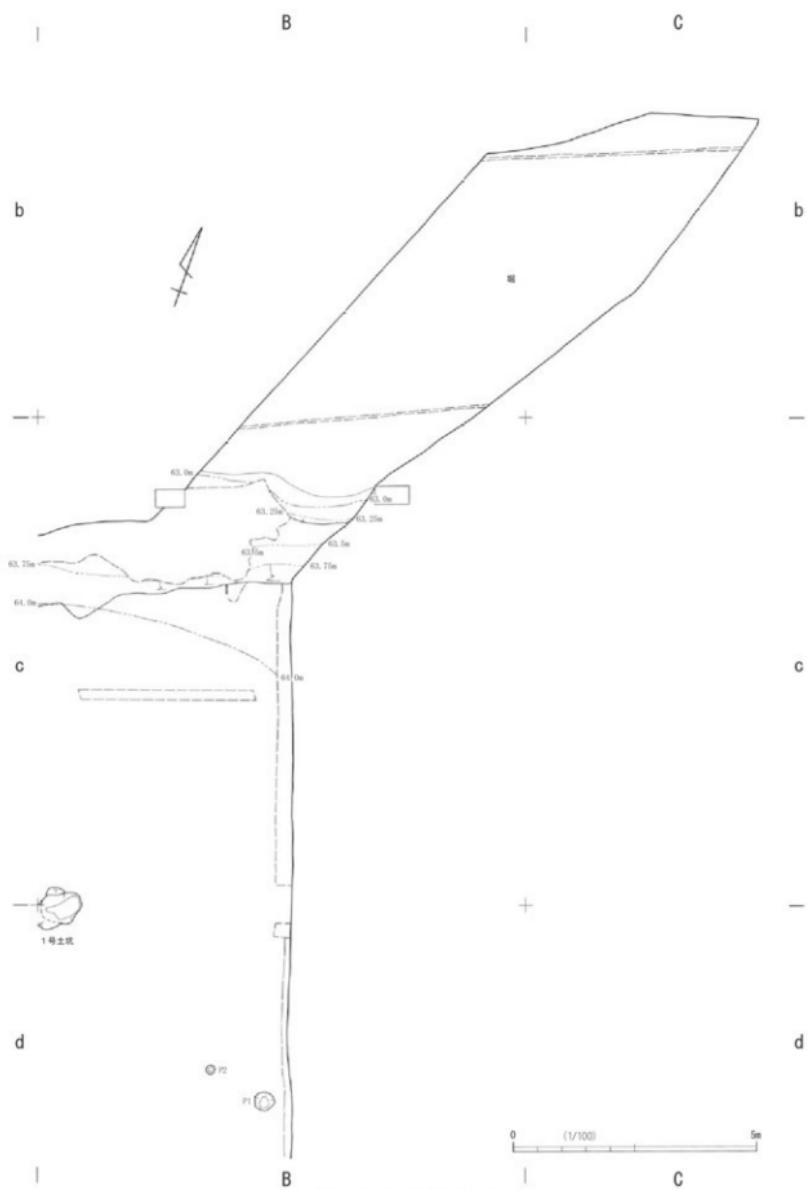
遺構の記載方法 遺構の記載は、種類ごとに遺構番号順で掲載することを基本としたが、重複関係にある同種の遺構は極力まとめて記載している。各種遺構の記載方法は下記のとおりであり、各遺構の詳細な計測値は、遺構一覧表を参照されたい。なお、遺構番号は現地調査時に遺構種別別の調査着手順に番号を付し、現地調査終了後、原則現地調査時の番号をそのまま使用したが、見直しの結果、遺構の種別を変更、または欠番が生じた場合については当初の遺構番号や遺構名を随時変更している。ただし、掘立柱建物や柵列の柱穴とピットの番号は、両者を区別せず、通して番号を付している。

掘立柱建物は、柱間数の多い方向を桁行（長軸）、少ない方向を梁行（短軸）とし、建物規模は「(桁行) ○間 (長軸) × (梁行) ○間 (短軸)」と表記し、身舎部分のみの規模を示している。なお、間数が同じものは長辺を長軸、短辺を短軸とした。建物の分類は、中村準人氏の身舎の梁間間数と庇や下屋の有無に基づいた分類（中村 2015）に準拠している。桁行および梁行の長さは、身舎の両端の柱根または柱痕跡（柱位置が不明なものは柱掘方の中心）の心々距離で測り、建物面積は身舎の桁行（長軸）の数値に梁行（短軸）の数値を乗じて算出し。それに庇部分や下屋の面積を加えた建物の総平面積である。主軸方位は、桁行（長軸）の方向が北を基準に東西に振れる角度で示している。遺存していた柱根は、図化・計測に耐えうるもののみを木製品として 5 節に掲載し、柱材の木取りは、加藤氏・猪狩氏の分類（加藤・猪狩 2004）に準拠した。柵列は、検出した両端の柱穴の柱または柱痕跡（柱位置が不明なものは柱掘方の中心）の心々距離で長さを計測している。両端の柱穴を結んだラインを主軸とし、主軸方位はこの軸が北を基準に東西に振れる角度で示している。井戸・土坑・ピットは、平面形のうち最も長い部分を長軸とし、主軸方位はこの軸が北を基準に東西に振れる角度で示している。深さは検出面からの計測値で、平面形及び断面形は加藤氏の分類（加藤 1999）に準拠した。溝は、同一線上に延びるものと同じ溝と捉え、途中で断絶しているものも一条の溝としている。長さは断絶部分も含めた距離の総延長で示している。深さの計測方法や断面形の形態分類は、井戸・土坑・ピットに準ずる。主軸方位は溝の中心線を元に示しているが、屈曲または湾曲しているものは、それぞれの方方位を併記している。

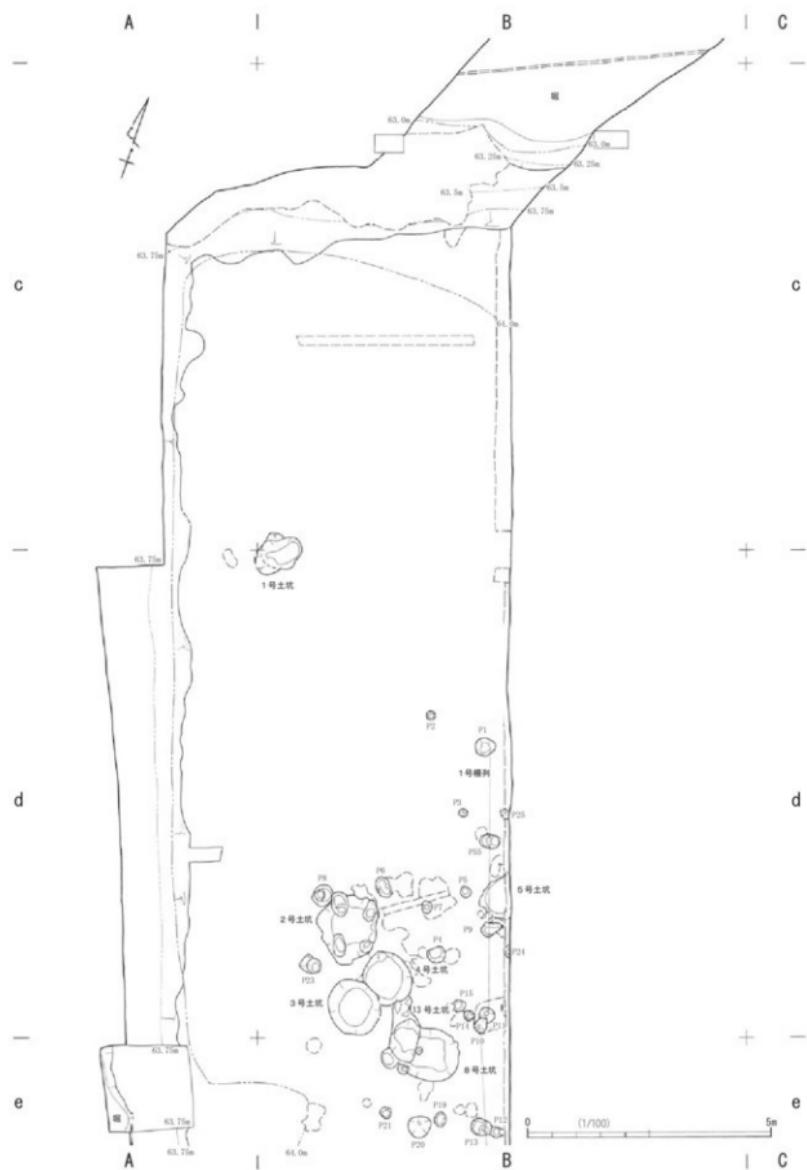
各遺構の図面は、掘立柱建物・柵列・竪穴建物は平面図・エレベーション図を 1/80、柱穴の断面図を 1/40 に統一して掲載し、井戸・土坑・柱根を検出したピット・杭列は平面図・断面図・エレベーション図を 1/50 で、それぞれ遺構ごとに掲載している。溝や堀・川跡は、紙幅の都合により 1/50 で断面図のみを遺構ごとに掲載しており、平面図は 1/100 の各平面分割図を参照されたい。



第6図 調査区全体図



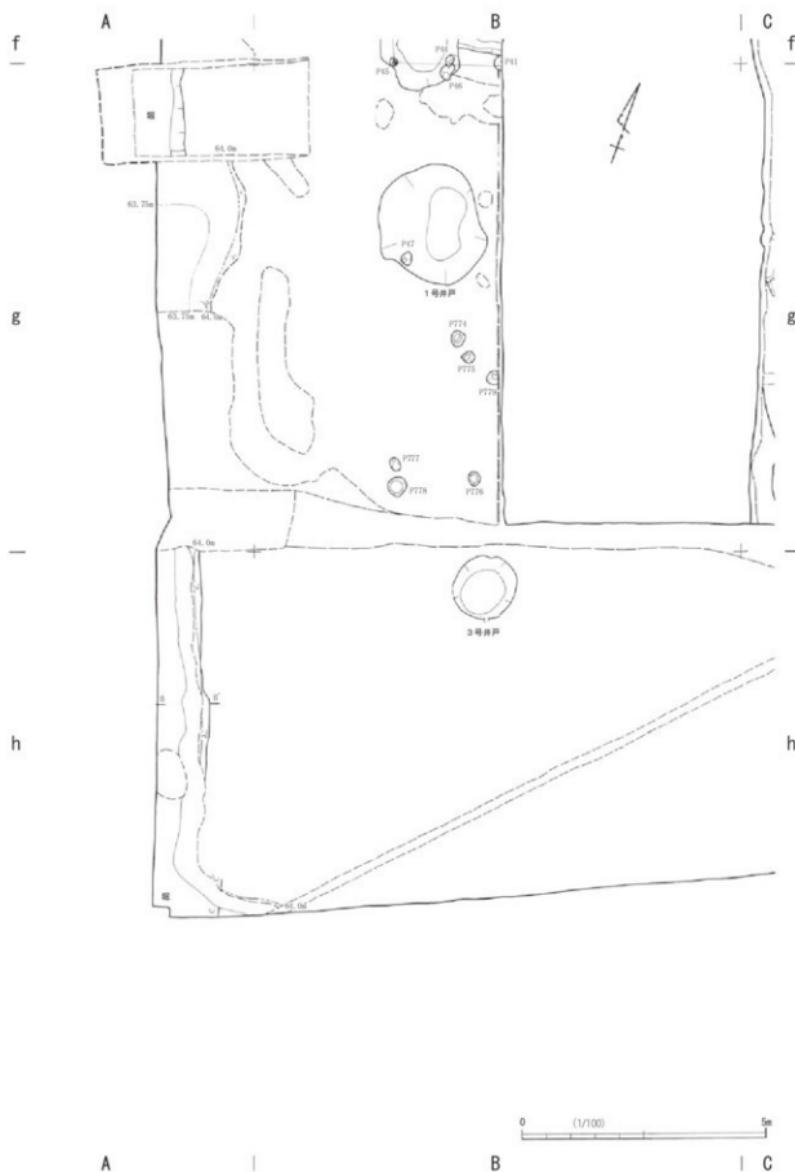
第7図 平面分割図(1)



第8図 平面分割図（2）



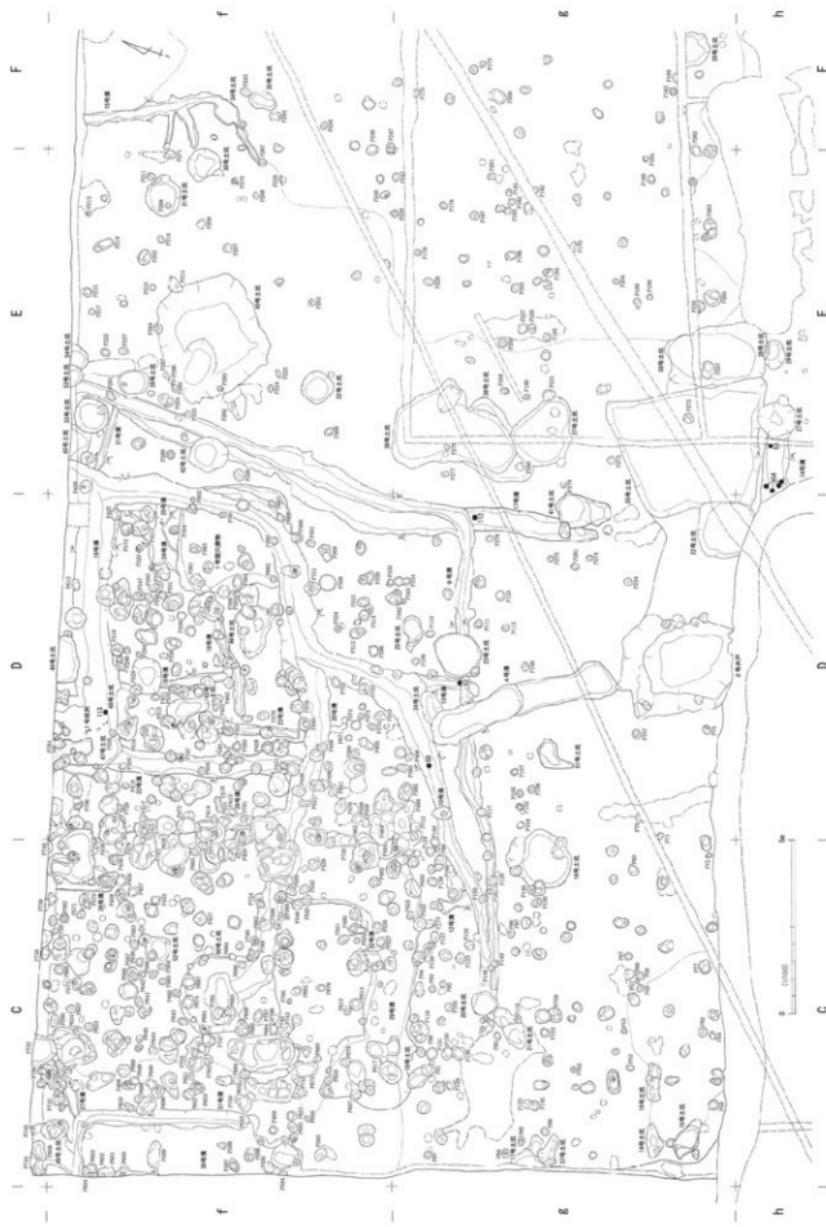
第9図 平面分割図（3）



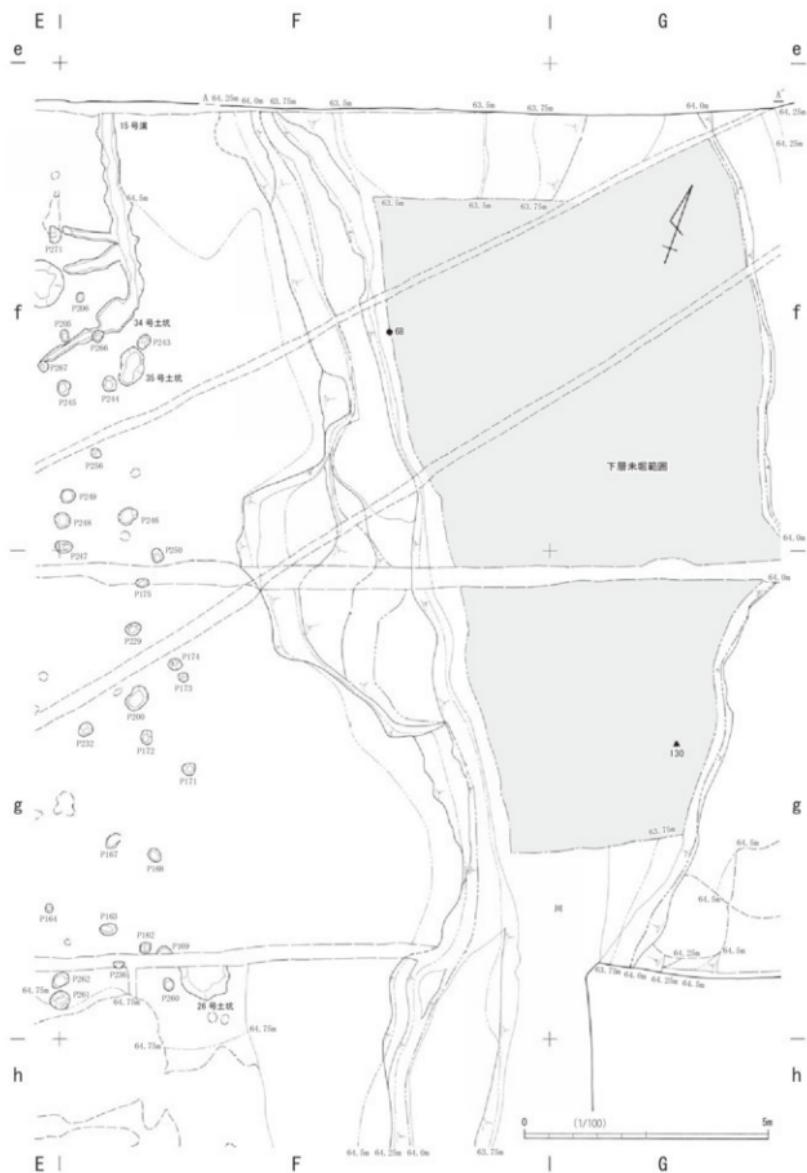
第10図 平面分割図 (4)

第11圖 平剖分佈圖(5)-1 (獨立植物・地帶)





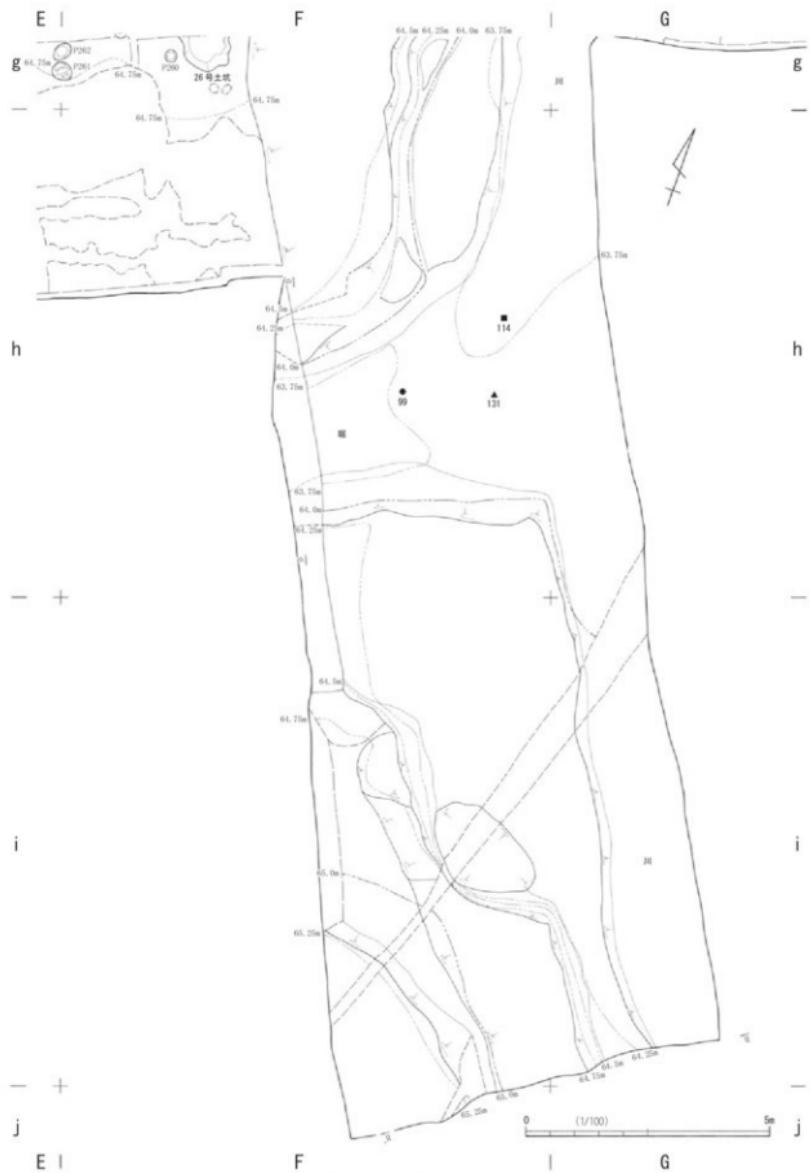
第12図 平面分類図(5-1-2 (モの家の間取り))



第13図 平面分割図(6)



第14図 平面分割図（7）



第15図 平面分割図(8)

3 遺構各説

1号掘立柱建物（第16図）

Bf・Bcグリッドに位置する、2間以上×1間の梁間一間型建物（1類）である。東側のP41・43が調査区壁にかかる状態で検出されているため、全容は不明である。2間×1間の小型な掘立柱建物の可能性もある。12号土坑、8号溝と重複関係にあり、両者よりも古い。

P33・36・41・44・45に柱根（135～137）が残存していたが、P41・44のものは遺存状態が悪く、固化できていない。その他に遺物は出土しなかった。

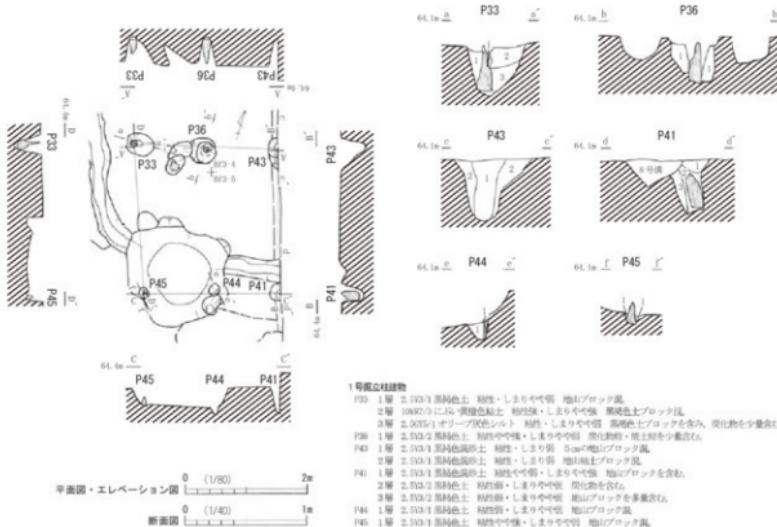
2号掘立柱建物（第17・18図）

Cf・Cgグリッドに位置する4間以上×2間の東西棟の梁間二間型建物（2c類）である。北側の平に庇または下屋と、その北側に又下屋が付く形態の建物と考えられるが、西側が調査区外へ延びているため、建物の全容は明らかではない。8・11・16・20・22号掘立柱建物、15・17・18・57号土坑と重複関係にある。17・57号土坑より新しく、22号掘立柱建物、15・18号土坑より古いが、8・11・16・20号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。

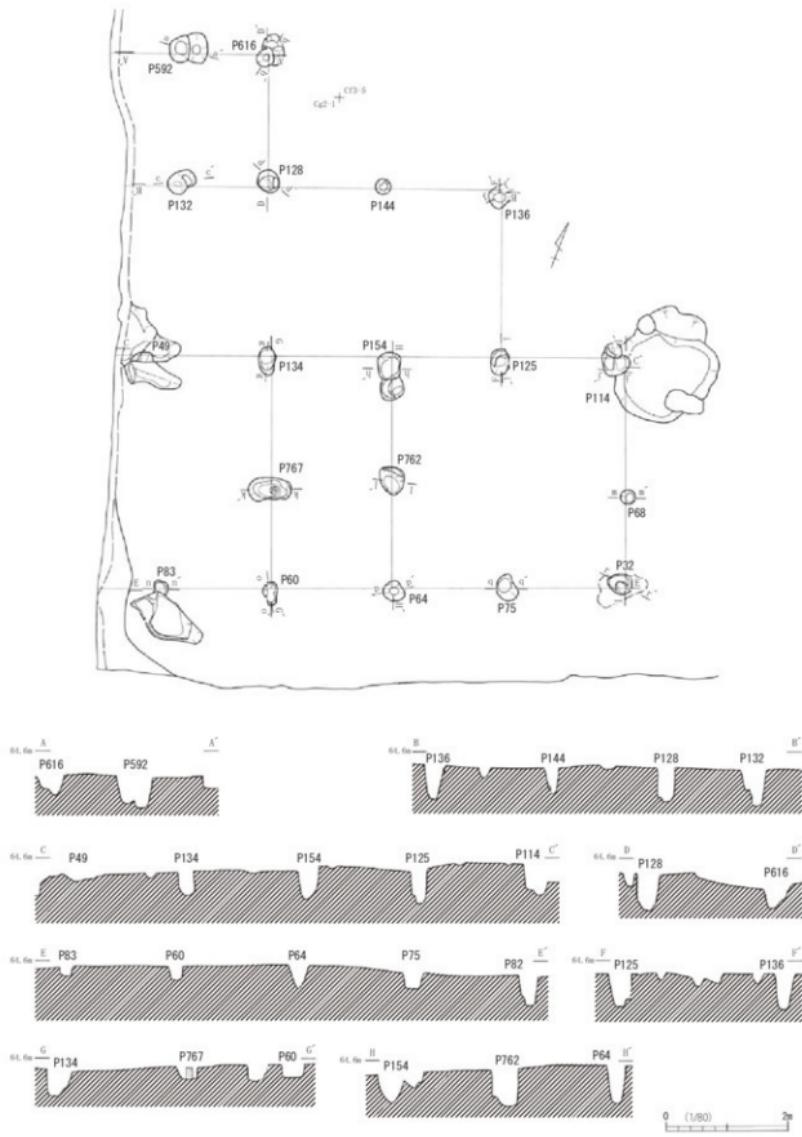
P767に柱根（138）が残存していたが、他の柱穴からは柱根は検出されなかつた。また、その他に遺物は出土していない。

3号掘立柱建物（第19・20図、図版3）

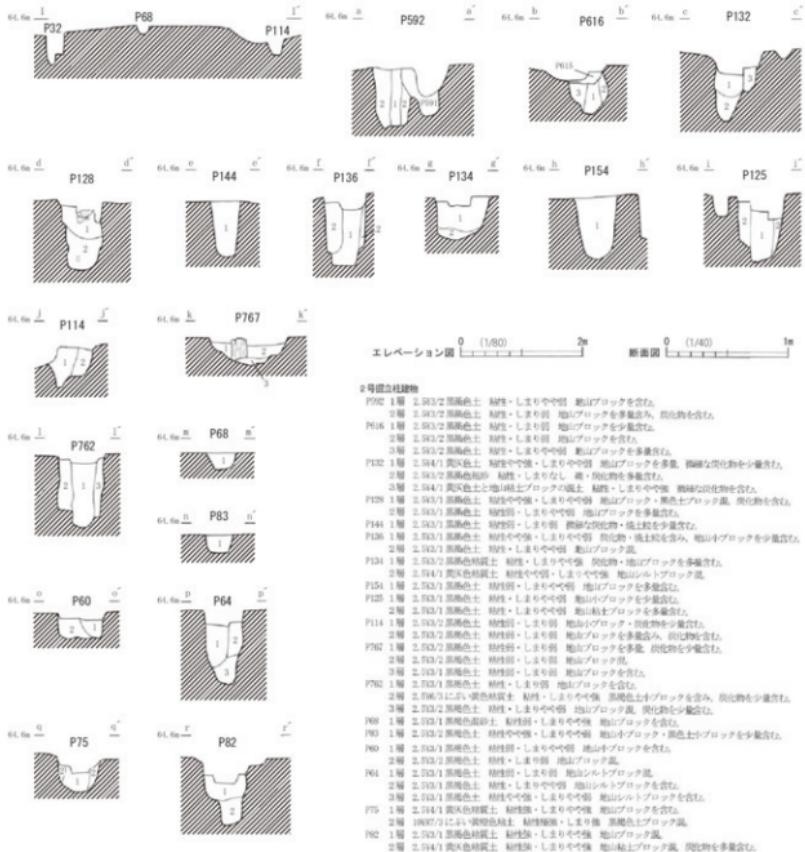
Cf・Cg・Df・Dgグリッドに位置する4間×3間の東西棟の梁間三間型建物（3b類か）である。南の平側には庇を持ち、南東の妻側に下屋を持つ形態の建物である。今回の調査で検出された建物の中で最も大きな規模の建物である。



第16図 1号掘立柱建物



第17図 2号掘立柱建物 (1)

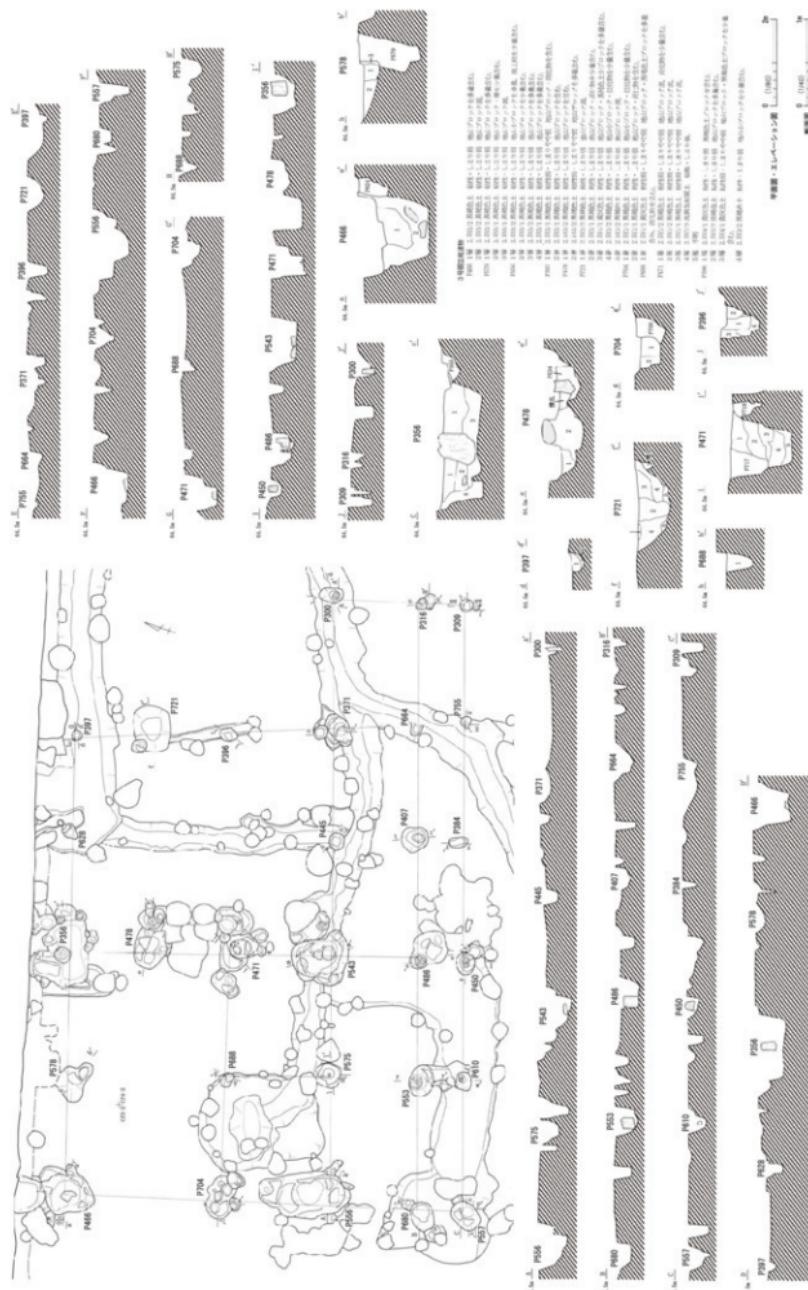


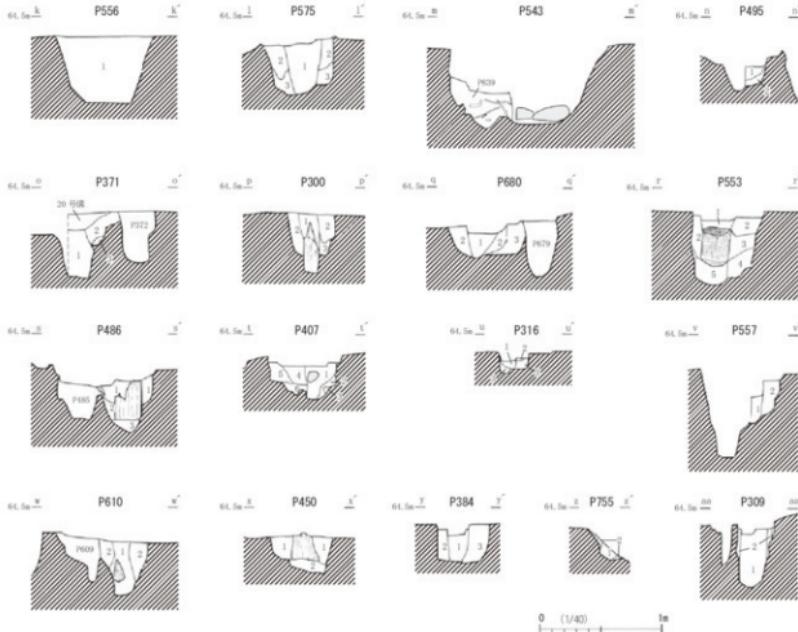
第18図 2号掘立柱建物 (2)

あり、残存していた柱根の太さや、検出された柱穴の大きさからも、大型の建物であることを窺い知ることができる。おそらく主屋にあたる建物であろう。9・10・13・16～18・21～36号掘立柱建物、1号堅穴建物、47・50号土坑、10・16・19・20・26・29・32号構と重複関係にある。9・16・17・22・28・34号掘立柱建物、1号堅穴建物、10・20・32号構より新しく、27号掘立柱建物、47・50号土坑、16・19・26・29号構より古いが、10・13・18・21・23～26・29～33・35・36号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。

P300・356・450・486・553・610には柱根(139～141・144)が残存していたが、P486・610のものは遺存状態が悪く、図示しなかった。P309から白磁皿片(1・2)、P466から肥前系磁器碗(3)、P470からは肥前系磁器折線皿(4)や古窓通寶(117～119)が3枚まとめて出土したほか、肥前系磁器片・陶器片・板材(142・143)などが出土している。また、当遺構の柱穴P543か、9号掘立柱建物の柱穴P639に伴うか不明ではあるが、

図19 3月齢立派地物 [1]





P556 1層 2.03/3 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。

P557 2.03/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
2層 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。

P371 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

P372 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

P300 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

2層 2.03/3 黄褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。

P407 2.03/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

2層 2.03/1 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。

P486 2.03/3 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

2層 2.03/3 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

P610 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む。

P450 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

P384 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

P755 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

P309 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

3層 不明

P556 1層 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含み、砂を含む。

2層 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

3層 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む、砂を含む。

4層 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。

5層 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

6層 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまりやや強 地山ブロックを含む。

7層 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

P371 1層 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む。

2層 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

P372 1層 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

2層 2.03/3 黄褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

P300 1層 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

2層 2.03/3 黄褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。

P407 1層 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

2層 2.03/3 黄褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。

P486 1層 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

2層 2.03/3 黄褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。

P610 1層 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む。

P450 1層 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

P384 1層 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

P755 1層 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

P309 1層 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む。

2層 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

3層 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。

第20図 3号掘立柱建物（2）

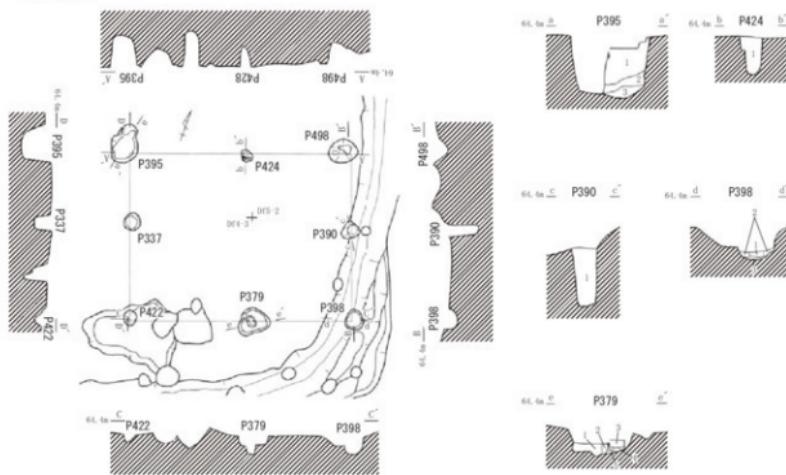
抉りが入れられた柱状の木製品2点（145・146）も出土している。

4号掘立柱建物（第21図）

Dfグリッドに位置する2間×2間の東西棟の梁間二間型建物（2a類）である。10・24・27・29・30・33・36号掘立柱建物、1号堅穴建物、46号土坑、20号溝と重複関係にある。46号土坑、20号溝より古いが、10・24・27・29・30・33・36号掘立柱建物、1号堅穴建物との直接的な先後関係は不明である。

柱根は残存せず、中世土器皿片が出土しているが、小片のため図示し得なかった。

4号据立柱建物

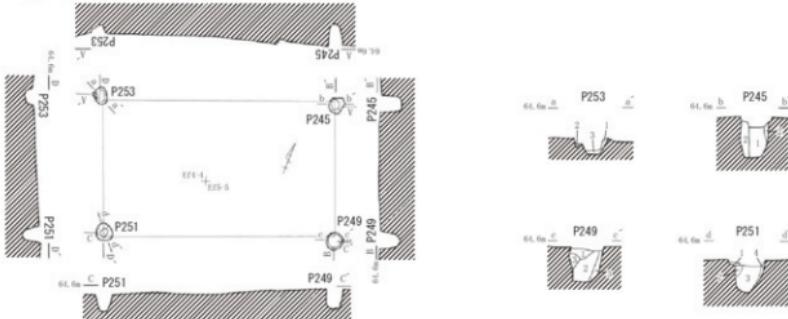


4号据立柱建物

- P395 1層 2.83/1 黒褐色土・粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
 2層 3.85/2 黄褐色シルト・粘性・しまり弱 黑褐色土ブロックを含む。
 3層 2.83/3 黒褐色土・粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
 P424 1層 2.83/1 黑褐色土・粘性・しまり弱 地山ブロック・地物を少量含む。
 P337 1層 2.83/1 黑褐色土・粘性・しまりやや弱 地山ブロック・地物を少量含む。
 P379 1層 2.83/1 黄褐色粘土・粘性・しまりやや弱 地山ブロック。
 2層 2.84/1 黄褐色土・粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
 3層 2.83/3 黑褐色土・粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

- P399 1層 2.83/1 黃褐色土・粘性・しまり弱 地山ブロック・地物を少量含む。
 2層 2.86/1 にじる 黄褐色粘土・粘性・しまりやや強 黑褐色土ブロックを含む。
 3層 2.87/1 黑褐色土・粘性・しまりやや弱 地山ブロック・地物を少量含む。
 4層 2.87/1 黄褐色土・粘性・しまり弱 黑褐色土ブロック・地山ブロックを少量含む。
 5層 3.87/3 黄褐色粘土・粘性・しまり強 黑褐色土ブロックを少量含む。

5号据立柱建物



6号据立柱建物

- P253 1層 2.83/1 黑褐色粘土・粘性・しまり強 地山ブロックを含む。
 2層 2.83/3 黑褐色粘土・粘性・しまり強 地山ブロック。
 P245 1層 2.83/6/3 にじる 黑褐色粘土・粘性・しまりやや弱 黑褐色土ブロック。
 2層 2.83/1 黑褐色土・粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
 3層 2.83/1 黑褐色土・粘性・しまりやや弱 地山ブロック。
 P249 1層 2.83/1 黑褐色粘土・粘性・しまり強 地山ブロックを含む。
 2層 2.83/3 黑褐色粘土・粘性・しまり強 黑褐色土ブロック。
 3層 2.87/6 明黄色粘土・粘性・しまり強 黑褐色土ブロックを含む。

- P251 1層 2.83/1-1 黄褐色粘土・粘性・しまり強 地山ブロック高、地脚の凹凸部を複数含む。
 2層 2.83/1 黑褐色粘土・粘性・しまりやや強 地山ブロック。
 3層 2.83/1 黑褐色土・粘性・しまりやや弱 地脚の凹凸部を複数含む。
 4層 2.83/1-2 明黄色粘土・粘性・しまり強 黑褐色土ブロック。

第21図 4・5号据立柱建物

5号掘立柱建物（第21図）

Ef グリッドに位置する、1間×1間の東西棟の梁間一間型建物（1類）である。重複関係にある遺構はない。柱根は残存せず、その他の遺物も出土していない。

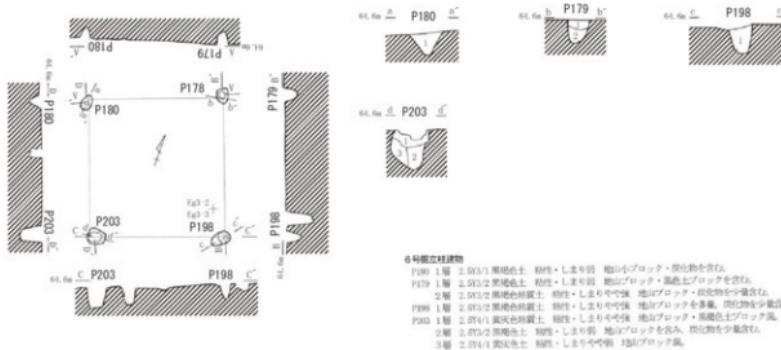
6号掘立柱建物（第22図）

Eg グリッドに位置する1間×1間のほぼ正方形の梁間一間型建物（1類）である。重複関係にある遺構はない。柱根は残存せず、その他の遺物も出土していない。

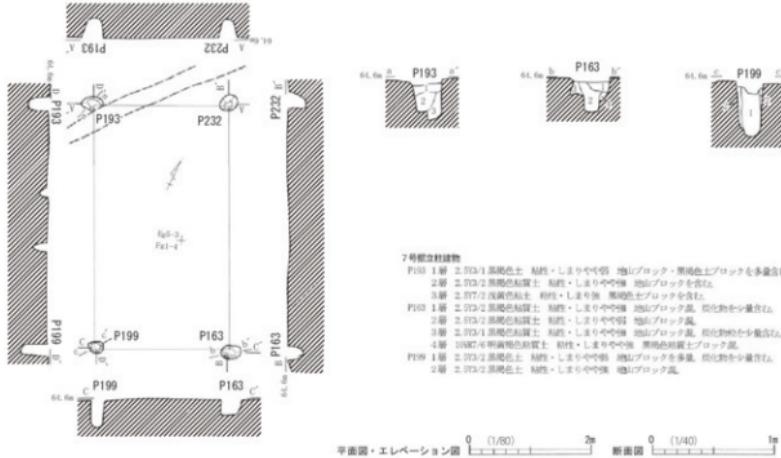
7号掘立柱建物（第23図）

Eg・Fg グリッドに位置する1間×1間の南北棟の梁間一間型建物（1類）である。14・15・19号掘立柱建物と

6号掘立柱建物



7号掘立柱建物



第22図 6・7号掘立柱建物

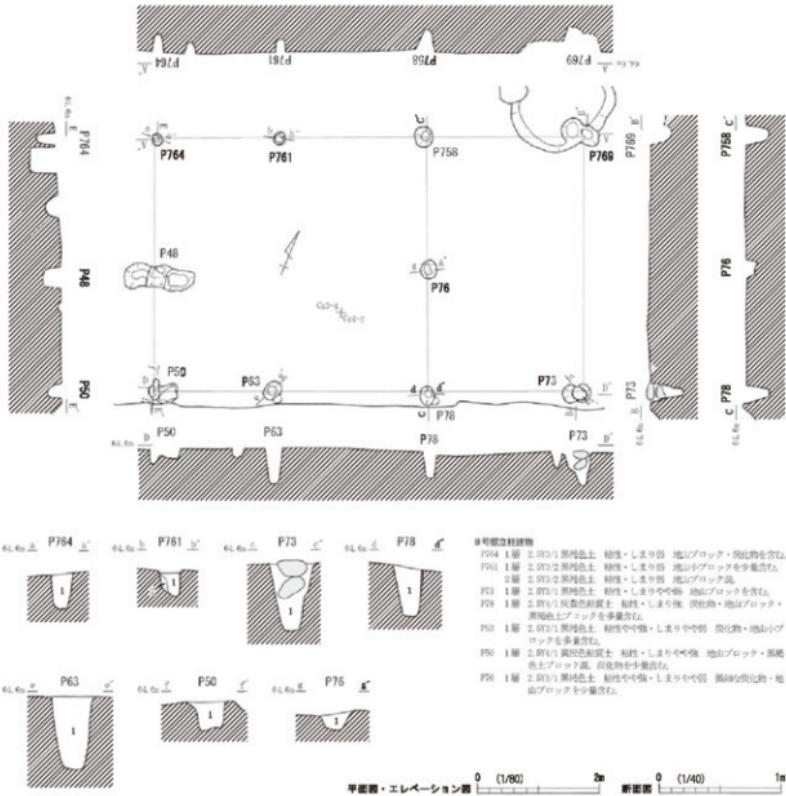
重複関係にあるが、直接的な先後関係は不明である。柱根は残存せず、その他の遺物も出土していない。

8号掘立柱建物（第23図）

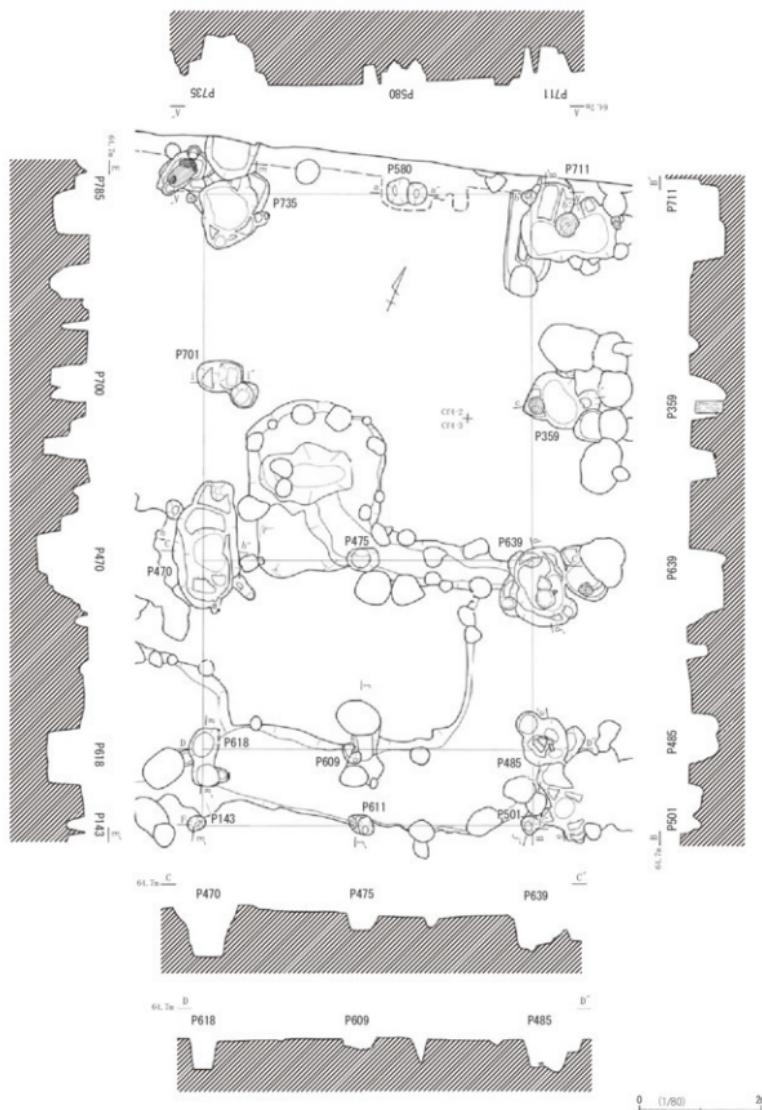
Cg・bgグリッドに位置する3間×2間の東西棟の梁間二間型建物（2a類）である。P76は、間仕切りのための柱の穴だろうか。2・16・20号掘立柱建物、16・18号土坑と重複関係にある。16号土坑より古いが、2・16・20号掘立柱建物、18号土坑との直接的な先後関係は不明である。柱根は残存せず、他の遺物も出土していない。

9号掘立柱建物（第24・25図、図版3）

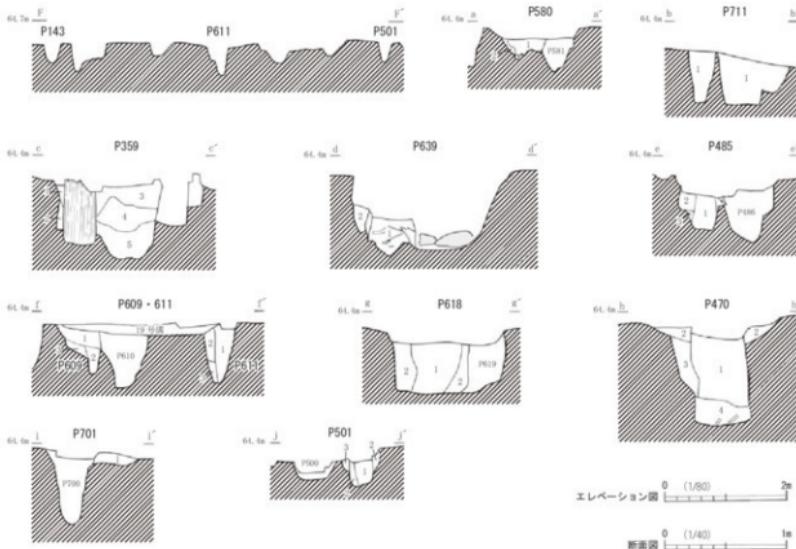
Cf・Cgグリッドに位置する3間×2間の南北棟の梁間二間型建物（2b類）である。南側の妻に庇を持つ。P475は、間仕切りの柱の穴と考えられる。3・12・16・17・21～26・28・31・32・34・35号掘立柱建物、50号土坑、20・26・29・32号溝と重複関係にある。17・25・28号掘立柱建物、32号溝より新しく、3・12・16号掘立柱建物、50号土坑、20・26・29号溝より古いが、21～24・26・31・32・34・35号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。



第23図 8号掘立柱建物



第24図 9号掘立柱建物 (1)



9号掘立柱建物

P600	1号	2.503/2 黒褐色土	粘性・しまりやや弱 地山にブロックを含み、鉄物を少量含む。
	2号	2.503/2 黒褐色土	粘性・しまり弱 地山にブロックを多量含む。
P711	1号	2.503/1 黒褐色土	粘性・しまり弱 地山にブロックを含む。
	2号	2.503/1 黒褐色土	粘性・しまり弱 地山にブロックを含む。
P59	1号	2.503/2 黒褐色土	粘性・しまり弱 地山にブロックを含む。
	2号	2.503/2 黒褐色土	粘性・しまり弱 地山にブロックを含む。
P639			
P485			
P609+611			
P618			
P701			
P501			

P611	1号	2.503/1 黒褐色土	粘性・しまり弱 地山にブロック。
	2号	2.503/2 黒褐色土	粘性・しまりやや弱 地山にブロック・鉄物を多量含む。
P711	1号	2.503/1 黒褐色土	粘性・しまり弱 地山にブロック。
	2号	2.503/1 黑褐色土	粘性・しまり弱 地山にブロックを含む。
P59	1号	2.503/1 黑褐色土	粘性・しまり弱 地山にブロック。
	2号	2.503/2 黑褐色土	粘性・しまり弱 地山にブロック。
P639	1号	2.503/2 黑褐色土	粘性・しまり弱 地山にブロック。
P485			
P609+611			
P618			
P701			
P501			

エレベーション図
0 (1/80)
2m

断面図
0 (1/40)
1m

第25図 9号掘立柱建物（2）

柱根は、P359のもの（147）のみ残存していた。その他の遺物は、P470から白磁小杯片（5）、P359から瀬戸戸美濃焼平碗片（6）、P735から白磁跨皿片（7）、P359から肥前系陶器皿片（9）と肥前系陶器の壺または甕片（8）のほか、越前焼甕片や肥前系磁器碗片などが出土している。また、先述したが、当遺構の柱穴P639か、3号掘立柱建物のP543に作るものが不明であるが、抉りが入れられた柱状の木製品2点（145・146）も出土している。なお、瀬戸戸美濃焼平碗片（6）、肥前系陶器の壺または甕片（8）・同皿片（9）は、いずれも各ピットの掘方から出土したものである。

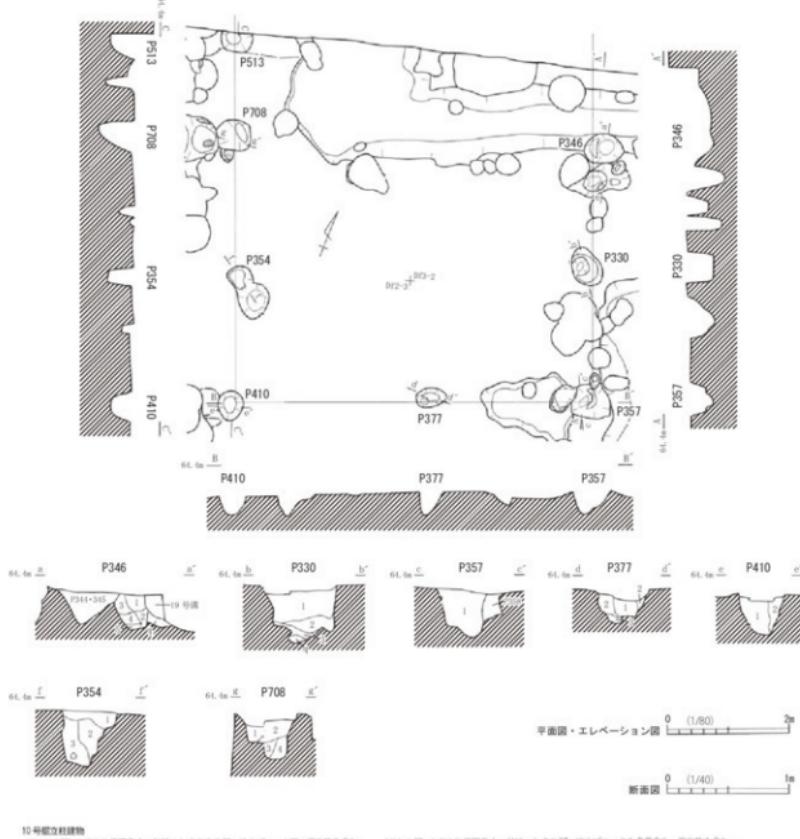
10号掘立柱建物（第26図）

Dfグリッドに位置する、3間以上×2間の南北棟の梁間二間型建物（2a類）である。調査区北側へ延びており、建物の全容は明らかではない。3・4・18・24・27・29～33・35・36号掘立柱建物、1号堅穴建物、46号土坑、19号溝と重複関係にある。30号掘立柱建物より新しく、29・36号掘立柱建物、46号土坑、19号溝より古いが、3・4・18・24・27・31～33・35号掘立柱建物、1号堅穴建物との直接的な先後関係は不明である。

柱根は残存せず、その他にP708から中国製天目茶碗（10）と、P354から杭（または松明か）（148）が出土している。

11号掘立柱建物（第27図）

Cg グリッドに位置する 1 間 × 2 間の、やや正方形に近い南北棟の梁間二間型建物（2a 類）である。2・16・21

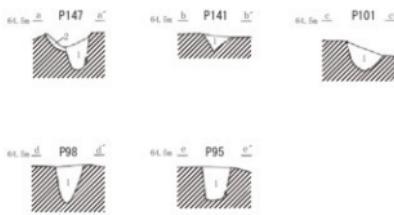
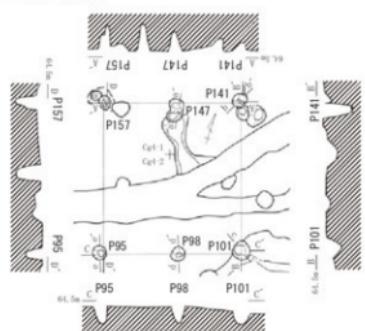


10号掘立柱建物

- P346 1層 2.70/2 黒陶土 硬化・しまりやや弱 地山ブロック、焼化物を含む。
 2層 2.50/2 黑陶土 硬化・しまりやや弱 地山ブロック・焼化物を少數含む。
 3層 2.50/2 黑陶土 硬化・しまりやや弱 地山ブロック・焼化物を含む。
 4層 2.50/2 黑陶土 硬化・しまりやや弱 地山ブロック風。
 5層 2.70/2 黑陶土 硬化・しまりやや弱・しまり弱 地山ブロックを少量含む。
 6層 2.50/2 黑陶土 硬化・しまりやや弱 地山ブロック。
 7層 2.50/2 黑陶土 硬化・しまりやや弱 地山ブロックを少數含む。
 8層 2.50/2 黑陶土 硬化・しまりやや弱 地山ブロックを少數含む。
 9層 2.50/2 黑陶土 硬化・しまりやや弱 地山ブロックを少數含む。
 10層 2.50/2 黑陶土 硬化・しまりやや弱 地山ブロックを少數含む。
 11層 2.50/2 黑陶土 硬化・しまりやや弱 地山ブロック、黒色土ブロック風。
 P354 1層 2.50/2 黑陶土 硬化・しまりやや弱 地山ブロック、焼化物を含む。
 2層 2.50/2 黑陶土 硬化・しまりやや弱 地山ブロック・焼化物を少數含む。
 P377 1層 2.50/2 黑陶土 硬化・しまりやや弱 地山ブロック、焼化物を含む。
 2層 2.50/2 黑陶土 硬化・しまりやや弱 地山ブロック、焼化物を少數含む。
 3層 2.50/2 黑陶土 硬化・しまりやや弱 地山ブロックを多數含む。
 4層 2.50/2 黑陶土 硬化・しまりやや弱 地山ブロックを少數含む。
 P708 1層 2.50/2 黑陶土 硬化・しまりやや弱 地山ブロック、焼化物を含む。
 2層 2.50/2 黑陶土 硬化・しまりやや弱 地山ブロック、焼化物を少數含む。
 P410 1層 2.50/2 黑陶土 硬化・しまりやや弱 地山ブロック、黒色土ブロック風。

第26図 10号掘立柱建物

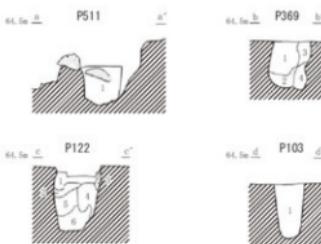
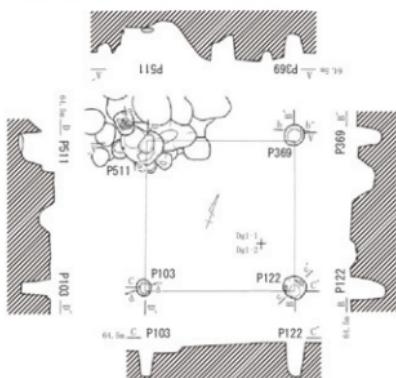
11号掘立柱建物



11号掘立柱建物

- P147 1層 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロックを含む。
2層 2.03/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山小ブロックを含む。
P141 1層 2.03/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロックを含む。
P101 1層 2.03/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロックを含む。
P98 1層 2.03/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロック、炭化物を少量含む。
P95 1層 2.03/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロック、炭化物を少量含む。

12号掘立柱建物



12号掘立柱建物

- P511 1層 2.03/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含み、炭化物を含む。
P369 1層 2.03/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含み。
2層 2.03/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
P103 1層 2.03/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック、黒土ブロックを多量含む。
4層 2.03/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
P122 1層 2.03/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック、黒色土ブロックを含む。
2層 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロックを含む。
3層 2.03/2 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地山小ブロックを含む。
4層 2.03/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロックを含む。
5層 2.03/2 褐色土ブロック 粘性・しまりやや弱 黒色土ブロックを含む。
6層 2.03/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック、黒色土ブロックを含む。
7层 2.03/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック、黒色土ブロックを含む。

第27図 11・12号掘立柱建物

号掘立柱建物、3号柵列、18号土坑、12号構と重複関係にある。18号土坑、12号溝より古いものの、2・16・21号掘立柱建物、3号柵列との直接的な先後関係は不明である。柱根は残存しておらず、その他の遺物も出土していない。

12号掘立柱建物（第27図）

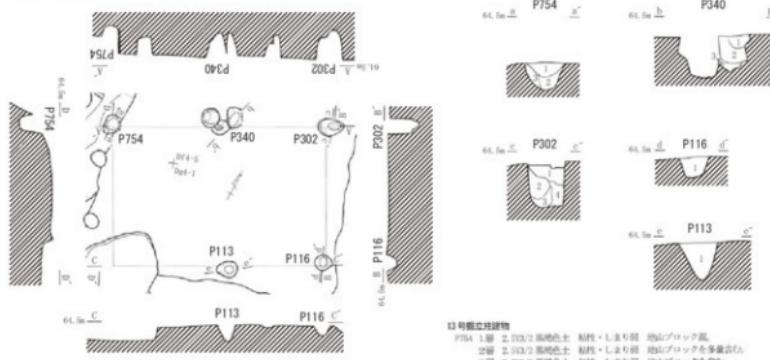
Cg・Dg グリッドに位置する1間×1間のほぼ正方形の梁間一間型建物（1a類）である。9・16・21・25号掘立柱建物、3号柵列、9号構と重複関係にある。9・25号掘立柱建物より新しく、9号溝より古いが、16・21号掘立柱建物、3号柵列との直接的な先後関係は不明である。

柱根は残存せず、肥前系陶器の壺または甕の破片が出土しているが、図化していない。

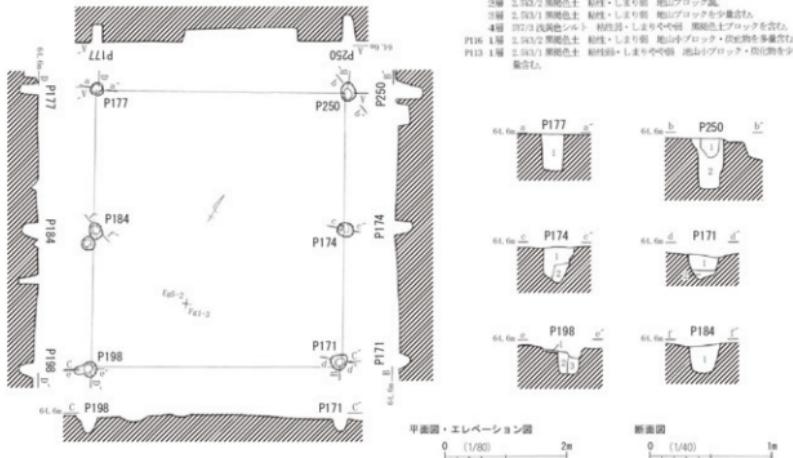
13号掘立柱建物（第28図）

Df・Dg グリッドに位置する、2間×1間の東西棟の梁間一間型建物（1類）である。南西隅の柱穴は23号土坑と重複しており、検出できていない。3・30号掘立柱建物、23号土坑、10号溝と重複関係にある。10号溝より新しいが、3・30号掘立柱建物、23号土坑との直接的な先後関係は不明である。柱根は残存せず、他の遺物も出土

13号掘立柱建物



14号掘立柱建物

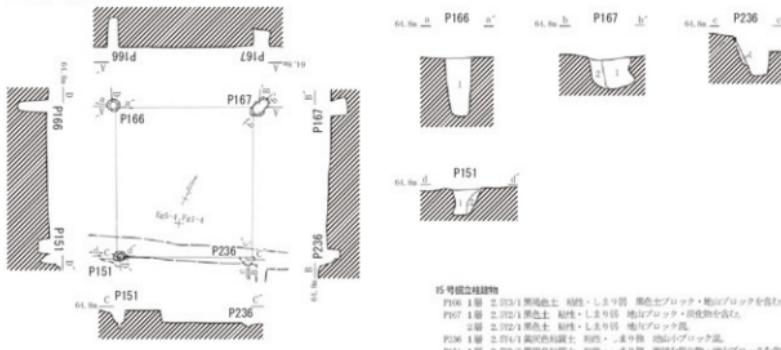


14号掘立柱建物

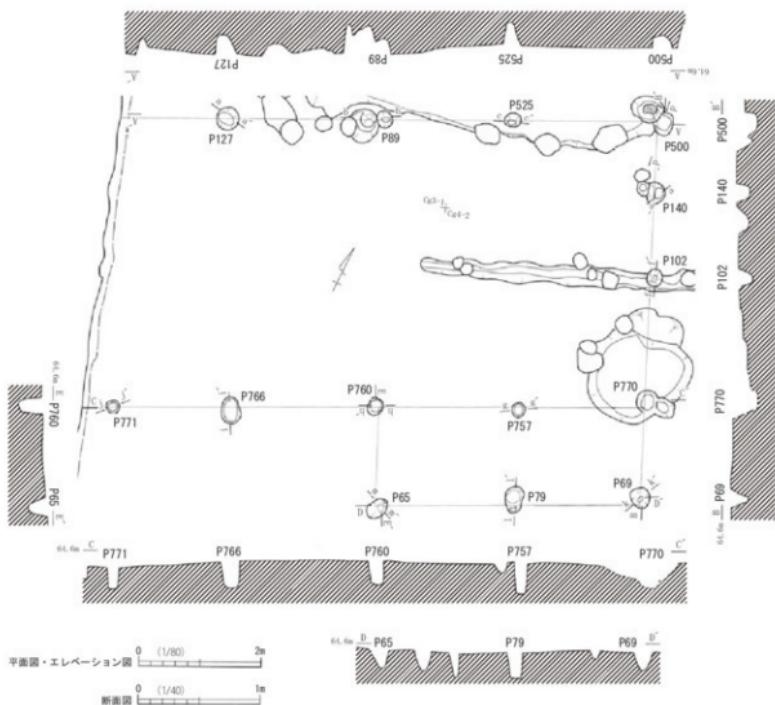
P177 1層	2. 2.0(2) 黒褐色土	粘性・しまり弱 地山ブロック、焼化物を少量含む。
P250 1層	2. 2.0(2) 黒褐色土	粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。焼化物を多量含む。
P184 1層	2. 2.0(2) 黑褐色土	粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
P174 1層	2. 2.0(2) 黑褐色土	粘性・しまり弱 地山ブロック、焼化物を多量含む。
P171 1層	2. 2.0(2) 黑褐色土	粘性・しまり弱 地山ブロック、焼化物を少量含む。
P198 2層	2. 2.0(2) 黑褐色土	粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
P198 1層	2. 2.0(2) 黑褐色土	粘性・しまり弱 地山ブロック、焼化物を多量含む。

第28図 13・14号掘立柱建物

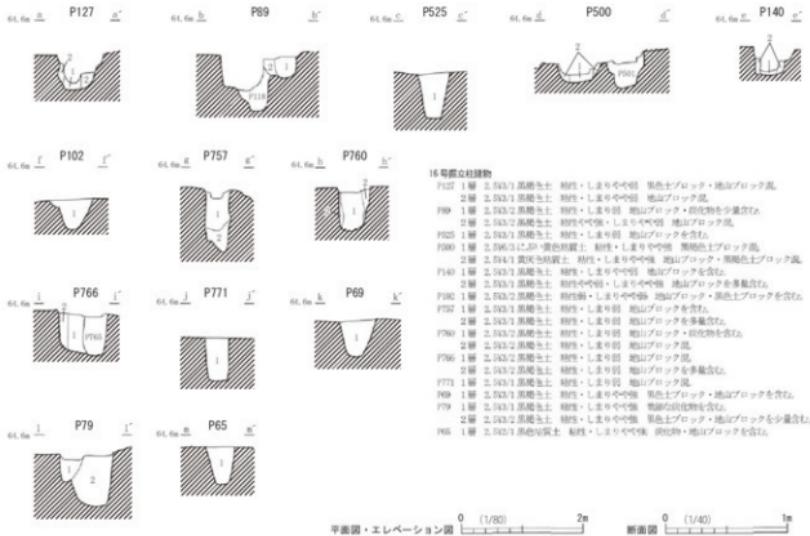
15号掘立柱建物



16号掘立柱建物



第29図 15・16号掘立柱建物 (1)



第30図 16号掘立柱建物（2）

していない。

14号掘立柱建物（第28図）

Eg・Fg グリッドに位置する、2間×1間の東西棟の梁間一間型建物である。7・19号掘立柱建物と重複関係にあるが、両者との直接的な先後関係は不明である。柱根は残存せず、他の遺物も出土していない。

15号掘立柱建物（第29図）

Eg・Fg グリッドに位置する、1間×1間のほぼ正方形の梁間一間型建物（1類）である。P236は後世の田面の造成と、調査時の排水溝掘削により北半部を欠損している。7・19号掘立柱建物と重複関係にあるが、両者との先後関係は不明である。柱根は残存せず、他の遺物も出土していない。

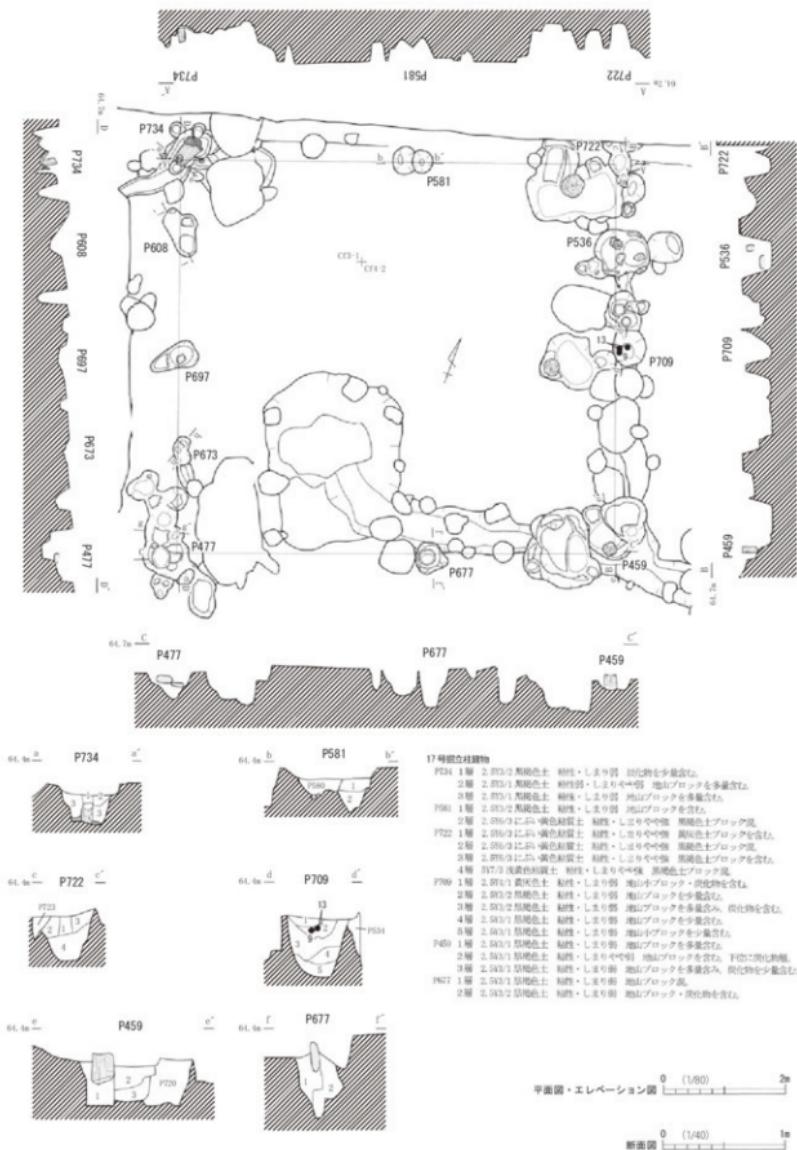
16号掘立柱建物（第29・30図）

Cg グリッドに位置する、3間以上×3間の東西棟の梁間三間型建物（3b類）で、南側の平に2間×1間の下屋を持つ建物としたが、東の梁間のうち、P500-P140-P140-P102の柱間寸法がP102-P770の半分ほどであることから、梁間二間型の建物である可能性も考えられる。また、建物の西側は調査区外へ延びていくことから、その全容は明らかではない。2・3・8・9・11・12・20・21・25号掘立柱建物、3号柵列、18号土坑、9・29号溝と重複関係にある。9号掘立柱建物より新しく、3号掘立柱建物、9・29号溝より古いが、2・8・11・12・20・21・25号掘立柱建物、3号柵列、18号土坑との直接的な先後関係は不明である。

柱根は残存せず、P65から杭（149）が1点出土している。

17号掘立柱建物（第31図、図版3）

Ce・Cf・Df グリッドに位置する、4間×2間のやや正方形に近い梁間二間型建物（2a類）である。P734の柱の下には、植物の茎部と思われるものが、同一方向に束ねられたような状態で敷かれていた。3・9・22～26・



28・29・31・32・34・35号掘立柱建物、20・27・28号溝と重複関係にある。22・24・34号掘立柱建物、27・28号溝より新しく、3・9・23・25・29号掘立柱建物、20号溝より古いが、26・28・31・32・35号掘立柱建物とは直接的な先後関係は不明である。

柱根は、P734とP536(150)、P459(151)で残存するが、P734のものは遺存状態が悪いために、図化することができなかった。その他に、P709から瀬戸美濃焼丸皿片(13)・肥前系陶器皿片(9)・同鉢片(16)、P459から龍泉窯系の青磁盤片(11)と瀬戸美濃焼縁袖小皿片(12)、P734から瀬戸美濃焼の小天目茶碗片(14)、P536から中世土師器の小皿片(15)が出土したほか、珠洲焼の壺または甕片なども出土した。

17号掘立柱建物

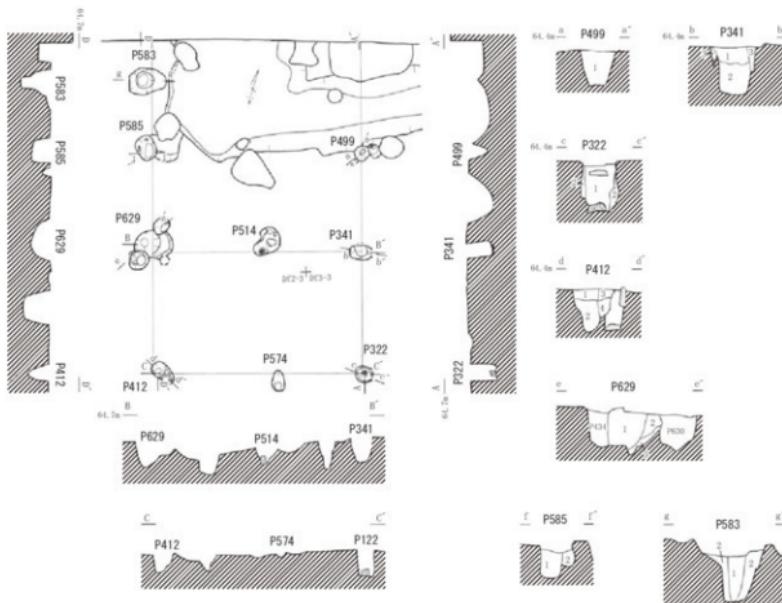


P477 1層 2.303/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む
2層 2.303/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 黒褐色土

P673 1層 2.303/7 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む

P608 1層 2.303/3 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・灰白色土
2層 2.303/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・灰白色土
3層 2.303/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック

18号掘立柱建物

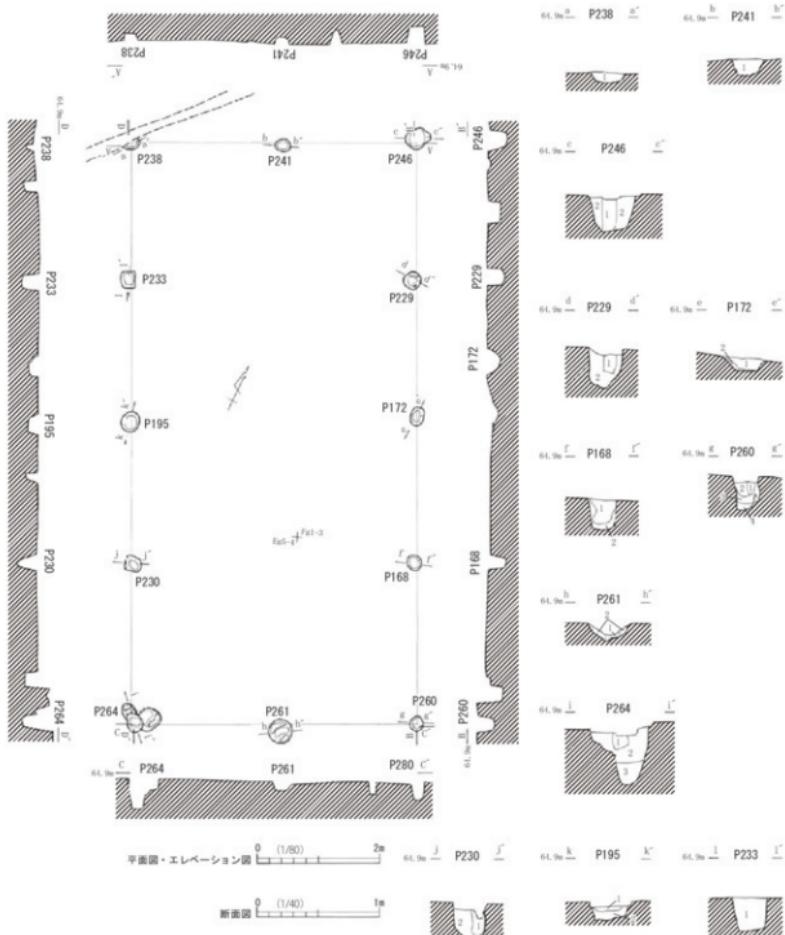


18号掘立柱建物

- P499 1層 2.303/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む
P514 1層 2.303/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック。周辺部を少量含む
2層 2.303/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む
3層 2.303/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・黑褐色土ブロック混
P522 1層 2.303/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む
2層 2.303/4 深褐色シルト 粘性・しまり弱 黑褐色土ブロックを少量含む
P512 1層 2.303/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む
2層 2.303/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む
3層 2.303/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む
P585 1層 2.303/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む
2層 2.303/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む
P583 1層 2.303/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む
2層 2.303/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック

平面図・エレベーション図 0 (1/80) 2m 新面図 0 (1/40) 1m

第32図 17号掘立柱建物(2)・18号掘立柱建物



19号掘立柱建物

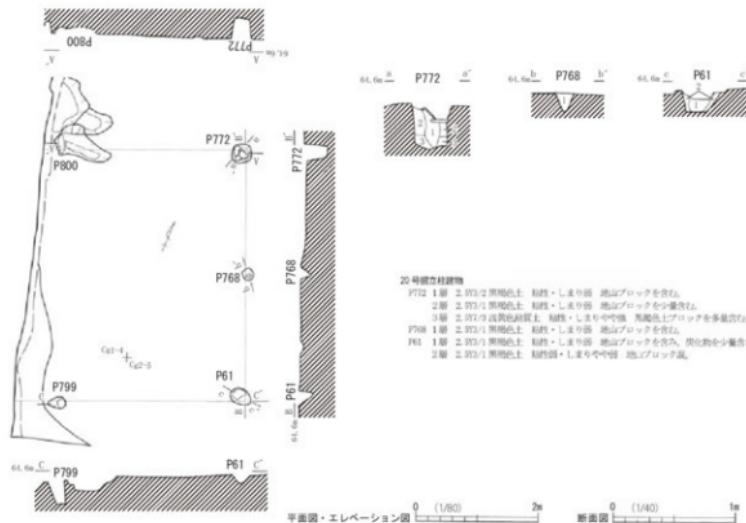
- 1層 1番 2.5m/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを多量含む。
 P240 1層 2.5m/3 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック・現地物を少量含む。
 P241 1層 2.5m/4.1 黒褐色粘土質土 粘性やや強・しまりやや弱 地山ブロック品。現地物を多量含む。
 2番 2.5m/3 黑褐色粘土質土 粘性やや強・しまりやや弱 地山ブロック品。
 P246 1層 2.5m/3 黑褐色粘土質土 粘性やや弱・しまりやや弱 地山ブロックを多量含む。
 2番 2.5m/3 黑褐色粘土質土 粘性やや弱・しまりやや弱 地山ブロック品。
 P229 1番 2.5m/3 黑褐色粘土質土 粘性やや弱・しまりやや弱 地山ブロックを多量含む。
 2番 2.5m/3 黑褐色粘土質土 粘性やや弱・しまりやや弱 地山ブロック品。
 P172 1番 2.5m/3.2 黑褐色粘土質土 粘性・しまりやや中強・地山にブロック品。灰色粘土ブロックを含む。
 2番 2.5m/2 黑褐色粘土質土 粘性・しまりやや中強・地山ブロックを含む。
 P168 1番 2.5m/3 黑褐色粘土質土 粘性やや強・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
 2番 2.5m/2 黑褐色粘土質土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
 P169 1番 2.5m/3 黑褐色粘土質土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。地山ブロックを多量含む。
 P169 2番 2.5m/2 黑褐色粘土質土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
 P172 1層 2.5m/3.1 黑褐色粘土質土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
 2番 2.5m/2 黑褐色粘土質土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
 P168 1層 2.5m/3 黑褐色粘土質土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
 2番 2.5m/2 黑褐色粘土質土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
 P169 1番 2.5m/3.1 黑褐色粘土質土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
 2番 2.5m/2 黑褐色粘土質土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
 P260 1層 2.5m/3.1 黑褐色粘土質土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
 2番 2.5m/2 黑褐色粘土質土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
 P261 1番 2.5m/3.1 黑褐色粘土質土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
 2番 2.5m/2 黑褐色粘土質土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
 P264 1番 2.5m/3.1 黑褐色粘土質土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
 2番 2.5m/2 黑褐色粘土質土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。

第33図 19号掘立柱建物

18号掘立柱建物（第32図）

Cf・Dfグリッドに位置する、3間以上×2間の南北棟の梁間二間型建物（2a類）である。北側が調査区外へと延びており、建物の全容は明らかではない。P514は、間仕切りのための柱の穴であろうか。3・10・24・27・29・

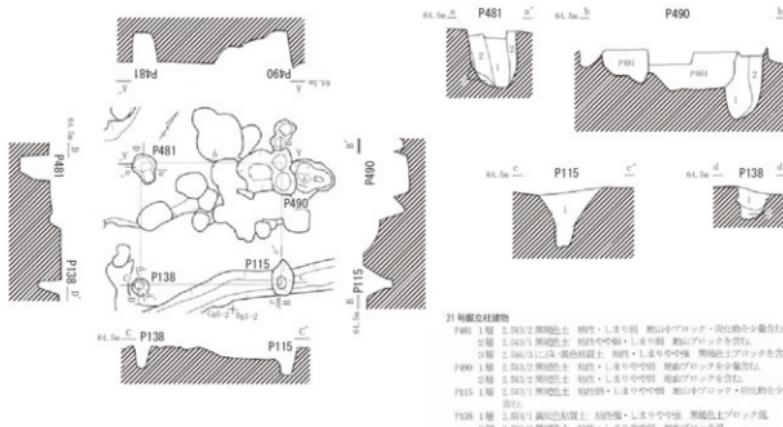
20号掘立柱建物



20号掘立柱建物

P772 1層 2.372/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
2層 2.373/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。
3層 2.373/2 深黄色粘土質土 粘性・しまりやや強 黑褐色土ブロックを多量含む。
P768 1層 2.373/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
P61 1層 2.373/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。炭化物を少量含む。
2層 2.373/2 黑褐色土 粘性強・しまりやや弱 地山ブロックを含む。

21号掘立柱建物



21号掘立柱建物

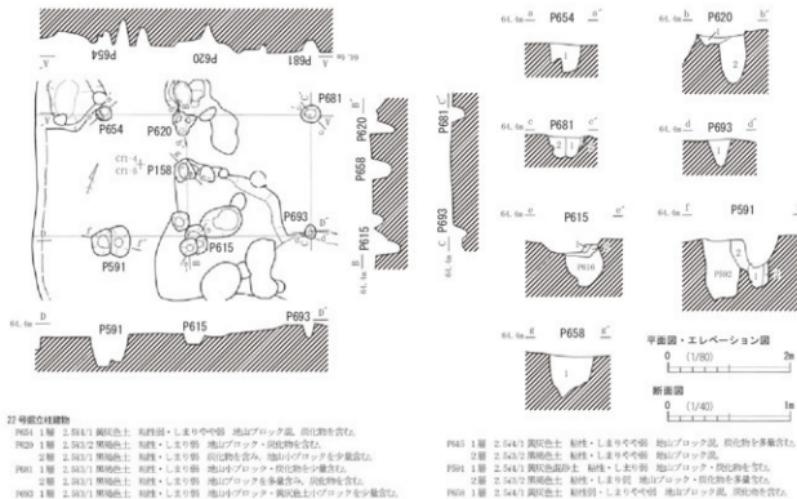
P481 1層 2.383/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を少量含む。
2層 2.383/1 黑褐色土 粘性やや弱・しまり弱 地山ブロックを含む。
3層 2.386/3に2 黄褐色粘土質土 粘性・しまりやや強 黑褐色土ブロックを含む。
P490 1層 2.383/2 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを少量含む。
2層 2.383/2 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
P115 1層 2.386/1 黑褐色粘土質土 粘性やや弱・しまりやや弱 地山ブロック・炭化物を少量含む。
P138 1層 2.386/2 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 黄褐色土ブロック。
2層 2.386/2 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック。

第34図 20・21号掘立柱建物

30 ~ 33・36号掘立柱建物、43号土坑、18・19号溝と重複関係にある。29号掘立柱建物、18号溝より新しく、43号土坑、19号溝より古いが、3・10・24・27・30 ~ 33・36号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。

柱根はP322・514(152・153)で残存しており、その他に肥前系陶器の壺または甕片が出土している。

22号掘立柱建物

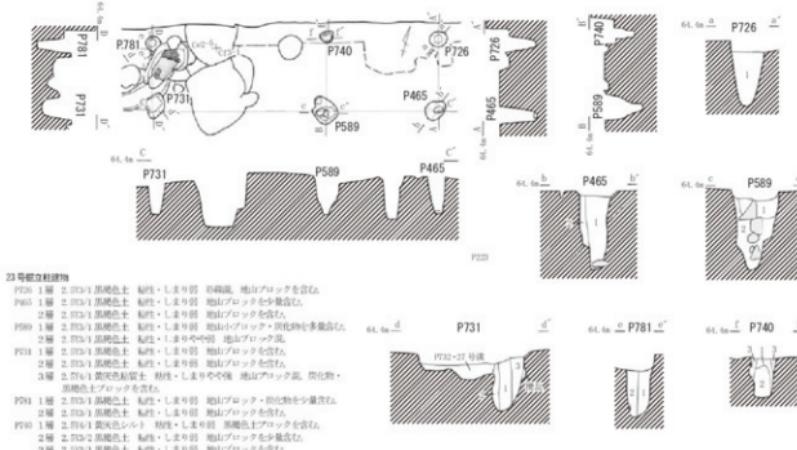


22号掘立柱建物

- P654 1層 2.84/4 黄褐色土 粘性土・しまりやや弱 地山ブロック現。焼化物を含む。
- P620 1層 2.80/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック現。焼化物を含む。
- 2層 2.80/3 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック現。焼化物を含む。
- P681 1層 2.80/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック現。焼化物を含む。
- 2層 2.80/3 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含み、焼化物を含む。
- P658 1層 2.80/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・黄褐色土少量含む。

- P603 1層 2.54/1 黄褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック現。焼化物を多量含む。
- 2層 2.54/2 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック現。
- P615 1層 2.54/1 黄褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・現。焼化物を少量含む。
- 2層 2.54/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・現。焼化物を多量含む。
- P616 1層 2.54/1 黄褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック現。焼化物を含む。
- P591 1層 2.54/1 黄褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック現。焼化物を含む。

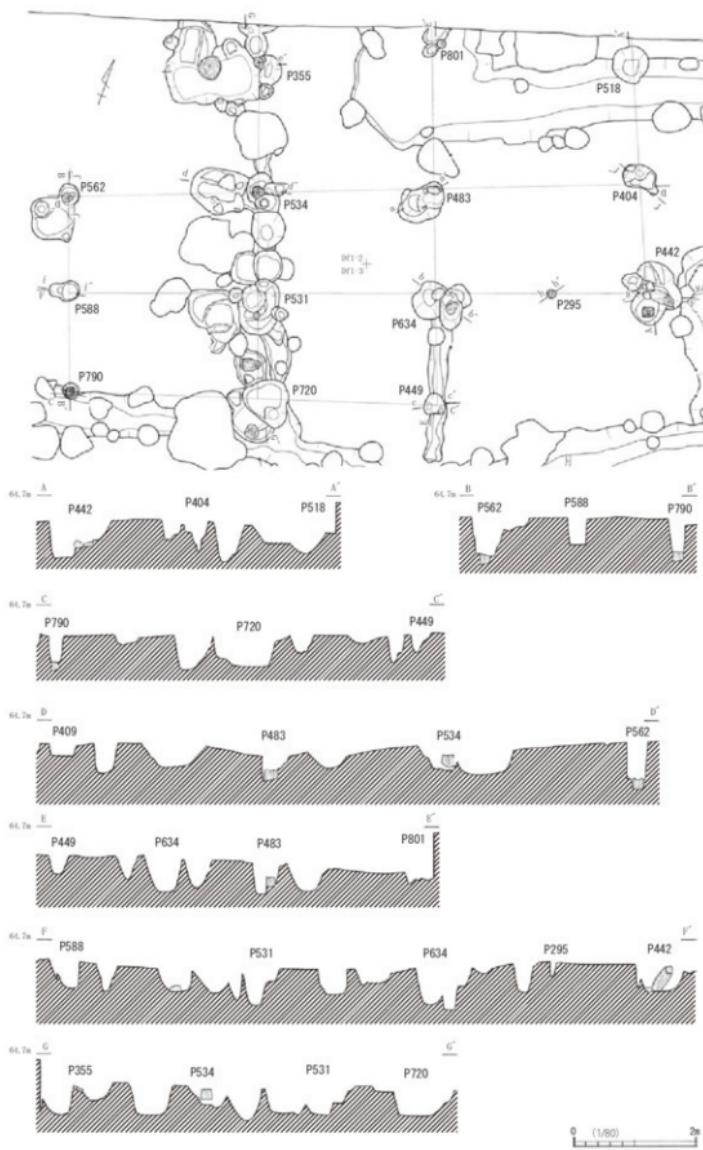
23号掘立柱建物



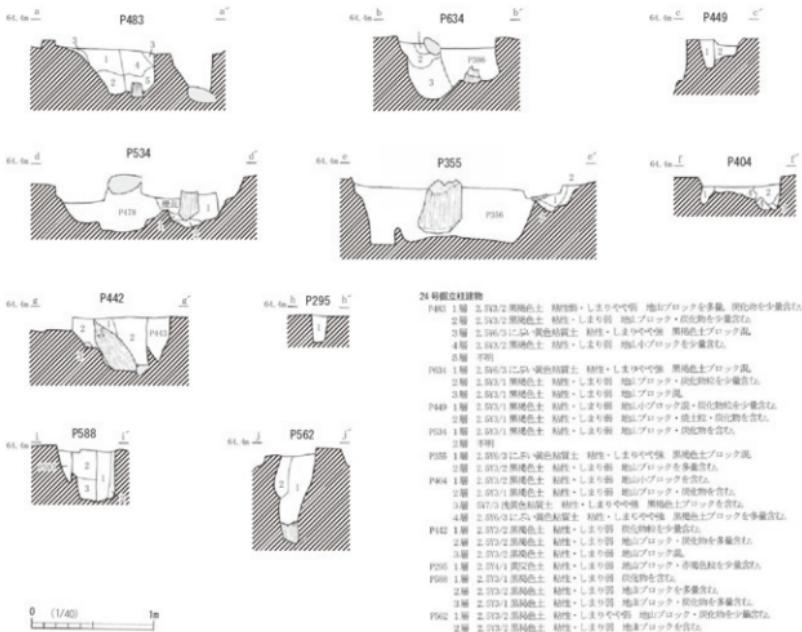
23号掘立柱建物

- P781 1層 2.77/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
- 2層 2.77/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む。
- P740 1層 2.77/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
- 2層 2.77/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
- P726 1層 2.77/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・焼化物を多量含む。
- 2層 2.77/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック現。
- P465 1層 2.77/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
- 2層 2.77/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
- 3層 2.77/4 黄褐色粘土・粉性・しまりやや弱 地山ブロック現。焼化物。
- P589 1層 2.77/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・焼化物を少量含む。
- 2層 2.77/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
- P731 1層 2.77/1 黄褐色土・粉性・しまり弱 地山ブロックを含む。
- 2層 2.77/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
- 3層 2.77/3 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

第35図 22・23号掘立柱建物



第36図 24号掘立柱建物（1）



第37図 24号掘立柱建物（2）

19号掘立柱建物（第33図）

EF・Eg・FF・Fgグリッドに位置する、4間×2間の南北棟の梁間二間型建物（2a類）である。北西隅にある柱穴P238は、その約半分が水道管によって失われている。7・14・15号掘立柱建物と重複関係にあるが、それらとの直接的な先後関係は不明である。柱根は残存せず^a、他の遺物も出土していない。

20号掘立柱建物（第34図）

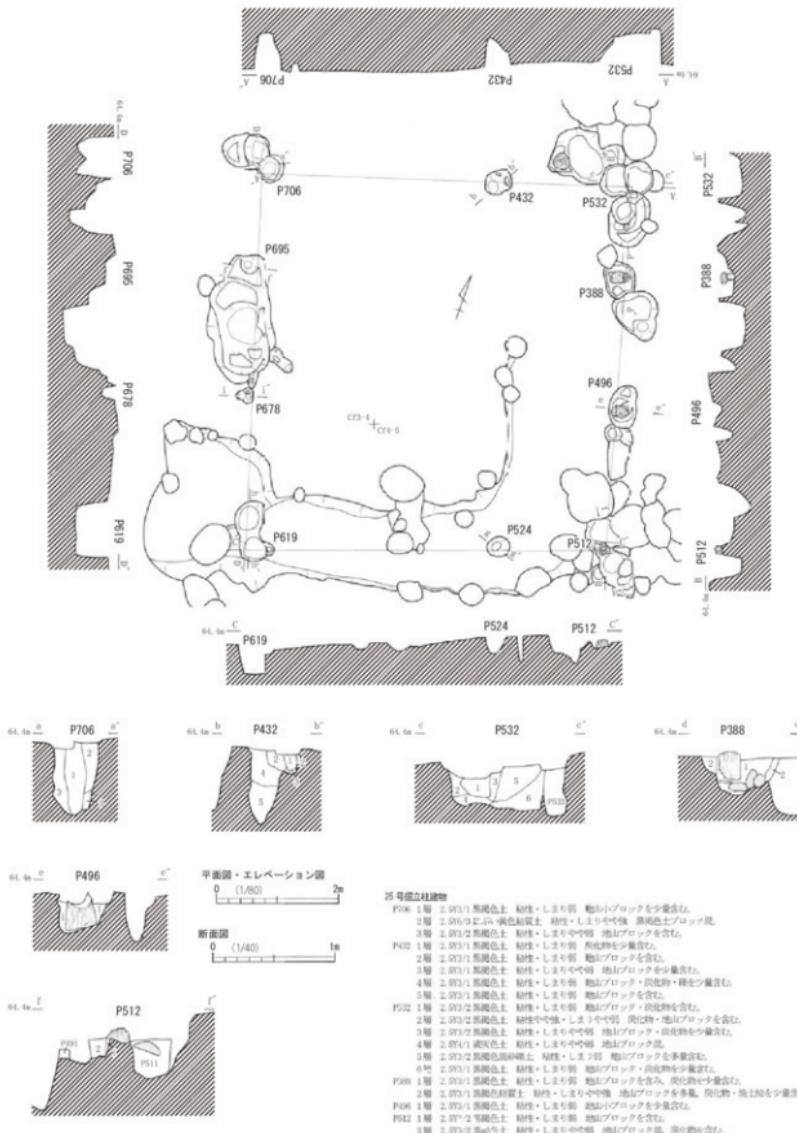
Cgグリッドに位置する、1間以上×2間の東西棟の梁間二間型（2a類）と考えられる建物である。2・8・16号掘立柱建物と重複関係にあるが、それらとの直接的な先後関係は不明である。柱根は残存せず^a、他の遺物も出土していない。

21号掘立柱建物（第34図）

Cf・Cg・Dfグリッドに位置する、1間×1間のやや正方形に近い梁間一間型建物（1類）である。3・9・11・12・16・25・35号掘立柱建物、10・29号溝と重複関係にある。35号掘立柱建物、10号溝より新しく、29号溝より古いが、3・9・11・12・16・25号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。柱根は残存せず^a、他の遺物も出土していない。

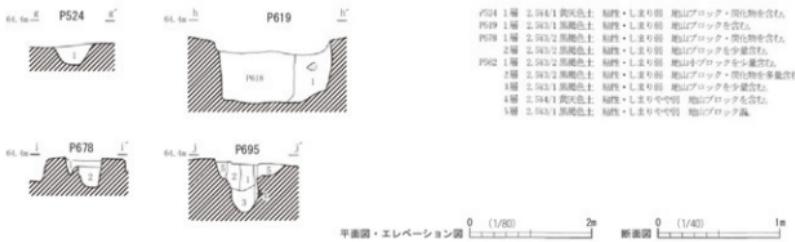
22号掘立柱建物（第35図）

Cfグリッドに位置する、2間以上×1間の東西棟の梁間一間型建物（1類）である。P658は、間仕切りのため

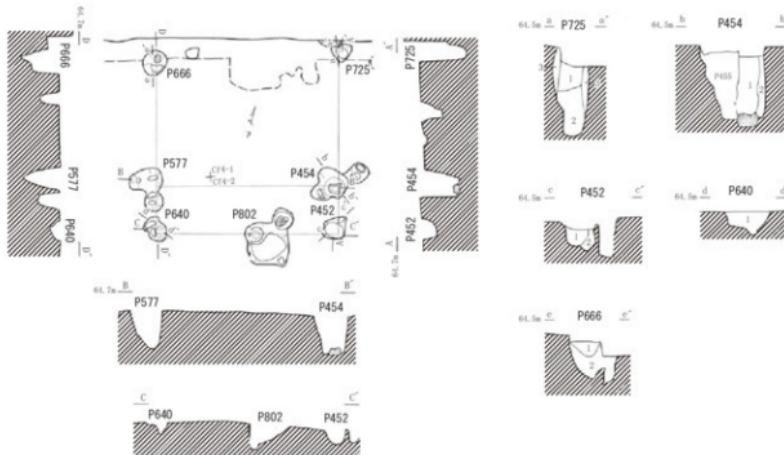


第38図 25号掘立柱建物（1）

25号掘立柱建物



26号掘立柱建物



26号掘立柱建物

- P725 1 番 2.503.1 黒褐色土 硬性・しまり弱 地山ブロック化多量含む。
2 番 2.503.1 黒褐色土 硬性・しまり弱 地山ブロック化含む。
3 番 2.503.1 黒褐色土 硬性・しまり弱 地山ブロック化多量含む。
P666 1 番 2.503.1 黒褐色土 硬性・しまり弱 地山ブロック・地山化少量含む。
2 番 2.503.1 黑褐色土 硬性・しまり弱 地山ブロック化多量含む。

- P62 1 番 2.570.1 黒褐色土 硬性・しまり弱 地山ブロック・地山化少量含む。
2 番 2.570.1 黑褐色土 硬性・しまり弱 地山ブロック化多量含む。
P69 1 番 2.570.1 黑褐色土 硬性・しまり弱 地山ブロック化多量含む。
2 番 2.570.1 黑褐色土 硬性・しまり弱 地山ブロック化多量含む。

第39図 25号掘立柱建物(2)・26号掘立柱建物

の柱の穴であろうか。建物の西側が調査区外へ延びるため、建物の全容は明らかではない。2・3・9・17・25・28号掘立柱建物、29・30号溝と重複関係にある。2号掘立柱建物より新しく、3・17号掘立柱建物、29・30号溝より古いが、9・25・28号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。柱根は残存せず、他の遺物も出土していない。

23号掘立柱建物(第35図)

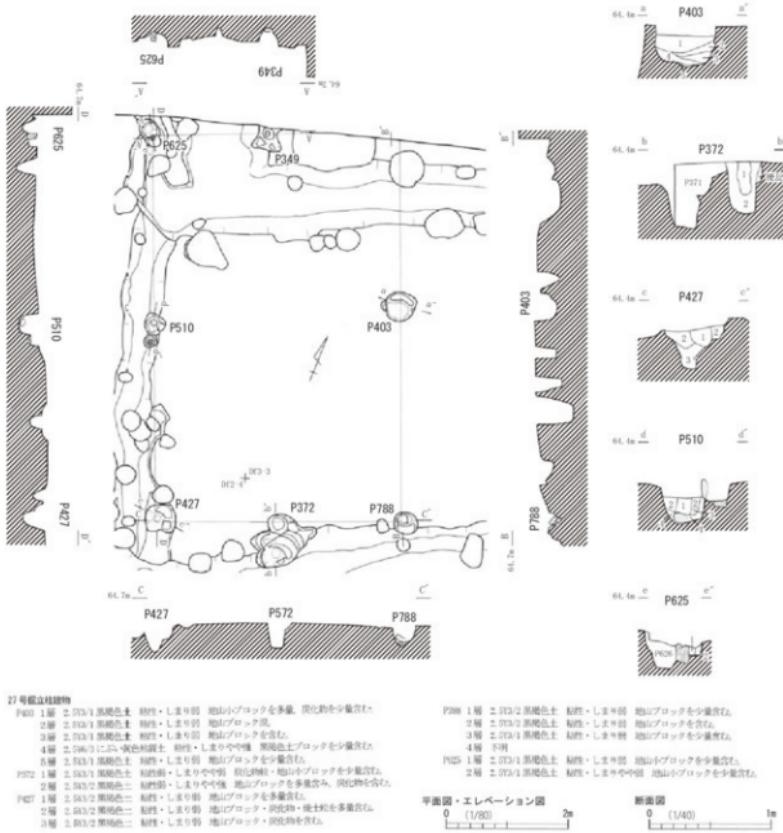
Ce-Cfグリッドに位置する。1間以上×1間の南北棟で、東側の平に底を持つ梁間一間型建物(1類)としたが、建物の北側が調査区外へ延びているため、梁間二間型(2a類か)の東西棟の建物である可能性も否定できない。3・

9・17・26・31・34号掘立柱建物。27号溝と重複関係にあり、17号掘立柱建物、27号溝より新しいが、3・9・26・31・34号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。

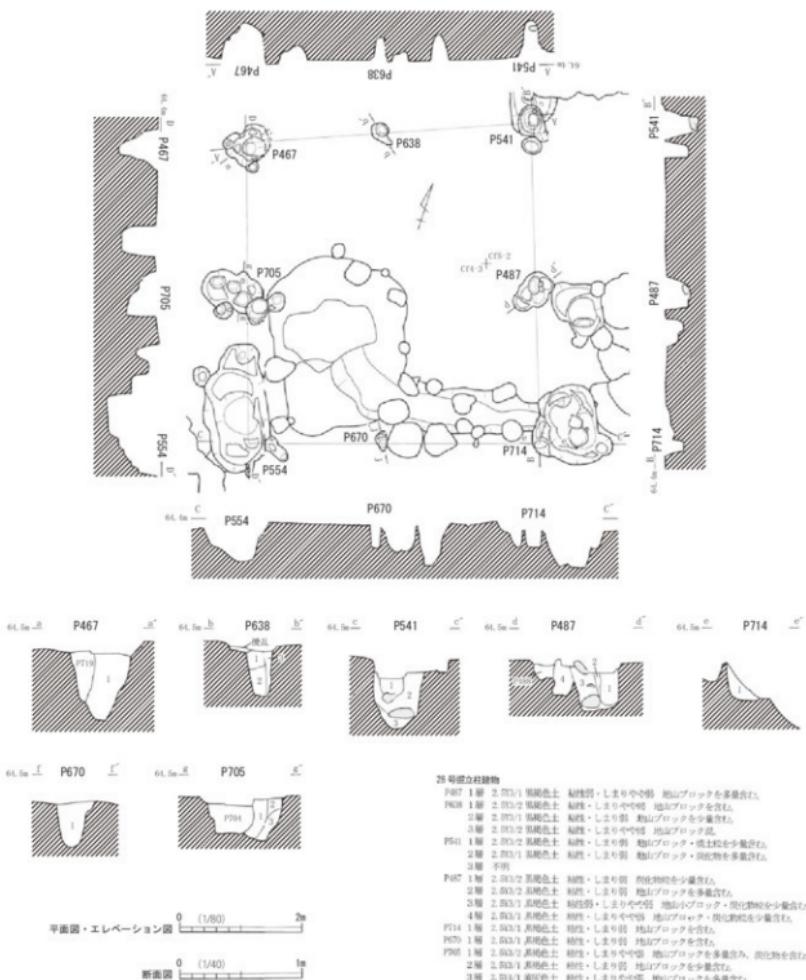
柱根は残存せず、株洲焼片口鉢片のみ出土したが、國化していない。

24号掘立柱建物（第36・37図、図版3）

Cf・Dfグリッドに位置する。2間以上×3間の南北棟の梁間三間型建物（3a類）と考えたが、總柱型建物（宮本1999）と捉えるべきかもしれない。北側は調査区外へと延びており、南東隅と調査区内北西隅の柱穴を欠いている。3・4・9・10・17・18・25～36号掘立柱建物、1号堅穴建物、52号土坑、19・20・23・28号溝と重複関係にある。1号堅穴建物、28号溝より新しく、17・25・29・30・33号掘立柱建物、52号土坑、19・20・23号溝より古いものの、3・4・9・10・18・26～28・31・32・34～36号掘立柱建物との直接的な先後関係については



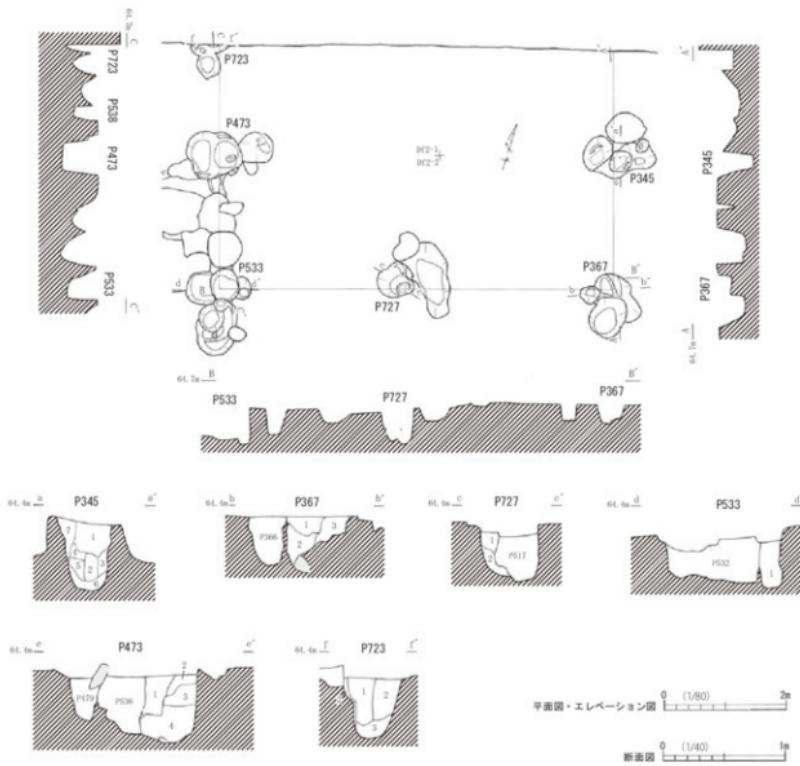
第40図 27号掘立柱建物



第41図 28号掘立柱建物

不明である。

柱根はP483・534・442・562のもの(154～157)が残存する。その他には瀬戸美濃焼平碗の小片がわずかに出土しているが、図化していない。



29号掘立柱建物

P345 1層 2.07/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック層。同化物を多量含む。
2層 2.07/2 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを多量含む。
3層 2.07/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・同化物を少量含む。
4層 2.07/2 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック・同化物を含む。
5層 2.07/1 黑褐色土 粘性弱・しまりやや弱 地山ブロック。
6層 2.07/1 黑褐色土 粘性弱・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
7層 2.07/1 黑褐色土 粘性弱・しまりやや弱 地山ブロックを含み、同化物を含む。
P367 1層 2.07/1 黑褐色土 粘性弱・しまり弱 地山ブロック・地盤同化物を含む。
2層 2.07/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・地盤同化物を含む。
3層 2.07/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック层。

P727 1層 2.07/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロック・地盤同化物を少量含む。
2層 2.07/1 黑褐色土 粘性弱・しまりやや弱 地山ブロック层。
P723 1層 2.07/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・同化物を多量含む。
2層 2.07/2 黑褐色土 粘性弱・しまり弱 地山ブロック・同化物を多量含む。
3層 2.07/1 黑褐色土 粘性弱・しまり弱 地山ブロック・地盤同化物を含む。
P533 1層 2.07/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロックを含む。
2層 2.07/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロックを含む。

第42図 29号掘立柱建物

25号掘立柱建物 (第38・39図、図版4)

Cf・Cg・Dfグリッドに位置する。3間×2間の南北棟の梁間二間型建物（2a類）としたが、梁間の間隔が左右で長さが倍程違うことから、東側の平に底を持つ梁間一間型建物（1類）の可能性も考えられる。3・9・12・16・17・21・22・24・28・29・31・32・35号掘立柱建物、28・29号構と重複関係にある。17・24・29・31号掘立柱建物、28号構より新しく、9・12号掘立柱建物、29号構より古いが、3・16・21・22・28・32・35号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。

柱根はP388・496・512で(158~160)残存し、P532から肥前系陶器鉢片(17)が出土している。

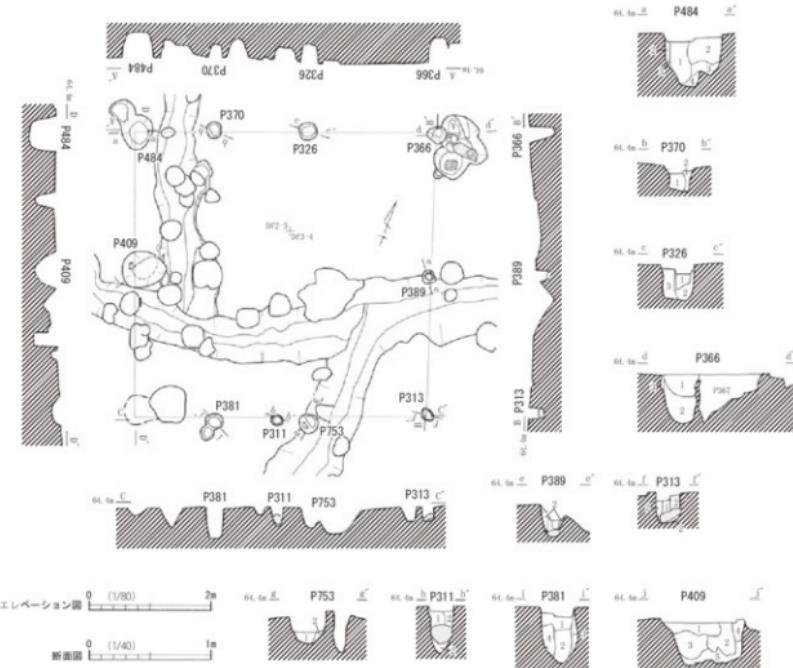
26号掘立柱建物(第39図、図版4)

Ce・Cfグリッドに位置する。1間以上×1間の南北棟の梁間一間型建物(1類)で、南側の妻に庇を持つ。3・9・17・23・24・28・31・34号掘立柱建物と重複関係にあるが、それらとの先後関係は不明である。

柱根はP454のもの(161)のみ残存し、他に遺物は出土していない。

27号掘立柱建物(第40図)

Dfグリッドに位置する。2間×2間の南北棟の梁間二間型建物(2a類)である。北東隅の柱穴は、調査区外に



30号掘立柱建物

P388 1層 2.80/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地盤にブロックを含む。
2層 3.80/3 に34 黄褐色粘土 粘性・しまりやや強 黑褐色土ブロック混。

3層 2.91/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地盤にブロックを含む。
4層 2.90/2 に25 黄褐色粘土 粘性・しまりやや強 黑褐色土ブロックを少量含む。

P370 1層 2.80/1 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 黑褐色土ブロックを含む。
2層 2.80/3 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地盤にブロックを含む。

P484 1層 2.80/2 黑褐色土 粘性・しまり弱 屋内跡、地盤ブロックを多量含む。
3層 2.80/3 黑褐色土 粘性・しまり弱 屋内跡、地盤ブロックを多量含む。

P409 1層 2.80/3 黑褐色土 粘性・しまり弱 地盤にブロックを含む。
2層 2.80/4 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地盤にブロックを含む。

P326 1層 2.80/1 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地盤にブロックを含む。
2層 2.80/3 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地盤にブロックを含む。

P366 1層 2.80/1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地盤にブロックを含む、炭化物を少量含む。
2層 2.80/3 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地盤にブロックを含む。

P326 1層 2.80/1 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地盤にブロックを含む。

P369 1層 2.80/1 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地盤にブロックを含む。

P213 1層 2.80/1 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地盤にブロックを含む。

P389 1層 2.80/1 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地盤にブロックを含む。

P381 1層 2.80/1 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地盤にブロックを含む。

P753 1層 2.80/1 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地盤にブロックを含む、炭化物を少量含む。

P311 1層 2.80/1 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地盤にブロックを含む。

P313 1層 2.80/1 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地盤にブロックを含む。

P313 2層 2.80/2 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地盤にブロックを含む。

P381 2層 2.80/4 黑褐色土 粘性・しまり弱 黑褐色土ブロックを少量含む。

P409 2層 2.80/4 黑褐色土 粘性・しまり弱 黑褐色土ブロックを少量含む。

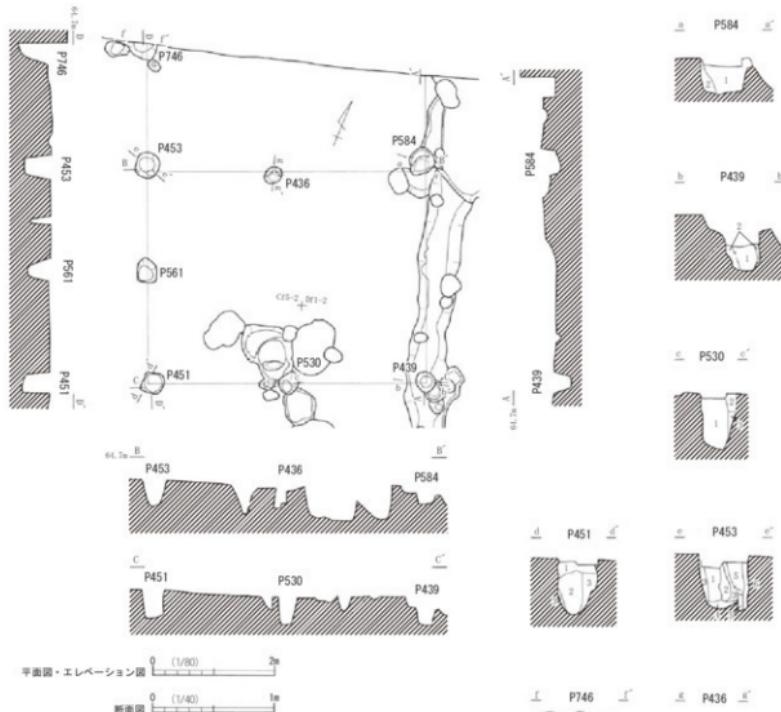
第43図 30号掘立柱建物

あると思われる。3・4・10・18・24・29・30・32・33・36号掘立柱建物、1号堅穴建物、46・47号土坑、19・20・22号溝と重複関係にある。3号掘立柱建物、47号土坑、20号溝より新しく、46号土坑、19・22号溝より古いが、4・10・18・24・29・30・32・33・36号掘立柱建物、1号堅穴建物との先後関係は不明である。

柱根は、P625(162)のみ残存する。また、P427から焼成粘土塊(97)が出土している。

28号掘立柱建物（第41図）

Cfグリッドに位置する、2間×2間の正方形に近い梁間二間型建物（2a類）である。3・9・17・22・24～



31号掘立柱建物

P384 1号 坚穴地盤上 硬性弱。しまりやや弱 地面ブロック・炭化物を少量含む。

2号 2.5m/1 黒褐色土 硬性・しまり弱 地山ブロックを含む。

P439 1号 2.5m/1 黑褐色土 硬性・しまりやや弱 地山ブロック・炭化物を少量含む。

2号 2.5m/1 黑褐色土 硬性・しまりやや弱 地山ブロック・炭化物を含む。

3号 2.5m/2(3)に2.5 黄褐色粘土質 硬性・しまりやや強 地山ブロックを多量含む。

3号 2.5m/3 黑褐色土 硬性・しまりやや弱 地山ブロックを少含む。

P451 1号 2.5m/1 黑褐色土 硬性・しまりやや弱 地山ブロックを少含む。

2号 2.5m/1 黑褐色土 硬性・しまりやや弱 地山ブロックを少含む。

P453 1号 2.5m/1 黑褐色土 硬性・しまりやや弱 地山ブロックを少含む。

2号 2.5m/1 黑褐色土 硬性・しまりやや弱 地山ブロックを少含む。

P456 1号 2.5m/1 黄褐色粘土質 硬性・しまりやや弱 地山ブロックを多量含む。

2号 2.5m/2 黑褐色土 硬性・しまりやや弱 地山ブロックを少含む。

3号 2.5m/3 黑褐色土 硬性・しまりやや弱 地山ブロックを少含む。

P459 1号 2.5m/1 黑褐色土 硬性・しまりやや弱 地山ブロックを少含む。

2号 2.5m/2 黑褐色土 硬性・しまりやや弱 地山ブロックを少含む。

P460 1号 2.5m/1 黑褐色土 硬性・しまりやや弱 地山ブロックを少含む。

2号 2.5m/2 黑褐色土 硬性・しまりやや弱 地山ブロックを少含む。

3号 2.5m/3 黑褐色土 硬性・しまりやや弱 地山ブロックを少含む。

P461 1号 2.5m/1 黑褐色土 硬性・しまりやや弱 地山ブロックを少含む。

2号 2.5m/2 黑褐色土 硬性・しまりやや弱 地山ブロックを少含む。

P462 1号 2.5m/1 黄褐色粘土質 硬性・しまりやや弱 地山ブロックを少含む。

2号 2.5m/2 黑褐色土 硬性・しまりやや弱 地山ブロックを少含む。

3号 2.5m/3 黑褐色土 硬性・しまりやや弱 地山ブロックを少含む。

P463 1号 2.5m/1 黑褐色土 硬性・しまりやや弱 地山ブロックを少量含む。

2号 2.5m/2 黑褐色土 硬性・しまりやや弱 地山ブロックを少量含む。

3号 2.5m/3 黑褐色土 硬性・しまりやや弱 地山ブロックを少量含む。

P464 1号 2.5m/1 黑褐色粘土質 硬性・しまりやや弱 地山ブロックを少量含む。

2号 2.5m/2 黑褐色土 硬性・しまりやや弱 地山ブロックを少量含む。

3号 2.5m/3 黑褐色土 硬性・しまりやや弱 地山ブロックを少量含む。

第44図 31号掘立柱建物

26・31・32・34・35号掘立柱建物、20・26号溝と重複関係する。34号掘立柱建物より新しく、3・9号掘立柱建物、20・26号溝より古いが、17・22・24～26・31・32・35号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。

柱根は残存せず、遺物はP467から瀬戸美濃焼の平碗片（18）が出土しているのみである。

29号掘立柱建物（第42図）

CF・DFグリッドに位置する、2間以上×2間の南北棟の梁間二間型建物（2a類）である。北側が調査区外へ延びているため、建物の全容は明らかではない。3・4・10・17・18・24・25・27・30・31・33・36号掘立柱建物、28号溝と重複関係にある。10・17・24・30・36号掘立柱建物、28号溝より新しく、18・25号掘立柱建物より古いが、3・4・27・31・33号掘立柱建物との先後関係は不明である。

柱根は残存せず、P473から肥前系陶器捕鉢片（16）が出土したほか、肥前系陶器皿の小片も出土した。

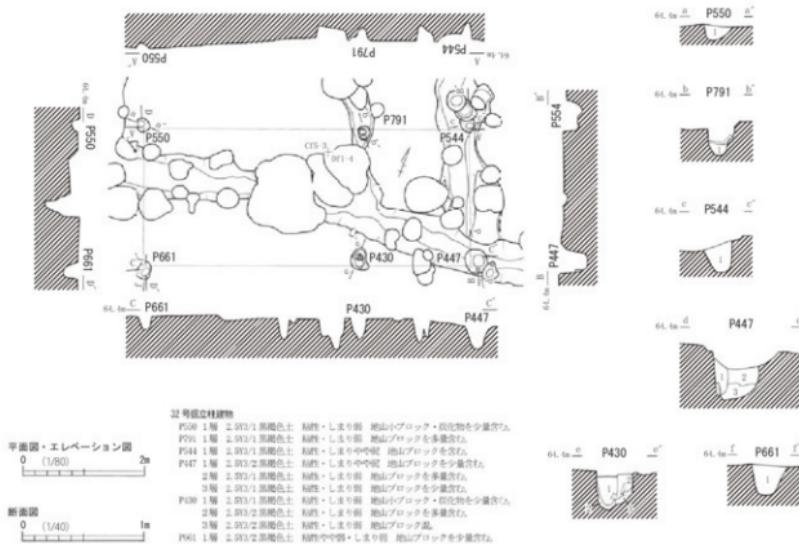
30号掘立柱建物（第43図）

DFグリッドに位置する、3間×2間のほぼ正方形の梁間二間型建物（2a類）である。南西隅の柱穴は、擾乱により検出されていない。3・4・10・13・18・24・27・29・31～33・35・36号掘立柱建物、10・20・22号溝と重複関係にある。24号掘立柱建物、10号溝より新しく、10・29号掘立柱建物、20・22号溝より古いが、3・4・13・18・27・31～33・35・36号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。

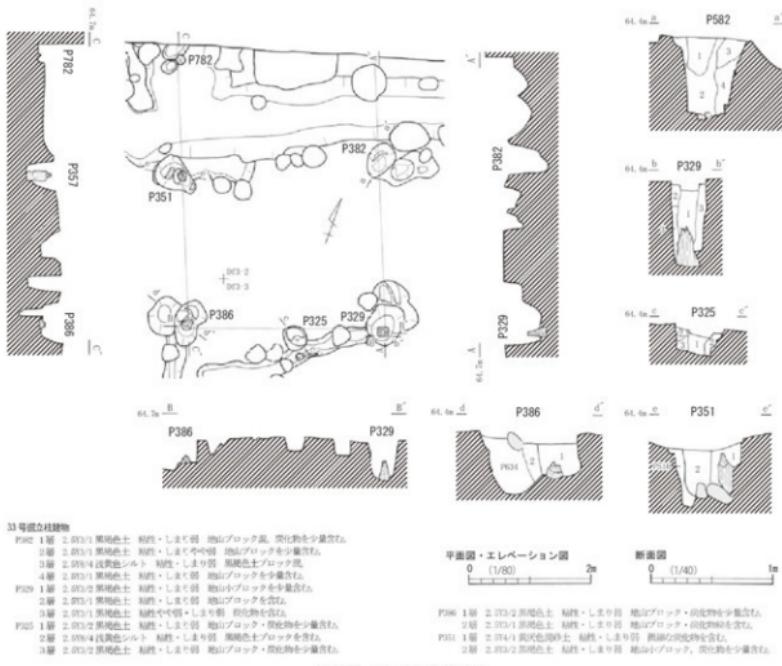
柱根は、P409（163）のみ残存しており、他の遺物は出土していない。

31号掘立柱建物（第44図）

CF・DFグリッドに位置する、3間以上×2間の南北棟の梁間二間型建物（2a類）である。P436は、間仕切りの柱の穴であろうか。北側が調査区外へ延びているため、建物の全容は明らかではない。3・9・10・17・18・23



第45図 32号掘立柱建物



第46図 33号掘立柱建物

～26・28～30・32・34・35号掘立柱建物、47号土坑、22号構と重複関係にある。25号掘立柱建物、47号土坑、22号構より古いが、3・9・10・17・18・23・24・26・28～30・32・34・35号掘立柱建物との先後関係は不明である。柱根は残存せず、他の遺物も出土していない。

32号掘立柱建物 (第45図)

Cf・Dfグリッドに位置する、2間×1間の東西棟の梁間一間型建物(1類)である。桁側の柱間が、概ね1:2の間隔であることから、間仕切りがある、もしくは東側の妻に庇を持つ1間×1間の建物の可能性も考えられる。3・9・10・17・18・24・25・27・28・30・31・35号掘立柱建物、20・22・23号構と重複関係にある。22・23号構より古いが、3・9・10・17・18・24・25・27・28・30・31・35号掘立柱建物、20号構との直接的な先後関係は不明である。

柱根は、P447(164)のみ残存し、他の遺物は出土していない。

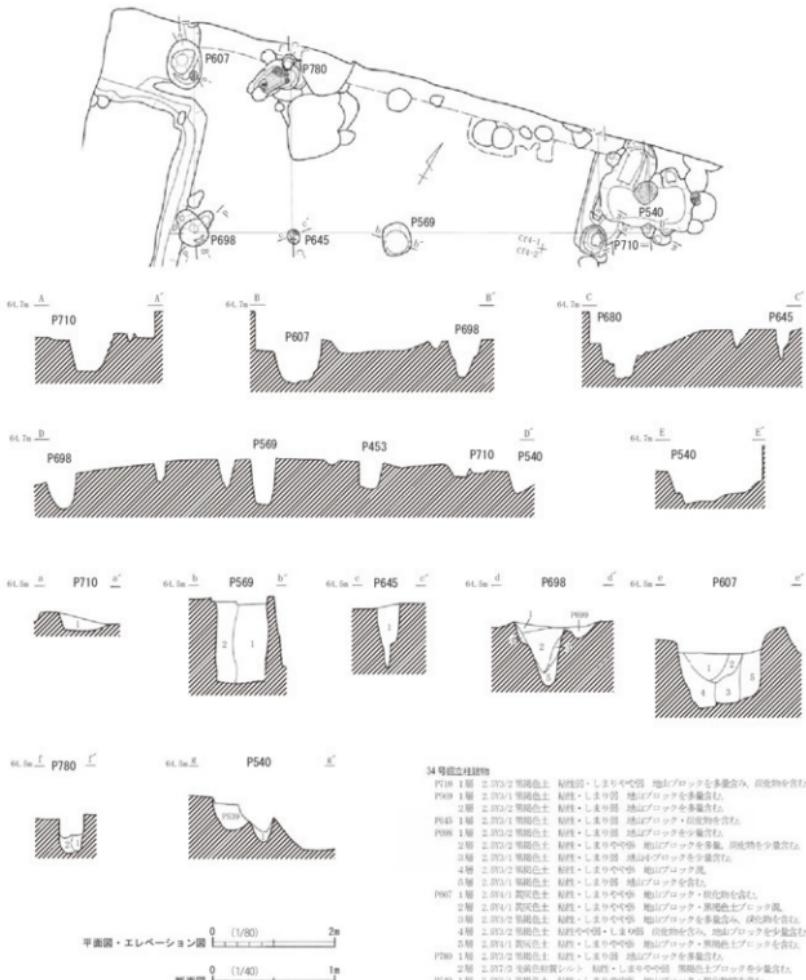
33号掘立柱建物 (第46図、図版3・4)

Dfグリッドに位置する、2間以上×2間の梁間二間型建物(2a類)で、3・4・10・18・24・27・29・30・36号掘立柱建物、47・48号土坑、18・23号構と重複する。24号掘立柱建物、48号土坑、18号構より新しく、23号構、47号土坑より古いが、3・4・10・18・27・29・30・36号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。

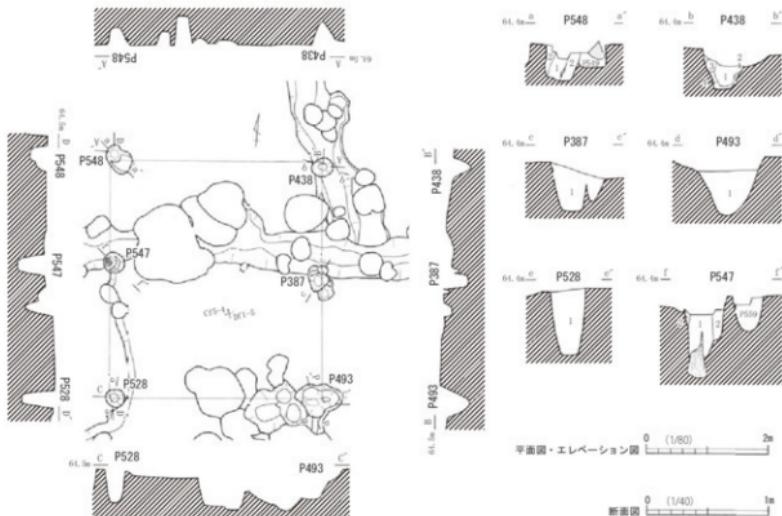
柱根は、P329・386・351（165～167）が残存している。その他に、P351から肥前系陶器皿片（19）や同陶器片がわずかに出土している。

34号掘立柱建物（第47図）

Ce・Cf・Df グリッドに位置する。1間以上×2間の、東側の半に底または下屋を持つ南北棟の梁間二間型建物（2



第47図 34号掘立柱建物



35号掘立柱建物

P548 1層 2.73x1.73m 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少収容
P549 1層 2.73x1.73m 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多収容
P493 1層 2.73x1.73m 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多収容
2層 2.73x1.73m 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む
3層 2.73x1.73m 黄褐色土 粘性・しまりやや強 黑褐色土ブロックを含む
4層 2.73x1.73m 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロックを少収容

P547 1層 2.5x2.5m 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少収容
P387 1層 2.5x2.5m 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多収容
P528 1層 2.5x2.5m 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多収容
P493 2層 2.5x2.5m 黑褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロックを多収容

第48図 35号掘立柱建物

b類)と考えたが、北側が調査区外へと延びており全容が不明なため、他の型の建物である可能性も否定できない。P645は、間柱の可能性が考えられる。3・9・17・23・24・26・28・31号掘立柱建物、49号土坑、26・31号溝と重複関係にある。3・17・28号掘立柱建物、49号土坑、26・31号溝より古いが、9・23・24・26・31号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。柱根は残存せず、他の遺物も出土していない。

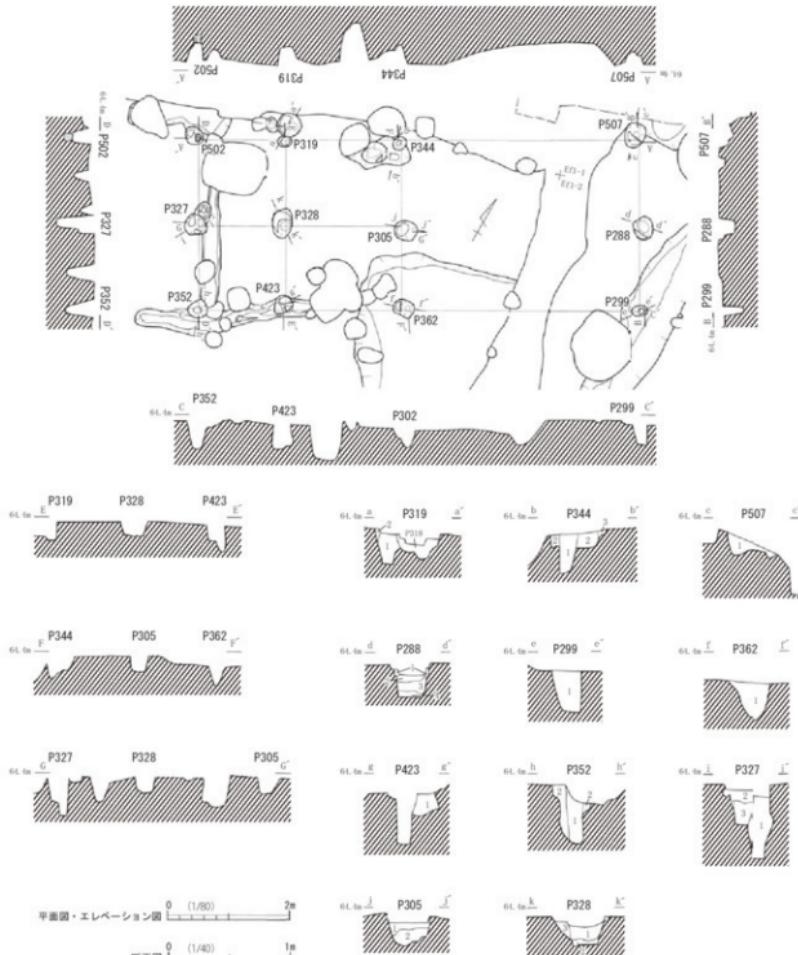
35号掘立柱建物（第48図）

Cf・Dfグリッドに位置する、2間×1間の南北棟の梁間一間型建物（1類）である。3・9・10・17・21・24・25・28・30～32号掘立柱建物、20・22・29号溝と重複関係にある。21号掘立柱建物、20・22・29号溝より古いが、3・9・10・17・24・25・28・30～32号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。

柱根はP547で残存していたが、遺存状態が悪く、図示し得なかった。その他の遺物は、P438から基石（107）が1点出土しているのみである。

36号掘立柱建物（第49図）

Df・Efグリッドに位置する。4間×2間と考えられる東西棟の梁間二間型建物（2a類）であるが、南北の桁側の柱穴2基が、19・20号溝と重複しており検出できていない。P328は、間仕切りの柱の穴であろうか。3・4・10・18・24・27・29・30・33号掘立柱建物、1号堅穴建物、45・48号土坑、16～18号溝と重複関係にある。10

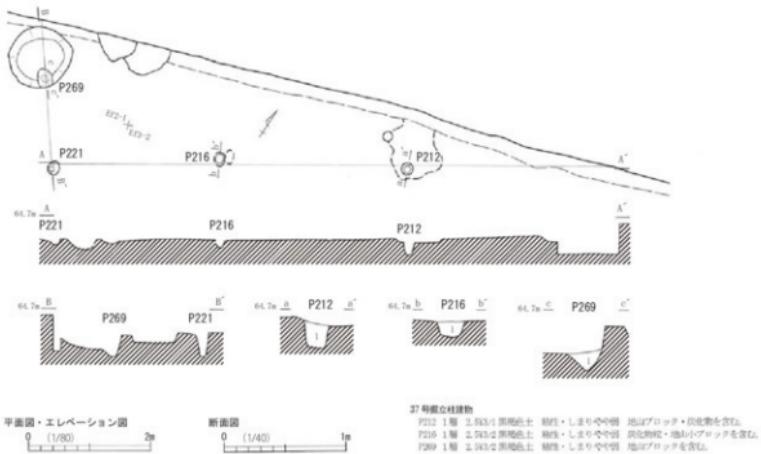


36号柱立柱建物

- P202 1層 2.573-1 黒褐色土 粘性弱・しまりやや弱 地面物を少量含む。
2層 2.573-2 黒褐色土 粘性強・しまりやや弱 地面ブロック层。
P319 1層 2.573-1 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地面ブロックを多量含み、地面物を含む。
2層 2.573-2 黑褐色土 粘性弱・しまりやや弱 地面ブロック层。地面物を含む。
P344 1層 2.573-1 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地面ブロックを少量含む。
2層 2.573-2 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地面ブロックを少量含む。
P507 1層 2.573-1 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地面ブロックを含む。
2層 2.573-2 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地面ブロックを含む。
P299 1層 2.573-1 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地面シルトブロックを少量含む。
2層 2.573-2 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地面シルトブロックを少量含む。

- P343 1層 2.574-1 黒灰色土 粘性・しまりやや弱 地面ブロック层。
P302 1層 2.574-1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地面色土ブロック・地盤ブロックを少量含む。
P327 1層 2.575-2 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地面物を少量含む。
2層 2.575-3 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地面ブロックを多量含む。
P352 1層 2.576-1 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地面ブロックを少量含む。
2層 2.576-2 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地面ブロックを多量含む。
P327 1層 2.577-1 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地面色土ブロック・地盤色土ブロックを少量含む。
2層 2.577-2 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地面物を少量含む。
P305 1層 2.578-1 黑褐色土 粘性・しまり弱 地面ブロックを多量含む。
2層 2.578-2 黑褐色土 粘性・しまりやや弱 地面色土ブロックを少量含む。
P328 1層 2.579-2 黑褐色土 粘性・しまり弱 地面色土ブロックを少量含む。
2層 2.579-3 黑褐色土 粘性・しまり弱 地面色土ブロックを少量含む。

第49図 36号柱立柱建物



第50図 37号掘立柱建物

号掘立柱建物, 48号土坑, 18号溝より新しく, 29号掘立柱建物, 45号土坑, 16・17号溝より古いが, 3・4・18・24・27・30・33号掘立柱建物, 1号竪穴建物との直接的な先後関係は不明である。柱根は残存せず^a, 他の遺物も出土していない。

37号掘立柱建物（第50図）

Efグリッドに位置する。調査区北壁近くでL字状の柱穴の並びが検出されたため掘立柱建物としたが, 詳細は不明であり, 檻列の可能性もある。33号土坑より古いほかは, 重複関係にある遺構はない。柱根は残存せず^a, 他の遺物も出土していない。

1号竪穴建物（第51図, 図版4）

Dfグリッドに位置する, 3.23 m × 3.09 m の正方形に近い形状の竪穴建物である。検出面からの深さは60 cm程度, 底面からは東西方向に2列3基ずつの柱穴を検出した。3・4・10・24・27・36号掘立柱建物, 20号溝と重複関係にある。3・24号掘立柱建物より古いが, 4・10・27・36号掘立柱建物, 20号溝との直接的な先後関係は不明である。

柱根は残存しないが, 龍泉窯系の青磁碗片(20)のほか, 中世土師器皿片・珠洲焼片口鉢片・越前焼壺または甕片が出土している。

1・2号檻列（第52図, 図版2）

1号檻列はBdグリッド, 2号檻列はBd・Beグリッドに位置する。1号檻列は3間分の長さ5.41 m, 2号檻列は2間分の長さ4.30 m規模である。両者とも檻列としたが, 調査区壁際で検出されたことから, 調査区外へ延びる掘立柱建物の可能性もある。両者は重複関係にあり, 1号檻列が古く, 2号檻列が新しい。共に柱根は残存せず^a, 他の遺物も出土していない。

3号檻列（第52図）

Cg・Dgグリッドに位置する。規模は, 3間分で長さ8.44 mである。11・12・16号掘立柱建物, 23号土坑, 9・

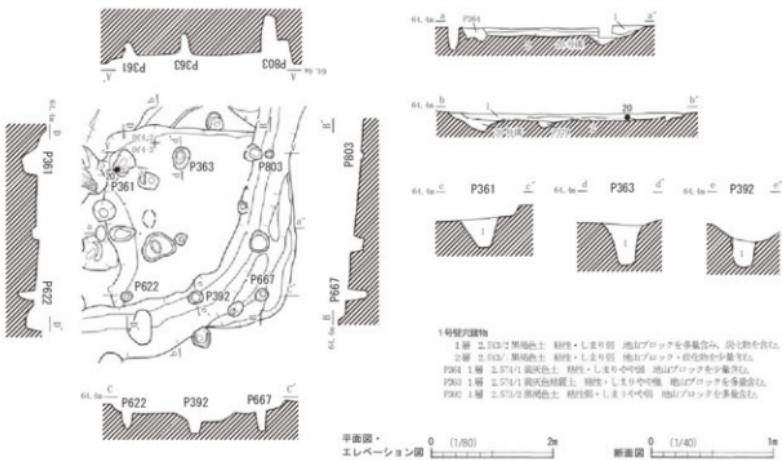


図51 1号竪穴建物

10号溝と重複関係にある。10号溝より新しく、23号土坑。9号溝より古いが、11・12・16号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。柱根は残存せず、他の遺物も出土していない。

1号井戸（第53図、図版4）

Bg グリッドに位置する。整理作業の過程で大型土坑の可能性も検討したが、今回の調査で検出した大型土坑（40・50号土坑）と異なり、①湧水が顕著、②底面が擂鉢状に近くやや狭くなる、③人頭大以下の礫が投棄されていない、といった相違点から井戸と判断した。井戸の構築材が出土していないため、素掘りの井戸と考えられる。P47と重複し、本遺構が新しい。埋土中から、珠洲焼片口鉢片や砥石（102）が出土している。

2号井戸（第53図、図版5）

Dg グリッドに位置する。断面形状は、上半部が外に開き、下半部はやや狭まり、壁が垂直気味に立つ。湧水が顕著で、断面の記録作成前にその影響で土層観察のため掘り残した部分が崩落、一部記録を欠いている。1号井戸同様、構築材は検出されず、素掘りの井戸の可能性がある。越前焼擂鉢片（21・22）や砥石（103）が出土した。

3号井戸（第53図、図版6）

Bh グリッドに位置する。遺構面が後世の大規模な削平を受けている調査区南西部にあって、堀以外で唯一検出した遺構である。埋土中からは、小児頭骨大以下の大きさの礫が、多量に投棄された状態で検出された。埋土の堆積状態などからは、これらの礫が当遺構に直接関係するものか否か判断はできないが、石組の井戸であった可能性も否定できない。埋土中から、瀬戸美濃焼天目茶碗片（23）1点が出土している。

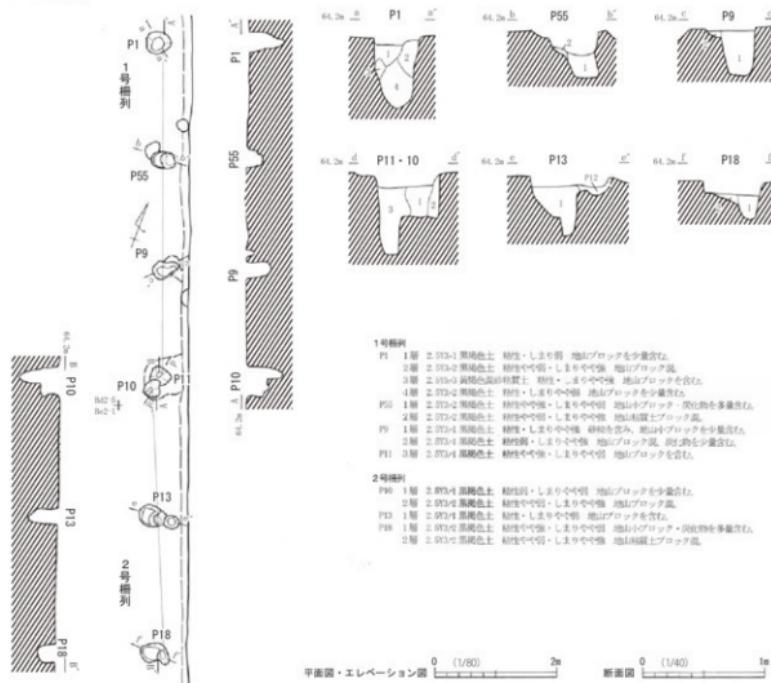
1号土坑（第54図）

Bc・Bd グリッドに位置する。不整形な平面形で、断面は弧状である。遺物は出土していない。

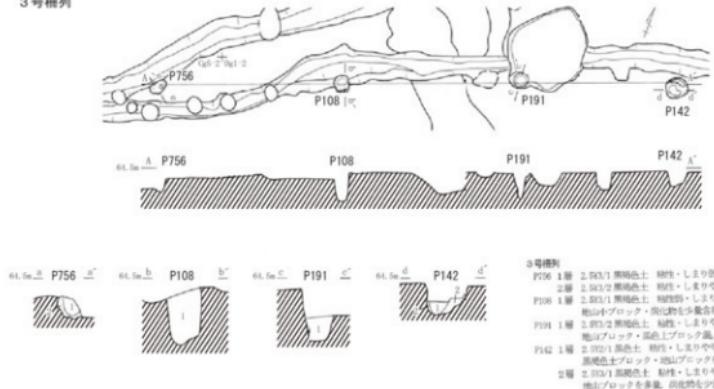
2号土坑（第54図）

Bd グリッドに位置する。平面形は方形で、断面は弧状である。遺物は出土していない。

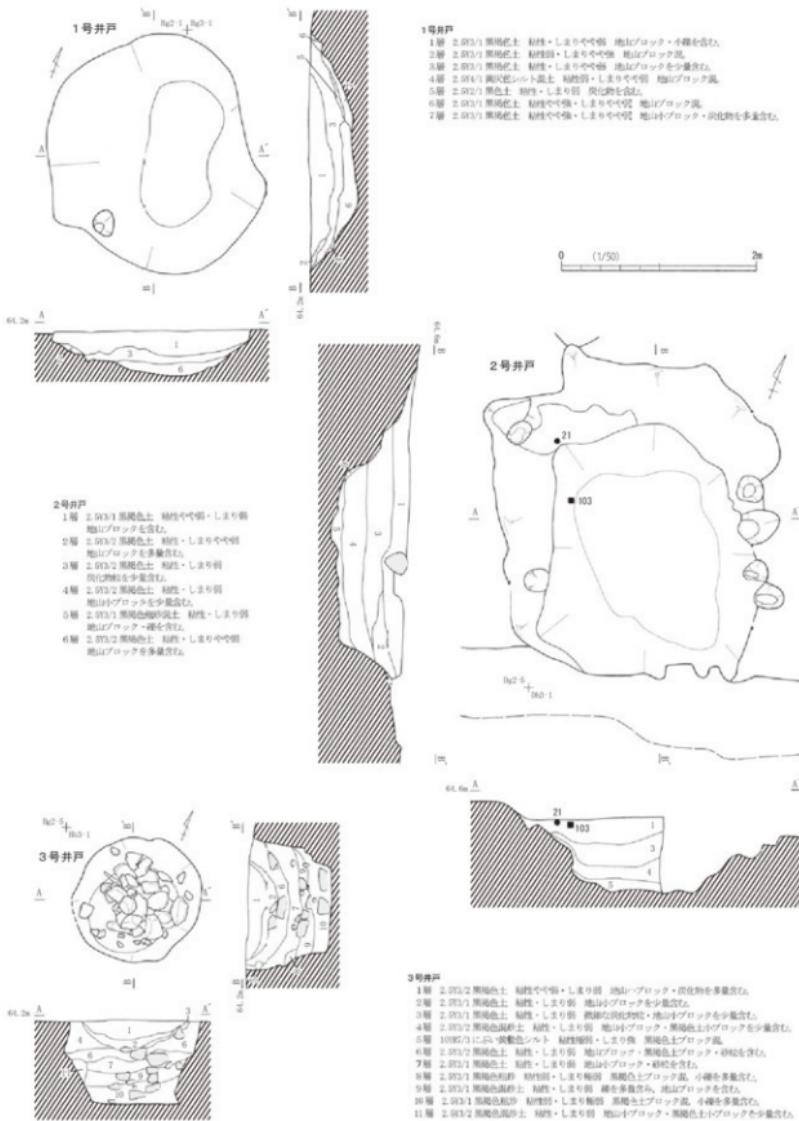
1・2号標列



3号標列



第52図 1～3号標列



第53図 1～3号井戸

3・4号土坑（第54図）

両者は重複関係にあり、ともにBdグリッドに位置する。いずれも平面形は円形で、断面は台形状である。4号土坑が古く、3号土坑が新しい。4号土坑から、肥前系磁器小皿片（24）が出土している。

5号土坑（第54図）

Bdグリッドに位置する。東側が調査区外へと延びており、全容は不明である。遺物は出土していない。

6号土坑（第54図）

Beグリッドに位置する。平面形は不整形で、断面は浅い弧状である。遺物は出土していない。

7号土坑（第54図）

Beグリッドに位置する。東側が調査区外へと延びているため、全容は不明である。遺物は出土していない。

8・13号土坑（第54図）

両者は重複関係にあり、8号土坑はBeグリッド、13号土坑はBd・Beグリッドに位置する。13号土坑が古く、8号土坑が新しい。ともに、遺物は出土していない。

9・10号土坑（第54図）

両者は重複関係にあり、ともにBfグリッドに位置する。10号土坑が古く、9号土坑が新しい。9号土坑から、下駄（126）と折敷の板片（127）が出土している。

11号土坑（第55図）

Bfグリッドに位置する。平面形は橢円形で、断面は弧状である。遺物は出土していない。

12号土坑（第55図）

Bf・Bgグリッドに位置する。平面形はやや不整形な円形で、断面は弧状である。1号掘立柱建物（P44・45）、P46・794、8号溝と重複する。1号掘立柱建物、P46・794より新しく、8号溝より古い。遺物は出土していない。

14号土坑（第55図）

Cgグリッドに位置する。平面形は橢円形で、断面は台形状である。遺物は出土していない。

15号土坑（第55図）

Cgグリッドに位置する。2号掘立柱建物P83と重複し、本遺構が新しい。遺物は出土していない。

16号土坑（第55図）

Cgグリッドに位置する。平面形は長方形、断面は台形状と考えられるが、8号掘立柱建物のP48と重複関係にあるため正確な形状は不明である。先後関係は、8号掘立柱建物が本遺構より新しい。遺物は出土していない。

17・57号土坑（第55図）

両者は重複関係にあり、ともにCgグリッドに位置する。2号掘立柱建物P49とも両者は重複関係にあり、57号土坑→17号土坑→2号掘立柱建物の順に掘削される。いずれの遺構からも、遺物は出土していない。

18号土坑（第55図）

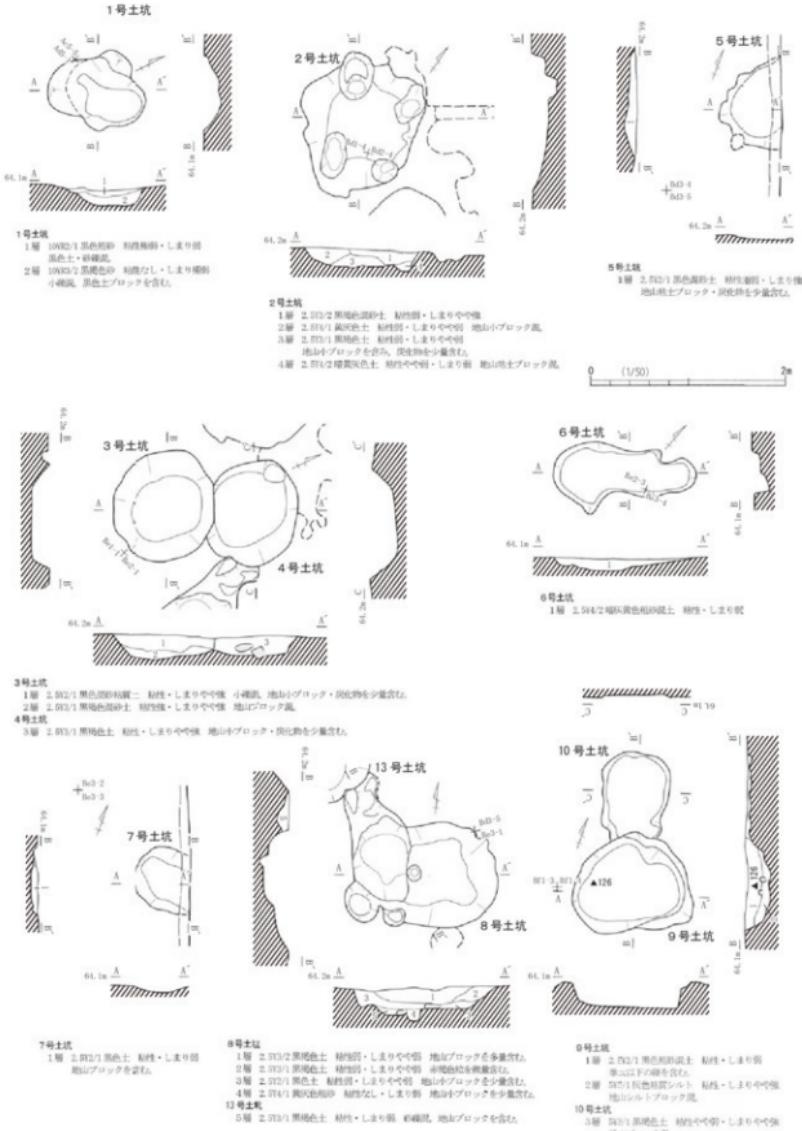
Cg・Dgグリッドに位置する。平面形はやや不整な円形、断面は台形状である。2号掘立柱建物P114・8号掘立柱建物P769・11号掘立柱建物P101・16号掘立柱建物P770、P146と重複し、2号掘立柱建物・11号掘立柱建物より新しく、P146より古いが、8・16号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。遺物は出土していない。

19号土坑（第56図）

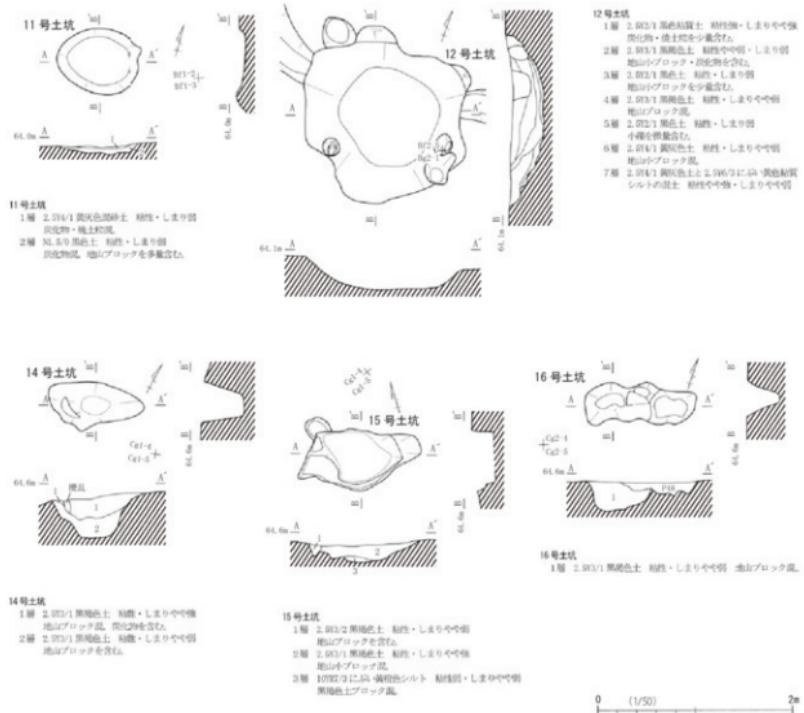
Cgグリッドに位置する。P51と重複関係にあり、本遺構がP51より古い。遺物は出土していない。

20号土坑（第56図、図版5）

Cgグリッドに位置する。平面形は円形で、断面は箱状である。はじめに西半部を半裁した時点で、気づかず



第54図 1～10・13号土坑



第55図 11・12・14～18号土坑

掘りあげてしまった可能性はあるが、東側の壁沿いで桶や樽に使用される罐が検出された。土坑の形状や罐の出土状況などから、桶が埋設されていた土坑と考えられ、博板が抜き取られた状態で埋まつたと考えられる。桶を埋設した遺構の性格を考えるため、罐より内側と外側の土壤を採取し、寄生虫卵等分析を行つた。分析結果は第IV章に掲載した。11号溝と重複関係にあり、本遺構が古い。遺物は出土していない。

21号土坑（第56図）

Cg グリッドに位置する。P119と重複関係にあり、P119より古い。下駄（128）が1点出土している。

22号土坑（第56図）

Dg・Dh グリッドに位置する。水路掘削と水道管の埋設で、南東側が削平を受けている。遺物は出土していない。

23号土坑（第56図）

Dg グリッドに位置する。平面形は円形で、断面は箱状である。13号掘立柱建物、3号柵列、9号溝と重複する。

3号柵列より新しいが、13号掘立柱建物、9号溝との先後関係は不明である。遺物は出土していない。

24号土坑（第56図）

Dg グリッドに位置する。4・10号溝と重複関係にあり、両者より古い。遺物は出土していない。

25号土坑（第56図）

Dg グリッドに位置する。平面形は不整形で、断面は台形状である。遺物は出土していない。

26号土坑（第56図）

Fg グリッドに位置する。田面の造成と、調査時の排水溝掘削で北半部を欠損する。遺物は出土していない。

27号土坑（第57図）

Eh グリッドに位置する。55号土坑、14号溝と重複し、本遺構は両者より新しい。遺物は出土していない。

28・29号土坑（第57図）

両者は重複関係にあり、ともにEh グリッドに位置する。28号土坑は56号土坑とも重複関係にあり、29・56号土坑より新しい。遺物は出土していない。

30号土坑（第57図）

Ef グリッドに位置する。平面形はやや不整な円形で、断面は弧状である。遺物は出土していない。

31号土坑（第57図）

Ef グリッドに位置する。P268と重複関係にあり、本遺構が新しい。遺物は出土していない。

32号土坑（第57図）

Ef グリッドに位置する。越前焼の盃または甕片のほかに、砥石（104）が出土している。

33号土坑（第57図）

Ef グリッドに位置する。37号掘立柱建物 P269、45号土坑と重複し、両者より新しい。遺物は出土していない。

34号土坑（第57図）

Ff グリッドに位置する。15号溝と重複し、本遺構が古い。遺物は出土していない。

35号土坑（第57図）

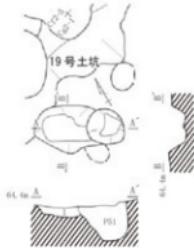
Ff グリッドに位置する。平面形はやや不整な梢円形で、断面は弧状である。遺物は出土していない。

36号土坑（第57図）

Ef グリッドに位置する。平面形は円形で、断面は半円状である。遺物は出土していない。

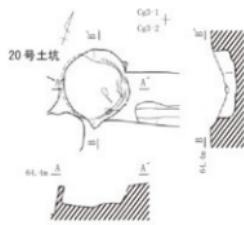
37・38・39号土坑（第58図）

三者は重複関係にあり、いずれもEg グリッドに位置する。三者とも調査時に掘削した排水溝で一部壊され、



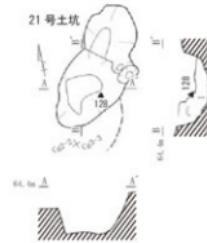
19号土坑

1層 2. Bt3/2 黑褐色粘土・粒性・しまりやや強
地山ブロックを多量含む。炭化物を含む。



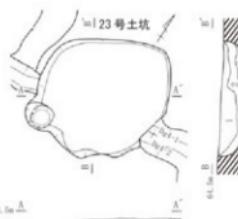
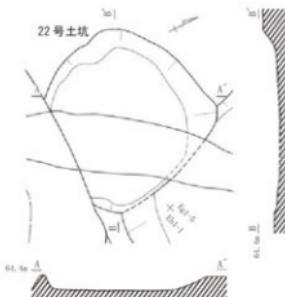
20号土坑

1層 2. Bt3/1 黑褐色土・粒性・しまり弱
小礫を多量、地山ブロック・瓦片を少量含む。



21号土坑

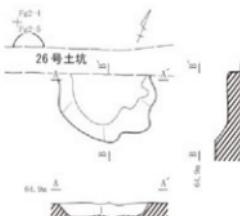
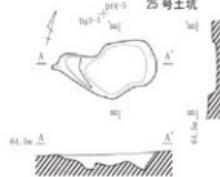
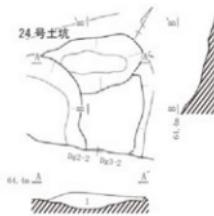
1層 1. Bt3/1 黑褐色土・粒性・しまり弱
地山ブロックを含む。



23号土坑

1層 2. Bt3/1 黑褐色土・粒性・しまり
やや弱、炭化物、地山土質・薄。
地山小ブロックを含む。
2層 2. Bt3/1 黑褐色土・粒性・しまり
弱、地山ブロックを含む。
3層 2. Bt3/2 黑褐色土・粒性・しまり
やや弱、地山ブロックを少量化。

0 (1/50) 2m



24号土坑

1層 2. Bt3/2 黑褐色土・粒性・しまり弱
地山ブロック・炭化物を含む。

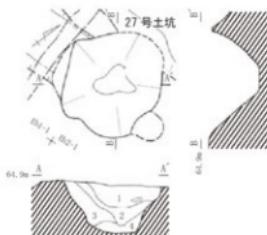
25号土坑

1層 2. Bt3/1 黑褐色土・粒性・しまり弱
地山ブロックを多量含み、炭化物を含む。

26号土坑

1層 2. Bt3/1 黑褐色土・粒性やや弱・しまり弱、
礫を多量含む。

第56図 19～26号土坑



27号土坑

- 1層 2.013/1 黒褐色土・粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
- 2層 2.011 黄褐色土・粘性・しまりやや弱 黑褐色土ブロック・地山ブロックを少量含む。
- 3層 2.011 黄褐色土・粘性・しまりやや弱 地山ブロック無。
- 4層 2.011 灰褐色土・粘性やや強・しまりやや弱 黄褐色土ブロック・灰化物を少量含む。

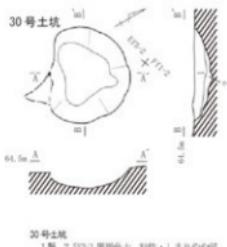


28号土坑

- 1層 2.012/1 黑褐色土・粘性・しまりやや弱 地化物を含み、地山ブロックを少量含む。
- 2層 2.012/2 黑褐色土・粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。

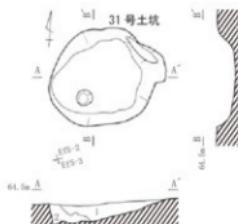
29号土坑

- 1層 2.012/1 黑褐色土・粘性・しまりやや弱 地化物を含む。
- 2層 2.012/1 黑褐色土・粘性・しまりやや弱 地山ブロック・黑褐色土ブロック混。



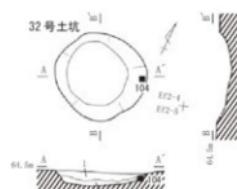
30号土坑

- 1層 2.013/1 黑褐色土・粘性・しまりやや弱 地山ブロック・地山少量含む。
- 2層 2.013/1 黑褐色土・粘性・しまりやや弱 地山ブロックを少量含む。



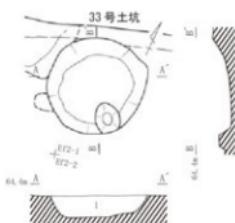
31号土坑

- 1層 2.013/2 黑褐色土・粘性やや強・しまりやや弱 地山ブロック・灰化物を多量含む。
- 2層 2.011 黑褐色土・粘性・しまり弱 黑褐色土ブロック・地山ブロックを多量含む。



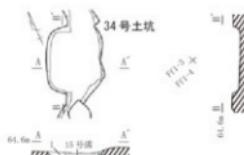
32号土坑

- 1層 2.012/1 黑褐色土・粘性・しまり弱 地山ブロック・地化物を含む。
- 2層 2.012/2 黑褐色土・粘性・しまり弱 地山ブロック・地化物を微量含む。



33号土坑

- 1層 2.013/1 黑褐色土・粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む。



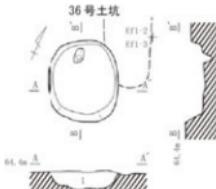
34号土坑

- 1層 2.013/1 黑褐色土・粘性・しまり弱 地化物的・地山ブロックを含む。



35号土坑

- 1層 2.012/2 黑褐色土・粘性・しまり弱 地山ブロックを少、地化物を少量含む。
- 2層 2.012/3 黑褐色土・粘性相混・しまり弱 黑褐色土ブロック・園芸土ブロック混。



36号土坑

- 1層 2.013/1 黑褐色土・粘性・しまり弱 地山少量含む。

0 (1/50) 2m

第57図 27 ~ 36号土坑

38・39号土坑は水道管にも一部破壊されている。これらは39号土坑→37号土坑→38号土坑の順で掘削されている。また、37号土坑はP231と、38号土坑はP280と、39号土坑はP278とそれぞれ重複する。37号土坑はP231より古く、38号土坑はP280より新しく、39号土坑はP278より新しい。いずれの遺構からも遺物は出土していない。

40号土坑（第58図、図版5）

Efグリッドに位置する、長軸3.38m、短軸2.90mの大型土坑である。平面形は方形で、断面は弧状。P214・283～287と重複関係にあり、P283～287より新しいが、P214より古い。人頭大以下の礫が複数投棄されている状態で見つかった。遺物は、瀬戸美濃焼花瓶片（25）・珠洲焼片口鉢片（26）・茶臼の下臼（105）が出土した。

41号土坑（第58図）

Dgグリッドに位置する。平面形は橢円形で、断面は弧状である。P297、17号溝と重複する。17号溝より新しく、P297より古い。肥前系磁器片が出土したが、小片のため図示し得なかった。

42号土坑（第59図）

Efグリッドに位置する。9・17号溝と重複し、両者より古い。遺物は出土していない。

43号土坑（第59図）

Dfグリッドに位置する。18号掘立柱建物P514・29号掘立柱建物P727、P515と重複する。18号掘立柱建物より新しく、P515より古いが、29号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。遺物は出土していない。

44号土坑（第59図）

Dfグリッドに位置する。北側が調査区外へ延び、全容は不明である。19号溝と重複し、本遺構が古い。遺物は出土していない。

45号土坑（第59図）

Efグリッドに位置する。36号掘立柱建物P507、33号土坑と重複し、36号掘立柱建物より新しく、33号土坑より古い。遺物は出土していない。

46号土坑（第59図）

Dfグリッドに位置する。4号掘立柱建物P412・10号掘立柱建物P357・27号掘立柱建物P788、P358・444と重複する。4・10・27号掘立柱建物・P444より新しく、P358より古い。遺物は出土していない。

47号土坑（第59図）

Dfグリッドに位置する。多くの遺構と重複関係にあることから、ほぼ原形を留めていない。3号掘立柱建物P628、27号掘立柱建物P625・349、31号掘立柱建物P584、33号掘立柱建物P782、P505・520・626・627・783・784、19・22号溝と重複する。19号溝との直接的な先後関係は不明だが、27号掘立柱建物より古く、他の遺構より新しい。遺物は、龍泉窯青磁碗片（27）と肥前系陶器皿片（28）が出土している。

48号土坑（第59図）

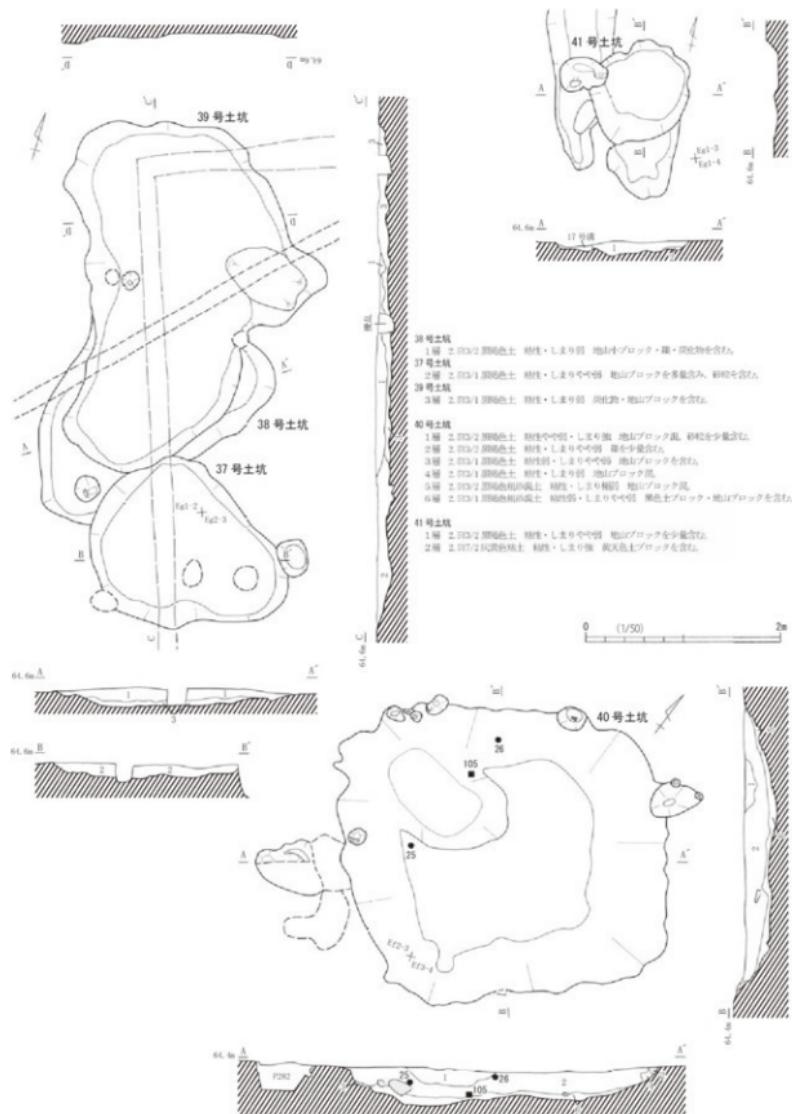
Dfグリッドに位置する。33号掘立柱建物P351・36号掘立柱建物P502、P529、19号溝と重複し、いずれも本遺構より新しい。肥前系陶器碗（29）のほか、越前焼の壺または甕片が出土している。

49号土坑（第60図）

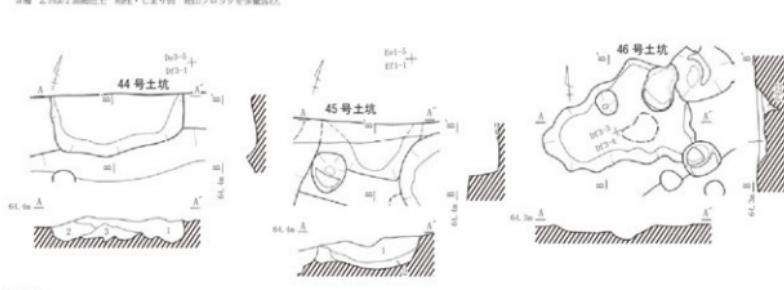
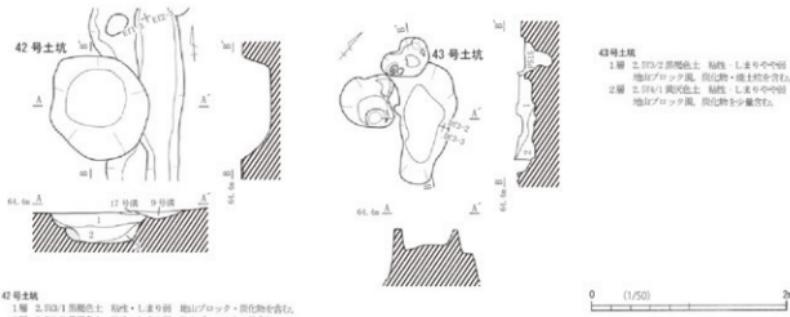
Cfグリッドに位置する。34号掘立柱建物P607、P606・744・745、31・32号溝と重複する。31・32号溝との先後関係は不明だが、他の遺構は本遺構より古い。瀬戸美濃焼瓶子片（30）・肥前系陶器擂鉢片（31）が出土した。

50号土坑（第60図、図版5）

Cfグリッドに位置する。3号掘立柱建物P688・9号掘立柱建物P475、P492・674・683～687・689～691・694・747・785～787、20号溝と重複する。20号溝との先後関係は不明だが、P492より古く、他の遺構より新しい。

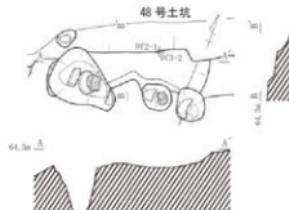
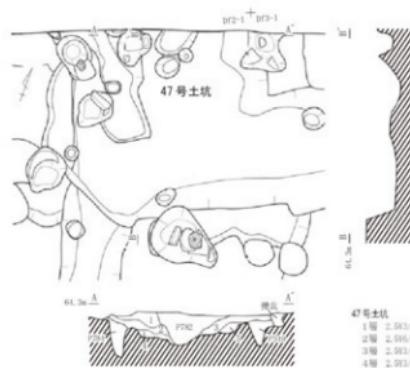


第58図 37～41号土坑

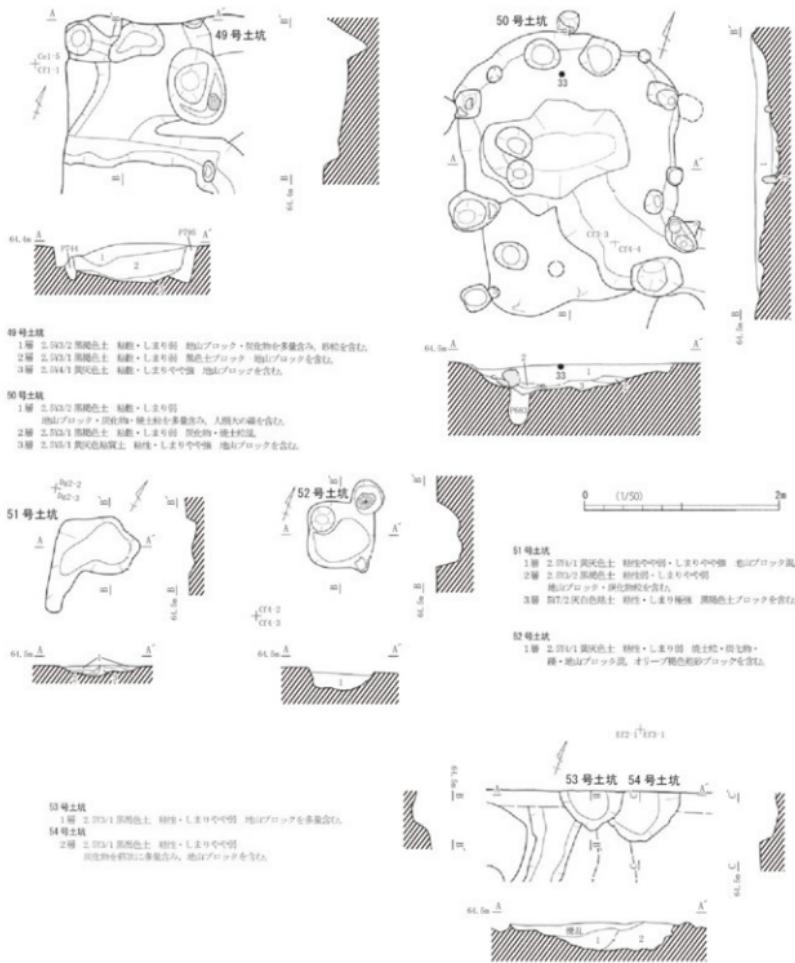


44号土坑

1層 2.03/3 黒褐色土・粘性・しまり弱 地山ブロック風・炭化物を含む。
2層 2.03/2 黑褐色土・粘性・しまり弱 地山ブロック風・炭化物を含む。
3層 2.03/3 黑褐色土・粘性・しまり弱 炭化物を含み、地山ブロックを少數含む。



第59図 42～48号土坑



第60図 49～54号土坑

人頭大の礫が複数投棄された状態で検出されたほか、越前焼搖鉢片（32・33）・珠洲焼煮片などが出土した。

51号土坑（第60図）

Dg グリッドに位置する。平面形は不整形で、断面は弧状である。遺物は出土していない。

52号土坑（第60図）

Cf グリッドに位置する。24号掘立柱建物 P562 と重複し、本遺構が新しい。遺物は出土していない。

53・54号土坑（第60図）

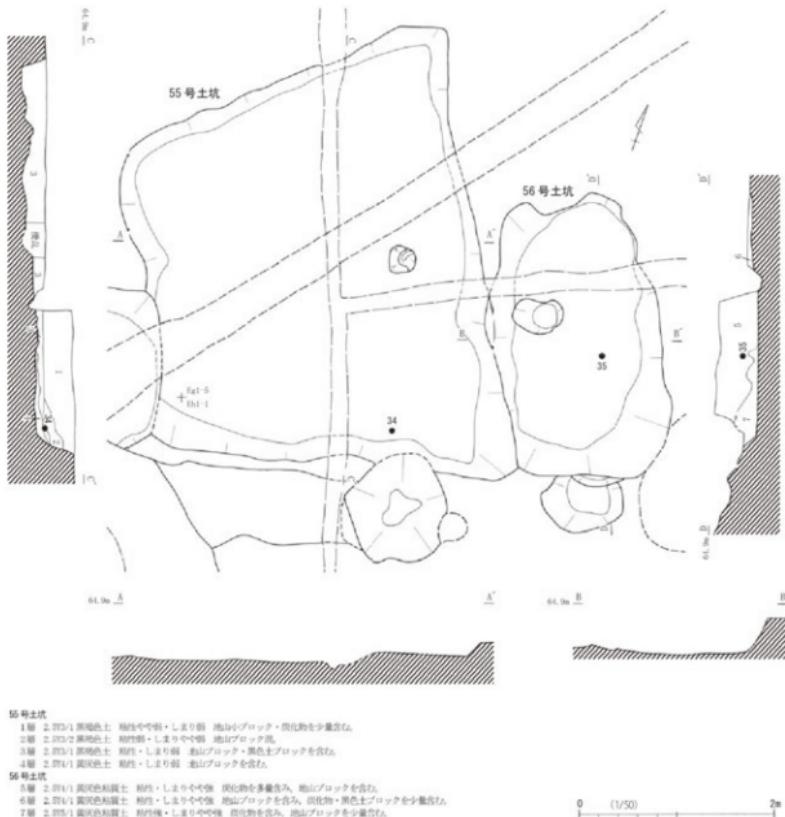
両者は重複関係にあり、ともにEfグリッドに位置する。54号土坑が古く、53号土坑が新しい。いずれの遺構からも、遺物は出土していない。

55・56号土坑（第61図）

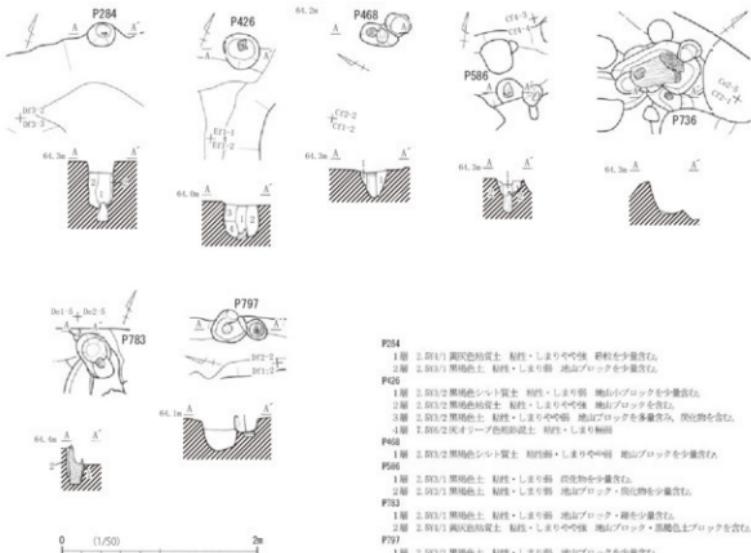
両者は重複関係にあり、55号土坑はDg・Dh・Eg・Ehグリッドに、56号土坑はEg・Ehグリッドに位置する。両者の先後関係は、55号土坑が古く、56号土坑が新しい。また、55号土坑は27号土坑と、56号土坑は28・29号土坑、P257とそれぞれ重複するが、55号土坑は27号土坑より古く、56号土坑は28・29号土坑、P257より古い。55号土坑からは珠洲焼片口鉢片（34）が、56号土坑からは瀬戸美濃焼縁軸小皿片（35）が出土している。

ピット（第62図）

柱根が残存していたもののうち、P529を除くP284・426・468・586・736・783・797のみ個別に記載した。この



第61図 55・56号土坑



第62図 柱根を検出したピット

うちP284・586・783のもの(168・179・180)以外の柱根は遺存状態が悪く、図示し得なかった。

1号溝(第9・63図)

Be・Bfグリッドに位置する。2号溝と調査区西側で合流する。近世土師器小皿と考えられる破片(42), 漆器碗片(129)が出土している。

2号溝(第9・63図)

Bfグリッドに位置する。東側は調査区外へ延び、西側は搅乱により不明。肥前系陶器皿片(43)が出土した。

3号溝(第9・63図)

Bfグリッドに位置する。東側は調査区外へ延び、西側は搅乱により壊されている。遺物は出土していない。

4号溝(第12・63図、図版6)

Dgグリッドに位置する。瓦質土器鉢片(44)・石鉢片(109)が出土している。

5・6・7・8号溝(第9・63図)

四者は、Af・Bfグリッドに位置する。5号溝と6号溝との間に重複関係は無いが、それ以外は重複関係にある。5号溝は7・8号溝より新しく、6号溝は7・8号溝より新しい。また、7号溝は8号溝より新しい。5号溝から肥前系陶器鉢片(45)、7号溝から硯片(110)が出土している。

9号溝(第12・63図)

Cg・Df・Dg・Efグリッドに位置する。Cgグリッド20号土坑付近から東へ延び、Dgグリッドで北側へ屈曲し、そのまま調査区外へと延びていく。肥前系磁器丸碗片(46)・龍泉窯系青磁碗片(47)・肥前系陶器の火入れまたは

小壺片（48）・珠洲焼壺または甕片（49）のほか、越前焼壺または甕片や砥石（111）が出土している。

10号溝（第12・63図、図版6）

Cg・Df・Dgグリッドに位置する。9号溝と同じくCgグリッド20号土坑付近から北東方向へ延び、Dgグリッド内で北側へ屈曲、Dfグリッドにおいて20号溝と重複する。そして、そのまま20号溝と並行し、調査区外へ延びていく。両者の先後関係は、本遺構が20号溝より古い。埋土は3層に分けられ、下層は炭化物が大量に敷き詰められた状態であった。出土した炭化物のうち2点を、放射性炭素年代測定にかけている。その成果は、第IV章に掲載した。肥前系陶器小碗片（50）・越前焼鉢片（51）のほか、越前焼壺または甕片が出土した。

12号溝（第12・63図）

Cgグリッドに位置する。P147と10号溝に挟まれた短い溝である。遺物は出土していない。

13号溝（第12・63図）

Cgグリッドに位置する。9号溝と10号溝をつなぐように南北に掘られた短い溝であるが、両者と併存したか否かは不明である。珠洲焼片口鉢片（52）が出土した。

14号溝（第12・63図、図版6）

Ehグリッドに位置する。東側は27号土坑に切られ、西側は削平されている。比較的残りの良い中世土師器皿2点（53・54）が出土した。

15号溝（第12・63図）

Ef・Ffグリッドに位置し、両グリッド境付近から、やや屈曲して調査区北側へ延びる。遺物は出土していない。

16号溝（第12・63図）

Dfグリッドに位置する狭小な溝である。遺物は出土していない。

17号溝（第12・63図）

Df・Dg・Efグリッドに位置する。Dgグリッドから北へと延び、途中から9号溝と重複して調査区外へと延びていく。砥石1点（112）のほかに、小片のため図示し得なかった肥前系磁器碗片が出土している。

18号溝（第12・63図）

Dfグリッドに位置する、長さ3m程の狭小な溝である。遺物は出土していない。

19号溝（第12・63図）

Df・Efグリッドに位置する。Dfグリッドの47号土坑から東へと延び、Df・Efグリッドの境付近で屈曲し、北側調査区外へ延びていく。珠洲焼片口鉢片（52）・肥前系陶器小杯片（55）・同碗片（56）・同鉢片（57）・粉引臼片（113）のほか、龍泉窯系青磁碗や越前焼甕などの小片が出土している。

20号溝（第12・63・64図、図版6）

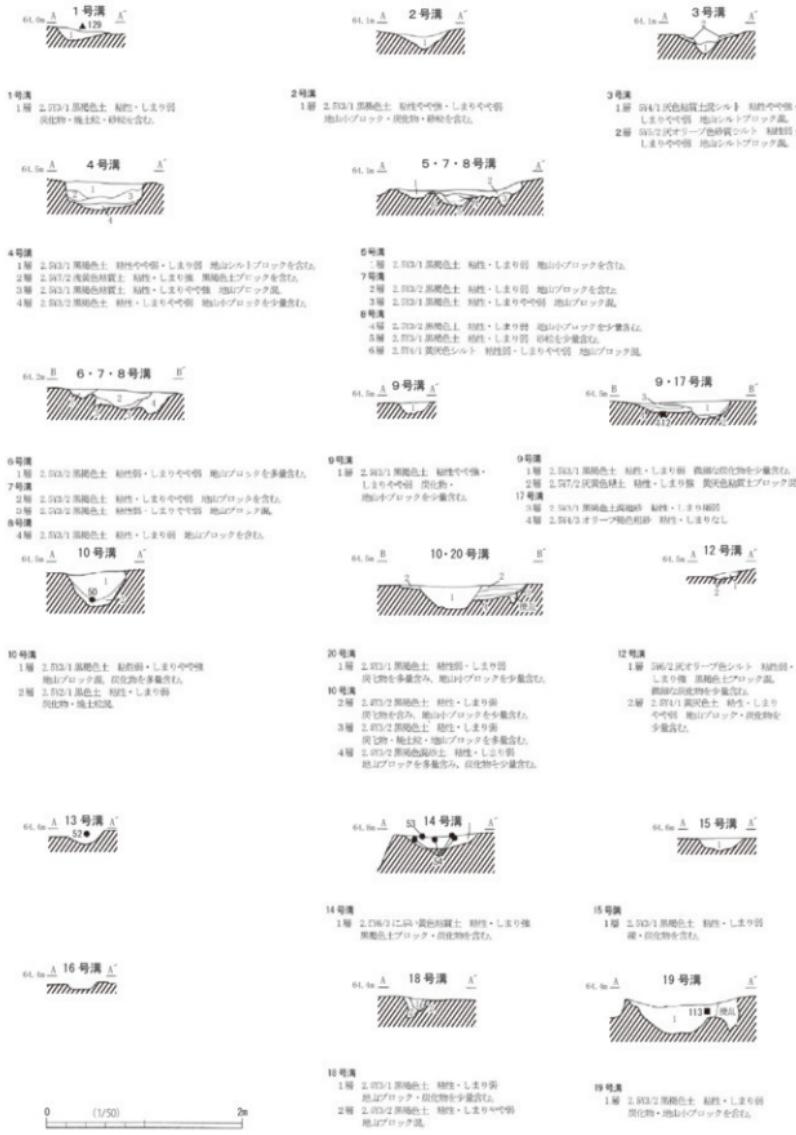
Cf・Df・Efグリッドに位置する。Cfグリッドの50号土坑から東へ延び、Df・Efグリッドの境付近で北側へと屈曲し、そのまま調査区外へ延びていく。福建窯系白磁皿片（58）のほか、龍泉窯系青磁碗や越前焼壺または甕、肥前系陶器の壺または甕の小片が出土している。

21号溝（第64図）

Efグリッドに位置する。9号溝と、10号溝または20号溝とを繋ぐように掘削された溝である。遺物は出土していない。

22号溝（第64図）

Dfグリッドに位置する。19号溝と20号溝を繋ぐように、南北方向に掘削された溝である。肥前系陶器ひだ皿（菊皿）片（59）が出土している。



第63図 1～10・12～20号溝

23号溝（第12・64図）

Df グリッドに位置する。22号溝と並行する狭小な溝である。遺物は出土していない。

24・25号溝（第12・64図）

いずれも Df グリッドに位置する。24号溝は、18号溝と同一の溝の可能性もあるが、別の溝とした。24号溝から珠洲焼の蓋の小片が出土したが、図化していない。

26号溝（第12・64図）

Cf グリッドに位置する。グリッドの北東隅で検出された。複数の柱穴と重複しており正確な形状は不明だが、U字状に曲り、北側調査区外へ延びている。遺物は出土していない。

27号溝（第12・64図）

Cf グリッドに位置する。狭小な溝である。遺物は出土していない。

28号溝（第12・64図）

Bf グリッドに位置する。多数の柱穴と重複している。肥前系磁器丸碗片（60）・肥前系陶器皿片（61）のほか、肥前系陶器碗や肥前系磁器、焼成粘土塊の小片が出土している。

29号溝（第12・64図）

Cf・Cg グリッドに位置する。幅広の浅い溝で、グリッド境付近でL字に屈曲する。遺物は出土していない。

30号溝（第12・64図）

Cf グリッドに位置する。西側調査区の壁沿いで検出し、西側は調査区外へ続く。肥前系磁器碗片（62）・同陶器皿片（63）が出土している。

31号溝（第12・64図）

Cf グリッドに位置する。30号溝と並行する幅狭な溝で、途中で屈曲し、西側調査区外へ延びている。肥前系陶器皿と考えられる破片（64）・肥前系擂鉢（65）のほかに、瀬戸美濃焼の碗・皿の小片が出土した。

32号溝（第12・64図）

Cf・Cg グリッドに位置する狭小な溝である。遺物は出土していない。

1号杭列（第12・64図、図版6）

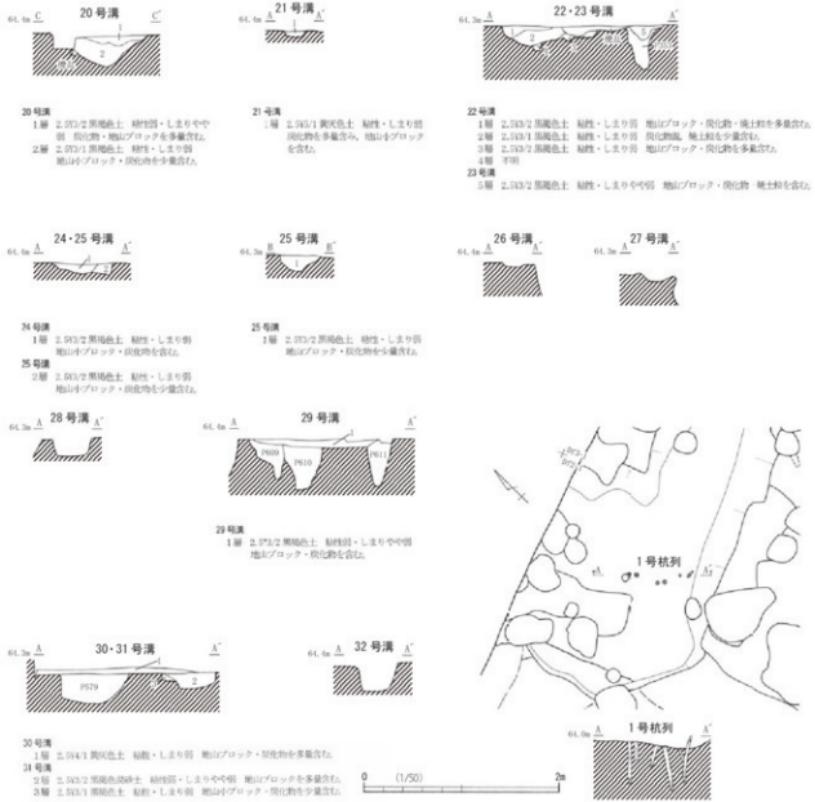
Df グリッド内、19号溝の底面で検出された。長短の杭6本が不規則に打ち込まれていた。どのような意図で打ち込まれた杭か、不明である。

堀（第7～10・15・65図、図版6・7）

北辺はAc・Bb・Bc・Cb・Cc グリッド、西辺はAc・Ad・Ae・Af・Ag・Ah グリッド、南辺はAh・Fh グリッドで検出した。南辺のFh グリッドを除き、いずれも外側の上端が調査区外となっている。そのため、堀の幅や深さ、形状は南辺の東側でのみ確認できた。その規模は、上面幅3.21m、下面幅2.89m、深さ0.69mの、断面が逆台形の箱堀である。調査区壁で土層の堆積状態を観察したが、郭内側は擾乱が著しく、土壘の痕跡は認められなかつた。埋土は上層（1層）・中層（2・3層）・下層（4・5層）に大別される。一方、北辺や西辺、南西部は後世の擾乱が著しいうえ、堀の落ち際をわずかに調査できた程度であったため、その様相を明らかにすることはできなかつた。遺物は、堀南東部の中層と下層からのみ出土し、龍泉窯系青磁碗片（66・67）・瀬戸美濃焼内充皿片（68）・龍泉窯系青磁碗を打ちいた加工円盤（99・100）・砥石（114）・不明木製品（133）のほか、越前焼壺または甕片や、瀬戸美濃焼の陶器片が出土している。

川跡（第13～15・66図、図版7）

Ff・Fg・Fh・Fi・Fj・Gf・Gg・Gh・Gi グリッドで検出した。調査前の本遺跡は、四周に堀を巡らせた中世の方



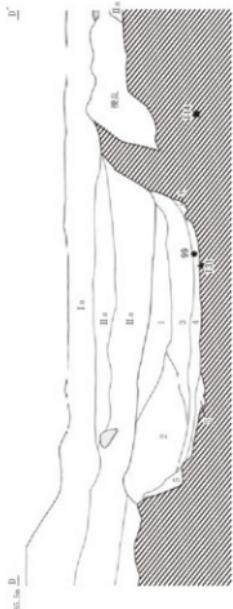
第64図 20～32号溝・1号杭列

形居館と考えられてきたことから、東辺の堀が検出されることを想定し調査に入った。しかし、調査を進めるうちに、東辺の堀に当たる箇所は、①遭構検出面からの落ち込みがなだらか、②埋土が砂礫を多量に含む水成堆積層である、③地下及び山際からの湧水が顕著であることがわかつた。これらのことから、館の東辺で検出された落ち込みは、人工的に掘られた堀ではなく、川跡（自然流路）と判断した。つまり、板山館は自然に流れていた河川を取り込む形で造成された館であることが判明したといえる。なお、今回のほ場整備では、工事による掘削は川跡の底面まで及ばないことから、その底面検出はトレンチのみで行い、下層部分は現状保存とした。埋土は4層に大別される。すなわち、近代以降の埋土である上層（1～7層）、近世以前の埋土である中層（8～13層）、中世以降の埋土である下層（14～16層）、中世より前の堆積層（17～22層）に分かれる。遺物は、中・近世のものでは中層から漆器椀（131・132）や蓋（130）が、中世より前の堆積層から繩文土器片（187～197）が出土している。

第65図 地図



- 地図解説
 1帶 1950.1 露天掘削地帯土・砂・1.3m厚 沈没地帯
 2帶 1950.1 露天掘削地帯土・砂・1.9m厚 沈没地帯
 3帶 1950.1 露天掘削地帯土・砂・1.9m厚 沈没地帯
 4帶 1950.1 露天掘削地帯土・砂・1.9m厚 沈没地帯
 5帶 1950.1 露天掘削地帯土・砂・1.9m厚 小砂層

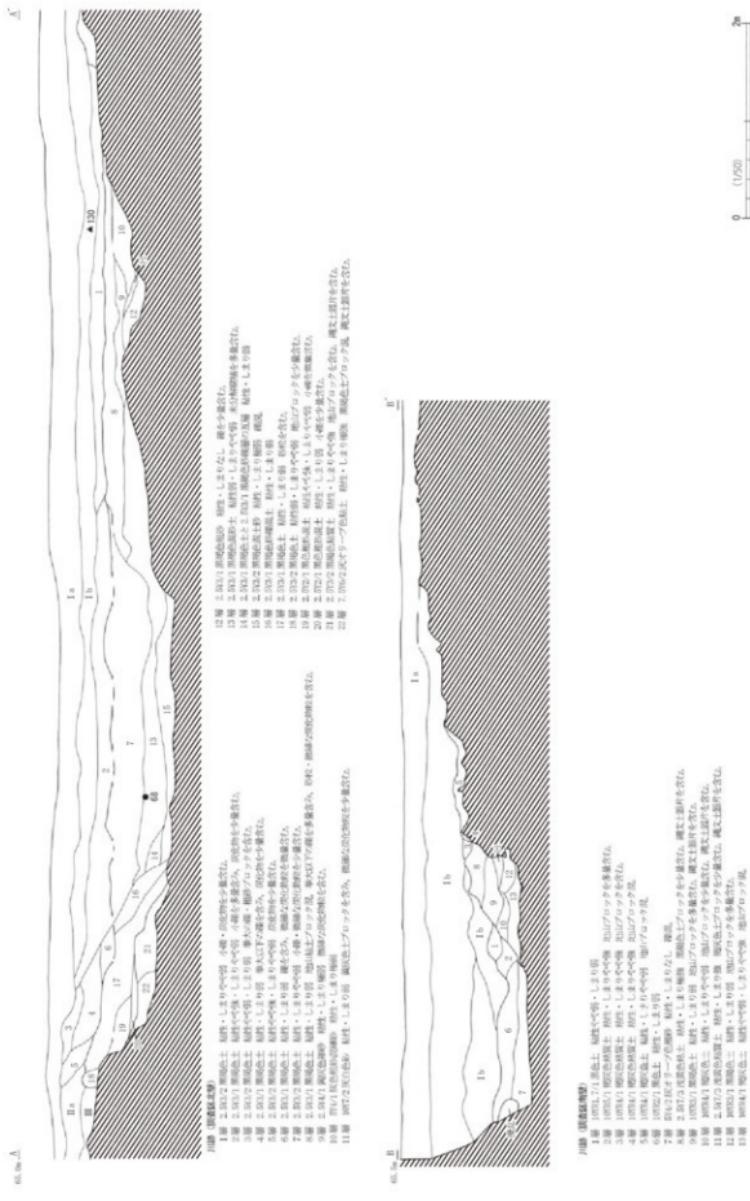


D'

- 地図解説
 1帶 1950.1 露天掘削地帯土・砂・1.3m厚 沈没地帯
 2帶 1950.1 露天掘削地帯土・砂・1.9m厚 沈没地帯
 3帶 1950.1 露天掘削地帯土・砂・1.9m厚 沈没地帯
 4帶 1950.1 露天掘削地帯土・砂・1.9m厚 沈没地帯
 5帶 1950.1 露天掘削地帯土・砂・1.9m厚 小砂層

- 地図解説
 1帶 1950.1 露天掘削地帯土・砂・1.3m厚 沈没地帯
 2帶 1950.1 露天掘削地帯土・砂・1.9m厚 沈没地帯
 3帶 1950.1 露天掘削地帯土・砂・1.9m厚 沈没地帯
 4帶 1950.1 露天掘削地帯土・砂・1.9m厚 沈没地帯
 5帶 1950.1 露天掘削地帯土・砂・1.9m厚 小砂層





第66圖 川跡

4 遺物の概要と記載方法

遺物の概要 遺物は、中・近世と先史時代のものが出土している。総量は、内寸 54 cm × 34 cm × 10 cm の平箱に換算して 26 箱分（現地調査終了時点、以下同）あり、内訳は中・近世の土器・陶磁器が 3 箱分、中・近世の木製品が 22 箱分、その他が 1 箱分である。本報告では、中・近世の遺物と先史時代の遺物とに分けて記載する。

中・近世の遺物では、土器・陶磁器、土製品、石製品、錢貨・金属製品、木製品が出土している。土器・陶磁器は、中世土師器、瓦質土器、中国陶磁器の青磁・白磁・青白磁・青花・陶器、国産陶磁器の瀬戸美濃焼・珠洲焼・越前焼・越中瀬戸焼・信楽焼・肥前系磁器・肥前系陶器がある。土製品には、焼成粘土塊、陶磁器を二次加工して製作した加工円盤がある。石製品は茶臼・粉引臼・石鉢・硯・砥石・碁石があり、錢貨・金属製品は新古の寛永通寶、煙管がある。木製品は、漆器椀・蓋、折敷・下駄・不明木製品、杭・柱・建築部材などがある。

これらの遺物の年代は、13 世紀代から 18 世紀前半に帰属する。中世のものは 15 世紀代が最も多く、近世のものは 16 世紀末から 17 世紀代のものが多い。16 世紀中葉から後葉にかかる時期の遺物は出土していないが、概ね 400 年ほどの期間、継続的な土地利用が行われていたといえよう。

先史時代の遺物では、縄文土器と石器が出土している。縄文土器は中期後葉から後期中葉のもの、石器は旧石器時代の石刀と縄文時代の削器・磨製石斧・石核が出土している。

遺物の記載方法 原則的には、遺物の種類ごとに、遺構出土のものとそれ以外のものとに分けて、そして遺構出土のものは遺構の種類ごとに記載している。ただし木製品については、製品と建築物等の部材の順で、遺構出土とそれ以外に分けて記載している。なお、個々の遺物の詳細な情報は、一覧表を参照されたい。

また、中世の土器・陶磁器の器種分類や年代観は、これまでの先行研究の成果に則り記述している。中世土師器は（水澤 2005）・（伊藤 2006）を、瓦質土器は（高桑 2003）を参照した。中国陶磁器の青磁は（上田 1982）、白磁は（森田 1982）と、15～16 世紀代の青磁・白磁は（水澤 2004）・（水澤 2009）、青花は（小野 1982）を参照した。瀬戸美濃焼は古瀬戸段階のものは（藤澤 2008）、大窯期のものは（藤澤 2002）、珠洲焼は（吉岡 1994）、越前焼は（田中・木村 2005）、肥前系磁器・陶器は（大橋 1989）と（九州近世陶磁学会事務局編 2000）所収の各氏の論考を参照した。なお、ここに掲げた以外のものについては、それぞれの記述の中で個別に取り上げる。

5 中・近世の遺物

（1）土器・陶磁器

掘立柱建物（第 67・68 図、図版 8）

3 号掘立柱建物では、白磁皿（1・2）・肥前系磁器碗（3）・同折縁皿（4）が出土している。1・2 は、森田分類 D 群の白磁内湾皿である。いずれも 15 世紀代のものである。3 は大橋編年Ⅲ期、4 は大橋編年Ⅱ～Ⅱ期である。4 の内面には蓮弁文が描かれる。

9 号掘立柱建物では、白磁小杯（5）・同跨皿（7）・瀬戸美濃焼平碗（6）・肥前系陶器皿（9）・同壺または甕（8）が出土している。5 は、口縁部が強く外反する。森田分類 E 群で、16 世紀代のものである。6 は、古瀬戸後期の灰釉平碗である。藤澤編年古瀬戸後Ⅱ期のものであろう。7 は森田分類 E 群で、16 世紀末頃のものである。8 は、肥前系陶器の壺または甕の体部下端から底部である。底部内面には中央部から放射状に延びる叩きの跡が残り、外周部はヘラまたは板状の工具で叩きの跡がナデ消されている。体部下端は外面に平行叩き、内面に同心円文状のあて具痕が残る。大橋編年Ⅱ期のものである。9 は、大橋編年Ⅱ～Ⅰ期の灰釉皿である。内底面に、砂目積み

の目跡が残る。17号掘立柱建物出土の破片と接合している。

10号掘立柱建物からは、中国製の天目茶碗（10）が出土している。内底面に、細かな傷が多く入る。

17号掘立柱建物からは、中世土器小皿（15）・青磁盤（11）・瀬戸美濃焼縁軸小皿（12）・同丸皿（13）・同小天目茶碗（14）・肥前系陶器皿（9）・同擂鉢（16）が出土している。9は先述したものである。11は龍泉窯系の折縁の青磁盤である。焼成が悪かったのか青磁釉が溶けきれずに白濁している。口縁部片で、破断面全面と内外面の一部に漆が付着している。漆絞ぎの跡であろう。内面に波涛文を施す。14世紀後半以降のものである。12・14は藤澤編年古瀬戸後III期に位置付けられる。13は内底面に印花菊花文を施すもので、藤澤編年大窯第3段階後半に位置付けられる。15は中世土器器皿と考えられ、15世紀後半と推定される。16は、内面全面に擂目が施された擂鉢で、大橋編年II期～III期に位置付けられる。29号掘立柱建物出土の破片と接合している。

25号掘立柱建物では、肥前系陶器鉢（17）が出土している。大橋編年I期のもので、被熱して煤が付着する。

28号掘立柱建物からは、瀬戸美濃焼灰釉平碗（18）が出土している。藤澤編年古瀬戸II期～III期のものである。

29号掘立柱建物からは、先述した肥前系陶器擂鉢（16）が出土している。

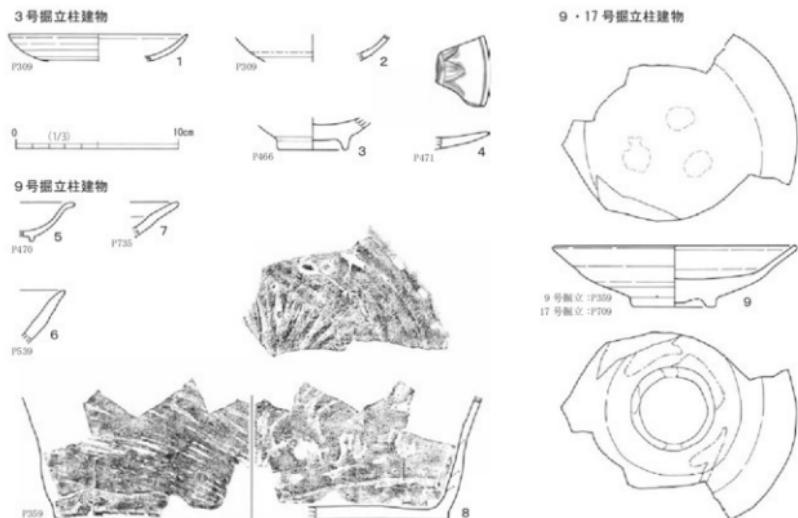
33号掘立柱建物では、肥前系陶器皿（19）が出土している。大橋編年I期のものである。

豊穴建物（第68図、図版8）

1号豊穴建物では、龍泉窯系青磁碗（20）が出土している。無文で、口縁部が強く外反する。上田分類D-I類頃で、14世紀末～15世紀のものである。

井戸（第68図、図版8）

2号井戸からは越前焼擂鉢（21・22）、3号井戸からは瀬戸美濃焼天目茶碗（23）が出土している。21・22は、いずれも田中・木村編年IV-1期からV-1期のものである。23は、灰褐色の鉄釉を施した天目茶碗で、口唇部



第67図 掘立柱建物出土 土器・陶磁器

周辺の釉は銀化している。藤澤編年古瀬戸後IV期新段階に位置付けられる。

土坑（第68・69図、図版8・9）

4号土坑からは、肥前系磁器皿（24）が出土している。大橋編年IV-1期のものである。

40号土坑では、瀬戸美濃焼花瓶（25）と珠洲焼片口鉢（26）が出土している。26は、内面の擦れが顕著である。

25は藤澤編年古瀬戸後IV期新段階に、26は吉岡編年IV期にそれぞれ位置付けられる。

47号土坑では、龍泉窯系の細蓮弁文青磁碗（27）・肥前系陶器皿（28）が出土している。27の蓮弁文は、弁先と蓮弁部分を分けて描く。上田分類B-IV類に位置付けられる。28は、大橋編年II期～III期のものである。

48号土坑からは、灰釉の肥前系陶器碗（29）が出土している。豊み付けの幅が一定しない竹節形高台で、大橋編年I期に位置付けられる。

49号土坑では、瀬戸美濃焼瓶子（30）・肥前系陶器擂鉢（31）が出土している。30は藤澤編年の古瀬戸後期に、31は大橋編年のIV-1期に位置付けられる。

50号土坑からは越前焼擂鉢（32・33）が出土している。いずれも内面は掠れており、33は特に顕著であり、被熱もしている。32は田中・木村編年でIV-1期～V-1期、33はV-2期～V-3期に位置付けられる。

55号土坑では、珠洲焼片口鉢（34）が出土している。擂目はほぼ磨滅している。吉岡編年のV期～VI期である。

56号土坑では、瀬戸美濃焼縁角小皿（35）が出土している。藤澤編年古瀬戸後III期に位置付けられる。

ピット（第70図、図版9）

P12からは肥前系陶器擂鉢（36）、P52からは珠洲焼T種の壺または甕（37）、P307からは瀬戸美濃焼天目茶碗（38）、P358からは肥前系陶器擂鉢（39）、P456からは龍泉窯系青磁碗（40）、P679からは越前焼擂鉢（41）が出土している。36は擂目が磨滅し、被熱している。大橋編年II期のものである。37は、吉岡編年IV期に位置付けられよう。38は、体部小片であり時期不明。39は、使用的痕跡はあまり見られない。大橋編年II期～III期である。40は外面に文様が巡るが、判然とはしていない。崩れた雷文であろうか。上田分類C-II類と考えられる。41は、口縁部内面に沈線が巡る。内面全体に掠れが顕著である。田中・木村編年V期に位置付けられる。

溝（第70・71図、図版9・10）

1号溝では、土師器小皿（42）が出土している。手づくね成形で、器壁は全体に薄い。近世のものだろうか。

2号溝からは、砂目積みの肥前系陶器皿（43）が出土している。大橋編年II-1期である。

4号溝では、瓦質土器擂鉢（44）が出土している。在地産のもので、全体に脆く、内面の剥落が著しい。高桑分類のI類に該当し、15世紀前半以降のものである。

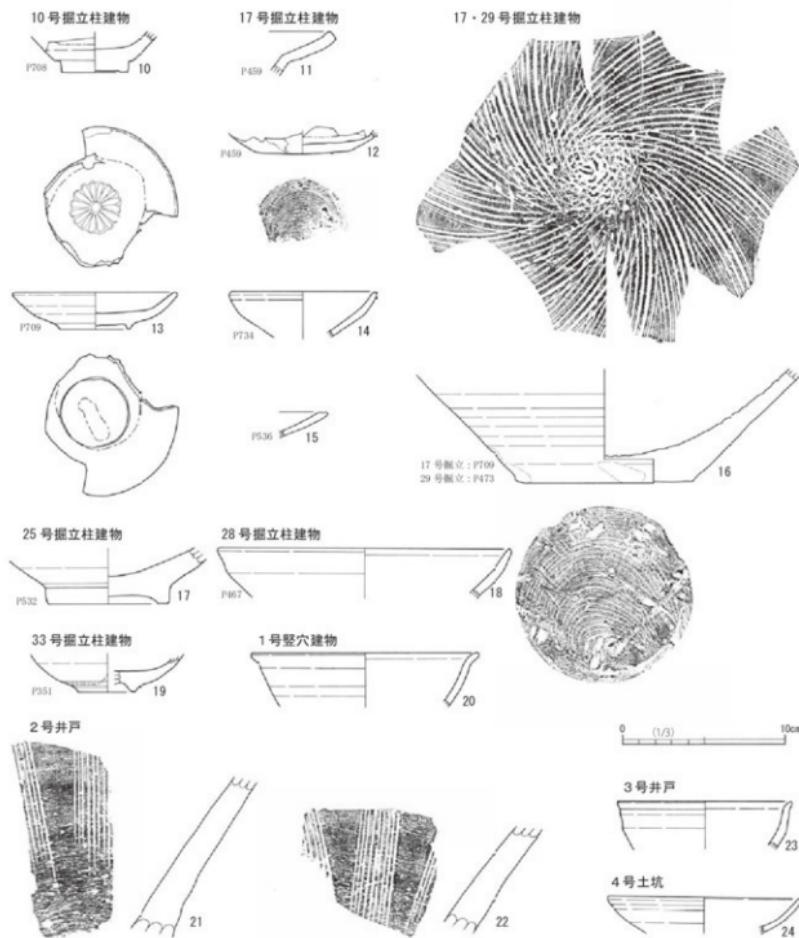
5号溝からは、肥前系陶器擂鉢が出土した。大橋編年II期～III期のものであろう。

9号溝では、肥前系磁器丸瓶（46）・龍泉窯系青磁碗（47）・肥前系陶器の火入れまたは小壺（48）・珠洲焼のT種壺（49）が出土している。46は、体部外面に雁行文を描く。大橋編年4期前半に位置付けられる。47は、見込み部分を釉刺さしている。内面の掠れが顕著である。上田分類B-II-2類に該当し、14世紀後半～15世紀のものである。48は、小片のため詳細は不明である。大橋編年I期～II期であろう。49は珠洲焼壺T種肩部の小片であり、時期は不明である。

10号溝からは、肥前系陶器小碗（50）・越前焼擂鉢（51）が出土した。50は大橋編年I期のものである。51は、口縁部内面に沈線が巡るもので、田中・木村編年のIV-3期～V-1期に位置付けられる。

13号溝では、珠洲焼片口鉢（52）が出土した。擂目の磨滅が顕著で、19号溝出土の破片と接合した。吉岡編年IV期のものである。

14号溝からは中世土師器皿が2点（53・54）出土した。いずれも手づくね成形のもので、16世紀前半に位置付



第68図 挖立柱建物・堅穴建物・井戸・土坑出土 土器・陶磁器

けられる。

19号溝では、先述の株洲焼片口鉢(52)と肥前系陶器小杯(55)・同碗(56)・同擂鉢(57)が出土した。57は、描目がやや磨滅し、擦れが顕著である。55は大橋編年Ⅰ期、56はⅠ-Ⅱ期～Ⅱ-Ⅰ期、57はⅡ期である。

20号溝からは、白磁皿(58)が出土している。森田分類D群にあたり、15世紀前半に位置付けられる。

22号溝では、肥前系陶器ひだ皿(菊皿)(59)が出土した。体部外面に一部漆が付着する。大橋編年Ⅰ期である。

28号溝からは、肥前系磁丸碗(60)・肥前系陶器鉄絵皿(61)が出土している。60は、外面に薺状の文様を描

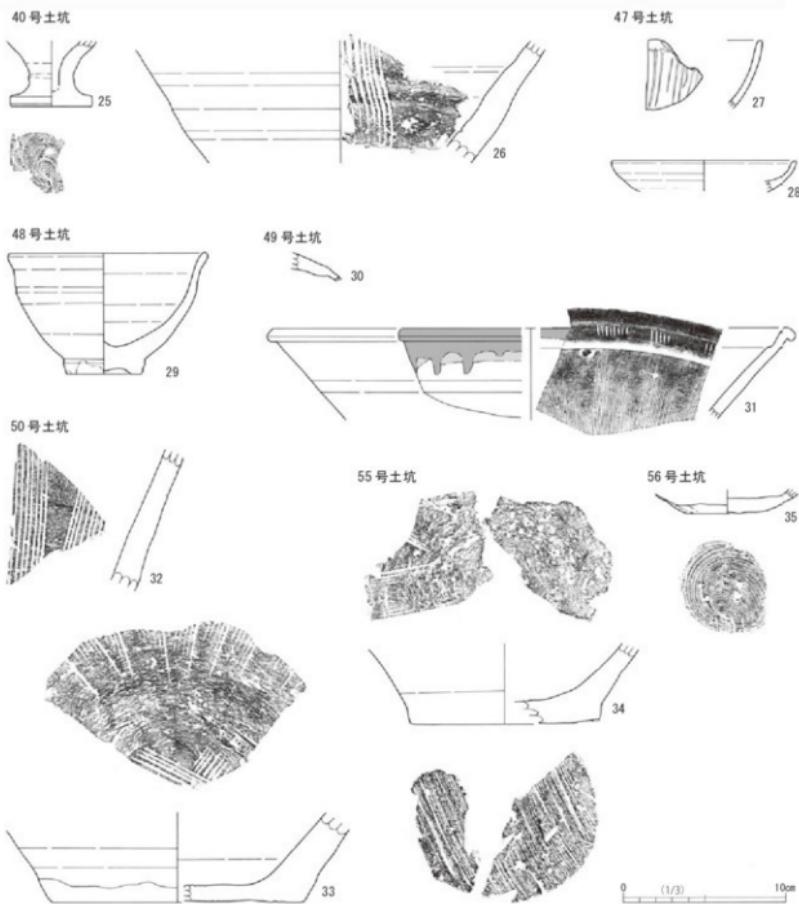
き、窓で区切る。大橋編年Ⅲ期である。61は、内面に不明な鉄絵文が描かれる。大橋編年Ⅰ期のものである。

30号溝では、肥前系磁器碗(62)・肥前系陶器皿(63)が出土している。63は、外面に灰釉、内面に銅綠釉を掛け分けている皿である。62は大橋編年Ⅱ-Ⅱ期～Ⅲ期、63はⅣ-Ⅰ期に位置付けられる。

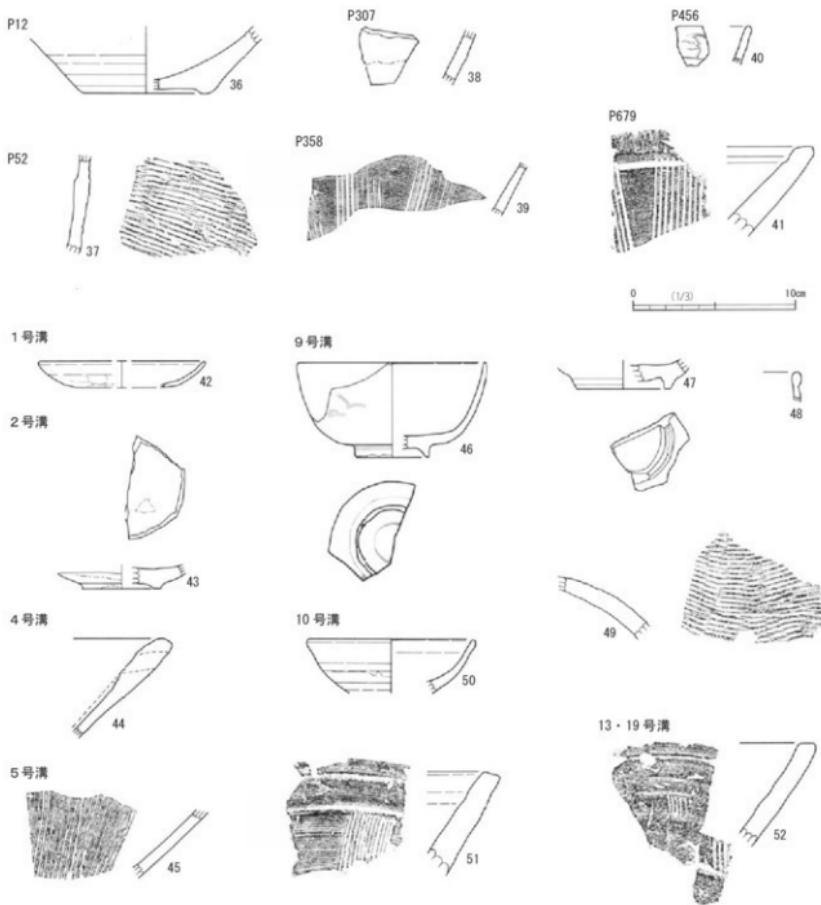
31号溝からは、肥前系陶器皿と思われる底部片(64)と同様鉢(65)が出土した。65は、内面の擦れが著しい。64は大橋編年Ⅰ期、65はⅡ期～Ⅲ期に位置付けられる。

壺(第71図、図版10)

龍泉窯系割花蓮弁文青磁碗(66)・同青磁碗(67)・瀬戸美濃焼内糞皿(68)が出土している。66は、内面に燒



第69図 土坑出土 土器・陶磁器

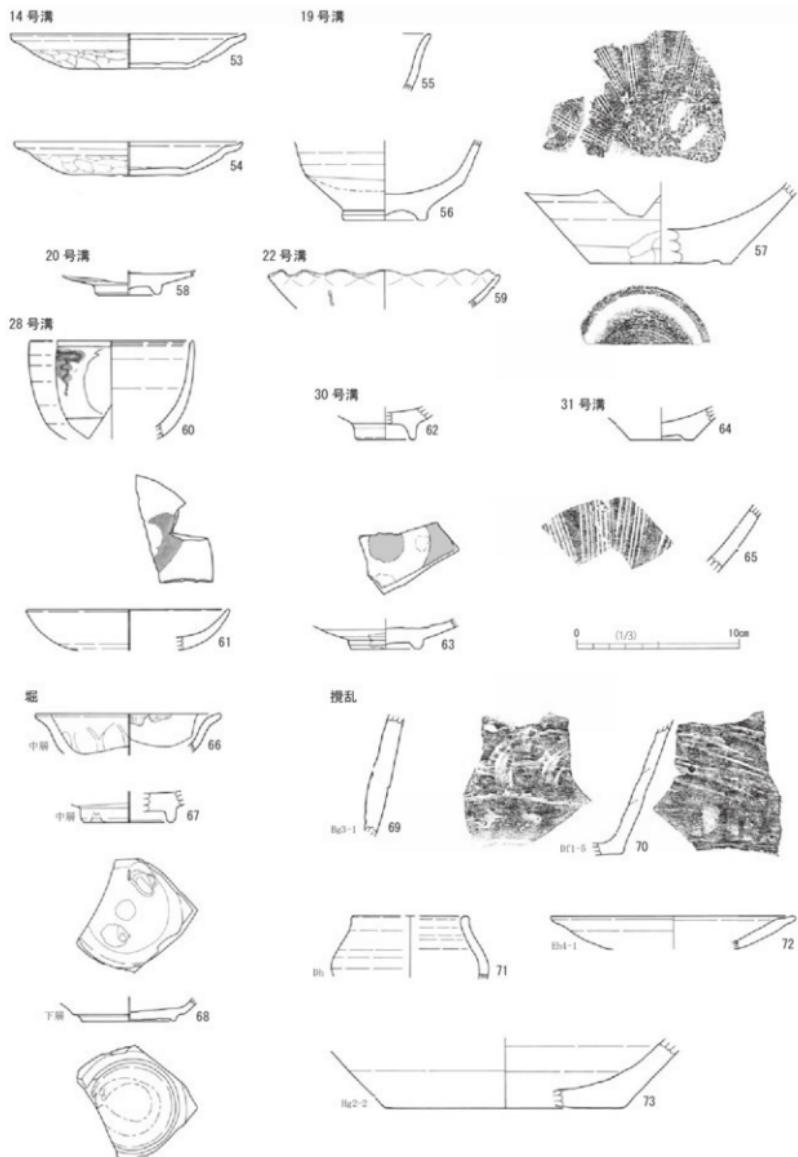


第70図 ピット・溝出土 土器・陶磁器

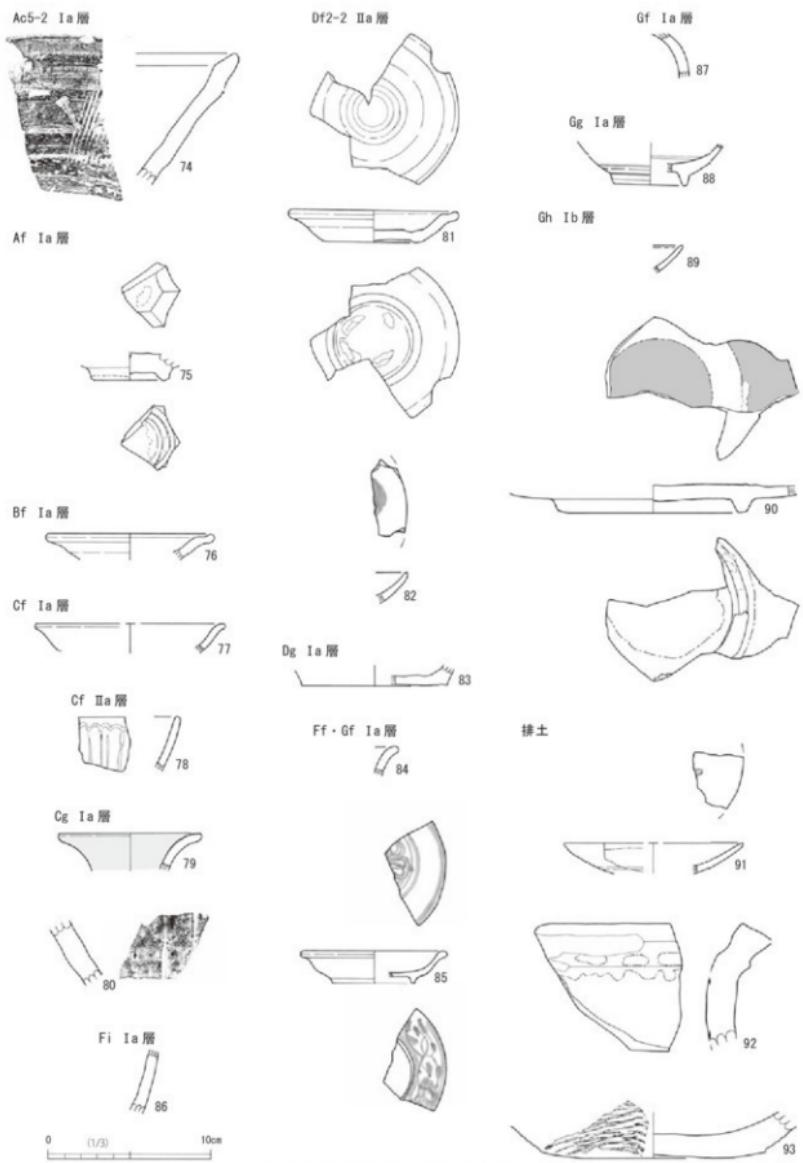
成の際の砂塊が付着している。上田分類B-II類のもので、15世紀前半に位置付けられる。67は、内底面に細かな傷が多くみられる。上田分類D-I類に該当し、14世紀後半のものである。68は、藤澤分類のBc類にあたる。内底面にトチ痕、高台内に輪下子痕が残る。藤澤編年大窯第4段階前半のものである。

擾乱 (第71図、図版10)

信楽焼壺または甕(69)・肥前系陶器壺または甕(70)・越中瀬戸焼または瀬戸美濃焼広口小壺(71)・中世土師器皿(72)・珠洲焼片口鉢または甕(73)が出土している。70は大橋編年II期、72は軟質で摩耗しているが16世紀前半の手づくね成形、73は吉岡編年II期～III期のもので内面の擦れが著しい。その他は年代不詳である。

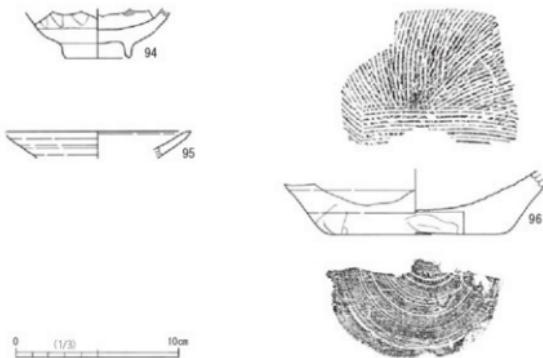


第71図 溝・壙・擾乱出土 土器・陶磁器



第72図 遺構外出土 土器・陶磁器（1）

表採



第73図 遺構外出土 土器・陶磁器（2）

遺構外出土（第72・73図、図版10・11）

74は、珠洲焼の片口鉢である。内面の擦れが著しい。吉岡編年VI期である。75は、森田分類B群と考えられる青白磁の碗である。内底面と高台部に砂が付着している。15世紀のものであろうか。76は、藤澤編年大窯第4段階の瀬戸美濃焼折縁皿である。77は、口縁部が外販する白磁皿である。森田分類のE—2類で、16世紀前半のものであろう。78は、龍泉窯系の細運弁文青磁碗である。弁先と運弁とを描き分けている。上田分類B—IIV類で、15世紀後半のものであろう。79は、いわゆる伊万里青磁の花瓶であろうか。時期は不明である。80は、越前焼の壺または甕の破片である。外面に縱方向に2条のヘラ記号を施す。田中・木村編年IV—2期以降のものである。81は、藤澤編年大窯第4段階後半の折縁皿である。底部内外面に輪ドチ痕が明瞭に残る。82は、肥前系陶器の鉄絵皿である。大橋編年I期のものである。83は、中国陶器の長胴瓶または壺の底部片である。84は、龍泉窯系青磁碗である。上田分類B—1類またはD類で、15世紀前半のものであろう。85は、漳州窯系青花盤である。外面に牡丹唐草文、内底部に十字花文を描く。小野分類のB 1 (IV)で、15世紀後半～16世紀前半に位置付けられる。86は、白磁蓋の胴部片、87は瓦燈の肩部であろうか。88は、肥前系磁器碗である。焼成時の温度が上がらなかつたためか、釉が溶けきれずに白濁しており、透明感がない。大橋編年IV期前半である。89は、青白磁の内溝皿である。15世紀代のものであろう。90は、肥前系陶器の大橋編年IV期前半の大ぶりな皿である。内外面で軸を掛け分け、見込は蛇の目に釉剥ぎする。91は、18世紀末～19世紀頃の信楽焼の皿である。18世紀後半以降の遺物は、これ以外はほとんど見当たらないことから、18世紀後半以降はこの土地の利用が大きく変わった可能性が高い。92は越前焼甕の口縁部片である。田中・木村編年V—1期に位置付けられる。93は、珠洲焼の甕の底部片である。吉岡編年IV期以降のものであろう。94は、大橋編年II期末～III期の肥前系磁器網目文丸碗である。内面の一部に漆が付着する。95は、肥前系陶器皿である。大橋編年I—2期～II—1期に位置付けられる。96は、大橋編年II期～III期の肥前系陶器插鉢である。插目が比較的よく残り、使い込まれてはいない。

(2) 土製品（第74図、図版11）

97・98は、焼成粘土塊である。97は27号掘立柱建物P427から、98はP431から出土した。遺構から出土したものであるが、両者が帰属する年代は不明である。

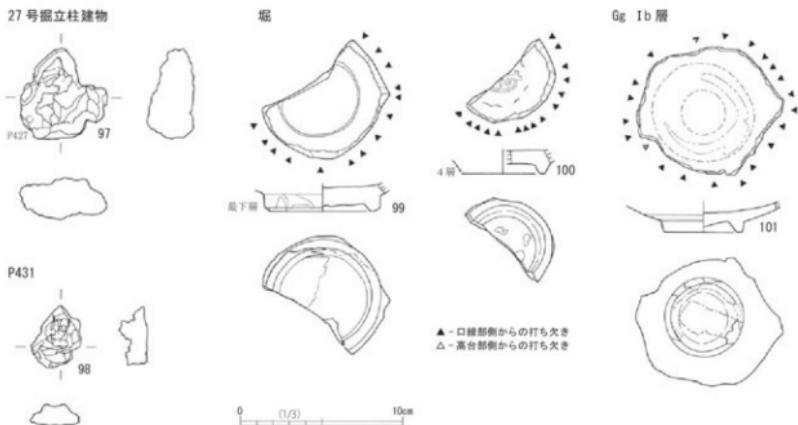
99から101は、加工円盤である。99・100は龍泉窯系青磁碗、101は肥前陶器皿を使用し、底部周辺を上下方向より細かく打ち欠いて成形している。加工円盤の用途は相羽氏などが検討しているが（相羽2011）、高台部の磨耗が顕著な99以外は明確な使用痕跡が認められず⁷、用途の特定は難しい。

（3）石製品（第75・76図、図版II・12）

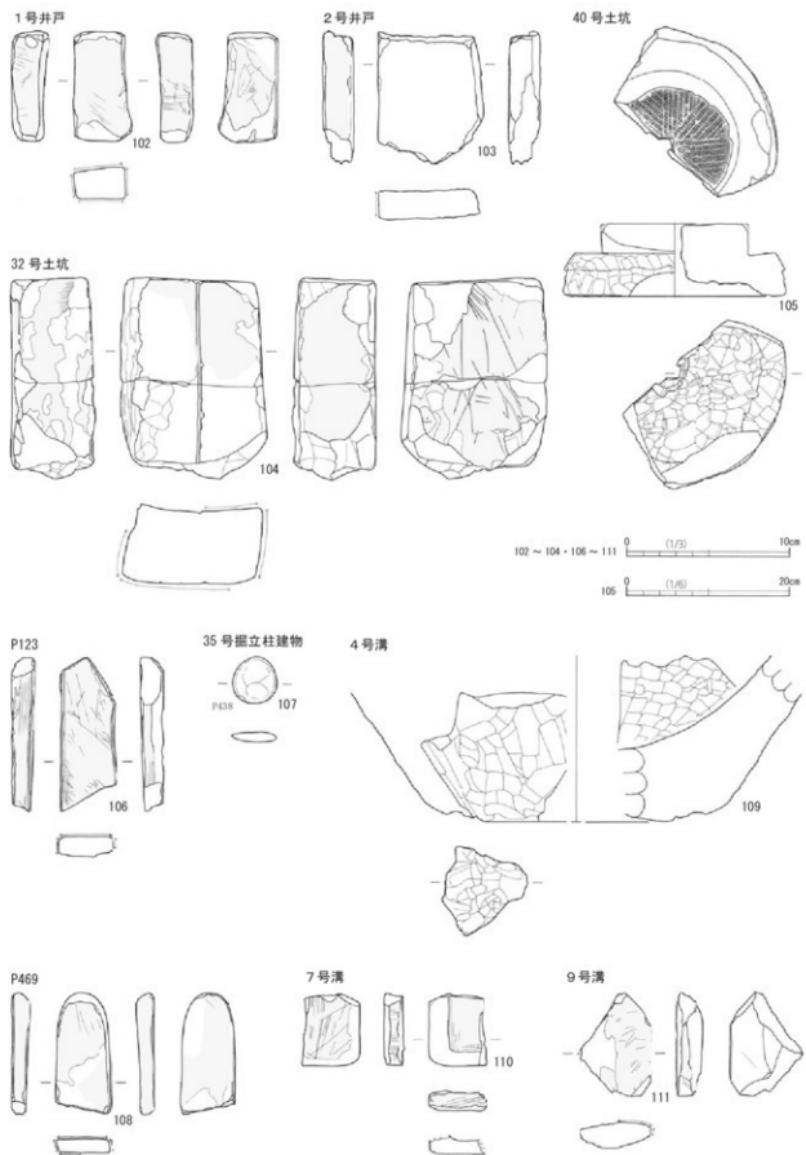
102・103は、砥石である。102は凝灰岩製の仕上砥で、103は流紋岩製の中砥である。103は風化により、磨面の剥落が顕著である。104は大型の流紋岩製の砥石（中砥）である。筋が付けられているが、割るためにつけたものであろうか。被熱し、ススが付着している。105は閃緑岩製の茶臼の下臼である。側面と受皿部は丁寧に磨かれており、磨面には8条8分割の磨目が刻まれる。受皿部を破碎後に、廃棄されたと考えられる。106は頁岩製の砥石である。側面にノコギリ痕のような筋が残る。鳴滻産と見られる。107は碁石である。頁岩製の黒石で、全面が磨かれている。108は、結晶片岩製の砥石である。中砥に使用されたものであろう。109は、花崗閃緑岩製の石鉢である。内面は細かく片刃で小削りされ、平滑に仕上げられている。外面は剥落しやすくなっているが、被熱による影響が想定される。110は、頁岩製の硯である。陸部の角のみ残存している。縁側面に、平タガネによる調整と見られる痕跡が残る。側面と背面に顕著な磨痕があることから、砥石へ転用されたであろう。111は輝緑岩製、112は流紋岩製の砥石である。いずれも中砥に使用されたものであろう。112の端面には、細かく調整された痕が残る。113は、粉引臼片である。下臼としたが、上臼の可能性もある。閃緑岩製で、磨面は良く擦れている。114は、流紋岩製の砥石である。中砥で、伊予産と見られる。115は、黄色みがかった頁岩製の砥石である。鳴滻産と見られる。116は、流紋岩製の砥石である。中砥に使用されたであろう。風化により、磨面の剥落が著しい。

（4）銭貨・金属製品（第77図、図版II）

本来ならば、個別に記載すべきところであるが、両者とも出土量がわずかなため、まとめて記載する。



第74図 土製品

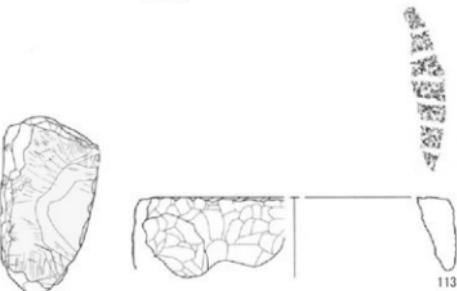


第75図 石製品（1）

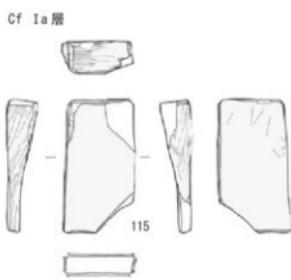
17号溝



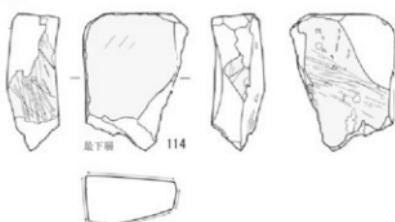
19号溝



0 (1/3) 10cm



堀



Ff・Gf 1b層



第76図 石製品（2）

出土した銭貨は、いずれも寛永通寶である。117～120は古寛永通寶、121～124は新寛永通寶で、123は文銭である。117～119は3号掘立柱建物P471からまとめて出土したもので、ほかは遺構外出土である。

125は煙管の吸口である。真鍮の薄い板を筒状に丸め接合したもので、口元部分に噛んだ後の凹みが残る。

(5) 木製品（第78～83図、図版13・14）

126は下駄である。柾目のスギ材の連歯下駄だが、あまり遺存状態は良くない。127は折敷の底板である。斜め

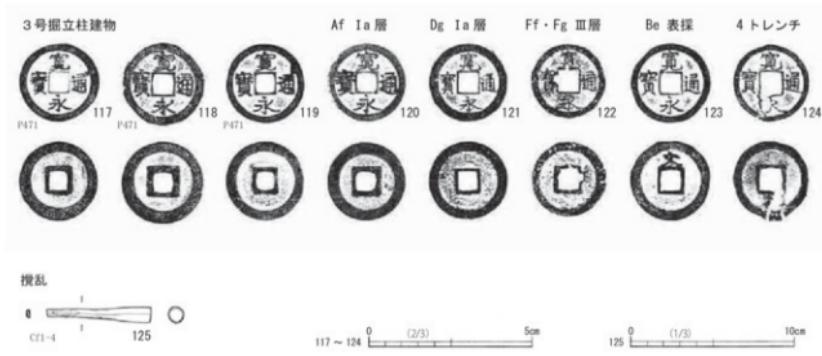


図77 銭貨・金属製品

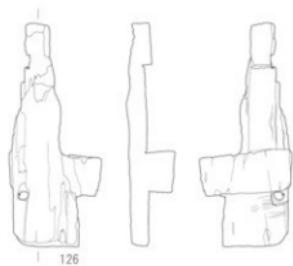
に切り落とした木口面と、側面に木釘の穴が残る。針葉樹の桿目材であろう。128は連歛下駄である。上面は、使用によると思われる磨減が認められる。モクレン属の桿目材を使用している。129・131・132は漆器椀、130・134は漆器蓋である。いずれも横木取りの材を使い、作られている。全体の傾向として、蓋は碗に比べると木胎が厚めである。129は皆朱椀である。全体的に漆が剥落しているが、一部に残存する。130は、皆朱の蓋である。遺存状態は悪いが、内外面に朱漆が残っている。131は皆朱碗である。漆の遺存状態は比較的良好。高台内に黒墨で花文を描く。132は黒墨椀である。漆の遺存状態は比較的良好である。内底面に、五枚笠文と思われる文様を朱漆で描く。134は、皆朱の蓋である。内外面に朱漆が残存する。133は、不明木製品である。曲物の底板の転用品であろうか。長側面に刻みをいれ、中央部に縦方向に二カ所孔を穿つ。そこに紐状のものを通して使用したのであろうか、孔の周囲がやや擦れている。

135からは、柱・杭・材などの部材である。未報告分も含め、出土した木製品の大半はこれらの部材である。出土した木製品や掲載したものの全ての樹種を調べてはいないが、柱材にはクリ・コナラ属コナラ節・モクレン属・カキノキ属が使用され、中でもクリ材が圧倒的に多い。

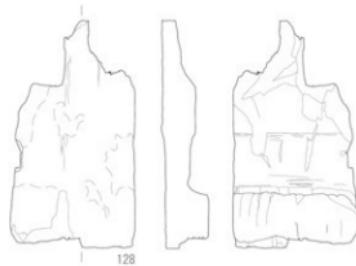
135～137は、1号掘立柱建物の柱である。135・136はコナラ属コナラ節の丸木取り材を使用している。136は表面を多角形状に割り裂いている。底面は四方向からチョウナで粗く削り出し、鈍い先端を作出している。137の樹種は不明で、前の二者に比べ細い材を使用している。底面は二方向から削り出し、鈍いV字状に仕上げている。138は、2号掘立柱建物の柱である。カキノキ属の丸木取り材を使用し、底面はチョウナで水平に削っている。139～144は、3号掘立柱建物出土である。139は柱で、コナラ属コナラ節の丸木取り材を使用している。表面は多角形に打ち削り、底面はチョウナで粗く削り、平坦に仕上げている。140・141は、クリの丸木取り材を使用した柱である。140は底面をチョウナで粗く削り、逆台形状に作り出している。141は底面を水平に作出しているが、加工痕は不明瞭である。142・143は、P186から出土した薄い角材である。142の木場面には、ノコギリとノミで溝が削られているが、用途は不明である。144は、クリの丸木取り材の柱である。底面から下端部を、チョウナで二方向からV字状に削り出している。145・146は、切り合い関係にある3号掘立柱建物P543と9号掘立柱建物P639から出土した柱状の材である。145は偏半削材を、146は芯去ミカン削材を使用し、いずれもノミ状の工具で抉りが入れられている。147は、9号掘立柱建物の柱である。クリの丸木取り材を使用し、底面はチョウナで、逆台形状に粗く削り出されている。下端部には、ノミでU字状のエツリ穴が穿たれている。148は10号掘立柱建物、

149は16号掘立柱建物から出土した杭である。いずれも先端を粗く削り出している。148は先端部が焦げていることから、松明であった可能性もある。150・151は、17号掘立柱建物の柱である。いずれもクリの丸木取り材を使用している。150は底面に砂が付着し、加工痕が一部不明瞭であるが、両者とも底面をチョウナでV字状に粗く削り出している。152・153は、18号掘立柱建物の柱である。152は芯持ミカン割材、153は芯去ミカン割材を使用している。154～157は24号掘立柱建物の柱である。いずれもクリ材であるが、154はミカン割材、155は半割材、156・157は丸木取り材を使用している。底面はいずれもチョウナで粗く削っているが、154は斜めに、155は平坦に、156・157は二方向から斜めに削り出している。158～160は、25号掘立柱建物の柱である。いずれもクリ材で、

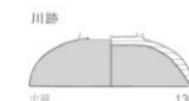
9号土坑



21号土坑



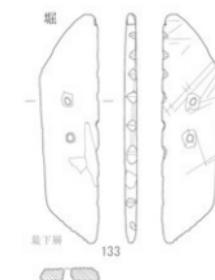
1号溝



中層

130

131



基下層

133

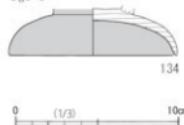
134



中層

132

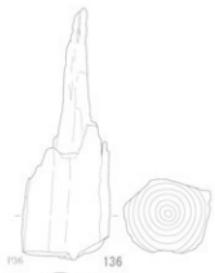
Dg5-3



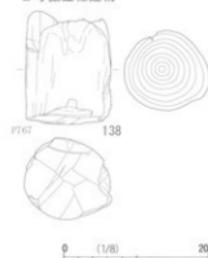
0 (1/3) 10cm

第78図 木製品 (1)

1号掘立柱建物



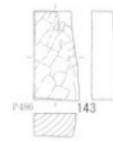
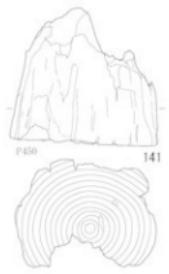
2号掘立柱建物



0 (1/8)

20cm

3号掘立柱建物



第79図 木製品 (2)

3・9号掘立柱建物



9号掘立柱建物



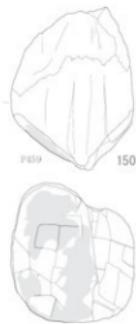
10号掘立柱建物



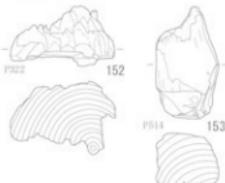
16号掘立柱建物



17号掘立柱建物



18号掘立柱建物



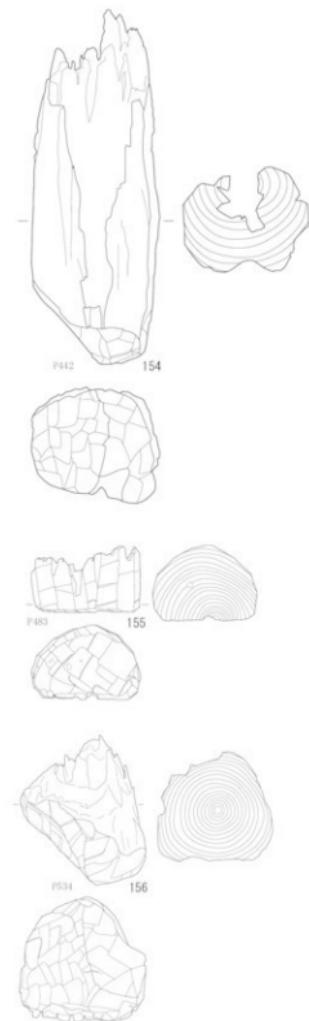
0 (1.8) 20cm

第80図 木製品(3)

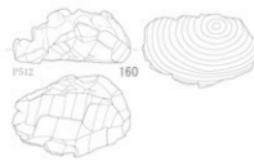
158・159は丸木取り、160は偏ミカン割材を使用している。底面は、159が平坦に作り出されるが加工痕は不明瞭で、158・160はチョウナで粗く削り整えているだけである。161は、26号掘立柱建物の柱である。偏ミカン割のクリ材を使用し、底面はチョウナでV字状に粗く削り出している。162は、27号掘立柱建物の柱である。丸木取りのクリ材を使用し、底面はチョウナでV字状に粗く削り出している。163は、30号掘立柱建物の柱である。偏半割材を使用している。底面は平坦に削られているが、加工痕はやや不明瞭である。164は、32号掘立柱建物の柱である。

細身の柱で、偏ミカン割材を使用している。下端部から底面を、四方向から粗く削り出している。165～167は、33号掘立柱建物の柱である。165はコナラ属コナラ節の丸木取り材、166はクリの芯去りミカン割材、167はクリの偏半割材を使用し、165は表面をチョウナで削り角材に、166は三辺をチョウナで削り角材状に仕上げている。

24号掘立柱建物



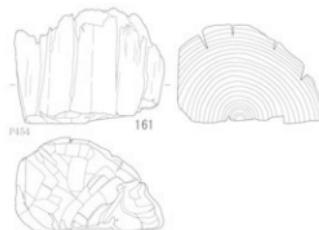
25号掘立柱建物



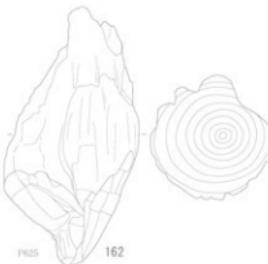
0 (1/8) 20cm

第81図 木製品 (4)

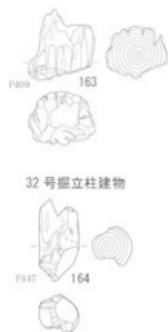
26号掘立柱建物



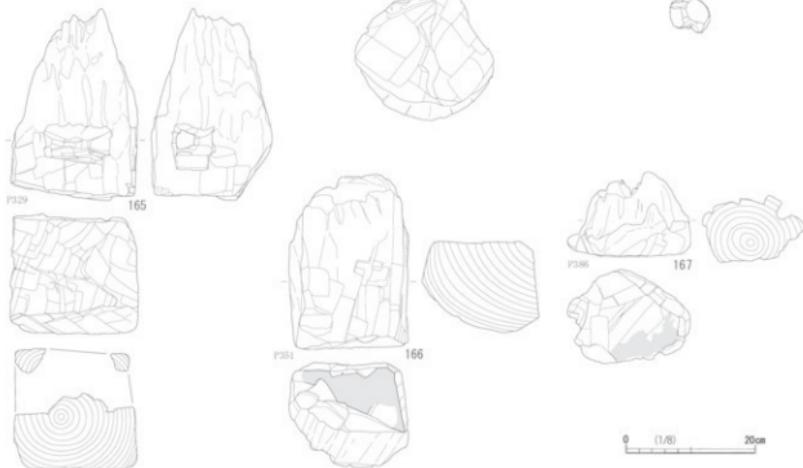
27号掘立柱建物



30号掘立柱建物

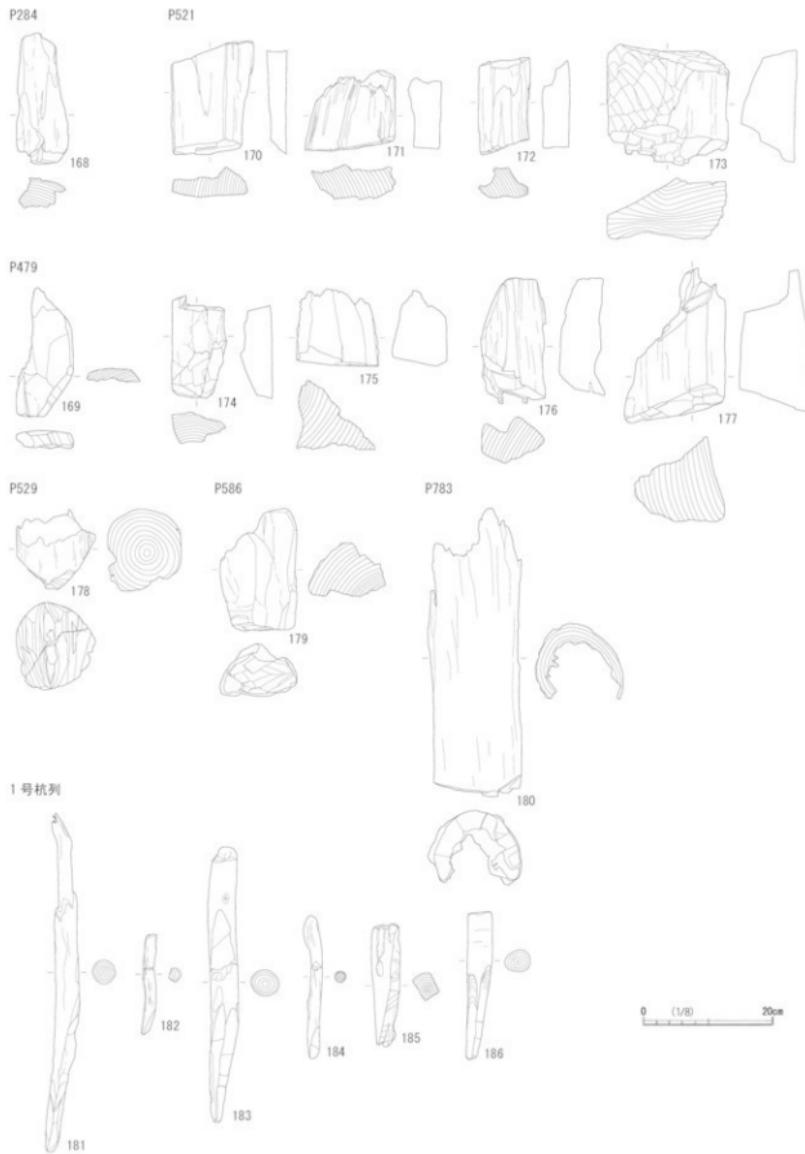


33号掘立柱建物



第82図 木製品（5）

なお、165の下端部には、ノミでT字状にエツリ穴を穿っている。底面は、いずれもチョウナで平坦気味に削っているが、166・167は底面の一部に砂が付着し、加工痕が不明瞭である。168は、P284から出土した柱である。芯去ミカン削材を使用している。169は、P479出土の板状の材である。木口面や木端面にチョウナで粗く削った跡が見られる。170～177は、P521出土の材で、まとめて投棄された状態で検出された。いずれの材にもチョウナで加工した痕跡が認められるが、何らかの理由で切り落とされ、廃棄されたものであろう。178は、P529から出土した柱である。丸木取りの材を使用している。底面は、チョウナでV字状に粗く削り出している。179は、P586から出土した柱である。芯去ミカン削材を使用し、底面はチョウナで平坦に粗く削っている。180は、P783から出土した柱である。腐植により内部の欠損が著しいが、丸木取りのクリ材を使用したと見られる。底面は、チョウナで平坦に粗く削っているようである。181～186は、1号杭列から出土した杭である。先端部の加工は、怪の太い杭のうち、185を除いた181・183・186は、多方向から削り出し尖らせているが、径の細い182・184は、斜めに削り落しているだけである。



第83図 木製品 (6)

6 先史時代の遺物

(1) 繩文土器 (第 84 図, 図版 11)

繩文土器と石器は、川跡と堀の壁面の黒色土から出土した。二次堆積と考えられ、遺物の摩滅が顕著である。繩文時代中期後葉の新発田市周辺は、東北地方南部に広く分布する大木 9 式土器圈に含まれる。187 の土器は直径 22.0cm の深鉢で、ほぼ直立気味の口縁部で端部が緩く外反し、体部中位を欠くものの底部に向けてほぼ直線的にすぼまる大木 9 b 式の器形である。大木 9 b 式の文様は、口縁部を無紋帶とし、太い沈線を用いた継長の楕円区画を横方向に連続させ、その区画内に繩文を充填させるが、本例は区画内の上端が隅丸長方形のように幅広で、下端が閉じない逆 U 字状の区画の中に太い繩文原体の単節 RL を上から下へと回転施紋する。区画文と区画文の間には、上縁の盲孔から垂下沈線が描かれる。この幅広の区画文と交互に配された垂下沈線文は、大木 9 式と同時期の北関東加曾利 E 3 式に見られる特徴である。ただし、加曾利 E 3 式の垂下沈線は、上端がクエスチョンマークのように丸まる藤手文となる。器形図の左側拓本で、本来の大木 9 b 式に見られるような幅狭い長楕円の区画文がある。これは器面を一周する文様の最後の閉じ部分に当たり、残った無紋地に文様を押し込んだ結果であろう。よって本例は、器形や胎土が在地の大木 9 b 式であり、そこに加曾利 E 3 式の文様の情報が変容しつつ移入された折衷土器と言える。同様の文様は、阿賀町北野遺跡上層で出土している（高橋・高橋ほか, 2005）。

188 ~ 190 は、後期前葉の南三十稻場式新段階の深鉢形土器で、188 は緩くびれる頸部、189・190 は体部下半の同一個体である。188 には、細い平行沈線が極浅く引かれ、帯状に残った部分へ繩文が施されているはずだが、器面が荒れていて判別できない。189・190 は、無筋の繩文原体 L を斜め方向に置いて回転施紋するため、繩文の条は継方向に走る。器面全体に施されたこの繩文の上に、細い多条沈線が割と粗く引かれる。南三十稻場式新段階で一般的な集合沈線間の充填繩文ではなく、また器壁が薄く文様も細かいため、南三十稻場式新段階でも最も新しい一群に含まれよう。191・192 は同一個体で、細い集合沈線がランダムに引かれ、193・194 は外面に指のナデ跡が残る。いずれも南三十稻場式深鉢形土器の体部下半と考えられる。

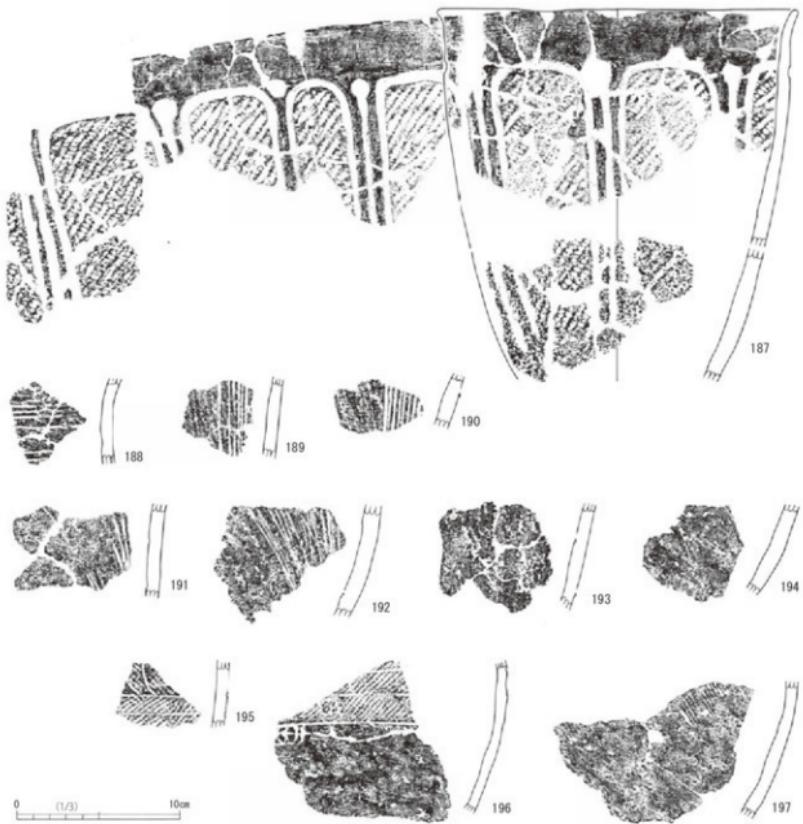
195 ~ 197 は、後期中葉の加曾利 B 2 式土器で、細い沈線と細かな繩文で多段の磨消繩文帯を形成する。195・196 は同一個体で、195 はノの字状沈線が付加され、196 の無紋部左上には、単沈線による単位文が描かれる。197 も含め、繩文は単節の L R で、195 上半と 197 が上下方向、195 下半と 196 の繩文帯は横方向に回転施紋される。

(2) 石 器 (第 85 図, 図版 12)

198 は、光沢のある緻密な珪質頁岩製の石刀である。頭部は、折損によって欠落している。背面には、主要剥離面と逆位の剥離がみられ、両設打面石核からの剥離といえる。側縁全体に微細剥離痕が連続するが、剥離の形状や角度は一定しない。稜線の摩滅と器面全体に不自然な光沢があり、ローリングなど二次的な作用を受けたと考えられる。排土からの出土だが、形態から旧石器時代の帰属としたい。

199 は、繩文時代の両刃の削器、あるいは横形石匙の一部であろう。光沢のある珪質頁岩で、正面側からの加力で折れている。正面側は、平坦で深い二次加工が整然と並び、背面側の二次加工は急角度剥離である。右側縁には、使用によるものと考えられる微細な剥離が連続して並ぶが、使用痕の光沢はみられない。

200 は、輝緑岩製の磨製石斧である。中央部で折れ、頭部を欠落する。風化により研磨痕は観察できないが、表面が平坦なことと、側面が面取りされていることから完成品と考えてよい。幅 3.5 cm, 厚さ 2.0 cm の短冊形である。なお、本遺跡から西へ 140m 程離れたところに位置する中野遺跡は中～晩期の遺跡で、磨製石斧が多量に出土している。その法量は幅 4.5 ~ 6.0 cm, 厚さ 2.5 ~ 3.0 cm のものが主体を占めており、200 と比べた場合、一回り程、大きさに違いがある。



第84図 繩文土器

201・202は黒曜石の石核で、表皮を多く残す。本館跡の東側丘陵一帯は、縄文時代の石器に利用される板山産黒曜石として著名な原石産出地で、長径5cm以内の転石状小礫が砂礫層や風化凝灰岩に含まれている（関1999）。色調は漆黒・灰黒色・縞状・半透明と多様だが、目立った斑晶や不純物をほとんど含まず良質である。原石の流通範囲は、新潟県北半と福島県会津地方から北関東北部一帯で、主に縄文時代中～晩期の石器製作に用いられている。201は半透明の灰黒色で、小さな斑晶を極わずかに含むが良質な石質である。両極技法によって長軸の上下から同時に加撃され、次いで、この剥離された面を打面として左側面が剥離される。右上・左下や左右側縁にも、潰れ状の小剥離がみられる。202は、長径が2.6cmと小さく、石器製作には不向きであろう。上方からの加圧による剥離が正面と右側面にみられるが、打点ははつきりしない。一見黒色だが、縁辺を光にかざすと半透明と分かり、極めて小さな斑晶をわずかに含む。肉眼観察では、いずれも板山産黒曜石と酷似する。



第85図 石器

表2 造構一覧表

掘立柱建物

遺構名	分類	規 模	断行×梁行(m)	面積(㎡)	土 壤 方 位	出土遺物			神 國 平面 断面 写真 図版
						柱 間	柱 高	断面形	
1号掘立柱建物	梁間一間型	2間以上×1間	(2.360×2.36)	(5.81)	N-72° ~E				16 16
	直腹造構・断山間隔	(12.1±0.8m)							
	柱 六	柱 無	平面形	長幅×短幅(cm)	断面形 深さ(cm) 断面標高(m)	柱間寸法(cm)			
	P23	B12-4	有(135)	鶴円形	46×34	平円状 43	63.60	P23-P26	129
	P26	B12-4	有(136)	円形	44×42	台形状 36	63.69	P26-P43	117
	P43	B12-4	無	鶴円形方	(53)×(16)	漏斗状 49	63.60	P41-P44	(105)
	P41	B12-5, B12-3	有	円形方	(31)×(17)	漏斗状 45	63.63	P44-P45	119
	P44	B12-5+3-3	有	円形	21×18	台形状 (21)	63.62	P45-P33	246
	P45	B12-5	有(132)	鶴円形	19×14	漏状 (16)	63.76		
2号掘立柱建物	梁間一間型	4間以上×2間	(8.59)×3.65	(30.6)	N-70.5° ~E				17 17~18
	直腹造構・断山間隔	(12.4±0.4m) × (18.1±0.7m) × #8+11+16+20掘立							
	柱 六	柱 無	平面形	長幅×短幅(cm)	断面形 深さ(cm) 断面標高(m)	柱間寸法(cm)			
	P592	C11-5	無	平面形方	41×(33)	漏状 50	63.67	P592-P116	142
	P116	C12-5	無	円形	33×30	漏状 (36)	63.77	P116-P128	207
	P132	C41-1	無	鶴円形	46×34	漏状 55	63.70	P132-P128	149
	P128	C42-1	無	円形	39×34	U字状 56	63.74	P128-P144	189
	P144	C42-1	無	円形	26×24	U字状 46	63.89	P144-P136	192
	P136	C42-1	無	方形	34×33	漏状 58	63.79	P136-P125	269
	P49	C41-5	無	不規	(40)×(12)	弧状 11	64.41	P49-P134	202
	P134	C42-3	無	鶴円形	48×27	台形状 35	63.97	P134-P154	204
	P154	C42-3	無	方形	41×36	U字状 51	63.87	P154-P125	189
	P125	C42-3	無	鶴円形	40×29	漏状 55	63.85	P125-P114	197
	P114	C42-3	無	円形方	43×(33)	漏状 33	63.95	P114-P98	221
	P767	C42-2	有(138)	鶴円形	71×35	漏状 24	64.24	P767-P134	229
	P762	C42-3	無	円形	45×40	漏状 60	63.89	P762-P154	193
	P768	C42-3	無	円形	26×22	台形状 19	64.34	P768-P192	148
	P783	C41-5	無	鶴円形方	(23)×(23)	台形状 20	64.35	P783-P160	182
	P790	C42-5	無	鶴円形	39×26	漏状 21	64.28	P790-P194	202
	P764	C43-3+3-5	無	円形	35×30	U字状 60	63.99	P764-P75	183
	P775	C41-4+4-5	無	鶴円形	44×32	平円状 27	64.13	P775-P192	192
	P782	C45-4+5-5	無	鶴円形	41×33	漏状 55	63.87	P767-P99	170
									P762-P64 175
3号掘立柱建物	梁間一間型	4間×2間	10.68×8.17	107.49	N-71.5° ~E				19 19
	直腹造構・断山間隔	(12.7±0.4m) × (21.0±0.6m) × #7+10+13+18+21+23+29+30+33+36掘立							
	柱 六	柱 無	平面形	長幅×短幅(cm)	断面形 深さ(cm) 断面標高(m)	柱間寸法(cm)			
	P766	C72-4+3-3	無	長方形方	105×(76)	台形状 82	63.51	P466-P578	144
	P758	C14-1	無	不規	94×(78)	漏状 23	63.62	P578-P556	140
	P756	C51-5,B11-1	有(140)	長方形方	(151)×(93)	台形状 53	63.64	P556-P526	141
	P768	B12-1	無	鶴円形	(45)×(34)	U字状 54	63.67	P768-P797	113
	P797	B12-1	無	円形	(22)×(23)	平円状 18	63.81	P797-P721	89
	P748	C15-2	無	鶴円形方	(97)×75	漏状 44	63.77	P748-P471	92
	P721	B12-2	無	長方形	107×84	平円状 39	63.83	P721-P796	90
	P794	C12-3	無	円形	(58)×(61)	台形状 32	63.75	P794-P688	141
	P788	C14-3	無	長方形方	(33)×(23)	U字状 42	63.95	P788-P741	146
	P741	C15-3	無	鶴円形	(29)×(61)	漏状 71	63.47	P741-P543	106
	P796	B12-3	無	鶴円形	43×23	漏状 45	63.89	P796-P721	132
	P756	C72-4+3-4	無	不規	(33)×(48)	台形状 55	63.89	P556-P575	143
	P757	C14-4	無	円形	(64)×56	台形状 48	63.83	P575-P543	141
	P743	C15-4	無	鶴円形	(91)×111	台形状 70	63.60	P543-P495	132
	P746	B11-4	無	円形	38×38	平円状 25	63.87	P496-P721	127
	P764	B12-5	無	鶴円形	(28)×(28)	不規	63.84	P764-P716	141
	P716	B14-5	無	円形	30×26	漏状 18	64.04	P716-P739	55
	P757	C72-4,C42-3	無	鶴円形	72×54	漏状 73	63.53	P557-P610	155
	P7610	C14-5,C44-1	有	円形	(42)×(36)	漏斗状 53	63.76	P7610-P450	136
	P7450	C15-5,C45-1	有(141)	鶴円形	53×41	漏状 39	64.02	P7450-P794	149
	P784	B11-5+2-B12-1+2-1	無	鶴円形	46×24	漏状 31	64.01	P784-P775	139
	P755	B12-1	無	円形	(26)×(24)	台形状 26	63.99	P775-P709	126
	P789	B14-5	無	円形	28×28	U字状 55	64.36	P766-P704	175
									P556-P748 112
									P764-P756 116
									P768-P775 116
									P756-P760 108
									P543-P496 106
									P731-P764 99
									P760-P557 54

造構名	分類	規 模	軒行×梁行 (m)	面積 (m ²)	主軸方位	柱上部物						等高 平面 面図 面図	
						横	固 定	固 定	支 持	支 持	支 持		
1号柱立柱建物	梁間・間型	2間×2間	3.96×2.83	9.79	N-21.5°-E	中柱上部直角						21	21
	重複道橋・新山関係	[46上+20底] × [24+27+29+33+36底] × 1層											
	柱 六	グリッド	柱 棚	平面形	長軸×短軸 (cm)	断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間寸法 (cm)				
	P395	BT3-2・4-2	無	不整形	67×48	箱状	32	63.81	P395-P424	299			
	P424	BT4-2	無	方形	21×19	箱状	32	64.01	P424-P498	147			21
	P498	BT5-2	無	円形	46×40	V字形	25	63.92	P498-P390	131			
	P390	BT5-3	無	円形	29×28	箱状	48	63.50	P390-P399	137			21
	P399	BT5-3	無	円形	33×30	箱状	32	63.84	P399-P379	168			21
	P379	BT4-3・5-3	無	椭円形	53×41	台形状	21	63.85	P379-P422	291			
	P422	BT3-3・4-3	無	円形	26×22	台形状	(13)	64.04	P422-P332	160			
	P332	BT3-3・4-3	無	円形	27×27	台形状	27	64.04	P332-P395	125			
2号柱立柱建物	梁間・間型	1間×1間	3.84×2.25	8.64	S-68°-E	柱上部物						等高 平面 面図 面図	
	重複道橋・新山関係											21	21
	柱 六	グリッド	柱 棚	平面形	長軸×短軸 (cm)	断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間寸法 (cm)				
	P253	ET4-4	無	椭円形	28×24	箱状	13	64.21	P253-P265	384			
	P245	ET4-4	無	椭円形	28×27	箱状	33	64.19	P245-P289	225			21
	P249	ET1-5	無	円形	28×26	力矩状	29	64.21	P249-P251	318			
	P251	ET4-4	無	円形	29×28	箱状	27	64.16	P251-P253	224			
	道構名	分 類	規 模	軒行×梁行 (m)	面積 (m ²)	主軸方位	柱上部物					等高 平面 面図 面図	
	梁間・間型	1間×1間	2.33×2.24	5.22	S-20.5°-E							22	22
	重複道橋・新山関係												
6号柱立柱建物	梁間・間型	1間×1間	4.06×2.22	9.01	S-25°-E	柱上部物						等高 平面 面図 面図	
	重複道橋・新山関係	[14+15+19底] × 16上										22	22
	柱 六	グリッド	柱 棚	平面形	長軸×短軸 (cm)	断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間寸法 (cm)				
	P180	Eg2-2	無	椭円形	29×18	V字形	18	64.30	P180-P179	224			
	P179	Eg1-2	無	椭円形	24×19	U字形	19	64.38	P179-P188	233			
	P198	Eg1-3	無	椭円形	34×21	U字形	23	64.30	P188-P203	216			
	P203	Eg2-3・3-3	無	方形	30×26	台形状	36	64.15	P203-P180	220			
	道構名	分 類	規 模	軒行×梁行 (m)	面積 (m ²)	主軸方位	柱上部物					等高 平面 面図 面図	
	梁間・間型	1間×1間	4.06×2.22	9.01	S-25°-E							22	22
	重複道橋・新山関係	[14+15+19底] × 16上											
7号柱立柱建物	梁間・間型	1間×1間	4.06×2.22	9.01	S-25°-E	柱上部物						等高 平面 面図 面図	
	重複道橋・新山関係	[14+15+19底] × 16上										22	22
	柱 六	グリッド	柱 棚	平面形	長軸×短軸 (cm)	断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間寸法 (cm)				
	P193	Eg1-2	無	椭円形	37×(26)	箱状	34	64.24	P193-P222	222			
	P232	Eg1-2	無	円形	35×28	U字形	29	64.27	P232-P163	266			
	P163	Eg1-4	無	椭円形	34×25	箱状	29	64.39	P163-P199	219			22
	P199	Eg2-4	無	方形	25×29	U字形	45	64.12	P199-P193	288			
	道構名	分 類	規 模	軒行×梁行 (m)	面積 (m ²)	主軸方位	柱上部物					等高 平面 面図 面図	
	梁間・間型	1間×1間	4.06×2.22	9.01	S-25°-E							22	22
	重複道橋・新山関係	[14+15+19底] × 16上											
8号柱立柱建物	梁間・間型	3間×2間	7.06×4.29	30.29	S-67.5°-E	柱上部物						等高 平面 面図 面図	
	重複道橋・新山関係	[16上+2+16底] × 18上										23	23
	柱 六	グリッド	柱 棚	平面形	長軸×短軸 (cm)	断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間寸法 (cm)				
	P764	Eg2-2	無	椭円形	29×16	U字形	29	64.12	P764-P761	201			
	P761	Eg3-2	無	円形	29×18	台形状	22	64.21	P761-P758	241			
	P758	Eg1-2	無	円形	30×26	U字形	35	64.64	P758-P769	265			
	P769	Eg2-2	無	椭円形	30×30	不規			P769-P75	429			
	P73	Cg0-5・Bg1-5	無	不整形	46×29	U字形	96	63.93	P73-P78	248			
	P78	Cg1-5	無	円形	22×24	台形状	40	64.05	P78-P762	257			23
	P762	Cg3-5	無	椭円形	34×(26)	台形状	60	63.94	P762-P760	198			
	P760	Cg2-5	無	不整形	34×(19)	台形状	24	64.29	P760-P748	188			
	P748	Cg2-4	無	立方形	16×40	箱状	529	64.42	P748-P764	229			
	P764	Cg4-4	無	円形	21×28	台形状	14	64.28	P758-P766	219			23
	道構名	分 類	規 模	軒行×梁行 (m)	面積 (m ²)	主軸方位	柱上部物					等高 平面 面図 面図	
	梁間・間型	3間×2間	10.25×5.24	53.71	S-21°-E							23	23
	重複道橋・新山関係	[3+12+6+16底] × [50+1+20+28+29底] × [17+25+28底] × 32底										24	25
9号柱立柱建物	梁間・間型	3間×2間	10.25×5.24	53.71	S-21°-E	柱上部物						等高 平面 面図 面図	
	重複道橋・新山関係	[3+12+6+16底] × [50+1+20+28+29底] × [17+25+28底] × 32底										24	25
	柱 六	グリッド	柱 棚	平面形	長軸×短軸 (cm)	断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間寸法 (cm)				
	P735	CT2-1・2+2	無	不規	(128)×(66)	不明	(141)	63.80	P735-P760	274			
	P580	C14-1	無	円形	47×(45)	箱状	33	63.95	P580-P711	220			
	P711	C15-1	無	不整形	(66)×87	箱状	44	63.70	P711-P739	346			
	P309	C15-2	有(147)	不整形	(100)×(99)	箱状	65	63.81	P309-P769	261			3
	P639	C15-4	無	立方形	(99)×(54)	台形状	68	63.59	P639-P745	298			
	P485	C15-5	無	円形	(101)×(51)	箱状	46	63.79	P485-P769	308			
	P609	C14-5	無	椭円形	29×(26)	箱状	42	63.90	P609-P768	254			
	P618	C12-5・3-5	無	椭円形	62×(48)	箱状	51	63.68	P618-P747	322			
	P470	CT2-3・2+4-3-3+4	無	椭円形	(171)×109	箱状	89	63.50	P470-P761	296			
	P701	CT2-2	無	椭円形	(26)×81	U字形	10	64.15	P701-P735	299			
	P475	C14-4	無	椭円形	(53)×(38)	台形状	130	63.91	P475-P745	282			
	P501	Cg5-1	無	円形	(60)×36	箱状	31	64.00	P475-P470	253			
	P611	Cg1-1	無	椭円形	(47)×(33)	U字形	50	63.80	P485-P761	135			
	P143	Cg2-1	無	椭円形	31×24	U字形	31	64.01	P501-P761	268			
									P611-P743	276			
									P743-P608	130			

遺構名	分類	規 模	断行×要行 (m)	面積 (m ²)	主軸方位	出土遺物			縦 図 写真		
						平面	断面	回観	平面	断面	回観
10号帳立柱建物	梁間・間型	3間以上×2間	(6.090×5.81)	335.380	N 22° ~ W	天日系繩(10)			26	26	
	直轄道構・新旧間隔	G2+36断面×46上・19底、36断面×35上・19底、36断面×35上・19底									
	柱 六	グリッド	柱 棚	平面形	長軸×短軸 (cm)	断面形 深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間・寸法 (cm)			
	P346	B1×1	無	楕円形	65×47	断段状	48	63.75	P346-P730	206	
	P330	B1×2	無	楕円形	65×47	断段状	49	63.89	P330-P737	221	
	P357	B1×3	無	円形	653×55	断段状	49	63.89	P357-P727	214	
	P377	B1×3	無	楕円形	50×30	断段状	26	63.87	P377-P110	318	26
	P410	B1×4	無	楕円形	50×41	台形状	35	63.88	P410-P754	208	
	P351	B1-1×1+3	無	楕円形	46×36	台形状	47	63.80	P351-P708	241	
	P308	B1-1	無	方形	(56)×51	断段状	37	63.67	P308-P913	187	
	P513	B1-1	無	円形	(52)×(21)	台形状状	(27)	63.86			
11号帳立柱建物	梁間・間型	1間×2間	2.44×2.17	5.29	N 72° ~ E				27	27	
	直轄道構・新旧間隔	G18+1・12底、G2+2・16+21底、G2+3・7底									
	柱 六	グリッド	柱 棚	平面形	長軸×短軸 (cm)	断面形 深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間・寸法 (cm)			
	P157	C4×1	無	楕円形	25×18	U字状	43	63.94	P157-P147	113	
	P147	C4×1	無	楕円形	40×25	漏斗状	30	63.97	P147-P141	107	
	P141	C4×1	無	楕円形	28×23	V字状	13	64.25	P141-P101	244	27
	P101	C4×2	無	円形	(29)×(27)	半円状	25	64.09	P101-P98	103	
	P98	C4×2	無	円形	25×23	U字状	31	64.11	P98-P95	128	
	P95	C4×2	無	円形	24×22	台形状	28	64.13	P95-P157	249	
12号帳立柱建物	梁間・間型	1間×1間	2.56×2.44	6.25	N 20° ~ W	肥前海源帯便片			27	27	
	直轄道構	新旧間隔 (G3底+9+25断面+16+21底)×3・7									
	柱 六	グリッド	柱 棚	平面形	長軸×短軸 (cm)	断面形 深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間・寸法 (cm)			
	P511	C4×1	無	楕円形	(71)×(60)	台形状状	52	63.81	P511-P769	244	
	P269	B2×1	無	円形	33×32	漏斗	39	63.91	P269-P122	256	27
	P122	C4×2	無	円形	38×38	台形状	52	63.85	P122-P103	246	
	P103	B2×1	無	円形	27×24	U字状	46	63.85	P103-P511	238	
13号帳立柱建物	梁間・間型	2間×1間	3.65×2.25	8.21	N 62° ~ E				28	28	
	直轄道構・新旧間隔	G16底+10断面+3×30断面+29上									
	柱 六	グリッド	柱 棚	平面形	長軸×短軸 (cm)	断面形 深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間・寸法 (cm)			
	P524	B2×5	無	楕円形	(34)×(25)	半円状	24	63.82	P524-P240	175	
	P240	B1×4	無	楕円形	(32)×24	断段状	31	63.91	P240-P702	191	
	P202	B1×5	無	楕円形	42×30	漏斗	38	63.94	P202-P116	225	28
	P116	B4×1	無	円形	30×28	台形状	17	64.28	P116-P113	155	
	P113	B4×1	無	円形	34×29	V字状	31	64.15			
14号帳立柱建物	梁間・間型	2間×1間	4.38×4.13	18.09	N 29° ~ E				28	28	
	直轄道構・新旧間隔	G17+1・19断面									
	柱 六	グリッド	柱 棚	平面形	長軸×短軸 (cm)	断面形 深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間・寸法 (cm)			
	P177	E4×1	無	円形	19×18	漏斗	31	64.29	P177-P250	413	
	P250	F4×1+2+1	無	楕円形	36×24	漏斗	42	64.10	P250-P174	219	
	P174	F4×2	無	円形	26×23	台形状	30	64.27	P174-P171	220	28
	P171	F4×3	無	楕円形	28×26	台形状	20	64.29	P171-P198	413	
	P189	E4×3	無	不規形	37×26	漏斗	23	64.29	P189-P184	228	
	P184	E4×2	無	楕円形	26×22	台形状	23	64.32	P184-P177	232	
15号帳立柱建物	梁間・間型	1間×1間	2.49×2.47	5.93	N 22° ~ W				29	29	
	直轄道構・新旧間隔	G1+7+19断面									
	柱 六	グリッド	柱 棚	平面形	長軸×短軸 (cm)	断面形 深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間・寸法 (cm)			
	P166	E4×4	無	円形	20×20	台形状	48	64.06	P166-P167	240	
	P167	F4×3+1+4	無	不規形	38×21	台形状	26	64.27	P167-P236	247	29
	P236	F4×1+5	無	方形	(26)×(13)	断段状	(26)	64.47	P236-P151	209	
	P151	E4×5	無	楕円形	(23)×(14)	台形状	27	64.44	P151-P166	252	

遺構名	分類	規 模	軒行×梁行 (m)	面積 (m ²)	主軸方位	出土遺物	神 国 等高 平面 地面 図版		
							神 平面	国 地面	等高 図版
	梁間・隅型	3間以上×2間	18.91×4.59	44.73	5°-6° E			29	29
	垂直遺構・新山関係	△軒立・9+2階立・9+2階立	2.8×8.11	12×20×21+25階立・3階立・18上					
	柱 六	グリッド	柱 枝	平面形	長軸×短軸 (cm)	断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間寸法 (cm)
16号櫛 立柱建 物	P123	Cat-1	無	円形	38×38	台形状	29	64.01	P127-P199
	P99	Cat-1	無	円形	28×26	台形状	22	64.07	P99-P252
	P525	Cat-1	無	楕円形	27×22	台形状	38	63.80	P252-P500
	P500	Cat-1	無	楕円形	38×(32)	台形状	27	64.01	P500-P140
	P140	Cat-1	無	円形	38×(34)	弧状	24	64.15	P140-P182
	P102	Cat-1	無	円形	28×26	V字形	25	64.08	P102-P770
	P770	Cat-3	無	円形	(36)×38	不明	—		P770-P752
	P757	Cat-3	無	楕円形	25×20	U字形	51	63.89	P757-P760
	P760	Cat-3	無	円形	30×25	U字形	36	64.03	P760-P766
	P766	Cat-3	無	楕円形	44×36	弧状	35	63.99	P766-P771
	P771	Cat-3	無	円形	22×26	弧状	36	63.97	P770-P69
	P769	Cat-4	無	円形	35×31	台形状	31	64.16	P69-P79
	P779	Cat-4	無	楕円形	46×36	圓錐状	44	64.01	P779-P65
	P65	Cat-4	無	楕円形	41×25	台形状	31	64.20	P65-P766
									167
遺構名	分類	規 模	軒行×梁行 (m)	面積 (m ²)	主軸方位	出土遺物	神 平面	国 地面	等高 図版
梁間・隅型	4間×2間	7.23×6.36	45.98	5°-71° E					
	垂直遺構・新山関係	△3+9+23+28+29階立・20階立・22+24+34階立・27+28階立+29+31+32+33+36階立							
	柱 六	グリッド	柱 枝	平面形	長軸×短軸 (cm)	断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間寸法 (cm)
17号櫛 立柱建 物	P724	Cat-2, CT-1	無	楕円形	92×56	台形状	33	63.51	P724-P581
	P581	CT-1	無	円形	38×(33)	V字形	36	63.96	P581-P722
	P722	BT-1	無	楕円形	(189)×(41)	台形状	43	63.70	P722-P506
	P536	BT-1+1-2	有(53)	楕円形	74×(46)	台形状	54	63.73	P536-P709
	P709	BT-1-2	有(53)	楕円形	(99)×54	台形状	51	63.61	P709-P459
	P459	CT-5, BT-4	有(50)	不整形	(101)×(46)	台形状	49	63.73	P459-P767
	P677	CT-4	無	方形	55×55	圓錐状	(63)	63.62	P677-P477
	P477	CT-2-4	無	不整形	(120)×74	台形状	33	63.73	P477-P763
	P673	CT-2-3	無	椭円形	47×27	台形状	21	64.03	P673-P769
	P697	CT-2-2	無	椭円形	80×44	弧状	17	63.88	P697-P766
	P608	CT-2-1	無	不整形	85×50	台形状	33	63.88	P608-P724
									32
遺構名	分類	規 模	軒行×梁行 (m)	面積 (m ²)	主軸方位	出土遺物	神 平面	国 地面	等高 図版
梁間・隅型	3間以上×2間	18.42×3.39	18.37	5°-20° E					
	垂直遺構・新山関係	△43上+19階立+29階立+18階立+3+10+24+27+30+33+36階立							
	柱 六	グリッド	柱 枝	平面形	長軸×短軸 (cm)	断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間寸法 (cm)
18号櫛 立柱建 物	P499	BC-2	無	楕円形	(28)×24	台形状	29	63.98	P499-P741
	P341	BC-2	無	長方形	36×24	弧状	41	63.92	P341-P322
	P322	BC-3	有(52)	円形	30×27	弧状	42	63.83	P322-P574
	P574	CT-2-4	無	椭円形	34×23	台形状	15	64.06	P574-P742
	P412	BT-1	無	椭円形	43×25	圓錐状	36	63.86	P412-P769
	P629	BT-1	無	椭円形	63×45	台形状	39	63.83	P629-P765
	P585	BT-1	無	椭円形	41×35	圓錐状	28	63.91	P585-P763
	P583	CT-2-1	無	椭円形	61×45	弧状	51	63.74	P341-P514
	P514	BT-2	有(53)	不整形	50×40	V字形	28	63.88	P514-P769
									194
遺構名	分類	規 模	軒行×梁行 (m)	面積 (m ²)	主軸方位	出土遺物	神 平面	国 地面	等高 図版
梁間・隅型	4間×2間	9.61×4.68	44.97	5°-21° E					
	垂直遺構・新山関係	#7+7+14+15階立							
	柱 六	グリッド	柱 枝	平面形	長軸×短軸 (cm)	断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間寸法 (cm)
19号櫛 立柱建 物	P238	E4-5	無	楕円形	(29)×(15)	弧状	9	64.36	P238-P241
	P241	E5-5	無	円形	26×20	台形状	14	64.42	P241-P246
	P246	F1-5	無	円形	39×37	台形状	31	64.23	P246-P229
	P229	F1-1	無	方形	29×27	U字形	34	64.27	P229-P172
	P172	F1-2	無	椭円形	30×22	台形状	12	64.40	P172-P168
	P168	F1-4+2-4	無	円形	26×23	弧状	27	64.26	P168-P260
	P260	F2-5	無	円形	26×22	台形状	28	64.45	P260-P261
	P261	E5-5, F1-5	無	円形	40×39	弧状	15	64.61	P261-P764
	P264	E4-5	無	椭円形	34×28	圓錐状	50	64.30	P264-P730
	P230	E4-4	無	方形	27×24	U字形	31	64.22	P230-P195
	P195	E4-3	無	円形	34×30	台形状	16	64.38	P195-P233
	P233	E4-1+4-2	無	方形	29×25	台形状	28	64.30	P233-P226
									224
遺構名	分類	規 模	軒行×梁行 (m)	面積 (m ²)	主軸方位	出土遺物	神 平面	国 地面	等高 図版
梁間・隅型	1間以上×2間	3.00×3.95	(11.85)	5°-49.5° E					
	垂直遺構・新山関係	#2+8+16階立							
	柱 六	グリッド	柱 枝	平面形	長軸×短軸 (cm)	断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間寸法 (cm)
20号櫛 立柱建 物	P700	Cat-3	無	長方形	(160)×(16)	半円形	10	64.22	P700-P772
	P772	Cat-3	無	円形	37×33	台形状	36	64.05	P772-P768
	P768	Cat-4	無	方形	18×18	V字形	16	64.34	P768-P761
	P61	Cat-5-3-5	無	椭円形	36×26	台形状	18	64.33	P61-P799
	P799	Cat-5	無	椭円形	28×20	台形状	39	64.06	
									291
遺構名	分類	規 模	軒行×梁行 (m)	面積 (m ²)	主軸方位	出土遺物	神 平面	国 地面	等高 図版
梁間・隅型	1間以上×2間	1.00×1.00	1.00	5°-55° E					
	垂直遺構・新山関係	#2+8+16階立							
	柱 六	グリッド	柱 枝	平面形	長軸×短軸 (cm)	断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間寸法 (cm)
21号櫛 立柱建 物	P700	Cat-3	無	長方形	(160)×(16)	半円形	10	64.22	P700-P772
	P772	Cat-3	無	円形	37×33	台形状	36	64.05	P772-P768
	P768	Cat-4	無	方形	18×18	V字形	16	64.34	P768-P761
	P61	Cat-5-3-5	無	椭円形	36×26	台形状	18	64.33	P61-P799
	P799	Cat-5	無	椭円形	28×20	台形状	39	64.06	
									291

遺跡名	分類	規 模	幅行×奥行 (m)	面積 (m ²)	土地方位	出土遺物	神 國 平面 断面 固版		
							平面	断面	固版
21号擬立柱建物	梁間・間型	1間×1間	2.27×1.97	4.47	N-57°-E				34
	直復道構・新旧関係	C29編×20編×10編、#3×9×11+12×16+25編							
	柱穴	グリッド	柱 穴	平面形	長幅×短幅 (cm)	断面形 (深さ (cm))	断面標高 (m)	柱間・干法 (cm)	
	P481	C15-5	無	楕円形	50×40	U字状	47	63.72	P481-P199 227
	P490	D11-5	無	楕円形	(76)×(40)	U字状	55	63.70	P490-P115 197
	P115	C41-1	無	楕円形	58×36	漏斗状	49	63.92	P115-P138 235
	P138	C45-1	無	円形	30×29	台形状	26	64.02	P138-P481 197
	遺跡名	分類	規 模	幅行×奥行 (m)	面積 (m ²)	土地方位	出土遺物	平面	断面 固版
	梁間・間型	2間以上×1間	(4.52)×1.96	(8.66)	N-73.5°-E				35
	直復道構・新旧関係	C3×17編×29+30編、#2×9×25+28編							
22号擬立柱建物	柱穴	グリッド	柱 穴	平面形	長幅×短幅 (cm)	断面形 (深さ (cm))	断面標高 (m)	柱間・干法 (cm)	
	P684	C17-4	無	円形	25×23	漏斗状	24	63.96	P654-P620 131
	P682	C17-4	無	不規形	40×(39)	漏斗状	42	63.86	P620-P681 213
	P681	C17-4	無	楕円形	33×27	台形状	19	64.13	P681-P693 196
	P693	C17-5	無	楕円形	23×18	V字状	22	64.10	P693-P115 186
	P615	C22-5	無	楕円形	47×(36)	漏斗状	15	63.99	P615-P791 130
	P791	C11-5	無	楕円形	50×(32)	漏斗状	42	63.73	P620-P568 111
	P668	C12-6	無	方形	(32)×33	台形状	35	63.90	P668-P115 130
	遺跡名	分類	規 模	幅行×奥行 (m)	面積 (m ²)	土地方位	出土遺物	平面	断面 固版
	梁間・間型	1間以上×1間	(1.43)×4.67	(6.66)	N-13.5°-W				35
23号擬立柱建物	直復道構・新旧関係	#11編×27箇、#3×9×26+31+34編							
	柱穴	グリッド	柱 穴	平面形	長幅×短幅 (cm)	断面形 (深さ (cm))	断面標高 (m)	柱間・干法 (cm)	
	P725	C14-1	無	円形	29×26	V字状	55	63.74	P726-P465 117
	P465	C14-1	無	楕円形	(33)×29	漏斗状	65	63.72	P465-P589 185
	P589	C13-1	無	長方形	47×34	U字状	66	63.96	P589-P731 284
	P731	C12-1	無	方形	31×31	U字状	49	63.69	P731-P781 99
	P781	C2-5	無	不規形	(21)×24	U字状	51	63.61	P589-P740 124
	P740	C6-5, C13-1	無	方形	22×19	漏斗状	34	63.86	
	遺跡名	分類	規 模	幅行×奥行 (m)	面積 (m ²)	土地方位	出土遺物	平面	断面 固版
	梁間・間型	2間以上×1間	(4.18)×9.52	(41.66)	N-19°-W				36
24号擬立柱建物	直復道構・新旧関係	#17×25+29+36+33箇、#1上、19+20+23箇、#1+9×10+18+26+28+31+32+34+36編							
	柱穴	グリッド	柱 穴	平面形	長幅×短幅 (cm)	断面形 (深さ (cm))	断面標高 (m)	柱間・干法 (cm)	
	P601	D12-2	無	楕円形	(26)×(22)	漏斗状	(20)	63.88	P701-P783 229
	P682	D12-2	有(155)	不規形	86×67	台形状	45	63.60	P480-P534 173
	P634	D12-3	無	円形	62×(48)	漏斗状	50	63.63	P634-P449 183
	P449	D12-4	無	円形	37×36	漏斗状	24	63.80	P449-P720 207
	P720	D13-3+4-4	無	不規形	(84)×(70)	台形状	48	63.65	P720-P531 190
	P531	D11-3	無	楕円形	(72)×66	漏斗状	(41)	63.75	P531-P534 176
	P534	D11-2	有(156)	椭円形	(66)×(62)	半円形	40	63.70	P534-P555 211
	P555	D11-1	有	円形	(60)×(52)	漏斗状	22	63.79	P534-P483 288
	P718	D14-1	無	円形	(61)×(58)	半円形	(20)	63.73	P718-P704 173
	P704	D14-2	無	不規形	66×43	漏斗状	28	63.78	P704-P442 192
	P742	D14-3	有(154)	不規形	(72)×(41)	漏斗状	45	63.86	P742-P796 187
	P795	D13-3	無	方形	14×13	台形状	47	64.30	P795-P534 186
	P790	C14-3+4-4	無	円形	27×27	U字状	72	63.78	P790-P588 166
	P588	C14-3	無	不規形	50×34	漏斗状	46	63.89	P588-P562 155
	P562	C14-2	有(157)	円形	(36)×32	U字状	79	63.71	P562-P534 311
							P483-P704 349		
							P634-P531 364		
							P531-P588 362		
							P720-P790 336		
	遺跡名	分類	規 模	幅行×奥行 (m)	面積 (m ²)	土地方位	出土遺物	神 國 平面 断面 固版	
25号擬立柱建物	梁間・間型	3間×2間	6.06×5.78	35.03	N-17°-W				38
	直復道構・新旧関係	(9)+12編×29編、#17+24+29+31編、#3+16+21+22+28+32+35編							
	柱穴	グリッド	柱 穴	平面形	長幅×短幅 (cm)	断面形 (深さ (cm))	断面標高 (m)	柱間・干法 (cm)	
	P706	C13-3	無	円形	35×(32)	U字状	61	63.71	P706-P432 370
	P432	C14-2+4+3+5+2+5-3	無	楕円形	36×30	漏斗状	63	63.67	P432-P532 209
	P532	C15-2+3-5-D12-1+2-1-3	無	方形	(40)×(32)	漏斗状	38	63.79	P532-P538 161
	P708	C13-3-D11-1-3	有(158)	椭円形	(43)×36	漏斗状	31	63.97	P708-P496 229
	P496	C15-4-D11-1-4	有(159)	椭円形	52×34	台形状	34	63.75	P496-P512 228
	P512	C45-1	有(160)	不規形	(19)×(18)	漏斗状	16	64.11	P512-P524 179
	P524	C14-4+4-3-C44-1+5-1	無	円形	(28)×(25)	台形状	18	64.04	P524-P519 306
	P519	C12-3+3-C42-1+3-1	無	円形	(30)×(32)	漏斗状	50	63.68	P519-P787 252
	P787	C12-4	無	不規形	21×19	漏斗状	24	64.10	P787-P595 216
	P595	C12-3+3-3	無	長方形	52×(32)	漏斗状	42	63.82	P595-P706 161

道橋名	分類	規 模	軒行×梁行(m)	面積(㎡)	主軸方位	台上遮物			補 面 高 度 等級 平面 遮面 高級
						柱	梁	柱	
梁間・頭型 重複道橋・新山関係	1間以上×1間	(3.12)×2.87	8.95	N-12.5°-E					39 39
柱 穴	グリッド	柱 根	平面形	長軸×短軸(cm)	断面形	深さ(cm)	底面標高(m)	柱間寸法(cm)	
26号橋 立柱建 物	P425	Cf4-1	無	円形	(220)×(360)	箱状	72	63.57	P425-P454 222
	P454	Cf4-2-5-2	有(16)	楕円形	60×36	円筒状	39	63.68	P454-P452 70
	P452	Cf4-2-5-2	無	方形	48×38	円筒状	26	64.06	P452-P902 128
	P902	Cf4-2	無	円形	(30)×(280)	V字状	43	63.95	P902-P680 158
	P640	Cf3-2	無	不整形	41×36	円筒状	19	64.19	P640-P577 83
	P577	Cf3-1-3-2	無	方形	(380)×(230)	U字状	63	63.76	P577-P666 198
	P666	Ce3-5, Cf3-1	無	円形	(42)×(360)	箱状	42	63.74	
道橋名	分 類	規 模	軒行×梁行(m)	面積(㎡)	主軸方位	台上遮物			補 面 高 度 等級 平面 遮面 高級
梁間・頭型 重複道橋・新山関係	2間×2間	6.26×4.03	25.23	S-24°-W		被成駒上端(92)			40 40
柱 穴	グリッド	柱 根	平面形	長軸×短軸(cm)	断面形	深さ(cm)	底面標高(m)	柱間寸法(cm)	
27号橋 立柱建 物	P403	Bf4-2	無	円形	50×47	円筒状	33	63.97	P403-P788 343
	P788	Bf4-4	無	円形	38×36	箱状	34	63.98	P788-P722 260
	P732	Bf3-4	無	不整形	(82)×(36)	U字状	43	63.87	P732-P427 199
	P427	Bf2-4	無	円形	(56)×(36)	箱状	42	63.80	P427-P549 323
	P510	Bf2-2	無	円形	(37)×(34)	箱状	(20)	63.74	P510-P625 265
	P625	Bf2-1	有(162)	楕円形	(220)×(24)	箱状	(11)	63.88	P625-P749 188
	P349	Bf2-1-3-1	無	不整形	(36)×(48)	円筒状	31	63.99	
道橋名	分 類	規 模	軒行×梁行(m)	面積(㎡)	主軸方位	台上遮物			補 面 高 度 等級 平面 遮面 高級
梁間・頭型 重複道橋・新山関係	2間×2間	5.33×4.75	25.32	S-18.5°-W		戸戸美濃橋(18)			41 41
柱 穴	グリッド	柱 根	平面形	長軸×短軸(cm)	断面形	深さ(cm)	底面標高(m)	柱間寸法(cm)	
28号橋 立柱建 物	P460	Cf3-1-3-2	無	不整形	(128)×(440)	V字状	64	63.70	P460-P768 220
	P658	Cf4-1	無	不整形	44×29	円筒状	42	63.94	P658-P541 251
	P541	Cf5-1	無	楕円形	(160)×(43)	U字状	58	63.67	P541-P487 272
	P487	Cf5-3	無	楕円形	(99)×(59)	箱状	42	63.84	P487-P714 261
	P714	Cf5-1	無	円形	(120)×(18)	台形状	30	63.91	P714-P670 260
	P670	Cf4-4	無	円形	21×19	台形状	37	63.90	P670-P594 215
	P554	Cf2-4-3-4	無	不明	(13)×(24)	測量状況	68	63.67	P554-P705 231
	P705	Cf2-3-3-3	無	楕円形	(68)×(29)	台形状	36	63.87	P705-P462 249
道橋名	分 類	規 模	軒行×梁行(m)	面積(㎡)	主軸方位	台上遮物			補 面 高 度 等級 平面 遮面 高級
梁間・頭型 重複道橋・新山関係	2間以上×2間	(4.24)×6.32	(26.80)	S-19°-W		肥前海源橋(16), 前海源橋(16)			42 42
柱 穴	グリッド	柱 根	平面形	長軸×短軸(cm)	断面形	深さ(cm)	底面標高(m)	柱間寸法(cm)	
29号橋 立柱建 物	P345	Bf4-1	無	円形	41×37	円筒状	60	63.48	P345-P567 217
	P367	Bf4-3	無	方形	(66)×(32)	台形状	39	63.97	P367-P722 361
	P727	Bf2-2-2-3	無	楕円形	(66)×(24)	台形状	41	63.65	P727-P553 276
	P553	Cf4-5	無	楕円形	(69)×(46)	U字状	48	63.71	P553-P473 240
	P473	Bf1-1-1-2	無	楕円形	73×(44)	U字状	60	63.60	P473-P723 188
	P723	Bf1-1	無	楕円形	(64)×(15)	箱状	51	63.70	
道橋名	分 類	規 模	軒行×梁行(m)	面積(㎡)	主軸方位	台上遮物			補 面 高 度 等級 平面 遮面 高級
梁間・頭型 重複道橋・新山関係	3間以上×2間	4.90×4.64	22.74	S-49.5°-E		戸戸美濃橋(18)			43 43
柱 穴	グリッド	柱 根	平面形	長軸×短軸(cm)	断面形	深さ(cm)	底面標高(m)	柱間寸法(cm)	
30号橋 立柱建 物	P484	Bf1-3	無	円形	58×(50)	箱状	43	63.79	P484-P730 225
	P370	Bf2-3	無	円形	27×25	箱状	21	64.00	P370-P720 154
	P326	Bf3-3	無	円形	31×31	箱状	30	64.00	P326-P766 212
	P366	Bf4-3	無	円形	31×29	U字状	40	63.89	P366-P720 237
	P389	Bf4-4	無	方形	21×21	台形状	24	63.98	P389-P713 228
	P313	Bf4-5	無	椭円形	21×16	台形状	26	64.08	P313-P753 192
	P753	Bf3-5	無	円形	(31)×(31)	円筒状	22	63.87	P753-P731 55
	P311	Bf2-5	無	円形	20×18	U字状	38	63.97	P311-P781 104
	P381	Bf2-5	無	円形	30×(23)	U字状	46	63.80	P381-P484 223
	P409	Bf1-4	有(163)	楕円形	(72)×61	台形状	39	63.87	
道橋名	分 類	規 模	軒行×梁行(m)	面積(㎡)	主軸方位	台上遮物			補 面 高 度 等級 平面 遮面 高級
梁間・頭型 重複道橋・新山関係	3間以上×2間	(5.61)×4.48	(25.13)	S-24.5°-E		肥前海源橋(16)			44 44
柱 穴	グリッド	柱 根	平面形	長軸×短軸(cm)	断面形	深さ(cm)	底面標高(m)	柱間寸法(cm)	
31号橋 立柱建 物	P584	Bf1-1	無	円形	(48)×(40)	台形状	(31)	63.95	P584-P439 367
	P439	Bf2-3	無	円形	(34)×(31)	箱状	29	63.75	P439-P530 220
	P530	Cf5-3	無	楕円形	(49)×(32)	台形状	46	63.85	P530-P451 219
	P451	Cf4-3	無	方形	34×34	U字状	46	63.85	P451-P561 182
	P561	Cf4-2	無	長方形	40×31	台形状	44	63.89	P561-P453 179
	P453	Cf4-1	無	円形	44×42	台形状	45	63.88	P453-P786 (202)
	P746	Ce4-5, Cf4-1	無	楕円形	(52)×(27)	台形状	64	63.79	P746-P436 208
	P436	Cf5-1	無	円形	30×25	箱状	59	63.73	P436-P584 245

遺構名	分類	規 模	断行×蒙行 (m)	面積 (m ²)	土壁方位	出土遺物			辨 国 平面 断面 圆版		
						断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間寸法 (cm)		
32号帳立柱建物	梁間・間型	2間以上×2間	5.41×2.22	12.01	N-5°-E					45	45
	直轄道構・新旧間隔	(22+23底)×3+9+10+17+18+24+25+27+30+31+33底立+20露									
	柱 六	グリッド	柱 細	平面形	長幅×短幅 (cm)	断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間寸法 (cm)		
	P550	Cf4-5	無	円形	24×22	平円状	18	64.21	P550-P791_364		
	P791	Bf1-3	無	円形	23×20	U字状	24	63.99	P791-P544_176		
	P544	Bf2-3	無	円形カ	(180×(23))	台形状	27	63.90	P544-P447_221		
33号帳立柱建物	F447	Bf2-4	有(164)	円形カ	(380×(36))	台形状	33	63.74	P447-P730_195		
	F430	Bf1-4	無	円形	34×32	台形状	32	63.90	P430-P661_254		
	F661	Cf4-4+4-5	無	橢円形	29×21	台形状	24	64.07	P661-P550_244		
	遺構名	分類	規 模	断行×蒙行 (m)	面積 (m ²)	土壁方位	出土遺物			辨 国 平面 断面 圆版	
	梁間・間型	2間以上×2間	(4.62)×3.20	(14.76)	N-22°-W					46	46
	直轄道構・新旧間隔	(47+1+23底)×(24幅+48+18露)+3+4+10+18+27+29+30+36露									
34号帳立柱建物	柱 六	グリッド	柱 細	平面形	長幅×短幅 (cm)	断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間寸法 (cm)		
	P582	Bf4-1+4-2	無	橢円形	60×43	台形状	64	63.57	P582-P529_275		
	P529	Bf4-3	有(165)	橢円形	69×55	露状カ	68	63.71	P529-P525_141		3
	P525	Bf3-3	無	円形カ	(400×37)	台形状	24	64.03	P525-P586_182		36
	P586	Bf2-3	有(167)	橢円形	79×46	台形状	34	63.99	P586-P551_246		4
	P551	Bf2-2	有(166)	橢円形	74×54	台形状	54	63.85	P551-P782_214		
35号帳立柱建物	P782	Bf1-2	無	橢円形カ	(300×27)	平円状カ	(100)	63.82			
	遺構名	分類	規 模	断行×蒙行 (m)	面積 (m ²)	土壁方位	出土遺物			辨 国 平面 断面 圆版	
	梁間・間型	1間以上×2間	(3.37)×7.36	25.14	N-32°-W					47	47
	直轄道構・新旧間隔	(31+17+29底)×(49+20+31露)+3+4+10+18+24+26+31底露									
	柱 六	グリッド	柱 細	平面形	長幅×短幅 (cm)	断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間寸法 (cm)		
	P710	Bf1-2	無	橢円形カ	(45)×(41)	張状	14	64.14	P710-P569_348		
36号帳立柱建物	P569	Cf3-2	無	円形	53×46	露状	71	63.61	P569-P645_172		
	P645	Cf2-2+3-2	無	円形	22×20	断段状	53	63.82	P645-P698_161		
	P698	Cf2-2	無	円形	46×44	V字状	52	63.53	P698-P607_251		47
	P607	Ce1-Cf1-1	無	橢円形	(80)×(58)	台形状	57	63.48	P607-P780_(283)		
	P780	Ce2-5	無	円形カ	(11)×(18)	U字状	32	63.79	P710-P540_68		
	P540	Cf5-1	無	橢円形カ	(26)×(22)	U字状カ	(26)	63.82			
37号帳立柱建物	遺構名	分類	規 模	断行×蒙行 (m)	面積 (m ²)	土壁方位	出土遺物			辨 国 平面 断面 圆版	
	梁間・間型	2間以上×2間	3.86×3.44	13.28	S-6°-W					48	48
	直轄道構・新旧間隔	(21)底立+20+22+29露)+3+9+17+24+25+28+30+32露立									
	柱 六	グリッド	柱 細	平面形	長幅×短幅 (cm)	断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間寸法 (cm)		
	P548	Cf5-3	無	橢円形	50×37	台形状	29	63.93	P548-P438_344		
	P438	Bf1-3+2-3+4+2-4	無	円形	34×30	台形状	(29)	63.81	P438-P287_189		
38号帳立柱建物	P287	Bf1-4	無	橢円形	(39)×(32)	台形状	40	63.85	P387-P493_198		
	P493	Bf1-5	無	不要形	61×(32)	V字状	(38)	63.83	P493-P286_325		
	P528	Cf4-5	無	円形カ	(31)×(30)	U字状	(55)	63.78	P528-P547_224		
	P547	Cf5-4	有	円形カ	(35)×(33)	U字状	50	63.71	P547-P448_179		
	遺構名	分類	規 模	断行×蒙行 (m)	面積 (m ²)	土壁方位	出土遺物			辨 国 平面 断面 圆版	
	梁間・間型	2間以上×2間	7.20×2.88	20.74	S-60°-E					49	49
39号帳立柱建物	直轄道構・新旧間隔	(20)底立+48上+16+17露)+3+9+18+露+3+4+18+24+27+30+33露立+1底									
	柱 六	グリッド	柱 細	平面形	長幅×短幅 (cm)	断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間寸法 (cm)		
	P502	Bf2-2+3-2	無	橢円形	33×27	台形状	32	63.95	P502-P519_186		
	P519	Bf3-2	無	橢円形	22×(16)	台形状	30	64.01	P519-P544_185		
	P544	Bf4-1+4-2	無	円形	24×20	断段状	37	63.94	P544-P507_392		
	P507	ET1-1	無	橢円形	42×35	断段状	19	64.05	P507-P288_151		
40号帳立柱建物	P288	ET1-2	無	円形	39×36	断段状	28	64.03	P288-P299_138		
	P299	ET1-2	無	橢円形	26×18	台形状	35	63.90	P299-P282_385		
	P362	ET4-3	無	長方形	34×26	V字状	(33)	63.83	P362-P423_212		
	P423	BT3-3+4-3	無	円形	35×30	露状カ	(26)	63.83	P423-P532_133		
	P532	Bf3-3	無	方形	31×28	U字状	49	63.83	P532-P527_141		
	P527	Bf3-2	無	円形	36×36	断段状	61	63.70	P327-P502_141		
41号帳立柱建物	P505	Bf4-2	無	円形	36×33	平円状	25	64.07	P505-P506_143		
	P528	Bf3-2	無	橢円形	48×33	台形状	23	64.09	P305-P282_129		
										P319-P288_140	
										P328-P423_137	
										P305-P288_191	
										P328-P227_140	
42号帳立柱建物	遺構名	分類	規 模	断行×蒙行 (m)	面積 (m ²)	土壁方位	出土遺物			辨 国 平面 断面 圆版	
	梁間・間型カ	2間以上×間 (G3上)	(5.83)×(2.45)	13.428	N-57.5°-E					50	50
	直轄道構・新旧間隔	(G3上)									
	柱 六	グリッド	柱 細	平面形	長幅×短幅 (cm)	断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間寸法 (cm)		
	P212	ET5-1	無	円形	19×19	台形状	(23)	64.08	P212-P216_309		
	P216	ET5-2	無	橢円形	23×(16)	台形状	13	64.17	P216-P221_276		50
43号帳立柱建物	P221	ET2-2	無	円形	22×20	台形状	10	63.93	P221-P269_148		
	P269	ET2-1	無	円形カ	(31)×(26)	V字状	(17)	63.90			50

豊穴建物

遺構名	平面形態	長軸×短軸 (m)	面積 (m ²)	主軸方位	開口遺構	出土遺物		横断面 平面	写真 断面
						直角形 (20)	中世土器器皿片、珠圓片口跡片		
1号櫛穴 建物	方形	3.23×3.09	9.98	5°21'~8'					
	直角造道・新旧関係	3.3×2.46	8.1	4°10'~27°36'0.0°~20°45'				51	51 4
	柱穴	グリッド	柱板	平面形	長軸×短軸 (cm)	断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間寸法 (cm)
	P361	B14-3	無	不整形	42×35	台形状	25	63.94	P361-P363 94
	P363	B15-3	無	楕円形	34×27	台形状	34	63.79	P363-P362 147
	P360	B15-3	無	円形か	(14)×(13)	台形状か	53	63.90	P362-P362 229
	P622	B14-4	無	楕円形	20×16	U字形状	27	63.87	P367-P362 110
	P392	B15-4	無	円形か	(22)×(26)	U字形状	125	63.79	P392-P362 114
	P667	B15-4	無	円形か	(21)×(18)	台形状か	34	63.83	P622-P361 218

括列

遺構名	長さ (m)	主軸方位	開口遺構	直角造道・新旧関係			出土遺物	横断面 平面	写真 断面
				②層	直角形	深さ (cm)			
1号櫛穴 建物	5.41	N 20°~8'						52	52 2
	柱穴	グリッド	柱板	平面形	長軸×短軸 (cm)	断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間寸法 (cm)
	P1	B03-2+3-3	無	円形	39×37	U字形	58	63.46	P1-P56 190
	P55	B03-3+4-4	無	楕円形	39×26	台形状	33	63.73	P55-P19 185
	P9	B03-4	無	不整形	44×36	台形状	38	64.23	P9-P11 170
	P11	B03-5	無	円形か	34×129	台形状	64	63.48	
遺構名	長さ (m)	主軸方位	開口遺構	直角造道・新旧関係			出土遺物	横断面 平面	写真 断面
2号櫛穴 建物	4.30	N 22.5°~8'						52	52 2
	柱穴	グリッド	柱板	平面形	長軸×短軸 (cm)	断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間寸法 (cm)
	P10	B03-3	無	円形	(32)×(27)	台形状	34	63.71	P10-P13 211
	P13	B03-3	無	楕円形か	(42)×34	台形状	47	63.59	P13-P18 221
	P18	B03-2+3-3	無	不整形	50×32	台形状	30	63.74	
遺構名	長さ (m)	主軸方位	開口遺構	直角造道・新旧関係			出土遺物	横断面 平面	写真 断面
3号櫛穴 建物	8.44	N 71°~E						52	52 2
	柱穴	グリッド	柱板	平面形	長軸×短軸 (cm)	断面形	深さ (cm)	底面標高 (m)	柱間寸法 (cm)
	P756	B02-2	無	楕円形	29×26	台形状	18	64.10	P756-P108 297
	P108	B02-2+2-2	無	円形か	(28)×(24)	台形状	47	63.94	P108-P191 294
	P191	B02-2	無	円形	(32)×(26)	台形状	21	63.98	P191-P142 255
	P142	B02-2	無	円形	38×36	平底状	25	64.17	

井戸・土坑・ピット

遺構名	グリッド	平面形	剖面 (cm)			底面標高	断面形	出土遺物	直角造道・新旧関係 平面	横断面 平面	写真 断面
			長軸	短軸	深さ						
1号井戸	B02-2+2-3+3-2+3-3	楕円形	247	207	48	63.61	弧状	砾石 (102), 珠圓片口跡片	P47		4
2号井戸	B02-4-2-5+3-4-3-5+4-4-5+5	不整形	324	285	79	63.54	台形状				5
3号井戸	B03-1	円形	135	123	86	63.27	台形状				4
4号土坑	B01-5, B01-1	不整形	106	76	19	63.76	弧状				
5号土坑	B01-4-1-5+2-4-2-5	方形	146	123	25	63.94	弧状				
3号土坑	B01-5+2-5	円形	119	104	26	63.88	台形状				
4号土坑	B02-5	円形	(112)	(80)	20	63.95	台形状				
5号土坑	B03-4	楕円形か	(65)	(65)	12	64.07	弧状				
6号土坑	B02-3+2-4+3-3	不整形	147	74	13	63.84	弧状				
7号土坑	B03-3	楕円形か	66	63	8	63.97	弧状				
8号土坑	B02-1	楕円形か	(94)	(107)	35	63.76	曲面状				
9号土坑	B02-3+2-4	円形	129	(105)	24	63.76	台形状				
10号土坑	B02-3	盤形力	(86)	69	6	63.98	盤形力				
11号土坑	B01-2	楕円形	84	74	10	63.81	弧状				
12号土坑	B02-5, B02-1	円形	185	178	32	63.65	弧状				
13号土坑	B02-5, B02-1	不整形	(161)	(62)	(10)	63.77	台形状				
14号土坑	C01-4	楕円形	99	51	46	64.04	台形状				
15号土坑	C01-5	楕円形	129	63	18	64.27	弧状				
16号土坑	C02-4	盤形力	(67)	36	30	64.15	台形状				
17号土坑	C01-2+1-B01-2	円形	(77)	(63)	14	64.17	不明				
18号土坑	C05-2+5-3, B01-2+1-3	円形	191	(109)	25	64.19	台形状				
19号土坑	C02-1	楕円形か	(56)	49	(12)	64.16	台形状				
20号土坑	C02-2	円形	81	67	24	64.06	弧状				
21号土坑	C03-2	楕円形か	(61)	(63)	27	63.90	平凹状				
22号土坑	B01-5, B01-1-5	方形か	(162)	(152)	17	64.18	台形状				
23号土坑	B01-1+3+2	円形	(135)	122	23	64.19	弧状				
24号土坑	B01-1+3+1	円形	(106)	(57)	16	64.10	不明				
25号土坑	B01-1+4+1	不整形	107	57	17	64.28	台形状				
26号土坑	F02-5	楕円形	(69)	98	15	64.59	台形状				
27号土坑	B01-1+2+1-B01-1	円形か	(111)	105	53	64.27	台形状				
28号土坑	B01-2+1-3+1	円形	83	77	30	64.62	平凹状				
29号土坑	E01-3+1	円形	84	61	16	64.64	弧状				
30号土坑	E01-5	円形	98	83	18	64.22	弧状				
31号土坑	E05-2	楕円形	122	99	21	64.19	台形状				
32号土坑	E02-4+2-6	円形	95	87	15	64.30	弧状	砾石 (104), 珠圓片口跡片	P268		
33号土坑	E01-1+2-1	円形	106	(100)	15	64.05	台形状				

遺構名	グリッド	平面形	規模 (cm)			近面標高	断面形	出土遺物	重複遺構・新旧関係		神社 平面	神社 断面	写真 図版
			長さ	幅	深さ				平面	断面			
34号土坑	E1-3	長方形	600	59	7	64.41	弧状		○11頭		57	57	
35号土坑	E1-3・1・4	楕円形	80	55	12	64.42	弧状						
36号土坑	E1-2	円形	82	71	19	64.13	半円状						
37号土坑	Ea1-2・1・3・2・2・2	楕円形	212	169	17	64.34	弧状		○8上・P231・39上				
38号土坑	Ea1-2・2・2	楕円形	(248)	(195)	12	64.37	弧状		○37・39上・P280				
39号土坑	Ea1-1・1・2・2・1・2・2	不整形	363	289	15	64.32	弧状		○37・38上・P278	58	58		
40号土坑	E2-2・2・2・3・3・2・3・3・3・3・4・4・3	方形	338	290	39	65.73	弧状	瀬戸美濃花瓶(25), 磁器片 耳鉢(26), 斧口(105)	G214・P293・287				5
41号土坑	Bc5-3・5・5	楕円形	162	99	15	64.34	弧状		○227・17頭				
42号土坑	E1-3	円形	116	97	31	63.98	台形状		○9・17頭				
43号土坑	E2-2・2・3・3・3・2・3・2	楕円形	(125)	(64)	25	64.02	不明		○915・18頭				
44号土坑	E3-1	方形容	(137)	(64)	25	64.07	弧状		○19頭				
45号土坑	E1-1	長方形	(91)	(99)	33	65.97	台形状		○30上・36頭				
46号土坑	Bc3-3・3・4・4・3・3・4	不整形	157	109	8	64.14	台形状		(P258・A・10・27頭) ○P444				
47号土坑	E1-1	長方形	(202)	227	(29)	65.97	階段状	青磁瓶(27), 折沿陶器皿 (28)	○27瓶底・35・31・33 鏡(29)・34・35・36 筒形器(30)・31 783・784・198枚				
48号土坑	E1-2・3・2	長方形	(122)	(45)	16	65.95	弧状	肥前兩頭瓶(29), 越前夜甕 片	○30・36頭 ○925・19頭				
49号土坑	C1-1	不整形	(107)	(121)	49	63.79	不明	瀬戸美濃瓶(30), 肥前陶 器搖籃(31)	○34頭 ○P606 ○402・33・9頭 ○P67・4・3・3・3 ○P68・3・3・3 ○P69・1・1・1	744・745・30・31 渠口			
50号土坑	C1-2・3・3・3・3・4・4・3・4・4	長方形	278	216	31	64.09	台形状	越前搖籃(32・33), 磁器片 、須口器片	○27・785～787, 28 (渠)	60	60	8	
51号土坑	Bc2-3	不整形	94	60	12	64.27	弧状		○27・56上				
52号土坑	C1-2	方形容	68	67	22	64.11	半円状		○24瓶底				
53号土坑	E1-2-1	円形	(41)	(65)	28	64.08	半円状		○54上				
54号土坑	E1-2-1・3・1	円形	(41)	(70)	36	64.09	台形状		○55上				
55号土坑	Bc1-1・1・1・Bc1-1, E1-1・1・1・1・2・1・1 Bc1-1・1・1・1・2・1	方形容	490	(353)	42	64.29	箱狀	磁器片耳鉢(34)	○27・56上	61	61		
56号土坑	Eg2-3・3・Eg2-1・3-1	長方形	(289)	(173)	44	64.38	箱狀	瀬戸美濃綠釉小皿(35)	○28・29上・P257, ○56上				
57号土坑	G1-3	楕円形	(96)	(38)	11	64.20	弧状		○24瓶底・17上	55	55		
P284	E1-2	椭圆形容	(29)	(23)	(48)	63.70	U字状		○49上				
P426	E1-1	円形	(40)	(30)	57	65.57	U字状		○19頭				
P598	C1-2	長方形	39	21	28	65.90	U字状	青白磁片	○209・P560				
P736	C1-4	楕圓形容	(27)	(24)	(17)	64.04	台形状		○P466・734・727, ○27頭・P735				
P783	E1-1・2・1	椭圆形容	(9)	(9)	(96)	63.95	台形状		○47・1・P626				
P797	E1-2-2	円形	(29)	(29)	(13)	63.90	台形状		○22頭・P510				

溝

遺構名	グリッド	規模 (cm)			断面形	上側方位	出土遺物	重複遺構・新旧関係		神社 平面	神社 断面	写真 図版	
		長さ	幅	深さ				平面	断面				
1号溝	Bc1-5・2・5・3・5, E1-1	(69)	(64)	14	V字状		630°-E N-3°-W	若狭土師器小皿(42), 陶 器碗(129)					
2号溝	B1-1・2・1・3・1	(54)	(48)	29	V字状			肥前陶器搖籃(43)					9
3号溝	B1-1・2・1・3・1	(58)	(38)	27	階段状			N-96°-E S-66.5°-E					
4号溝	Bc1-2・2・2・2・2・3・3・3・3・4	(62)	(107)	28	半円状		S-37.5°-W	瓦質土師碗(44), 瓦(109)	○9頭, ○24上・10頭	12			6
5号溝	A15-3, B1-3・1・4・2・4・2・5	(32)	(35)	8	箱状		S-65°-E N-43°-W	肥前陶器搖籃(45)	○7・8頭				
6号溝	B1-1・3・1・4	(144)	(22)	10	V字状				○7・8頭				
7号溝	A15-3, B1-3・1・4・1・1・5	(87)	(61)	21	半円状		S-94.5°-E S-20°-W	鐵口(10)	○3, 6頭, ○9頭				9
8号溝	A15-3, B1-3・1・4・2・4・2・5	(1005)	(56)	23	階段状		S-85°-E N-24.5°-W		○5・6・7頭, ○12上・109・41				63
9号溝	C4-2・5・5-2, B1-5-5, Bc1-2・2・2・2・3・2・4・1・4・2・5・1・ 5-2, E1-3・1・4・1・4・2・2・1・2・2・2	(2611)	(76)	13	半円状			肥前陶器碗(46), 青磁碗 (47), 青白磁碗(48), 陶器 小皿(49), 磁器片(50), 陶 器碗(51), 陶器搖籃(52)	○12・16瓶底・3頭 ○42上・4・10・12・ 17頭, ○117・120・ 148・149・159・ 161・291・333, ○21上・22上				12
10号溝	C4-2・5・5-1・5-2, B1-5, B1-1・2・1・3	(1074)	(66)	35	台形状		N-1°-E N-52.5°-W	肥前陶器小皿(50), 陶器 搖籃(51), 陶器搖籃(52)	○3・3頭・751・ 782・24上・P159				6
11号溝					直・曲								
12号溝	C4-2・5・5-2	(62)	(71)	8	弧状		S-26°-W		○11頭, ○10頭				
13号溝	Bg1-1	(107)	(45)	15	弧状		S-18.5°-W	磁器片(152)	○9頭				
14号溝	Eh1-1	(156)	(85)	15	弧状		S-69°-W	土壁上頭部(63・54)	○22上				6
15号溝	E1-5・3-4, E1-1・1・2・1・3	(613)	(56)	18	弧状		S-28.5°-W S-37°-E	○266, ○34上・P266					

遺構名	グリッド	規模 (cm)			断面形	主軸方位	出土遺物	並復造橋・省却關係	補闕		写真
		長さ	幅	深さ					平面	断面	
16号溝	BT2-2・3-3	(197)	(31)	7	台形状	N-28°-E			53・36瓶底・P529・ 535		
17号溝	B15-5, Bg6-1・5-2・5-3, E1-2・1-3・1-4・1-5・2-2	(146)	(82)	10	台形状	N-4°-E N-19°-E	砾石(112), 肥前陶器瓶片		41上・9瓶・ 2・42上・29瓶・ 18・33・36瓶(7)	12	63
18号溝	BT2-3・3-3・4-3	(290)	(31)	21	階段状	N-56°-E					
19号溝	BT2-1・3-1・4-1・5-1, E1-1	(656)	(130)	35	台形状	N-70°-E	陶片口銘(52), 肥前陶器 小杯(55), 肥前陶器瓶(56), 肥前陶器盤(57), 青磁碗 片, 鮎前甕片, 粉引白(113)		(21)甕・3上・10・18・ 24・27瓶立・41・ 47・48上・20・24 甕・P419・426・612		
20号溝	C14-4・5-4, B1-4・2-4・3-4・4-4・5-2・5-3・ 5-4 E1-1・1-2・3-1・4-1	(1773)	(67)	23	台形状	N-11°-E N-59°-E	白磁盤(58), 青磁碗片, 鮎前 甕片, 肥前陶器甕蓋片		(3)・27瓶立・1瓶・ 50上・29・21・22 甕・P378・4・9・ 17・24・28・30・35 瓶立・10・25号甕・ P391・399・400・ 445・446・448・ 521・569・586・ 664・715・716・ 724・739	63・ 64	6
21号溝	E11-1・2-1	(191)	(20)	9	台形状	N-67°-E			(9)甕・10・20甕・ (47上・27甕・30甕・ 31・32・35瓶立・ 20・23甕・P359・ 393・409・421・ 428・449・495・ 504・597		
22号溝	BT2-2・2-3・2-4	(544)	(60)	20	円円状	N-29°-E	肥前陶器Oだ皿(59)		(22)甕・21・32・33 甕・P382	12	
23号溝	BT2-3・2-4	(192)	(31)	14	階段状	N-16°-E					
24号溝	BT5-2	(217)	(30)	11	台形状	N-21°-E	陶片断片		(15上・19甕・P321・ P356・P423・572 甕・20・23甕		
25号溝	BT5-2	(179)	(31)	16	円円状	N-77°-E					
26号溝	C15-1	(161)	(24)	4	台形状	N-16°-E			(3)・9・28・34瓶立		
27号溝	C12-1	(118)	(35)	9	台形状	N-49.5°-E			(17・23瓶立・31 甕・P736	64	
28号溝	BT1-2	(368)	(38)	19	台形状	N-23°-E	肥前陶器碗(60), 肥前陶器 盤(61), 肥前陶器甕片, 肥前 陶器片, 鮎前甕片		(17・24・25・29瓶 立・P413・414・ 633・22甕		
29号溝	C13-5・4-5・5-5, Cg6-1・4-1・5-1	(931)	(197)	10	弧状	N-76°-E N-13°-E			(3)・9・16・21甕・ 22・25・35瓶立・32 甕・P482・503・ 522・523・528・ 527・542・545・ 546・559・675・892		
30号溝	C1-1・1-2・1-3・2-1・2-2・2-3	(634)	(72)	6	不明	不明	肥前陶器碗(62), 肥前陶器 盤(63)		(22)甕立・31甕・ P309・P394～398		
31号溝	C1-1・1-2・1-3・2-1・2-2・2-3	(622)	(53)	16	階段状	N-76°-E N-18°-E	肥前陶器盤(64), 肥前陶 器盤(65), 斷面美濃碗・ 盖片		34瓶立・49上・27 甕・P403～405・650		
32号溝	C14-5, Cg4-1	(42)	(44)	32	台形状	N-26°-E			(3)・9甕立・29甕		

表3 遺物觀察表

土器・陶磁器

掲載番号	遺構	グリッド	層位	種類	器種	計測値(cm)	遺存度	胎土	成形・調整・焼成法	釉調	分類・時期	備考	写真用図版	
1	3瓶立 P209	Bg4-1	柱瓶	白磁 (磁建力)	瓶	11.0	—	—	口緑部 1/8(2.518/1) 底部下平口	ロクロナダーゲ外 底部下平口クラ ロケズリ	灰白色 (300/1)の透 明釉が薄くか かる	森田上野 (35世紀後 半)		
2	2瓶立 P209	Bg4-1	柱瓶	白磁 (磁建力)	瓶	—	—	—	体部1/8 底部 1/6(2.518/1)	ロクロナダーゲ外 底部下平口クラ ロケズリ	灰白色 (300/1)の透 明釉	森田上野 (35世紀後 半)		
3	3瓶立 P466	Cf2-1・ 3-1	瓶器	白磁 (肥原)	瓶	—	—	4.2	底部 底部 1/1(300/1)	高台面に朱の 陶絵、蓋付銀鉢	灰白色 (300/1)の透 明釉	大桶III期 (37世紀後 半)	体部打ち欠 き力	
4	3瓶立 P471	Cf2-3	瓶器	白磁 (肥原)	瓶器皿	—	—	—	口緑部 1/8(2.518/1)	口縁部内に各色の 陶絵と 内面に蓮弁文を 施す	ロ緑部内外に各 色の陶絵と 内面に蓮弁文を 施す	大桶II・2 期(1620～ 1640年代)		
5	9瓶立 P470	Cf2-3	瓶器	白磁 (磁建力)	小杯	—	—	—	口緑部 底部片 1/2(300/1)	口緑部 底部片	灰白色 (300/1)の透 明釉	森田上野 (36世紀)		
6	9瓶立 P259	Cf5-2	瓶器	陶器 (瀬戸 美濃)	平盤	—	—	—	口緑部片 1/3(300/2)	口緑部片 に赤い黄緑 1/3(300/2)	ロクロナダ	淡黄色 (317/2)の灰 釉	薄津 古瀬戸 戸窯(14 世紀後半 から15 世紀)	67
7	9瓶立 P255	Cf2-1	瓶器	白磁 (磁建力)	瓶底	—	—	—	口緑部片 1/2(300/1)	ロクロナダ	灰白色 (300/1)の透 明釉が厚 くかかる	森田上野 (35～16世 紀)		
8	9瓶立 P259	Cf5-2	瓶器	陶器 (肥原)	煮または蒸	—	—	24.0	体部下端 1/3、底部 1/6	透明色 (2.503/1)	底部叩き繊維、 体部下端丸帯ナ ド・内面オザ ミ、体部叩き、内 面同心円状のあ れ具板	—	大桶II期 (37世紀前 半)	
9	9瓶立 P259 17瓶立 P709	Cf5-2	瓶器	陶器 (肥原)	瓶	14.7	3.8	5.0	口緑部・ 体部1/4、 底部完全	ロクロナダーゲ 高台部削り出し、 砂目積み	灰白色 (300/1)の透 明釉	大桶II・1 期(16世紀～ 1630年代)		
10	10瓶立 P708	Br1-1	陶器 (磁建力)	天日茶碗	—	—	4.1	底部 完全	ロクロナダーゲ 底部ロクロケズリ	黒色(31.5/0) の鉄錆が厚く かかる	不明	内底面に細 かな傷跡		
11	17瓶立 P459	Cf4-4 Cf	青磁 (龍泉 窓系)	瓶	—	—	—	口緑部片 1/1(300/1)	ロクロナダーゲ 口縁部内面に蟹形 模様	灰白色 (300/8/2)	14世紀後 半以降	二次的に被 熱、内外面 の一部と破 壊面全面に 漆付着		
12	17瓶立 P459	Cf4-4 Cf	青磁 (瀬戸 美濃)	綠釉小皿	—	—	5.6	底部2/3 底部 1/3(3/2)	ロクロナダーゲ 底糸切り	オリーブ灰色 (100/6/2)の灰 釉	薄津 古瀬戸 後III期 (15世紀前 半)			
13	17瓶立 P709	Br1-2	上層	陶器 (瀬戸 美濃)	丸皿	9.8	2.3	4.3	口緑部 1/4、灰白色 底部 完全	ロクロナダーゲ 高台部削り出し、 内底面に赤い菊 花文、高台部露 胎	灰褐色 (300/4/2)の鉄 錆	薄津 大室 窯(16世紀 後半～17世 紀後半)	内面擦れ顯 著	
14	17瓶立 P734	Cf2-1	瓶器	陶器 (瀬戸 美濃)	小天日茶碗	8.8	—	—	口緑部 1/8 底部 1/6(3/7)	ロクロナダーゲ外 底部下平口 ロケズリ	ロクロナダーゲ外 底部下平口クラ ロケズリ	薄津 古瀬戸 後III期 (15世紀前 半)		
15	17瓶立 P536	Br1-1・ 1-2	中世上層 器物	小温器	—	—	—	口緑部片 1/2(300/2)	ロクロナダ	—	15世紀後 半	二次的に被 熱		
16	17瓶立 P536	Br1-1	陶器 (肥原)	箱体	—	—	10.9	体部下端 7/8、底部 完全	ロクロナダーゲ内 底8条・単位の 縦目、刻印・系切 り	鉄錆 (2.518/4/4) の鉄錆が厚く かかる	大桶I期 (16世紀末 ～17世 紀代)	内面擦れ		
17	25瓶立 P532	Br1-3	瓶器	陶器 (肥原)	瓶	—	—	7.3	底部5/8 に赤い赤褐色 (2.518/5/4)	ロクロナダーゲ 高台部削り出し、 内底面に鉄錆	オリーブ褐色 (2.518/4/4) の鉄錆	大桶II～ III期(16世 紀末～ 17世 紀代)	二次的に被 熱し、基 部に煤付着	
18	28瓶立 P467	Cf2-2 Cf	陶器 (瀬戸 美濃)	平盤	平盤	17.8	—	—	口緑部 1/8 底部 1/6(3/7)	ロクロナダ	オリーブ褐色 (300/4)の灰 釉	薄津 古瀬戸 後II期 窯業(14世 紀後業～ 15世紀前 半)		

開拓番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値(cm)			遺存度	施土	成形・調整・焼成方法	種類	分類・時期	備考	測定箇所	
						日標	路面	底標								
19	33號E P51	Bf2-2		陶器 (肥前)	壺	—	—	3.5	底部1/3	に凹、赤褐色 (1008/3)	ロクロナダーゲル 台部削り出し	灰オーライト色 (3V4/2)の灰 釉	灰II期 (16世紀後半 ~1610年 代後半)			
20	1号	Bf4-3	2層	青磁 (磁州 窓)	碗	13.8	—	—	口縁部 1/9	灰白色 (2.017/1)	ロクロナダ	オリーブ灰色 (2.360/1)の 釉が厚くかか る	土手B-II 期(14世紀 後半~15世紀 初)			
21	2井	Bg3-4	1層	陶器 (肥前)	櫛目	—	—	—	体部片	浅黄褐色 (1008/4)	ロクロナダーゲル 面模日	—	田中・木 村IV-1~ V-1期(15 世紀後半 ~16世紀 前葉)			68
22	2井	Bg4-5	1層	陶器 (肥前)	櫛目	—	—	—	体部片	灰褐色 (7.015/2)	ロクロナダーゲル 面模日	—	田中・木 村IV-1~ V-1期(15 世紀後半 ~16世紀 前葉)			8
23	3井	Bf3-1	1層	陶器 (肥戸 美濃)	天目茶碗	10.6	—	—	口縁部 1/6	灰白色 (1008/1)	ロクロナダ	灰褐色 (3V4/2)の灰 釉	藤澤・古瀬 戸後IV期 (16世紀 後半)			
24	4土	Bf2-5		磁器 (肥前)	小皿	11.8	—	—	口縁部 1/8	灰白色 (5.017/1)	ロクロナダ	透明釉が薄く かかる	大堀IV-1 期(14世紀 後半~18世 紀前葉)			
25	40土	Ef2-3	2層	陶器 (肥戸 美濃)	花瓶 (1層)	—	—	5.0	底部2/5	灰白色 (2.017/1)	ロクロナダーゲル 部外側ロクロゲ ル、回転式切 り	灰白色 (5V7/2)の灰 釉	藤澤・古瀬 戸後IV期 (16世紀 後半)			9
26	40土	Ef3-2 Cf	2層 1a層	陶器 (珠洲)	片口鉢	—	—	—	体部1/8	黄褐色 (2.316/1)	ロクロナダーゲル 面模日	—	古瀬IV期 (14世紀中 葉)	内面擦れ網 目		8
27	47土	Bf2-1	底面	青磁 (磁州 窓)	碗	—	—	—	口縁部片	灰白色 (1008/1)	ロ緑器・体調理 面に磨擦化さ れた網擦れ网 目	灰オーライト色 (7.355/2)	上田B-IV 期(13世紀 後)			
28	47土	Bf2-1		陶器 (肥前)	壺	11.3	—	—	口縁部 1/6	に凹、黄褐色 (1008/4)	ロクロナダ	に凹、黄褐色 (1008/3)の 透明釉が薄く かかる	大堀B-II~ III期(17世 紀)			
29	48土	Bf2-2 -3 -4 -5	1a層	陶器 (肥前)	瓶	11.9	7.4	4.6	口縁部 1/6、体部 1/3、底部 完全	に凹、黄褐色 (1008/2)	ロクロナダーゲル 部削り出し	灰黄色 (2.317/2)の灰 釉	大堀I期 (16世紀末 ~1610年 代前半)			
30	49土	Cf1-1		陶器 (肥戸 美濃)	瓶子	—	—	—	肩部片	灰白色 (2.317/1)	ロクロナダ	灰オーライト (7.356/2)の 灰釉	藤澤・古瀬 戸後III期 (14世紀 後)			69
31	49土	Cf1-1		陶器	櫛目	(31.7)	—	—	口縁部 1/10	黄褐色 (1008/1)	ロクロナダーゲル 面模日・單位の 櫛目	灰褐色 (7.354/2)の 鐵錆を口縁部 のみ施錆	大堀IV-1 期(14世紀 後半~18世 紀前葉)			
32	50土	Cf3-4		陶器 (肥前)	櫛目	—	—	—	体部片	灰白色 (5.017/1)	ロクロナダーゲル 面模日	—	田中・木 村IV-1~ V-1期(15 世紀後半 ~16世紀 前葉)	内面擦れ		9
33	50土	Cf3-3		陶器 (肥前)	櫛目	—	—	15.4	底部1/3	浅黃色 (2.317/3)	ロクロナダーゲル 面模日	—	田中・木 村V-2~ V-3期(16 世紀中葉 ~16世紀 後葉)	内面擦 れ網目		
34	55土	Bf2-1	1層	陶器 (珠洲)	片口鉢	—	—	11.5	底部1/2	灰白色 (2.317/1)	ロクロナダーゲル 面模日・静止系 切り	—	古瀬V~ VI期(15 世紀)	内面擦れ網 目、底日は 直底		
35	56土	Eg3-5	1層	陶器 (肥戸 美濃)	縦縞小皿	—	—	5.3	底部 完全	灰褐色 (2.317/2)	ロクロナダーゲル 底部ロクロゲル リ・回転式切 り	オリーブ灰色 (1016/2)の灰 釉	藤澤・古瀬 戸後III期 (15世紀 前葉)			
36	F12	Bc3-1 Bf	1層	陶器 (肥前)	櫛目	—	—	8.0	底部1/8	灰褐色 (7.318/1)	ロクロナダーゲル 面模日・直底 部ロクロゲル	—	大堀II期 (17世紀前 半)	内面擦 れ網目	70	
37	F52	Cg2-4		陶器 (珠洲)	壺(丁拂)主 たは裏	—	—	—	体部片	灰色(5.0/0) 長・右・骨・脛 ナデ	(外)叩き(内)2 さえ・板状工具 の木口面で板ナ デ	—	古瀬IV期 (14世紀中 葉)以前			

拓跋 番号	遺構	グリッド	層位	種別	酒種	計測値(cm)			直角度	出土	成形・調整・ 焼成・地成方法	種類	分類・時 期	備考	所蔵 写真
						口 横	底 横	高 さ							
38	P307	B65-4		陶器 (輪郭 美濃)	天日茶碗	—	—	—	体部片	灰白色 (2.817/1)	クロナダーゲ外 面全体下平口クロ ケズリ	黑色 (2.572/1)の 鉄錆	不明		
39	P358	B63-4	楕方	陶器 (肥前)	楕体	—	—	—	体部片	灰色(N5/9)	クロナダーゲ内 面全体下平口	内窓(単位の 縦目)	—	大桶Ⅱ～ 黒窓(17世 紀前半)	内面擦れ
40	P456	C15-2	青磁 (龍泉 窯系)	瓶	—	—	—	口縁部片	灰白色 (2.817/1)	クロナダーゲ口 縁部外面に灰花 文(刷れた墨文 文)	オーラーク灰色 (10H5/2)	上田C-B 窓(16世紀 代)			
41	P679	C12-5		陶器 (越前)	楕体	—	—	—	口縁部片	灰白色 (2.815/1)	クロナダーゲ内 面縦目	—	田中・木 村V層(16 世紀代)	内面擦れ	
42	12漢	B62-5	1層	古世 (子 手付)	小瓶 (子手付)	(10.2)	(1.6)	(7.0)	口縁部 1/8	こいし-銀色 (2.80K7/4)	手づくね→口縁 ナデ	—	近世後	焼成・酸化 軟質	
43	2漢	A54-1		陶器 (肥前)	瓶	—	—	4.8	底部1/2	(内) 黄灰色 (2.516/1) (外) 12.5%・銀 色(2.516/4)	削り出し台面、 底部外表面 砂目彫み	灰白色 (10H7/1)の灰 錆	大桶Ⅱ-1 窓(1610 ～1620年 FC)		
44	4漢	B62-2	1層	瓦質土器 (在地 力)	鉢	—	—	—	口縁部片	こいし-銀色 (2.817/4) ・長・金雲 多	口縁部クロナ ダグ	—	粘土接合 15世紀前 半以降	粘土接合 燒成・焼 成や小 孔、黒斑有	
45	5漢	E11-1	1層	陶器 (肥前)	楕体	—	—	—	体部片	銀色 (2.815/1)	砂目彫	—	大桶Ⅱ～ 黒窓(17 世紀代)		
46	9漢	E11-3		磁器 (肥前)	丸瓶	11.4	5.8	4.6	口縁部 1/10本 底、体部 1/4、底部 1/2	口縁部 灰白色 (2.818/1)	体部外表面に埋 文、高台面に1 束、高台面に2 束、高台面に1 束の彫刻を描。 豊作無	—	大桶IV層 前半(17 世紀前半)	透明釉	70
47	9漢	E12-3		青磁 (龍泉 窯系)	瓶	—	—	—	底部1/4	灰色(N5/6)	底台部削り出 し、内底面・高 台面彫刻	暗オリーブ色 (314/4)の釉 が厚くかかる	上田B-B 窓(14世 紀後半～ 15世紀)	高台部に重 ね焼きによ る付着物、 内底面擦れ 有	
48	9漢	B65-2	1層	陶器 (肥前)	火入れか 小瓶	—	—	—	口縁部片	黄褐色 (2.516/1)	クロナダグ	墨色	大桶Ⅰ～ 黒窓(17 世紀末～ 18世紀半)		
49	9漢	E11-4		陶器 (珠世)	壺(1種)ま たは壺	—	—	—	銅部片	灰色(N5/1) 石・長・骨多	外面部へ織方 の叩き	—	不明		
50	10漢	B61-1		陶器 (肥前)	小瓶	10.2	—	—	口縁部 1/4	黄褐色 (2.515/1)	口縁部～底上 平口クロナダグ。 体部下平口クロ ケズリ、外面部 底上平は露胎	暗オリーブ色 (314/3)の灰 錆	大桶Ⅰ層 (6世紀末 ～1610年 代後半)		
51	10漢	B13-5		陶器 (越前)	楕体	—	—	—	口縁部片	こいし-銀色 (2.817/2) ・長・6	ロクロナダーゲ内 面12束・單位の 縦目	田中・木 村V-3～ V-1層(15 世紀後 半～16世 紀前半)	内面擦れ		
52	13漢 19漢	B63-1 Bf		陶器 (珠世)	片口鉢	—	—	—	口縁部片	灰色(N5/6) 石・長・骨多	ロクロナダーゲ口 縁部底付工具の 木口面による面 取り。内面縦目	—	古岡IV層 (13世紀末 ～14世紀 半)	様日本斯須 第一次的 に被熱	
53	14漢	E11-1		中曾 土器	(手づく た)	14.4	2.1	7.6	1/4	灰褐色 (10H5/2) ・石・黑 多・金雲多	粗面によるおさ え・口縁部クロ ケズリ	—	16世紀前 半	焼成・酸化 軟質、内面 スリット付有	
54	14漢	E11-1		中曾 土器	(手づく た)	14.0	2.1	7.1	口縁部 9/10 底 底端3/4	灰褐色 (10H5/2) ・石・黑 多・金雲多	粗面によるおさ え・口縁部一体 部内面クロナダグ	—	16世紀前 半	内外面に複 数の付着物	
55	19漢	B62-1		陶器 (肥前)	小杯	—	—	—	口縁部片	こいし-銀色 (2.516/3)	ロクロナダグ	暗灰黄色 (2.814/2)の 灰錆	大桶Ⅰ層 (6世紀末 ～1610年 代後半)		
56	19漢	B62-1		陶器 (肥前)	瓶	—	—	5.0	底部 完全 高台 1/2	ロクロナダーゲ外 面全体下平口 クロケズリ、高台 部削り出し、外 面部下平口底 部彫刻	灰色 (2.516/1)の 灰錆(釉が厚く かかる)	大桶Ⅰ-2 ～II-1層 (17世紀前 半)			
57	19漢	B14-1 Af	1層 1a層	陶器 (肥前)	楕体	—	—	8.6	底部1/2	こいし-赤褐色 (2.815/3)	ロクロナダーゲ内 面7束・單位の 縦目、内面底 部削り出し	—	大桶Ⅱ層 (17世紀前 半)	様日本や衝 波、体部下 端接ぎ板	

記載番号	遺構番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値(cm)			遺存度	施土	成形・調製・ 施文・焼成方法		種類	分類・時期	備考	測定箇所	
							日標	基面	底標			内底面凹凸ノミ、高台部削り出し						
58	20漢	CF4-4		白磁 (福建)	墨	—	—	3.1	底部	灰白色 (2.3V7/1)	内底面凹凸ノミ、高台部削り出し	灰白色 (2.3V7/1)	森田B期 (15世紀前半)	—	—	—	10	
59	22漢	BF2-3		陶器 (肥前)	印皿 (菊皿)	13.4	—	—	口縁部 1/9	灰白色 (5V6/1)	ロクロナダ~凹 台部削り出し、 内底面不規則斜 入	灰白色 (5V6/1)	大體I期 (16世紀末 ~1650年 代後半)	外側に漆付 有	—	—	—	—
60	28漢	BF1-3		磁器 (肥前)	灰	丸輪	10.0	—	—	口縁部 1/8	灰白色 (10V8/2)	口縁部下と体部 下部に斜めの スリット、為より 支脚と窓を接着	灰白色 (7.3V6/1)	大橋田原 (17世紀中 ~後半)	—	—	—	9
61	28漢 F472	BF1-2		陶器 (肥前)	墨	12.4	—	—	口縁部 1/6	灰白色 (5V6/1)	ロクロナダ~凹 台部削り出し、 内底面不規則斜 入	灰白色 (5V6/2)	灰白色 (5V6/2)	大橋リーブ色 (16世紀末 ~1650年 代後半)	—	—	—	—
62	30漢	CF1-2		磁器 (肥前)	灰	—	—	3.8	底部1/3	灰白色 (3V7/1)	高台面、唇に1条の 開窓、唇に斜割 ぎ、砂目付脛	透明釉	—	大體II期 (16世紀末 ~1660年 代)	—	—	—	—
63	30漢	CF1-2		陶器 (肥前)	墨	—	—	4.3	底部1/3	灰白色 (2.3V7/1)	ロクロナダ~凹 台部削り出し、 内底面斜状斜 入、高台部削り 出し、砂目付脛	(1) 細灰白色 (10V6/1)の胸 部、(5V5/1)灰 白色、(7.3V6/2)の 灰釉	大橋IV-1 (17世紀末 ~18世紀 代後半)	—	—	—	—	
64	31漢	CF1-4		陶器 (肥前)	墨	—	—	3.9	底部1/4	黄灰色 (2.3V6/1)	ロクロナダ~凹 台部削り出し	—	—	大橋I期 (16世紀末 ~1650年 代後半)	—	—	—	71
65	31漢	CF1-4		陶器 (肥前)	搖体	—	—	—	体部唇	灰 (2.3V5/1)	ロクロナダ~内 面横目	—	—	大橋II~ III期 (16世紀末 ~17世紀 初)	内面擦れ網 有	—	—	—
66	厘	Fg+Gg	半幅	青磁 (温泉 窓系)	灰	—	—	—	口縁部 1/5	灰白色 (5V7/1)	ロクロナダ~体 部外側斜面唇 文、口縁部に砂 付着	細灰白色 (7.3V6/1)	—	上井B-II期 (14世紀 前半)	—	—	—	—
67	厘	Fg+Gg	半幅	青磁 (温泉 窓系)	灰	—	—	—	底部1/2	黄灰色 (2.3V6/1)	ロクロナダ~凹 台部削り出し	オリーブ灰色 (2.3V6/1)	上井B-I期 (14世紀 後半)	—	—	—	—	
68	厘	Ff	下幅	陶器 (瀬戸 美濃)	内光面 (6v6)	—	—	—	底部2/3	灰白色 (10V8/2)	ロクロナダ~凹 台部削り出し	黑色	森田B 大體 第4段階 前段	—	—	—	—	
69	撥凡	Bg3-1		陶器 (伝京)	煮または漬	—	—	—	胸部分	灰白色 (5V6/1)	(内) オサエ~板 ナダ(外)ロクロ ナダ	オサエ~板 ナダ	上井B-I期 (14世紀 後半)	—	—	—	10	
70	撥凡	Bf1-5		陶器 (肥前)	煮または漬	—	—	—	底面部	灰褐色 (5V8/2)	粘土和接合板、 底部に唇~底部 ナダ~体部平行 叩き、内面同心 向ひて其瓶	—	—	大體II期 (17世紀前 半)	—	—	—	—
71	撥凡	Ob		陶器 (袖中 戸または 瀬戸 美濃)	広口小盤	(7.3)	—	—	口縁部 1/9	灰褐色 (2.3V7/2)	ロクロナダ~口 端部斜割ぎ	黑色 (10V2/1)	ロクロナダ~口 端部斜割ぎ	17世紀 力	—	—	—	—
72	撥凡	Ob4-1		中世 土器	墨	15.0	—	—	口縁部 1/6	淡黃褐色 (10V8/3) 長・右・金賞	ロクロナダ	—	16世紀前 半	—	—	—	—	
73	撥凡	Ob2-2		陶器 (珠洲)	片口鉢 または壺	—	—	14.6	底部1/8	灰褐色 (5V6/6)	ロクロナダ~内 面横目	—	古窯II~ III期 (15世紀中 葉)	内面擦れ網 有	—	—	—	—
74	Ac5-2	Ia層	陶器 (珠洲)	片口鉢	—	—	—	口縁部 1/6	灰褐色 (5V6/2)	ロクロナダ~内 面横目	—	古窯VI期 (15世紀中 葉)	内面擦れ網 有	—	—	—	—	
75	Af	Ia層	青白磁 (福建 窓系)	—	—	—	—	4.4	底部1/4	灰白色 (5V6/1)	高台部削り出 し、高台内~高 台裏面、内底 面、高台部砂付 着	明オサエ~灰 褐色 (5V7/1)	森田B期 (15世紀) カ	—	—	—	72	
76	Ef	Ia層	青白磁 (瀬戸 美濃)	折縁皿	10.0	—	—	—	口縁部 1/8	灰白色 (10V8/2)	ロクロナダ	オリーブ黄色 (5V6/2)	森田E-II期 (16世紀末 ~17世紀 初)	—	—	—	—	
77	Cf	Ia層	白磁 (福建 窓系)	墨	(11.6)	—	—	—	口縁部 1/9	灰白色 (2.3V7/1)	ロクロナダ	灰白色 (5V7/1)	森田E-II期 (16世紀前 半)	—	—	—	—	
78	Cf	Ia層	青磁 (温泉 窓系)	—	—	—	—	—	口縁部 1/6	灰白色 (10V7/1)	ロクロナダ~体部 外側に熱熔化され た刻花蓮瓣文	オリーブ灰色 (5V6/1)	上井B-IV期 (15世紀 後半)	—	—	—	—	

拓跋 番号	遺 槽	グリット	層 位	種 別	遺 種	計測値(cm)			直 度	土 士	成形・調整・ 焼成・焼成方法	種 調	分類・時 期	備 考	層序	写真 番号
						口 横	路 高	底 横								
79	Cg	I a層	青磁 (肥前)	花瓶	8.8	—	—	口縁部 1/6	灰白色 (2. 317/1)	ロクロナダ	明オリーブ灰 色(5017/1)の 青磁釉	不明				
80	Cg	I a層	陶器 (船形)	直または垂	—	—	—	肩部片	こぶし彫 色(7. 5186-3)							
81	BII-2 BT	II a層	陶器 (瀬戸 美濃)	折縁皿	10.0	2.0	5.9	口縁部 1/3 底部3/4	灰白色 (10188/1)	ロクロナダ→内 面鏡面仕上げ木 口(10188/1)のケ ズリ、底面部引 り出し、底部内 外面に輪状ノブ	浅黄色 (517/3)の灰 釉	輪澤 大室 第4段階後 (11世紀 初頭前半) 以降	内底面剥 離着(墨板 力)、盤付 鉢			
82	BII-2 BT	II a層	陶器 (肥前)	皿	—	—	—	口縁部片	灰白色 (2. 317/1)	ロクロナダ→内 面鏡面仕上げ木 口(10188/1)のケ ズリ、底面部引 り出し、底部内 外面に輪状ノブ	浅黄色 (517/3)の灰 釉	明オリーブ色 (516/2)の灰 釉	大桶 I 期 G6世紀末 ~1610年 (代後半)			
83	Dg	I a層	陶器 (中国)	長胴瓶 または壺	—	—	9.0	底部1/8	灰赤色 (10184/2)	ロクロナダ	灰黄褐色 (10184/2)の 諸縫が薄くか かる	不明				
84	FT+GT	I b層	青磁 (龍泉 窓系)	瓶	—	—	—	口縁部片	灰白色 (2. 317/1)	ロクロナダ	緑灰色 (7. 5616/1)	上田B-I また12期 (15世紀前 半)				
85	FT+GT	I b層	青花 (瀬戸 窓系)	皿	8.6	2.0	5.0	1/4	灰白色 (2. 318/1)	(外)口縁部・高 台面に各1条の 網目、その間に 斜丹草文を織 く(内)口縁部に 1条、内底面に2 条の網目、十字 文支を描く。高 台部剥離ぎ	透明釉	小野染付 皿I (IV)10世 紀後半~ 16世紀前 半)	72			
86	F1	I a層	白磁 (福建)	蓋	—	—	—	銅部片	灰白色(88/0)	ロクロナダ	明オリーブ灰 色(5017/1) の透明釉	不明				
87	Gf	I b層	瓦質土器	瓦組カ	—	—	—	肩部片	灰褐色 (10185-2) 金雲・右 の	《ガキ》窯し	—	不明		10		
88	Gg	I b層	磁器 (肥前)	瓶	—	—	4.2	底部1/3	灰白色 (2. 317/1)	内底面に2条、 外底面下部に1 条、高台面に1条 の網目を描く。 豊作袖剥離ぎ	浅黄色 (2. 317/2) 変色した透明 釉が薄くかか る	大桶IV期 前半(17世 紀末~18 世紀前半)				
89	Gh	I b層	青白磁 (景德镇 窓系)	皿	—	—	—	口縁部片	灰白色 (318/1)	ロクロナダ	明緑灰色 (10171/1) の透明釉が薄く かかる	15世紀代				
90	Gh	I b層	陶器 (肥前)	皿	—	—	11.6	底部1/3 高台部 1/6	灰白色 (317/1)	ロクロナダ→高 台部削り出し。 内底面輪郭削 り、砂口積み	(内)オリーブ 灰色(1014/2) の銅錫釉(58)	大桶IV期 前半(17世 紀末~18 世紀前半)	二次的に被 熱			
91	耕 土	陶器	(高麗)	裏	(11.0)	—	—	口縁部 1/9	灰白色 (2. 317/1)	ロクロナダ、外 面口縁部下り 剥離ぎ、内底面に 三叉トナンの痕	灰白色 (317/2)の灰 釉が薄くかか る	18世紀末 ~19世紀 前半				
92	耕 土	陶器	(越後)	裏	—	—	—	口縁部片	褐灰色 (1016/1)	ロクロナダ	内外面に自然 釉がかかる	古洞IV期 (13世紀) 以降				
93	耕 土	陶器	(筑波)	裏	—	—	13.8	底部1/2	褐灰色 (318/1)	底部オサエ→外 面叩き→内面ナ ゲ	—	古洞IV期 (13世紀) 以降				
94	表 探	磁器 (肥前)	丸瓶	—	—	4.0	底部2/3 高台部 1/4	灰白色 (2. 318/1)	ロクロナダ、体 部外面に「重 刻目」文と1条の 網目を描く。豊 作袖剥離ぎ	明緑灰色 (667/1)の透 明白(6640- 1670年頃 分)	大桶II期 末~III期 (6640~ 1670年頃 分)	内面一部に 漆付有				
95	表 探	陶器 (肥前)	皿	皿	11.4	—	—	口縁部 1/7	灰黄色 (2. 317/2)	ロクロナダ	に赤い黄色 (2. 316/2)の 灰釉	大桶 I-2 ~II-1期 (17世紀前 半)	破断面の一 部に漆付有	73		
96	表 探	陶器 (肥前)	器	皿	—	—	11.2	底部1/2	こぶし彫 色(7. 5186-3)	ロクロナダ→内 面13条、外側の 縁目、刮削系切 り	—	大桶 II 期 ~III 期 (17世紀前 半)	内面一部わ ずかに擦れ	11		

土製品

編 番 号	道 橋	グリッド	層 位	種 別	器 種	計測値(cm)			重 量 (g)	着 土	成形・焼成	備 考	辨 別 等 級 版
						長 軸	短 軸	厚 さ					
97	27橋立 P427	BT2-4		土製品	焼成粘土塊	5.5	5.3	2.8	47.1	黒色 (2.512/1) 長・石・金雲 多	無化軟質	完存。	
98	P431	CF5-3		土製品	焼成粘土塊	3.8	3.0	1.7	9.4	にぶい緑 (5106/3)	無化良好	完存。	
99	尾	基下層		土製品	加工円盤	7.5	—	6.6	—	にぶい緑 (5106/3)	龍泉窯系青磁鐵 の体部を上方か ら打ちにくく	2/3残存。二次的に被焼失。高台部～ 外底面の一部端付。ロクロナダ→ 内底面1条の開裂→高台部割り出し。 にぶい緑色(5106/3)の縁が内面～ 外底面までびびり。上田B'・B' (14世紀後半～15世紀初)。高台部 焼付無し。	74 11
100	尾	4層		土製品	加工円盤	(5.9)	—	6.8	—	灰白色 (10007/2)	龍泉窯系青磁鐵 の体部を上方か ら打ちにくく	1/2残存。ロクロナダ→内底面不明開 花～高台部割り出し。緑灰色 (7.503/6/1)の縁が切欠け。高台 内に目皿。上田B'・B' (15世紀前半)	
101	Gg	16層		土製品	加工円盤	8.7	7.2	6.4	—	にぶい黄緑 (10007/2)	肥前陶器系の縁 部を上下から打 ちにくく	完存。ロクロナダ→高台部割り出 し、内底面緑色(1003/1)の縁が焼 付で開裂。外底面1条の開裂→高 台部焼付無し。高台部 砂目板。内底面垂れ縁。大 橋B'期前半(17世紀末～18世紀前 半)	

石製品

編 番 号	道 橋	グリッド	層位	器 種	用 途	計測値(cm)			重 量 (g)	遺存度	石 材	加工・使用状況	備 考	辨 別 等 級 版
						長 さ (7種)	幅 (7種)	厚 さ (底径)						
102	1井	Bg2-2		砥石	仕上砥	6.7	5.1	2.6	68.5	—	研磨岩			12
103	2井	Bg3-3	1層	砥石	中砥力	8.1	6.3	1.8	136.1	—	浅絞岩		表面の剥落 覗き	
104	32上	ET2-4	1層	砥石	中砥力	16.5	11.5	6.5	2040.0	—	浅絞岩		被熱により スズ付着	
105	40上	ET3-2		石臼	蒸臼 (下臼)	(18.2)	8.9	27.4	3290.0	1/2	閃緑岩	8条8分割の需要。側面 焼き、受底部丁寧な焼き。基 部削面は、底面小切り。 丸筒型底部にこじんこ ツリ。受底部底面焼成能 力	11	
106	P123	Cg4-1		砥石	仕上砥	9.4	3.3	1.1	67.1	—	貫石	棘波認ノコギリ痕	鳴源	75 12
107	35瓶立 P438	BT2-4		碧石 (墨石)	—	2.8	2.7	6.6	6.7	完存	貫石	全面焼き		11
108	P469	CF1-4		砥石	半砥力	7.4	3.3	0.8	44.1	—	結晶片岩			12
109	4漢	Bg2-2		石鉢	—	(15.9)	—	—	(919.0)	底部1/9	花崗閃緑岩	内面・外面部下端刃方 での小削り→外底面ノミ でのハツリ	内部被熱板	
110	7漢	BT1-3		硯	—	—	—	—	(20.9)	—	貫石	碌側面に平タガネ底力。 鋸面。底面焼れ覗き		11
111	9漢	Cg4-2	1層	砥石	牛砥	6.2	4.3	1.5	47.4	—	輝緑岩			12
112	17漢	Bg2-2		砥石	牛砥	10.9	5.8	4.5	435.4	—	輝緑岩			11
113	19漢	BT2-1		石臼	粉引臼 (下臼)	(19.0)	—	—	109.2	側面側面1/8	閃緑岩	側面ノミ状工具でのハツ リ	背面焼れ	
114	塊	Fh3-5	是下層	砥石	牛砥	8.3	5.6	3.0	179.3	—	浅絞岩	端面の一部を細かく加工	伊予吼 鳴源	76
115	CF	I-6層	砥石	仕上砥	8.1	4.2	1.1	68.1	—	貫石	端面の一部を細かく加工	背面焼れ	12	
116	FT+GF	15層		砥石	牛砥	8.5	4.8	2.7	155.5	—	浅絞岩			

鉄實

編 番 号	道 橋	グリッド	層位	鉄 種	細 分	計測値(cm)			重 量 (g)	背 面	材 質	鉄造年代	備 考	辨 別 等 級 版
						外 径	穿 徑	厚 さ						
117	3瓶立 P471	CF5-3		寛永油寶	古寛永	2.5	0.6	0.1	3.3	無文	鋼	寛永13(1636)年～ 万治2(1659)年		
118	3瓶立 P471	CF5-3		寛永油寶	古寛永	2.5	0.6	0.1	2.9	無文	鋼	寛永13(1636)年～ 万治2(1659)年		
119	3瓶立 P471	CF5-3		寛永油寶	古寛永	2.4	0.5	0.1	3.8	無文	鋼	寛永13(1636)年～ 万治2(1659)年		
120	AT	1-6層		寛永油寶	古寛永	2.4	0.6	0.1	3.1	無文	鋼	元和9(1697)年～延享 元(1744)年		
121	Bg	1-6層		寛永油寶	新寛永	2.4	0.6	0.1	2.9	無文	鋼	4(1747),明和4(1767)～ 天明元(1781)年		
122	Ff+Fr	巻頭		寛永油寶	新寛永	2.3	0.7	0.1	1.6	無文	鋼	元和9(1697)年～延享 4(1747),明和4(1767)～ 天明元(1781)年		

指標 番号	遺構	グリッド	層位	種類	組分	計測値 (cm)			重量 (g)	背面	材質	鋳造年代	備考	査定 年表	写真 図版
						外径	内径	厚さ							
123	表採			寛永寶	銅	2.5	0.6	0.2	2.9	「文」	銅	寛文8(1698)年～天和3(1703)年			
124	4トレンチ			寛永寶	銅	2.4	0.7	0.1	2.8	無文	銅	元禄9(1696)年～享和3(1743)、明和2(1767)～天明元(1781)年	77	11	

金属製品

指標 番号	遺構	グリッド	層位	器種	用意	計測値 (cm)			重量 (g)	遺存度	材質	製作方法・使用状況	備考	査定 年表	写真 図版
						長さ (口幅)	幅 (高さ)	厚さ (底径)							
125	櫻丸	CG1-4		通寶	板	6.4	0.4~ 1.0	0.2~ 1.0	4.1	完存	真鍮	真鍮の板を筒状に丸めて接着。口元部分彫み痕の凹み	77	11	

木製品

指標 番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値 (cm)			遺存度	木取り	材質	加工・技法・文様	備考	査定 年表	写真 図版
						長さ (口幅)	幅 (高さ)	厚さ (底径)							
126	9.上	BE2-3		木製品	下駄	(13.7)	(5.7)	2.9	1/2	板目	スギ	遺棄下駄	樹種同定試料No.1		
127	9.上	BE2-3		木製品	舟歎	(18.7)	3.7	0.6	下駄欠	板目	—	底面、上部・右側面に孔あり	樹種同定試料No.2		
128	21上	CG3-2		木製品	下駄	(14.0)	7.7	3.0	後脚欠	板目	モクレン属	遺棄下駄。趾先使用による摩耗あり			
129	1漢	Be2-5		木製品	通御桿	—	(2.1)	(5.6)	底面1/2	楓木取り	—	外面部に赤色漆面有			
130	川86	Ge2-2	中層	木製品	通御柵	(10.1)	(3.1)	(3.9)	1/6	楓木取り	—	外面部に赤色漆面を施す。			
131	川86	F7	中層	木製品	通御桿	—	(0.8)	(5.6)	底脚	楓木取り	—	底面黒色の文様あり。		78	
132	川路	Fg・Gg	中層	木製品	通御桿	—	(1.1)	5.2	底部	楓木取り	—	外面部に黑色漆を施す。 内面部に赤色漆の文様あり			
133	履	Fb	足下層	木製品	不明	14.1	3.6	0.8	完形	板目	—	舟物の舟形か、2カ所所あり。右側面切り込み複数あり			
134	—	Bg5-3		木製品	通御柵	(10.4)	—	(2.90) 高台部欠	楓木取り	—	—	外面部に赤色漆を施す。			
135	I瓶立 P33	BE2-4		木製品	柱	(33.8)	12.8	10.8	上部欠	丸木取り	コナラ風コナラ 漆	底面チョウナによる粗い 削り	樹種同定試料No.3、放射性炭素年代測定試料No.3		
136	I瓶立 P26	BE2-4		木製品	柱	(38.8)	13.6	10.4	上部欠	丸木取り	コナラ風コナラ 漆	表面多角形に削り取り、 底面チョウナによる粗い 削り	樹種同定試料No.4、放射性炭素年代測定試料No.4		
137	I瓶立 P45	BE2-5+ Bg2-1		木製品	柱	(17.7)	5.7	4.0	上部 上半欠	偏くカン割	—	底面二方向から斜めに削 り出し			
138	2瓶立 P767	Cg2-4		木製品	柱	(17.5)	13.2	12.1	上部欠	丸木取り	カキノキ属	底面チョウナにより水平 に削り出し。	樹種同定試料No.2、放射性炭素年代測定試料No.24		
139	3瓶立 P200	BE4-4		木製品	柱	(38.6)	18.8	17.0	上部欠	丸木取り	コナラ風コナラ 漆	表面多角形に打ち削り、 底面チョウナによる粗い 削り	樹種同定試料No.5、放射性炭素年代測定試料No.5		
140	3瓶立 P256	CG5-1		木製品	柱	(46.6)	31.8	34.4	上部欠	丸木取り	クリ	底面チョウナにより逆蓮 形状に削り出し、下半部 チョウナ削り	樹種同定試料No.8、放射性炭素年代測定試料No.8		
141	3瓶立 P450	CG5-5		木製品	柱	(21.3)	22.8	16.5	上部欠	丸木取り	クリ	底面水平に作出すが、 加工痕不分明	樹種同定試料No.13、放射性炭素年代測定試料No.13		
142	3瓶立 P496	CG5-5		木製品	板材	22.9	9.8	3.8	完存	板目	—	下端木の底チョウナによる 粗い削り、下端木口面・右側端面ノコギリによる切削痕、上端・下端 チョウナ削り、左木端面 チョウナ削り後ノコギリ			
143	3瓶立 P496	CG5-5		木製品	板材	14.6	7.4	3.8	完存	浅打板目	—	上下木の面・左木端面ノコギリによる粗い削り、上端木端面 下端木端面ノコギリによる粗い削り、左木端面ノコギリによる粗 い削り後チョウナ仕上げ、ヤリゴンナ仕上げ			

規格番号	道 構	グリッド	部位	種 別	器 種	計測値 (cm)			遺存度	木取り	材 質	加工・技法・文様	備 考	辨別	等級
						高さ (74種)	幅 (高さ)	厚さ (底径)							
144	3瓶立 P553	CT4-5		木製品	柱	(30.6)	25.0	23.2	上部欠	丸木取り	クリ	底面～下端部チョウナにより二方向から削り出し	研種同定試料No21, 放射性炭素年代測定試料No12	79	13
145	3瓶立 P543- 9瓶立 P639	CT5-4		木製品	柱	(27.9)	9.6	5.4	上部欠	偏平削	—	底面ノコギリによる切削痕、下下ノミ状工具による抉りが下下2箇所	中央部炭化		
146	3瓶立 P543- 9瓶立 P639	CT5-4		木製品	柱	(28.1)	9.8	7.0	上部欠	芯去くカン削	—	底面ノコギリによる切削痕、下下ノミ状工具による抉りが下下2箇所			
147	9瓶立 P559	CT5-2		木製品	柱	(52.4)	32.0	32.2	上部欠	丸木取り	クリ	底面チョウナにより逆台形状に削り出し、下部平にノミ状の穴フリ穴を留つ	底面・上部工具着、研種同定試料No9, 放射性炭素年代測定試料No12	44	
148	10瓶立 P554 3	BT1-2*1- 3		木製品	柱	(17.5)	3.9	4.5	上部欠	削り出し	—	下端部西方向から削り出し	端部炭化		
149	16瓶立 P65	Cg3-4		木製品	柱	(32.6)	4.7	4.3	上部平 一端欠	丸木取り	—	下端部多方向から削り出し		80	
150	17瓶立 P459	CT5-4		木製品	柱	(25.7)	19.3	21.2	上部欠	丸木取り	クリ	底面チョウナにより二方向からV字状に削り出し	底面・上部工具着、研種同定試料No15, 放射性炭素年代測定試料No16	44	
151	17瓶立 P556	BT1-2		木製品	柱	(35.8)	19.0	19.4	上部欠	丸木取り	クリ	底面チョウナにより一方からV字状に削り出し	研種同定試料No20, 放射性炭素年代測定試料No20		
152	18瓶立 P522	BT3-3		木製品	柱	(8.4)	14.5	16.1	底部のみ	芯去くカン削	—	底面水平に作出するが、加工痕不明瞭			
153	18瓶立 P514	CT2-4		木製品	柱	(15.5)	8.7	7.2	上部欠	芯去くカン削	—	底面チョウナによる粗い削り後、チョウナによる削め削り出し		13	
154	24瓶立 P442	BT4-3		木製品	柱	(60.4)	22.2	17.6	上部・ 内部欠	ミカン削	クリ	底面チョウナによる細め削り出し	研種同定試料No12, 放射性炭素年代測定試料No12		
155	24瓶立 P483	BT2-2		木製品	柱	(10.8)	17.8	12.2	底部 のみ	平削	クリ	表面チョウナにより二方向から削り出し、底面ナット側に粗く削り出す	研種同定試料No16, 放射性炭素年代測定試料No16		
156	24瓶立 P534	BT1-2		木製品	柱	(27.6)	21.8	21.6	底部 のみ	丸木取り	クリ	底面チョウナにより二方向から削り出し	研種同定試料No19, 放射性炭素年代測定試料No19		
157	24瓶立 P562	CT4-2		木製品	柱	(17.1)	20.0	14.6	底部 のみ	丸木取り	クリ	チョウナにより下端部を斜めに、底部を二方向から斜めに削り出す	研種同定試料No22, 放射性炭素年代測定試料No22	81	14
158	25瓶立 P588	CT5-3		木製品	柱	(34.6)	20.8	20.6	上部欠	丸木取り	クリ	底面チョウナによる粗い削り	研種同定試料No11, 放射性炭素年代測定試料No11		
159	25瓶立 P596	BT1-4		木製品	柱	(31.6)	30.0	22.6	上部欠	丸木取り	クリ	底面水平に作出するが、加工痕不明瞭	研種同定試料No17, 放射性炭素年代測定試料No17		
160	25瓶立 P512	Bq1-1		木製品	柱	(9.4)	20.1	14.1	底部 のみ	偏ミカン削	クリ	底面チョウナによる粗い削り	研種同定試料No18, 放射性炭素年代測定試料No18		
161	26瓶立 P554	CT5-2		木製品	柱	(17.3)	22.4	14.1	上部欠	偏ミカン削	クリ	底面チョウナにより水平に粗い削り出し	研種同定試料No14, 放射性炭素年代測定試料No14	82	

掲載番号	道 横	グリッド	層位	種 別	器 種	計測値 (cm)			遺存度	本数り	材 質	加工・技法・文様	備 考	査定	写真用紙
						長さ (口径)	幅 (高さ)	厚さ (底径)							
162	27瓶立 P625	BE2-1		木製品	柱	(22.4)	11.7	11.2	上部欠	丸木取り	クリ	底面をチョウナによりV字状に削り出す	樹種同定試料No25、放射性炭素年代測定試料No23	14	
163	28瓶立 P499	BE2-4		木製品	柱	(12.6)	11.9	9.3	底部のみ	偏平削	—	底面削り出し。			
164	29瓶立 P447	BE2-4		木製品	柱	(12.2)	6.0	5.8	底部のみ	芯去ミカン削	—	下端部四方向から粗い削り出し			13
165	33瓶立 P229	BE4-3		木製品	柱	(28.5)	18.9	18.0	上部欠	丸木取り	コナラ風コラセ	底面チョウナによる粗い削り、下端部チョウナ削り後ノミによりV字状のスプリ穴を穿つ	樹種同定試料No25、放射性炭素年代測定試料No6		
166	33瓶立 P251	BE2-2		木製品	柱	(26.1)	17.8	15.5	上部欠	芯去ミカン削	クリ	底面チョウナによる粗い削り、下部チョウナ削り	底面一部砂付削り、樹種同定試料No7、放射性炭素年代測定試料No7		
167	33瓶立 P286	BE2-3		木製品	柱	(14.1)	20.3	15.6	底部のみ	偏平削	クリ	底面チョウナによる粗い削り	底面一部上り仕上げ削り、樹種同定試料No10、放射性炭素年代測定試料No10		
168	P284	ET2-2		木製品	柱丸	(19.2)	7.7	4.6	上部欠	芯去ミカン削	—	底面チョウナによる粗い削り、下端部の一部をチョウナによる削り出し			
169	P479	CT5-2		木製品	材	(18.9)	8.4	2.9	完存カ	流れ板目	—	下端木口面チョウナによる粗い削り、下端側面チョウナ削り			
170	P521	CZ2-4		木製品	材	17.6	12.8	4.6	完存カ	板目	—	上下木口面にチョウナによる粗い削り			
171	P521	CZ2-4		木製品	材	(12.5)	14.0	5.2	上部欠	流れ板目	—	下端木口面チョウナによる粗い削り			
172	P521	CZ2-4		木製品	材	15.1	8.1	4.7	完存カ	流れ板目	—	両木口面チョウナによる粗い削り、上部を浅く四方向に削り出す			
173	P521	CZ2-4		木製品	材	19.8	19.9	10.0	完存	板目	—	下端木口面チョウナによる粗い削り、上端木口面側面チョウナ削り			
174	P521	CZ2-4		木製品	材	15.1	8.0	4.6	完存	芯去ミカン削	—	上下木口面チョウナによる粗い削り、表面下半部チョウナにより削り出し			
175	P521	CZ2-4		木製品	材	(11.3)	12.5	10.0	上部欠	芯去ミカン削	—	下端木口面チョウナによる粗い削り			
176	P521	CZ2-4		木製品	材	18.5	9.5	8.6	完存	芯去ミカン削	—	上下木口面チョウナによる粗い削り			
177	P521	CZ2-4		木製品	材	22.8	14.9	12.7	完存カ	板目	—	上下木口面チョウナによる粗い削り			
178	P529	CZ2-2		木製品	柱	(13.1)	12.9	14.4	上部欠	丸木取り	—	底面チョウナによりV字状に削り出し			
179	P586	CF4-4		木製品	柱	(20.0)	17.6	8.6	上部欠	芯去ミカン削	—	底面をチョウナにより平坦に削り			
180	P783	BF1-1		木製品	柱	(42.4)	13.8	11.1	上部・内端欠	丸木数りカ	クリ	底面チョウナによる水平に粗い削り出し	樹種同定試料No25、放射性炭素年代測定試料No25		
181	H柱列	BE2-1		木製品	杭	(55.3)	5.6	4.0	上部欠	丸木取り	—	先端部多方向削り出し			
182	H柱列	BE2-1		木製品	杭	(16.4)	2.3	2.2	上部欠	丸木取り	—	中程柱杭のみ、先端部削り出し			
183	H柱列	BE2-1		木製品	杭	(45.0)	4.5	4.2	上部欠	丸木取り	—	中程柱杭のみ、先端部多方向削り出し			
184	H柱列	BE2-1		木製品	杭	23.4	2.6	2.4	完存	丸木取り	—	先端部削り出し			
185	H柱列	BE2-1		木製品	杭	28.1	4.6	4.5	IEIE完存カ	IEIE削り出し	—	先端部兩側面削り出し			
186	H柱列	BE2-1		木製品	杭	24.2	4.1	3.6	IEIE完存カ	丸木取り	—	先端部四方向削り出し			

石器

掲載番号	道 横	グリッド	層位	器 種	石 材	計測値			遺存度	備 考	査定	査定	写真用紙	
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)						
198	紺土		石刀	往復刃石刀	珪質頁岩	9.9	2.1	1.0	15.75	完存	全体がローリングを受け崩壊			
199	Bg	Ia層	刮削器	珪質頁岩	(3.5)	3.4	0.7	7.03	上部欠損	—				
200	Fb	Ia層	磨製石刀	珪質頁岩	(5.9)	3.5	2.0	66.31	底部欠損	—				
201	PT91	Bg-2	石核	單塊石核	3.7	2.4	1.4	11.65	—	板山面(内板板面)				
202	37上	Eg-3	石核	單塊石核	1.6	2.6	1.5	6.41	—	板山面(内板板面)				

第IV章 自然科学分析

1 板山館跡出土木製品の樹種同定

(株) バレオ・ラボ 黒沼 保子

(1) はじめに

新発田市に所在する板山館跡から出土した木製品の樹種同定を行った。

(2) 試料と方法

試料は、下駄が 2 点と柱材が 22 点の、計 24 点である。調査所見から、遺跡は室町時代～近世前期まで屋敷地として利用されていたと推測されている。これらの試料から、剃刀を用いて 3 断面（横断面・接線断面・放射断面）の切片を採取し、ガムクロラールで封入してプレパラートを作製した。これを光学顕微鏡で観察・同定し、写真撮影を行った。

(3) 結 果

樹種同定の結果、針葉樹ではスギのみ 1 分類群、広葉樹ではクリとコナラ属コナラ節（以下、コナラ節）、モクレン属、カキノキ属の 4 分類群、計 5 分類群が確認された。

下駄はスギとモクレン属であった。柱材はクリが 18 点とコナラ節が 4 点、カキノキ属が 1 点であった。器種別の樹種構成を表 1、結果の一覧を付表 1 に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、光学顕微鏡写真を図版に示す。

ス ギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don スギ科 図版 1 1a-1c (No. 1)

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急である。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔は大型のスギ型で、1 分野に通常 2 個並ぶ。

スギは暖帯から温帯下部に生育する常緑高木である。材は比較的軽軟で、切削加工は容易であり、割裂性は大きい。

ク リ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 図版 1 2a-2c (No. 8), 3a (No. 15)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環材孔である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で主に単列である。

クリは温帯下部から暖帯に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Prinns* ブナ科 図版 1 4a-4c (No. 4)

大型の道管が年輪のはじめに 1 程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環材孔である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の 2 種類がある。

コナラ節は温帯下部および暖帯に分布する落葉高木で、カシワとミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は全体的に重硬で、加工困難である。

表 1 器種別の樹種構成

樹種／器種	下駄	柱	計
スギ	1		1
クリ		18	18
コナラ属コナラ節		4	4
モクレン属		1	1
カキノキ属		1	1
計	2	23	25

モクレン属 *Magnolia* モクレン科 図版1 5a-5c (No.2)

小型の道管が、単独もしくは3~4個複合して均等に分布する散孔材である。木織維の壁は薄い。道管相互壁孔は対列~階段状、道管の穿孔は單一である。放射組織は1~2列幅で、上下端の1~2細胞が直立もしくは方形細胞である異性である。

モクレン属は温帯から暖帶上部に分布する常緑または落葉の低木および高木で、タイサンボクやホオノキ、モクレン、コブシなどがある。材は一般にやや軽軟または中庸程度だが、緻密で狂いが少ない。

カキノキ属 *Diospyros* カキノキ科 図版1 6a-6c (No.24)

径が中型で、厚壁で丸い道管が単独もしくは数個放射方向に複合して、まばらに分布する散孔材である。軸方向柔組織は線状である。道管の穿孔は單一である。放射組織は1~3列幅の異性で、接線断面において層界状に配列する。

カキノキ属は温帯から熱帯に分布する常緑または落葉の高木もしくは低木で、マメガキやカキノキなど7種がある。材は全体的にやや重硬で韌性がある。

(4) 考 察

樹種同定の結果、下駄はスギとモクレン属であった。新潟県内の事例では、中世以降の履物にスギとモクレン属が多く利用されており（久田, 2012），今回の分析結果とも一致する。

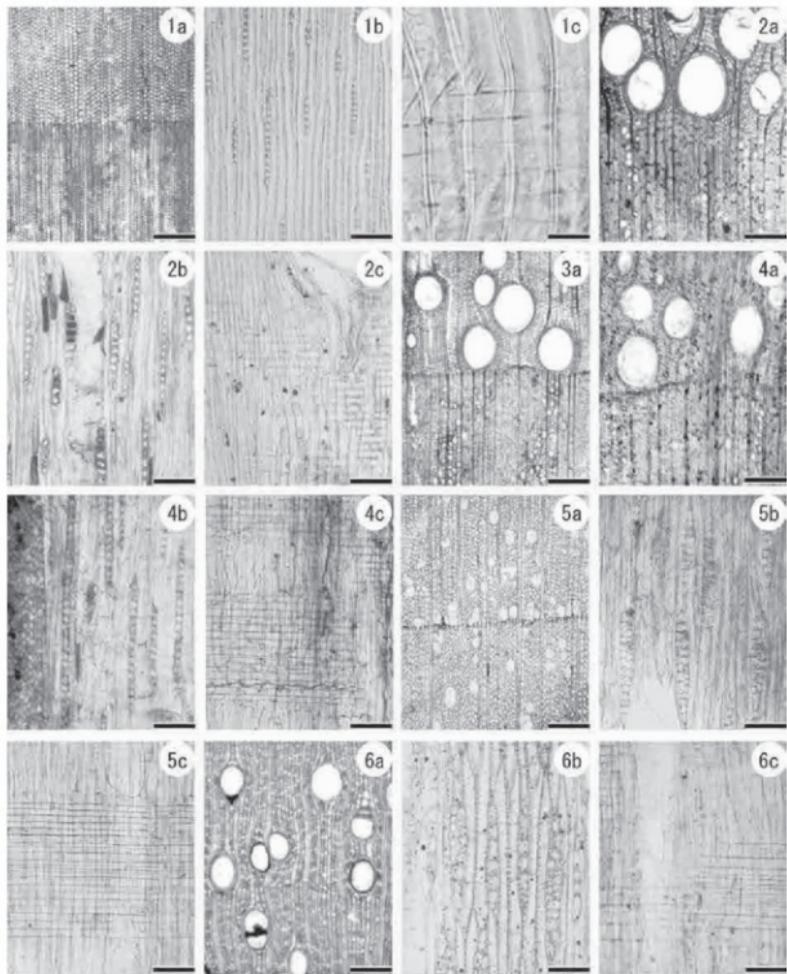
柱材はクリが18点で最も多く、その他にコナラ節とカキノキ属がみられた。クリ、コナラ節、カキノキ属はいずれも重硬な材である。カキノキ属は現在でも黒い心材の材がクロガキとして珍重され、床柱に用いられる（伊東ほか, 2011）。新潟県内の事例では、縄文時代～江戸時代まで建築部材にクリを多用する傾向があり（久田, 2012），今回の分析結果とも一致する。

付表1 樹種同定結果一覧

引用文献

- 久田正弘（2012）中部日本海側一福井県・石川県・富山県・新潟県一、伊東隆夫・山田昌久編「木の考古学－出土木製品用材データベース」：210-223、海青社。
伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学－出土木製品用材データベース、449p、海青社。
伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌、238p、海青社。

試料 No.	遺構名	種別	樹種	木取り
1	9号土坑	下駄	スギ	板目
2	21号土坑	下駄	モクレン属	板目
3	P33	柱	コナラ属コナラ節	芯持丸木
4	P36	柱	コナラ属コナラ節	芯持丸木
5	P300	柱	コナラ属コナラ節	芯持丸木
6	P329	柱	コナラ属コナラ節	角材(芯持)
7	P351	柱	クリ	角材(芯持)
8	P356	柱	クリ	芯持丸木
9	P359	柱	クリ	芯持丸木
10	P386	柱	クリ	角材(芯持)
11	P388	柱	クリ	芯持削出(多角形)
12	P442	柱	クリ	芯持丸木
13	P450	柱	クリ	芯持丸木？
14	P454	柱	クリ	芯持丸木？
15	P459	柱	クリ	芯持丸木
16	P483	柱	クリ	芯持丸木
17	P496	柱	クリ	芯持丸木
18	P512	柱	クリ	芯持丸木
19	P534	柱	クリ	芯持丸木
20	P536	柱	クリ	芯持丸木
21	P553	柱	クリ	芯持丸木
22	P562	柱	クリ	芯持丸木
23	P625	柱	クリ	芯持丸木
24	P767	柱	カキノキ属	芯持丸木
25	P783	柱	クリ	芯持丸木



図版1 板山館跡出土木製品の光学顕微鏡写真

1a-1c. スギ (No. 1), 2a-2c. クリ (No. 8), 3a. クリ (No. 15), 4a-4c. コナラ属コナラ節 (No. 4), 5a-5c. モクレン属 (No. 2), 6a-6c. カキノキ属 (No. 24)

a : 横断面 (スケール=250 μ m), b : 接線断面 (スケール=100 μ m), c : 放射断面 (スケール=1:25 μ m, 2-6: 100 μ m)

2 板山館跡における放射性炭素年代測定（AMS 測定）

（株）加速器分析研究所

（1）測定対象試料

板山館跡は、新潟県新発田市板山字館ノ越 2279 番地 1 ほか（北緯 37° 54' 16"、東經 139° 24' 32"）に所在する。板山川右岸に広がる緩傾斜地（標高約 64m）に立地し、東に丘陵が迫る。測定対象試料は、10 号溝出土炭化物 2 点と、柱穴出土柱材から採取された木片 23 点の合計 25 点である（表 1）。

10 号溝の底面では、焼土粒と炭化物が敷き詰められたような状態で出土し、試料 No. 1, 2 はそこから採取された。試料 No. 3 ~ 25 が採取された柱材の木取りには、芯持丸材と芯持角材があり、総年輪数は約 10 ~ 90 年輪確認された（約 30 年輪以下のものが多い）。いずれも樹皮は認められず、残存最外年輪を含む数年輪分の木片を測定試料として採取した（最外年輪の部分の保存状態が悪く、数年輪分内側から採取したものもある）。

この館については、出土遺物に基づき、14 世紀後半には築かれ、改築を経て、18 世紀代まで利用されたと考えられている。

（2）測定の意義

構の埋没年代、柱（及び建物）の構築年代を知るための手がかりとする。

（3）化学処理工程

- 1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- 2) 酸-アルカリ-酸 (AAA : Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1 mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。
- 3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO₂) を発生させる。
- 4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- 6) グラファイトを内径 1 mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

（4）測定方法

加速器をベースとした ¹⁴C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し、¹⁴C の計数、¹³C 濃度 (¹³C/¹²C)、¹³C 濃度 (¹³C/¹⁴C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

（5）算出方法

① $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ¹³C 濃度 (¹³C/¹²C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (%) で表した値である（表 1）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

② ¹⁴C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ¹⁴C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準

年 (0yrBP) として測る年代である。年代値の算出には, Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 $\delta^{13}\text{C}$ 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に, 補正していない値を参考値として表 2 に示した。 $\delta^{13}\text{C}$ 年代と誤差は, 下 1 枝を丸めて 10 年単位で表示される。また, $\delta^{13}\text{C}$ 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は, 試料の $\delta^{13}\text{C}$ 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。

③pMC (percent Modern Carbon) は, 標準現代炭素に対する試料炭素の $\delta^{13}\text{C}$ 濃度の割合である。pMC が小さい ($\delta^{13}\text{C}$ が少ない) ほど古い年代を示し, pMC が 100 以上 ($\delta^{13}\text{C}$ の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため, 補正した値を表 1 に, 補正していない値を参考値として表 2 に示した。

④暦年較正年代とは, 年代が既知の試料の $\delta^{13}\text{C}$ 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ, 過去の $\delta^{13}\text{C}$ 濃度変化などを補正し, 実年代に近づけた値である。暦年較正年代は, $\delta^{13}\text{C}$ 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり, 1 標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が $\delta^{13}\text{C}$ 年代, 横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は, $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い, 下 1 枝を丸めない $\delta^{13}\text{C}$ 年代値である。なお, 較正曲線および較正プログラムは, データの蓄積によって更新される。また, プログラムの種類によっても結果が異なるため, 年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは, 暦年較正年代の計算に, IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を用い, OxCalv4.2 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については, 特定のデータベース, プログラムに依存する点を考慮し, プログラムに入力する値とともに参考値として表 2 に示した。暦年較正年代は, $\delta^{13}\text{C}$ 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

(6) 測定結果

測定結果を表 1, 2 に示す。

10 号溝出土試料 2 点の $\delta^{13}\text{C}$ 年代は, いずれも $360 \pm 20\text{yrBP}$ である。暦年較正年代 (1σ) は, No. 1 が $1464 \sim 1620\text{cal AD}$, No. 2 が $1469 \sim 1622\text{cal AD}$ の間に各々複数の範囲で示される。

柱材試料 23 点の $\delta^{13}\text{C}$ 年代は, $450 \pm 20\text{yrBP}$ (No. 6) から $90 \pm 20\text{yrBP}$ (No. 20) の間にある。暦年較正年代 (1σ) は, 最も古い No. 6 が $1431 \sim 1450\text{cal AD}$ の範囲, 最も新しい No. 9 が $1668 \sim 1803\text{cal AD}$ の間に 4 つの範囲と 1937cal AD 以降の範囲で示される。なお, No. 3, 4, 8, 9, 11, 13, 15 ~ 21, 24, 25 の較正年代については, 記載された値よりも新しい可能性がある点に注意を要する (表 2 下の警告参照)。

これらの試料 25 点の測定結果は, 推定される鉛の存続年代とおおむね一致する。

試料の炭素含有率はすべて 50% を超え, 化学処理, 測定上の問題は認められない。

文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337–360
Reimer, P. J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0–50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869–1887
Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355–363

表1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正値)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-142810	No. 1	10号溝 底面	炭化物	AAA	-27.28 ± 0.32	360 ± 20	95.58 ± 0.29
IAAA-142811	No. 2	10号溝 底面	炭化物	AAA	-27.13 ± 0.43	360 ± 20	95.64 ± 0.29
IAAA-142812	No. 3	P33 柱材	木片	AAA	-27.86 ± 0.58	110 ± 20	98.70 ± 0.29
IAAA-142813	No. 4	P36 柱材	木片	AAA	-27.81 ± 0.36	100 ± 20	98.79 ± 0.30
IAAA-142814	No. 5	P300 柱材	木片	AAA	-29.35 ± 0.52	370 ± 30	95.46 ± 0.30
IAAA-142815	No. 6	P329 柱材	木片	AAA	-28.15 ± 0.55	450 ± 20	94.53 ± 0.28
IAAA-142816	No. 7	P351 柱材	木片	AAA	-29.18 ± 0.53	380 ± 30	95.34 ± 0.30
IAAA-142817	No. 8	P356 柱材	木片	AAA	-23.87 ± 0.40	260 ± 20	96.87 ± 0.29
IAAA-142818	No. 9	P359 柱材	木片	AAA	-27.43 ± 0.46	180 ± 20	97.78 ± 0.28
IAAA-142819	No. 10	P386 柱材	木片	AAA	-23.11 ± 0.46	300 ± 30	96.30 ± 0.30
IAAA-142820	No. 11	P388 柱材	木片	AAA	-29.21 ± 0.64	130 ± 20	98.40 ± 0.30
IAAA-142821	No. 12	P442 柱材	木片	AAA	-27.78 ± 0.85	310 ± 30	96.17 ± 0.31
IAAA-142822	No. 13	P450 柱材	木片	AAA	-26.72 ± 0.67	270 ± 20	96.66 ± 0.28
IAAA-142823	No. 14	P454 柱材	木片	AAA	-25.47 ± 0.46	340 ± 30	95.87 ± 0.31
IAAA-142824	No. 15	P459 柱材	木片	AAA	-25.02 ± 0.67	190 ± 20	97.63 ± 0.30
IAAA-142825	No. 16	P483 柱材	木片	AAA	-27.31 ± 0.63	270 ± 20	96.70 ± 0.29
IAAA-142826	No. 17	P496 柱材	木片	AAA	-27.59 ± 0.52	250 ± 20	96.96 ± 0.29
IAAA-142827	No. 18	P512 柱材	木片	AAA	-25.81 ± 0.63	150 ± 20	98.13 ± 0.30
IAAA-142828	No. 19	P534 柱材	木片	AAA	-28.56 ± 0.66	220 ± 20	97.33 ± 0.30
IAAA-142829	No. 20	P536 柱材	木片	AAA	-28.23 ± 0.45	90 ± 20	98.90 ± 0.29
IAAA-142830	No. 21	P553 柱材	木片	AAA	-28.37 ± 0.53	210 ± 20	97.48 ± 0.28
IAAA-142831	No. 22	P562 柱材	木片	AAA	-26.81 ± 0.40	300 ± 20	96.37 ± 0.30
IAAA-142832	No. 23	P625 柱材	木片	AAA	-27.47 ± 0.75	310 ± 30	96.16 ± 0.30
IAAA-142833	No. 24	P767 柱材	木片	AAA	-29.34 ± 0.46	210 ± 20	97.44 ± 0.29
IAAA-142834	No. 25	P783 柱材	木片	AAA	-27.10 ± 0.68	180 ± 20	97.75 ± 0.30

[#7106]

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值, 历年較正用 ^{14}C 年代, 較正年代) (1)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		曆年較正用 (yrBP)	1 σ 曆年代範囲	2 σ 曆年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-142810	400 ± 20	95.13 ± 0.28	363 ± 24	1464calAD - 1521calAD (45.4%) 1592calAD - 1620calAD (22.8%)	1452calAD - 1526calAD (52.6%) 1556calAD - 1633calAD (42.8%)
IAAA-142811	390 ± 20	95.22 ± 0.28	358 ± 24	1469calAD - 1521calAD (40.3%) 1577calAD - 1583calAD (3.4%) 1591calAD - 1622calAD (24.5%)	1454calAD - 1527calAD (48.8%) 1554calAD - 1634calAD (46.6%)
IAAA-142812	150 ± 20	98.12 ± 0.27	105 ± 23	1695calAD - 1726calAD (22.2%)* 1814calAD - 1838calAD (16.8%)* 1843calAD - 1853calAD (6.6%)* 1868calAD - 1892calAD (16.2%)* 1908calAD - 1917calAD (6.3%)*	1685calAD - 1732calAD (26.9%)* 1808calAD - 1928calAD (68.5%)*
IAAA-142813	140 ± 20	98.22 ± 0.29	97 ± 24	1697calAD - 1726calAD (23.4%)* 1815calAD - 1836calAD (16.7%)* 1845calAD - 1850calAD (3.7%)* 1877calAD - 1895calAD (13.9%)* 1904calAD - 1917calAD (10.6%)*	1689calAD - 1730calAD (25.9%)* 1809calAD - 1926calAD (69.5%)*
IAAA-142814	450 ± 20	94.60 ± 0.28	373 ± 25	1455calAD - 1514calAD (52.2%) 1600calAD - 1617calAD (16.0%)	1448calAD - 1524calAD (60.7%) 1559calAD - 1564calAD (1.3%) 1569calAD - 1631calAD (33.4%)
IAAA-142815	500 ± 20	93.92 ± 0.26	452 ± 23	1431calAD - 1450calAD (68.2%)	1420calAD - 1461calAD (95.4%)
IAAA-142816	450 ± 20	94.52 ± 0.28	383 ± 25	1451calAD - 1496calAD (52.1%) 1508calAD - 1511calAD (2.1%) 1601calAD - 1616calAD (14.0%)	1445calAD - 1523calAD (69.3%) 1574calAD - 1628calAD (26.1%)
IAAA-142817	240 ± 20	97.09 ± 0.28	255 ± 24	1641calAD - 1665calAD (59.5%)* 1785calAD - 1793calAD (8.7%)*	1524calAD - 1559calAD (11.5%)* 1631calAD - 1670calAD (68.2%)* 1780calAD - 1800calAD (15.5%)* 1945calAD - 1948calAD (0.3%)*
IAAA-142818	220 ± 20	97.29 ± 0.26	180 ± 23	1668calAD - 1682calAD (13.2%)* 1738calAD - 1757calAD (15.3%)* 1762calAD - 1783calAD (19.6%)* 1798calAD - 1803calAD (4.6%)* 1937calAD - ... (15.5%)*	1661calAD - 1691calAD (18.5%)* 1728calAD - 1810calAD (56.0%)* 1925calAD - ... (20.9%)*
IAAA-142819	270 ± 20	96.67 ± 0.29	303 ± 25	1522calAD - 1575calAD (48.6%) 1585calAD - 1590calAD (2.9%) 1625calAD - 1645calAD (16.7%)	1492calAD - 1602calAD (71.3%) 1615calAD - 1650calAD (24.1%)

表2 放射性炭素年代測定結果($\delta^{13}\text{C}$ 未補正値、暦年較正用 14C 年代、較正年代)(2)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-142820	200 ± 20	97.55 ± 0.26	129 ± 24	1683calAD - 1706calAD (11.6%)** 1720calAD - 1736calAD (8.8%)** 1805calAD - 1819calAD (7.7%)** 1833calAD - 1880calAD (28.8%)** 1915calAD - 1935calAD (11.3%)**	1677calAD - 1765calAD (34.5%)** 1773calAD - 1777calAD (0.7%)** 1800calAD - 1894calAD (45.3%)** 1906calAD - 1940calAD (14.9%)**
IAAA-142821	360 ± 20	95.62 ± 0.26	313 ± 25	1522calAD - 1576calAD (49.3%) 1585calAD - 1590calAD (4.1%) 1624calAD - 1641calAD (14.8%)	1491calAD - 1603calAD (74.0%) 1613calAD - 1646calAD (21.4%)
IAAA-142822	300 ± 20	96.32 ± 0.24	272 ± 23	1528calAD - 1551calAD (21.2%) ^a 1634calAD - 1660calAD (47.0%) ^a	1521calAD - 1576calAD (37.5%) ^a 1585calAD - 1590calAD (0.9%) ^a 1626calAD - 1666calAD (54.5%) ^a 1784calAD - 1795calAD (2.6%) ^a
IAAA-142823	350 ± 20	95.77 ± 0.29	339 ± 25	1492calAD - 1525calAD (22.7%) 1557calAD - 1602calAD (31.6%) 1612calAD - 1632calAD (13.9%)	1474calAD - 1637calAD (95.4%)
IAAA-142824	190 ± 20	97.63 ± 0.26	192 ± 24	1665calAD - 1680calAD (16.1%)** 1764calAD - 1801calAD (32.8%)** 1939calAD - ... (19.2%)**	1655calAD - 1685calAD (20.5%)** 1732calAD - 1808calAD (53.1%)** 1928calAD - ... (21.9%)**
IAAA-142825	310 ± 20	96.24 ± 0.26	269 ± 24	1529calAD - 1543calAD (15.4%) ^a 1634calAD - 1662calAD (52.8%) ^a	1521calAD - 1575calAD (33.4%) ^a 1585calAD - 1590calAD (0.7%) ^a 1626calAD - 1668calAD (56.7%) ^a 1782calAD - 1797calAD (4.6%) ^a
IAAA-142826	290 ± 20	96.45 ± 0.27	247 ± 24	1644calAD - 1665calAD (55.6%) ^a 1785calAD - 1793calAD (12.6%) ^a	1528calAD - 1551calAD (4.2%) ^a 1633calAD - 1670calAD (66.1%) ^a 1780calAD - 1800calAD (22.9%) ^a 1943calAD - ... (2.3%) ^a
IAAA-142827	160 ± 20	97.97 ± 0.27	151 ± 24	1674calAD - 1693calAD (11.6%)** 1728calAD - 1778calAD (33.4%)** 1799calAD - 1812calAD (8.3%)** 1919calAD - 1942calAD (15.0%)**	1667calAD - 1706calAD (16.2%)** 1719calAD - 1784calAD (35.3%)** 1796calAD - 1820calAD (10.8%)** 1832calAD - 1883calAD (14.9%)** 1914calAD - ... (18.3%)**

表2 放射性炭素年代測定結果($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、曆年較正用14C年代、較正年代)(3)

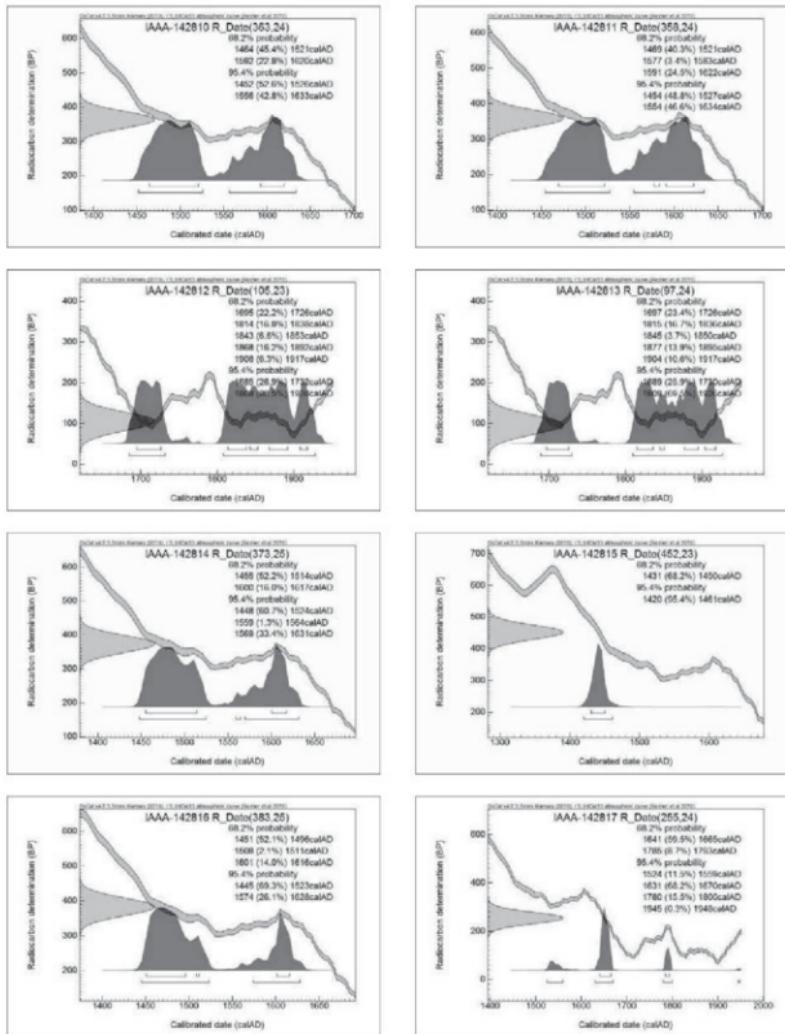
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		曆年較正 (yrBP)	1 σ 曆年代範囲	2 σ 曆年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-142828	280 ± 20	96.62 ± 0.26	217 ± 24	1651calAD - 1670calAD (26.9%) ^a 1780calAD - 1799calAD (30.9%) ^a 1944calAD - ... (10.4%) ^a	1645calAD - 1682calAD (36.7%) ^a 1738calAD - 1752calAD (2.9%) ^a 1762calAD - 1803calAD (41.8%) ^a 1937calAD - ... (14.0%) ^a
IAAA-142829	140 ± 20	98.25 ± 0.27	88 ± 23	1697calAD - 1724calAD (21.3%) ^{***} 1815calAD - 1835calAD (15.1%) ^{***} 1878calAD - 1917calAD (31.8%) ^{***}	1691calAD - 1729calAD (25.7%) ^{***} 1810calAD - 1923calAD (69.7%) ^{***}
IAAA-142830	260 ± 20	96.80 ± 0.26	205 ± 23	1656calAD - 1678calAD (20.0%) ^a 1765calAD - 1800calAD (32.9%) ^a 1940calAD - ... (15.4%) ^a	1649calAD - 1684calAD (27.1%) ^a 1736calAD - 1805calAD (49.8%) ^a 1935calAD - ... (18.6%) ^a
IAAA-142831	330 ± 20	96.01 ± 0.29	297 ± 24	1523calAD - 1572calAD (49.9%) 1630calAD - 1647calAD (18.3%)	1497calAD - 1505calAD (1.4%) 1512calAD - 1601calAD (66.7%) 1616calAD - 1653calAD (27.2%)
IAAA-142832	360 ± 20	95.67 ± 0.26	314 ± 25	1522calAD - 1576calAD (48.5%) 1584calAD - 1591calAD (4.9%) 1623calAD - 1641calAD (14.8%)	1491calAD - 1603calAD (74.2%) 1613calAD - 1646calAD (21.2%)
IAAA-142833	280 ± 20	96.57 ± 0.27	208 ± 23	1655calAD - 1675calAD (22.3%) ^a 1777calAD - 1799calAD (30.8%) ^a 1941calAD - ... (15.2%) ^a	1648calAD - 1683calAD (29.2%) ^a 1737calAD - 1805calAD (48.6%) ^a 1936calAD - ... (17.6%) ^a
IAAA-142834	220 ± 20	97.33 ± 0.26	183 ± 24	1667calAD - 1682calAD (13.4%) ^{**} 1737calAD - 1784calAD (34.0%) ^{**} 1797calAD - 1804calAD (5.2%) ^{**} 1936calAD - ... (15.6%) ^{**}	1659calAD - 1690calAD (18.9%) ^{**} 1729calAD - 1810calAD (55.3%) ^{**} 1925calAD - ... (21.2%) ^{**}

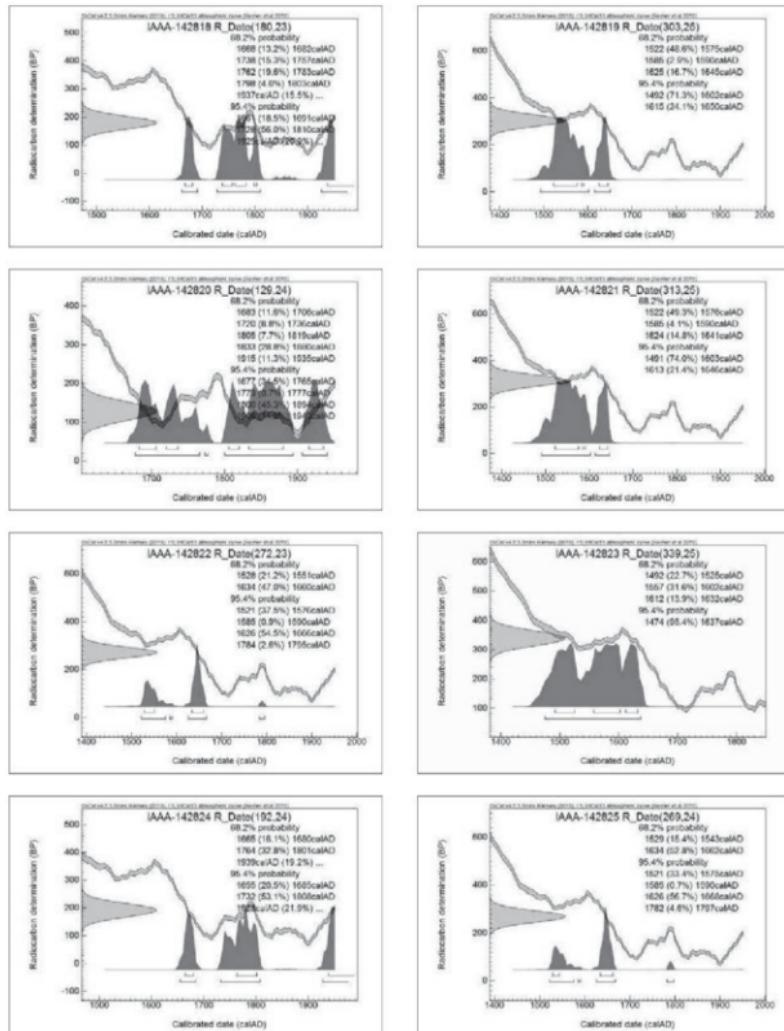
[参考値]

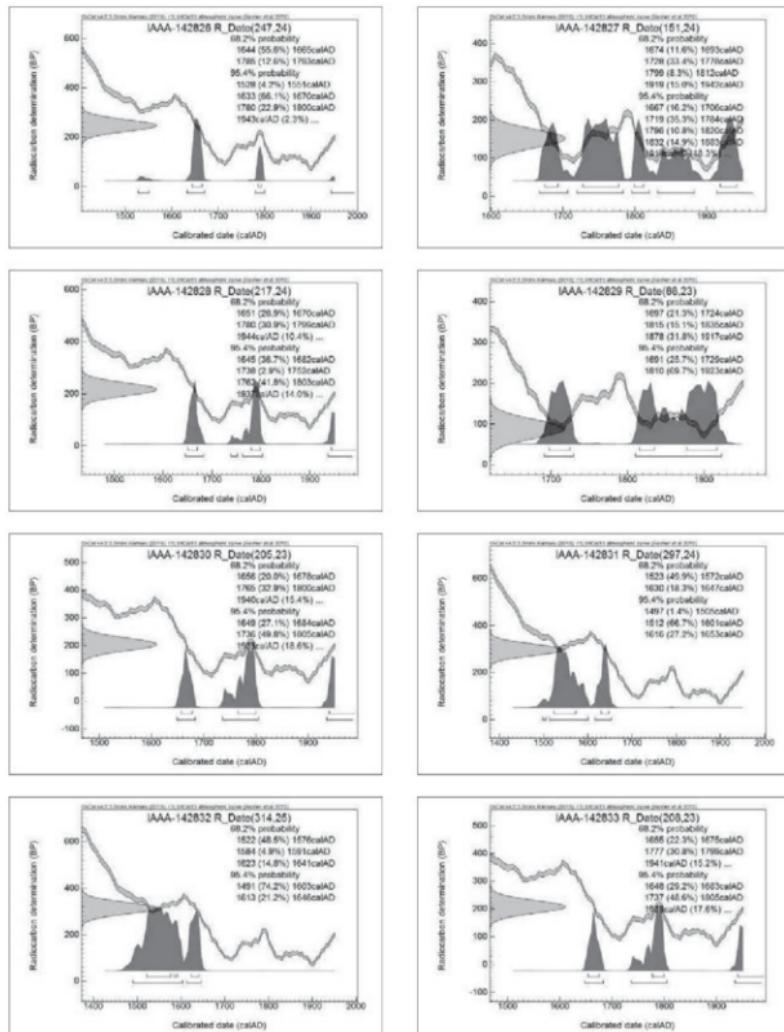
^a Warning! Date may extend out of range^{**} Warning! Date may extend out of range

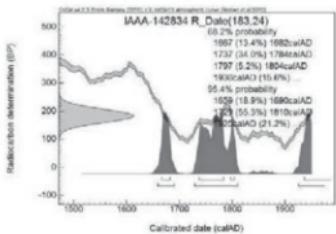
Warning! Date probably out of range

^{***} Warning! Date probably out of range(これらの警告は較正プログラム OxCal が発するもので、試料の ^{14}C 年代に対応する較正年代が、当該曆年較正曲線で較正可能な範囲を超える新しい年代となる可能性があることを表す。^a, ^{**}, ^{***} の順にその可能性が高くなる。)









[図版]暦年較正年代グラフ(参考)

3 板山館跡採取土壤分析（トイレ遺構分析）

(株)古環境研究所

ここでは、新発田市板山字館ノ越より採取された堆積物について、種実の抽出・同定を行った。

(1)はじめに

遺構の堆積物の遺体群集や性状を調べることによって、堆積環境や周辺の植生、利用植物、堆積物の生成の由来などが推定復原できる。トイレ遺構等では、寄生虫卵密度、花粉群集組成、種実群集組成において特異性を示し、その遺体群集からヒトが食べた食物を直接的に探ることができる。

ここでは、板山館跡の方形居館跡より検出土坑の堆積物について、寄生虫卵分析、花粉分析、種実同定、珪藻分析を行い、トイレ跡の可能性について検討する。

(2) 試料

分析の対象となった遺構は、室町時代から戦国時代（14世紀代から16世紀）にかけて営まれた居館跡で、その後は江戸時代中期（18世紀）まで屋敷地として利用されていた。分析試料は、付属建物と考えられる掘立柱建物の内部に位置する直径70cm、深さ約20cmの円形の20号土坑より採取された堆積物で、土坑内の縁内側、縁外側の試料2点である。試料となった堆積物はいずれも褐色シルト粘土で、砂礫が混じる。

(3) 寄生虫卵分析

a. 原理

人、動物などに寄生する寄生虫の卵殻は堆積物中に残存しやすい。人が密度高く居住すると周囲の寄生虫卵の汚染度が高くなる。また、便所跡等の糞便の堆積物では寄生虫卵密度が高く、他の堆積物と識別ができる、トイレ遺構を確認することも可能である。さらに、寄生虫の特有の生活史や感染経路から食物を探ることもできる。

b. 方法

微化石分析法を基本に以下のように行った。

- 1) 試料から 1 cm³ を採量
- 2) 0.5%リン酸三ナトリウム(12水)溶液を加え 15 分間湯煎

- 3) 篩別により大きな砂粒や木片等を除去し、沈澱法を実施
- 4) 25% フッ化水素酸を加え 30 分静置（2・3 度混和）
- 5) 水洗後サンプルを 2 分
- 6) 2 分したサンプルの一方にアセトトリシス処理を実施
- 7) 両方のサンプルを染色後グリセリンゼリーで封入しそれぞれ標本を作製
検鏡はプレバラート作製後直ちに、生物顕微鏡によって 300～1000 倍で行った。

c. 結果

①分類群

出現した寄生虫卵は 5 分類群である。これらの学名と和名および粒数を表 1 に示し、1 cm³ 中の寄生虫卵数を図 1 に示す。出現した分類群は顕微鏡写真に示す。以下に出現した分類群の特徴を示す。

回虫 *Ascaris (lumbricoides)* 比較的大きな虫卵で、およそ 80 × 60 μm あり橢円形で外側に蛋白膜を有し、胆汁色素で黄褐色ないし褐色を呈する。糞便とともに外界に出た受精卵は、18 日で感染幼虫包藏卵になり経口摂取により感染する。回虫は、世界に広く分布し、現在でも温暖・湿潤な熱帯地方の農村地帯に多くみられ、卵には受精卵と不受精卵がある。遺跡の堆積物の分析では、堆積年数による風化や薬品処理の影響により、受精卵と不受精卵の区別は不明瞭である。

鞭虫 *Trichuris (trichiura)*・**羊鞭虫** *Trichuris (trichiura) ovis* 虫の大きさは、50 × 30 μm でレモン形あるいは岐阜ちょうちん形で、卵殻は厚く褐色で両端に無色の栓がある。糞便とともに外界に出た虫卵は、3～6 週間で感染幼虫包藏卵になり経口感染する。鞭虫は、世界に広く分布し、現在ではとくに熱帯・亜熱帯の高温多湿な地域に多くみられる。

肝吸虫 *Clonorchis sinensis* 卵は、およそ 30 × 16 μm でなすび型で一端に陣笠状の小蓋を有する。卵殻の表面には亀甲状の紋理が認められる。糞便とともに外界に出た虫卵は、水中で第 1 中間宿主のマメタニシに食べられ、セルカリアになり水中に遊出し、第 2 中間宿主のモツゴ、モロコ、コイ、フナ、タナゴに侵入してメタセルカリアとなり、魚肉とともにヒトに摂取され感染する。肝吸虫は、アジア地域に広く分布し、とくに中国、日本、ベトナム、韓国に多い。日本では岡山県南部、琵琶湖沿岸、八郎潟、利根川流域などが流行地として知られている。

日本海裂頭条虫 *Diphyllobothrium latum(nihonkaiense)* 卵の大きさは、66～75 × 45～53 μm で橢円形、小蓋がある。ケンミジンコ類などの第 1 中間宿主を経て、第 2 中間宿主のマスやサケの生食によって感染する。日本海裂頭条虫は、北半球に分布し、とくに北欧、北米、東北アジア地域に多い。

マンソン裂頭条虫 *Diphyllobothrium mansoni* 卵の大きさは、70 × 35 μm で両端がややとがり左右非対称で、一端に小蓋がある。終宿主はイヌ科、ネコ科の動物で、ヒトは第 2 中間宿主や待機宿主となる。ヒトへの感染は第 1 中間宿主のケンミジンコのいる生水や第 2 中間宿主（主にニワトリ、カモ、ブタ、イノシシ、カエル、ヘビなど）、終宿主の生食などによる。

②寄生虫卵群集の特徴

籠内側 寄生虫卵密度が $2.0 \times 10^7 / \text{cm}^3$ でやや高く、回虫卵が 75% 以上を占め、次いで鞭虫卵が多く日本海裂頭条虫卵、マンソン裂頭条虫卵が検出される。明らかな消化残渣、石細胞などは認められない。

籠外側 寄生虫卵密度が $3.6 \times 10^6 / \text{cm}^3$ で、密度は生活汚染程度である。回虫卵がやや多く、鞭虫卵、肝吸虫卵が検出されるが、明らかな消化残渣、石細胞などは認められない。

d. 所見

寄生虫卵密度は籠内側で $2.0 \times 10^7 / \text{cm}^3$ でありやや高く、籠外側はやや低く $3.6 \times 10^6 / \text{cm}^3$ で生活汚染程度である。回虫卵、鞭虫卵、少ないが肝吸虫、日本海裂頭条虫、マンソン裂頭条虫が検出され、ヒトの糞便に由来する。回虫と鞭虫は中間宿主を必要とせず、汚染された生水、生野菜などから経口感染し蔓延する。日本海裂頭条虫、マンソン裂頭条虫、肝吸虫はともに中間宿主を必要とし、その生育分布から地域的な感染がおこり、風土病の様相を呈す

表1 板山館跡における寄生虫卵・花粉分析結果

学名	和名	20号土坑	
		縦内側	縦外側
Helminth eggs	寄生虫卵		
<i>Ascaris(tumbrioides)</i>	回虫卵	19	4
<i>Trichuris(trichiura)</i>	鞭虫卵	4	1
<i>Clonorchis sinensis</i>	肝吸虫卵		1
<i>Diphyllobothrium latum(nihonkaiense)</i>	日本海製頭条虫卵	1	
<i>Diphyllobothrium mansoni</i>	マンソン製頭条虫卵	1	
Total	計	25	6
Helminth eggs frequencies of 1cm ³	試料1cm ³ 中の寄生虫卵密度	2.0 ×10 ²	3.6 ×10
Stone cell	石細胞	(-)	(-)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(-)	(-)
Arboreal pollen	樹木花粉		
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複維管束亜属	9	10
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	67	55
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	1	3
<i>Salix</i>	ヤナギ属	1	
<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ	1	
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	2	4
<i>Betula</i>	カバノキ属	1	
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ		1
<i>Castanea crenata</i>	クリ	117	164
<i>Castanopsis</i>	シイ属		1
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	4	6
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ	1	1
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エノキ属-ムクノキ		1
<i>Ilex</i>	モチノキ属	1	
<i>Aesculus turbinata</i>	トチノキ	7	2
<i>Camellia</i>	ツバキ属	2	
Arboreal + Nonarboreal pollen	樹木・草木花粉		
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	5	5
Leguminosae	マメ科		1
<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニワトコ属-ガマズミ属		2
Nonarboreal pollen	草本花粉		
Gramineae	イネ科	48	44
<i>Oryza</i> type	イネ属型	14	9
Cyperaceae	カヤツリグサ科	6	6
<i>Fagopyrum</i>	ゾバ属	3	1
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	3	3
Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	1
Cruciferae	アブラナ科	4	5
<i>Haloragis-Myriophyllum</i>	アリノトウガサ属-フサモ属	2	1
Hydrocotyloideae	チドメグサ亜科		1
Apioidae	セリ亜科		1
<i>Plantago</i>	オオバコ属		1
Lactucoideae	タンボボ亜科	11	7
Astroideae	キク亜科	2	2
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	8	7
Fern spore	シダ植物胞子		
Monolate type spore	單条溝胞子	11	20
Trilate type spore	三条溝胞子	15	15
Arboreal pollen	樹木花粉	214	248
Arboreal + Nonarboreal pollen	樹木・草木花粉	5	8
Nonarboreal pollen	草木花粉	102	89
Total pollen	花粉総数	321	345
Pollen frequencies of 1cm ³	試料1cm ³ 中の花粉密度	1.5 ×10 ⁻⁴	1.3 ×10 ⁻⁴
Unknown pollen	未同定花粉	5	11
Fern spore	シダ植物胞子	26	35
Charcoal + woods fragments	微細炭化物・微細木片	(+)	(+)

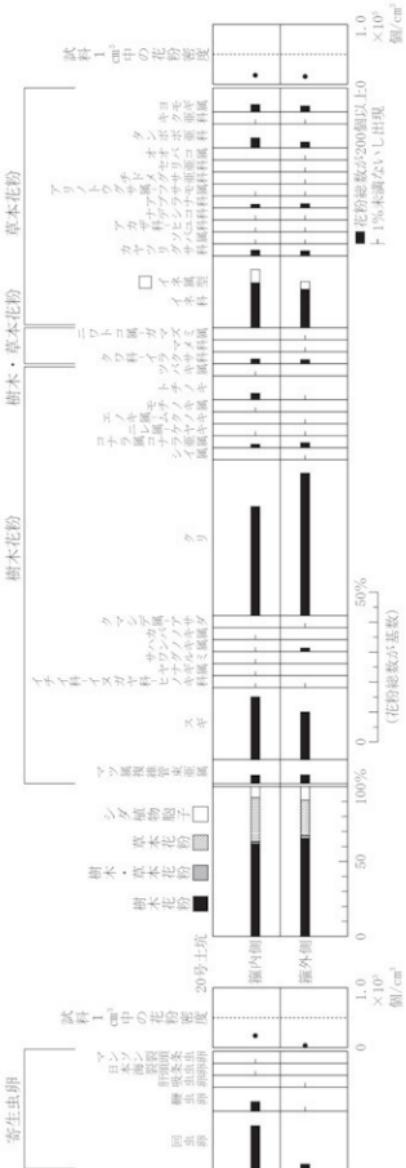


図 1 板山鉢における寄生虫卵・花粉ダイアグラム

ることもある。これらの寄生虫卵の出現から、生水や野草ないし生野菜などを完全に熱処理をしないで食したり、サケ、コイ、フナなどの川魚、ニワトリ、カモ、イノシシなどの肉などを摂食していたとみなされる。

(4) 花粉分析

a. 原理

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復元に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

b. 方法

寄生虫卵分析で2分しアセトトリス処理を施した沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作製、検鏡・計数を行った。

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行う。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（—）で結んで示す。イネ属について、中村（1974, 1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。また、この処理を施すとクスノキ科の花粉は検出されない。

c. 結果

① 分類群

出現した分類群は、樹木花粉16、樹木・草本花粉3、草本花粉14、シダ植物胞子2形態の計35分類群である。これらの学名と和名および粒数を表1に示し、周辺の植生を復原するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを図1に示し、主要な分類群は顕微鏡写真に示した。以下に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕

マツ属複維管束亜属、スギ、イチイ科—イスガヤ科—ヒノキ科、ヤナギ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属—アサダ、クリ、シイ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属—ケヤキ、エノキ属—ムクノキ、モチノキ属、トチノキ、ツバキ属

〔樹木・草本花粉〕

クワ科—イラクサ科、マメ科、ニワトコ属—ガマズミ属

〔草本花粉〕

イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ソバ属、アザレ科—ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、アリノトウグサ属—サモ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、オオバコ属、タンボボ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

單条溝胞子、三条溝胞子

② 花粉群集の特徴

籠内側 樹木花粉の占める割合が高く、60%以上を占める。クリが高率に出現し、次いでスギが多くマツ属複維管束亜属、トチノキなどが出現する。草本花粉では、イネ科（イネ属型を含む）を主にタンボボ亜科、ヨモギ属、カヤツリグサ科、アブラナ科、ソバ属が出現する。

籠外側 樹木花粉が65%以上を占め、クリが高率に出現する。次いでマツ属複維管束亜属、コナラ属コナラ亜属が多い。草本花粉では、イネ科（イネ属型を含む）を主にタンボボ亜科、ヨモギ属、カヤツリグサ科、アブラナ科、ソバ属が出現する。

d. 所見

分析の結果、樹木花粉のクリ、スギが高率に出現し、籠の内と外には大きな差は認められない。これらは、堆積

表2 板山樹幹における性別分析結果

分類群	20号干	
	樹内側	樹外側
貴重な種(淡水生種)		
<i>Achnanthus crenulata</i>	1	
<i>Achnanthus hungarica</i>	1	
<i>Achnanthus lanceolata</i>	1	
<i>Amphora copulata</i>	5	6
<i>Amphora montana</i>	5	2
<i>Amphora ovalis</i>		1
<i>Adonis amurensis</i>	1	
<i>Adonis amurensis</i>	1	3
<i>Adonis amurensis</i> sp.	1	
<i>Calamus batatum</i>		1
<i>Calamus rotundus</i>	1	
<i>Carex sylvatica</i>	2	1
<i>Coccinea plicatula</i>	0	3
<i>Cymbella cuspidata</i>		1
<i>Cymbella gracilis</i>	3	1
<i>Cymbella nasiculiformis</i>	2	1
<i>Cymbella stellaria</i>	6	4
<i>Diplomeris elliptica</i>		1
<i>Equisetum minor</i>	12	10
<i>Equisetum sp.</i>		1
<i>Fragaria ananassa</i>		1
<i>Fragaria capucina</i>		1
<i>Fragaria estuaria</i>		2
<i>Fratulella vulgaris</i>	3	1
<i>Gomphophyllum clevei</i>		1
<i>Gomphophyllum minutum</i>	2	
<i>Gomphophyllum parvulum</i>	10	3
<i>Gomphophyllum spp.</i>	1	1
<i>Hantzschia amphioxys</i>	33	43
<i>Meridion circulare v. constrictum</i>	1	
<i>Nauclera clementis</i>		2
<i>Nauclera coerulea</i>	1	6
<i>Nauclera confervacea</i>		1
<i>Nauclera contenta</i>	1	2
<i>Nauclera cryptocaula</i>		1
<i>Nauclera cryptotella</i>	1	
<i>Nauclera elgmannii</i>	15	3
<i>Nauclera goettneriana</i>		1
<i>Nauclera ignota</i>		1
<i>Nauclera korschyi</i>	6	9
<i>Nauclera laevissima</i>	1	2
<i>Nauclera matca</i>	49	24
<i>Nauclera placentula v. obtusa</i>		2
<i>Nauclera veneta</i>	3	
<i>Neidium affine</i>		2
<i>Neidium alpinum</i>	8	3
<i>Neidium apiculatum</i>	4	1
<i>Nitzschia nama</i>	2	
<i>Nitzschia palea</i>	6	5
<i>Nitzschia spp.</i>	4	9
<i>Pinnularia acidophila</i>	3	1
<i>Pinnularia acrocephalaria</i>	2	1
<i>Pinnularia aestuaria</i>	3	
<i>Pinnularia appendiculata</i>	11	1
<i>Pinnularia borealis</i>	5	11
<i>Pinnularia brasiliensis</i>		1
<i>Pinnularia divergens</i>		1
<i>Pinnularia gibba</i>	1	
<i>Pinnularia hemisphaerica</i>	2	1
<i>Pinnularia intertexta</i>	2	
<i>Pinnularia lagerstedtii</i>		4
<i>Pinnularia major</i>	1	
<i>Pinnularia microstauron</i>	8	5
<i>Pinnularia obscura</i>	7	1
<i>Pinnularia schoenfelderi</i>	24	6
<i>Pinnularia schreberi</i>	8	2
<i>Pinnularia subcapitata</i>	18	11
<i>Pinnularia viridis</i>	5	6
<i>Pinnularia spp.</i>	2	2
<i>Staurodes laevisborgiana</i>	1	1
<i>Staurodes phoenicenteron</i>		1
<i>Suturilla angusta</i>	6	2
<i>Suturilla tenera</i>	1	
<i>Tubellaria fenestrata flocculosa</i>	2	3
中貴重な種(汽水淡水生種)		
<i>Nitzschia leidiana</i>		1
<i>Rheopeltis goniostoma</i>	8	11
	202	200
总计	9	9
死亡	213	213
試料 1 cm ⁻² 中心断面密度	1.7	4.9
実測割合(%)	2.10 ⁻³	5.10 ⁻³
実測割合(%)	60.8	33.3

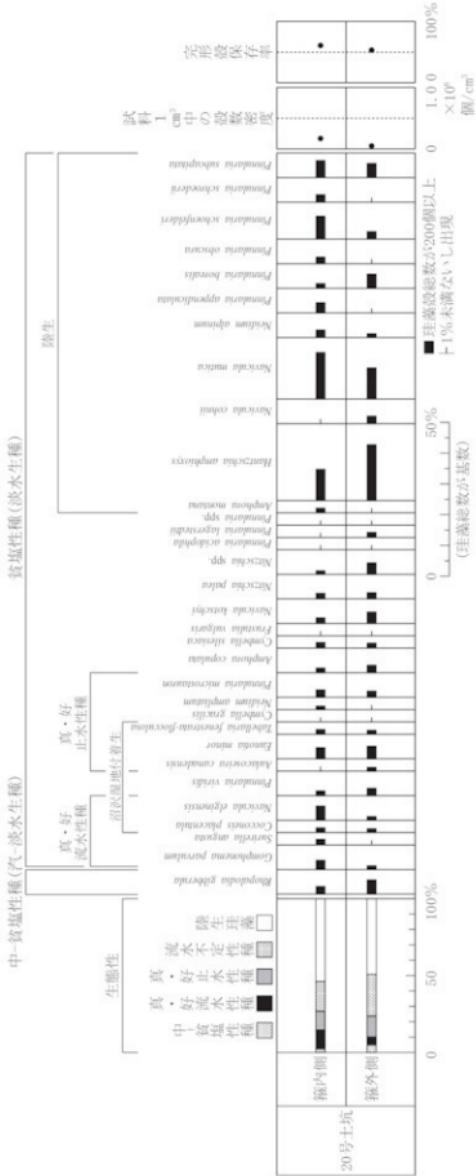


図2 板山館跡における主要珪藻ダイアグラム

地周辺の植生を反映しているとみなされ、近隣にはスギ林とクリ二次林が分布していたと推定される。イネ科にはイネ属型が伴われ、栽培植物を含むソバ属、アブラナ科も出現することから、周囲には水田や畑が分布していたと考えられる。また、参考のために珪藻分析を行ったところ（図2）、湿润な土壤に生育する陸生珪藻が優占し、流水不定性種、真・好止水性種、葦の内側では真・好流水性種も出現し、沼澤地付着生種も比較的多いことから流水の影響を受けつつ滞水したり乾燥したりする曖昧な環境が示唆される。

（5）種実同定

a. 原理

植物の種子や果実は比較的強靭なものが多く、堆積物中に残存する。堆積物から種実を検出しその群集の構成や組成を調べ、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また出土した単体試料等を同定し、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

b. 方法

試料（堆積物）に以下の物理処理を施して、抽出および同定を行った。

- 1) 試料 500cm³に水を加え放置し、泥化
- 2) 搅拌した後、沈んだ砂礫を除去しつつ、0.25mmの篩で水洗選別
- 3) 残渣を双眼実体顕微鏡下で観察し、種実の同定計数

同定は形態的特徴および現生標本との対比を行い、結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示す。

c. 結果

①分類群

樹木1、草本11の計12分類群が同定された。学名、和名および粒数を表3に示し、主要な分類群を写真に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記載する。

②種実群集の特徴

籠内側 草本種実のイネ穎破片が最も多く、次にイヌビエ属33、カタバミ属25、カヤツリグサ科20、アザガ属15、ミゾソバ14、ナデシコ科10、コナギ5、タデ属5、キランソウ属3と続き、樹木種実のキイチゴ属1が検出された。

籠外側 草本種実のイネ穎破片、イネ科12、カタバミ属6、イヌビエ属5、ナデシコ科5が検出された。

d. 所見

種実は、籠内側で数、種類とともに多く検出され、イネ穎破片が多い。他の分類群も人里植物、耕地雑草の性格を持つものばかりで、堆積地周辺の人里や畑の環境を反映したとみなされる。

（6）考察とまとめ

a. 遺構の性格

花粉は、籠内側と籠外側とも周囲の植生を反映し、種実は堆積地周辺の人里や畑の環境を反映している。寄生虫卵は密度が低いものの種類が多く、また籠内側の方が多い。試料となった堆積物は、花粉と種実の検出状況からみて埋積時のものとみなされる。しかし、籠内側は籠外側より寄生虫卵が多いことから、本来糞便堆積が堆積し、その汚染が埋積時の堆積物に反映したとみなされる。以上のことから、土坑はトイレ遺構であり、籠が便屑であったと考えられる。なお、イネ穎破片は埋積時に投棄されたりして堆積したと考えられる。寄生虫卵分析から示唆される食生活としては、生野菜などの摂食、コイ科とサケ科のコイ、フナ、サケなどの川魚、ニワトリ、カモ、イノシシ、イヌなどの肉を摂食していた可能性が考えられる。

b. 周囲の植生および環境

花粉分析と種実同定の結果から、周囲にはやや森林が多く、クリ林とスギ林が分布していた。土坑の周辺はイネ

科、カタバミ属、イヌビエ属、ナデシコ科、アブラナ科、タンボボ亜科、ヨモギ属などの人里に多い草本が繁茂し、周辺地域では水田やゾバ属などの畑の分布が示唆される。

表3 板山館跡における種実同定結果

学名	分類群	和名	部位	20号土坑	
				竈内側	竈外側
Arbor		樹木			
Rubus		キイチゴ属	核	1	
Herb		草本			
Oryza sativa L.		イネ	穎(破片)	(+++)	(+)
Echinochloa Beauv.		イヌビエ属	穎(破片)	33	5
Gramineae		イネ科	穎		12
Cyperaceae		カヤツリグサ科	果実	20	
Monochoria vaginalis Presl var. plantaginea Solms-Laub.		コナギ	種子	5	
Polygonum Thunbergii S. et Z.		ミゾバ	果実	14	
Polygonum		タデ属	果実	5	
Chenopodium		アカザ属	種子	15	
Caryophyllaceae		ナデシコ科	種子	10	5
Oxalis		カタバミ属	種子	25	6
Ajuga		キランソウ属	果実	3	
Total			合計	131	28

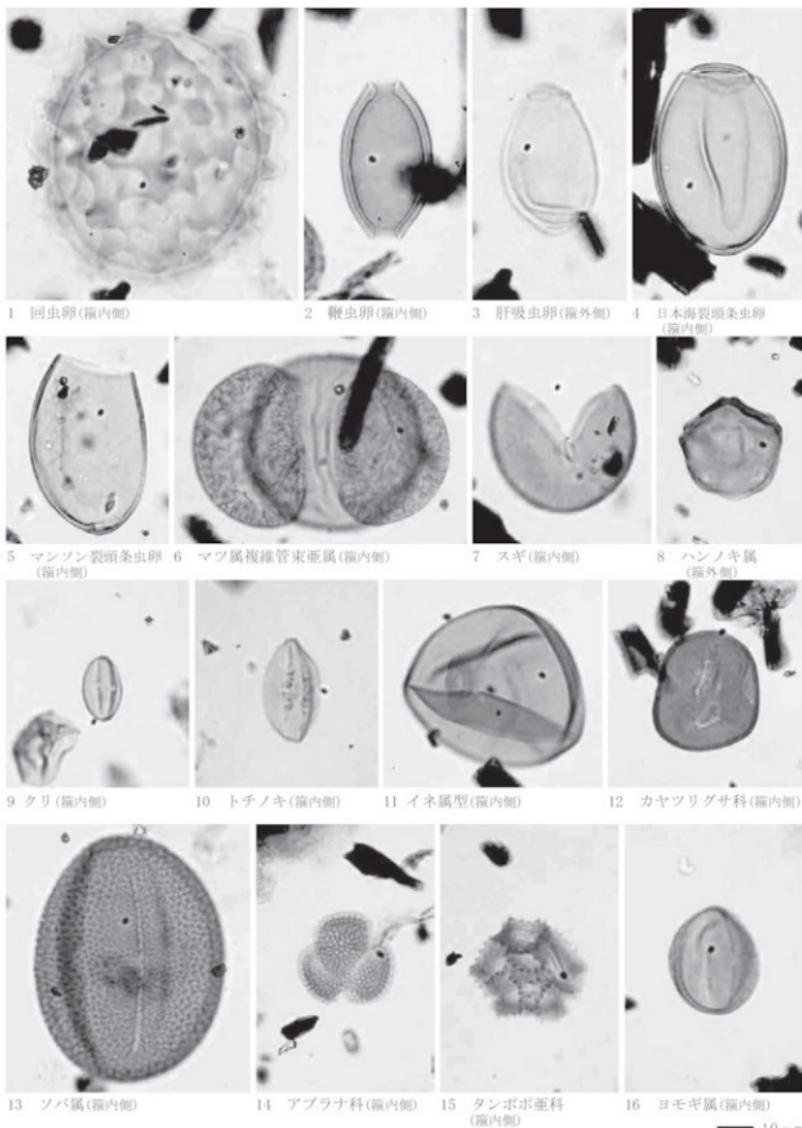
(500cm³ 中 0.25mm 篩)

参考文献

- Peter J. Warnock and Karl J. Reinhard (1992) Methods for Extracting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils. Journal of Archaeological Science, 19, p.231-245.
- 金子清俊・谷口博一 (1987) 線形動物・扁形動物・医動物学, 新版臨床検査講座, 8, 医薬出版社, p. 9-55.
- 金原正明・金原正子 (1992) 花粉分析および寄生虫, 藤原京跡の便所遺構—藤原京7条1坊—, 奈良国立文化財研究所, p. 14-15.
- 金原正明 (1999) 寄生虫, 考古学と動物学, 考古学と自然科学, 2, 同成社, p. 151-158.
- 中村純 (1967) 花粉分析, 古今書院, p. 82-102.
- 金原正明 (1993) 花粉分析法による古環境復原, 新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法, 角川書店, p. 248-262.
- 島倉巳三郎 (1973) 日本植物の花粉形態, 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集, 60p.
- 中村純 (1967) 花粉分析, 古今書院, p. 82-102.
- 中村純 (1974) イネ科花粉について, とくにイネ (*Oryza sativa*)を中心として, 第四紀研究, 13, p. 187-193.
- 中村純 (1977) 稲作とイネ花粉, 考古学と自然科学, 第10号, p. 21-30.
- 中村純 (1980) 日本産花粉の標識, 大阪自然史博物館収蔵目録第13集, 91p.
- 南木睦彦 (1992) 低湿地遺跡の種実, 月刊考古学ジャーナルNo. 355, ニューサイエンス社, p. 18-22.
- Hustedt, F. (1937-1938) Systematische und ologische Untersuchungen über die Diatomeenflora von Java, Bali und Sumatra nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda-Expedition. Arch. Hydrobiol., Suppl. 15, p. 131-506.

- Lowe, R.L. (1974) Environmental Requirements and pollution tolerance of fresh - water diatoms. 333p., National Environmental Reserch.Center.
- K. Krammer • H. Lange-Bertalot (1986-1991) Bacillariophyceae • 1 – 4.
- Asai, K. & Watanabe, T. (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution(2) Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom 10, p. 35-47.
- 安藤一男 (1990) 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用. 東北地理, 42, p. 73-88.
- 伊藤良永・堀内誠示 (1991) 瞳生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. 珪藻学会誌, 6, p. 23-45.
- 小杉正人 (1986) 陸生珪藻による古環境解析とその意義—わが国への導入とその展望—. 植生史研究, 第1号, 植生史研究会, p. 29-44.
- 小杉正人 (1988) 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用. 第四紀研究, 27, p. 1-20.
- 渡辺仁治 (2005) 淡水珪藻生態図鑑 群集解析に基づく汚濁指数 DAipo, pH 耐性能. 内田老鶴園, 666p.
- 笠原安夫 (1985) 日本雑草図説, 義賢堂, 494p.
- 笠原安夫 (1988) 作物および田畠雑草種類. 弥生文化の研究第2巻生業, 雄山閣 出版, p. 131 – 139.
- 南木睦彦 (1991) 栽培植物. 古墳時代の研究第4巻生産と流通 I, 雄山閣出版株式会社, p. 165 – 174.
- 南木睦彦 (1993) 葉・果実・種子. 日本第四紀学会編, 第四紀試料分析法, 東京大学出版会, p. 276 – 283.
- 吉崎昌一 (1992) 古代雑穀の検出. 月刊考古学ジャーナル No.355, ニューサイエンス社, p. 2-14.

板山館跡の寄生虫卵・花粉



— 10 μ m

板山館跡の種実



1 キイチゴ属核(縦内側)
— 0.5mm



2 イネ穎破片(縦内側)
— 1.0mm



3 イヌビエ属穎破片
(縦内側)
— 0.5mm



4 イネ科穎(縦外側)
— 0.5mm



5 カヤツリグサ科果実
(縦内側)
— 0.5mm



6 コナギ種子(縦内側)
— 0.1mm



7 ミゾソバ果実(縦内側)
— 1.0mm



8 タデ属果実(縦内側)
— 0.5mm



9 アカザ属種子(縦内側)
— 0.5mm



10 ナデシコ科種子
(縦外側)
— 0.1mm



11 カタバミ属種子
(縦内側)
— 0.5mm



12 キランソウ属果実
(縦内側)
— 0.5mm



13 イネ穎破片(縦内側)
— 1.0mm



14 イネ穎破片(縦内側)
— 1.0mm

第V章　まとめ

1　土器・陶磁器の変遷（第86図）

今回の板山館跡の調査では、中・近世の陶磁器は平箱3箱分が出土した。土師器・瓦質土器、中国陶磁器の青磁・白磁・青花・陶器、国産の瀬戸美濃焼・珠洲焼・越前焼・信楽焼・肥前系磁器・肥前系陶器・越中瀬戸焼があり、その大半は破片資料である。接合できたものや、接合の結果全容がわかるようになったものは極めてわずかであつ

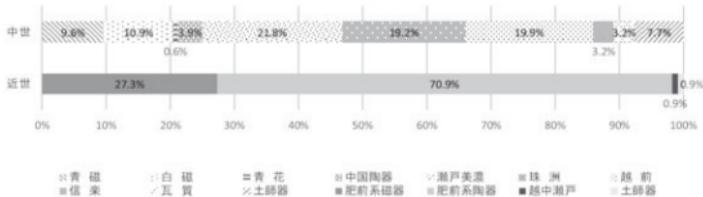
土器・陶磁器　产地・器種別破片数

時代	分類	器種 产地	供給品					調理品			貯蔵品			その他						合計	
			天目	碗	皿	杯	盤	鉢	插詠 (N=118)	壺	瓶	壺	花瓶 鉢	花盆	瓶	火鉢	大入	灯明	皿	蓋	
中世	磁器	青 磁	14				1														15
	磁器	白 磁	1	11	2																17
	磁器	青 花			1																1
	陶器	中山陶器	1																		6
	陶器	瀬戸美濃 珠 洲	4	11	10	2		1		10	18	2	3	1						2	34
	陶器	越 前								8	23										30
	陶器	信 蕤										8									31
	土器	瓦 質					4														5
	土器	土師器			12																12
	土器	肥前系	21	2								3	2	1		1		2	32		32
近世	磁器	紀伊系	11	27	1	1	1	29	10		2					1	1				63
	陶器	越中瀬戸									1										1
	土器	土師器			1																1
	土器	上野器																			273

【参考】調査面積 1,878m²から出土貿易陶磁破片数 39点=48.15m²（貿易陶磁器1点が出土する面積）

土器・陶磁器の時期別器種・产地組成表

※数字は、時代ごとの総破片数に占める割合



土器・陶磁器 消長表



第86図　土器・陶磁器の組成と消長

た。接合後の総破片点数（同一個体と見られる破片でも、接合できないものはそれぞれを1点として数えた点数）は273点で、その内訳は第86図上段に記載し、中世・近世の各時代における、土器・陶磁器の産地・器種別の総破片数に占める割合を示したグラフ（中段）や、各時期における消長を示した表（下段）も併せて掲載した。なお、瀬戸美濃焼は大窯第4段階の終わりが17世紀初頭、肥前系陶器はⅠ期の始まりが16世紀末となっていることから、瀬戸美濃焼大窯期は近世、肥前系陶器は中世の時期のものが一部含まれている可能性はあるが、ここでは大窯段階の瀬戸美濃焼は中世、肥前系陶器はいずれも近世として取り扱った。

まず、中世全体の土器・陶磁器の組成を概観すると、中国産の陶磁器類、瀬戸美濃焼、珠洲焼、越前焼がいずれも20%前後の量で、何かが卓越して多いという状況は認められない。

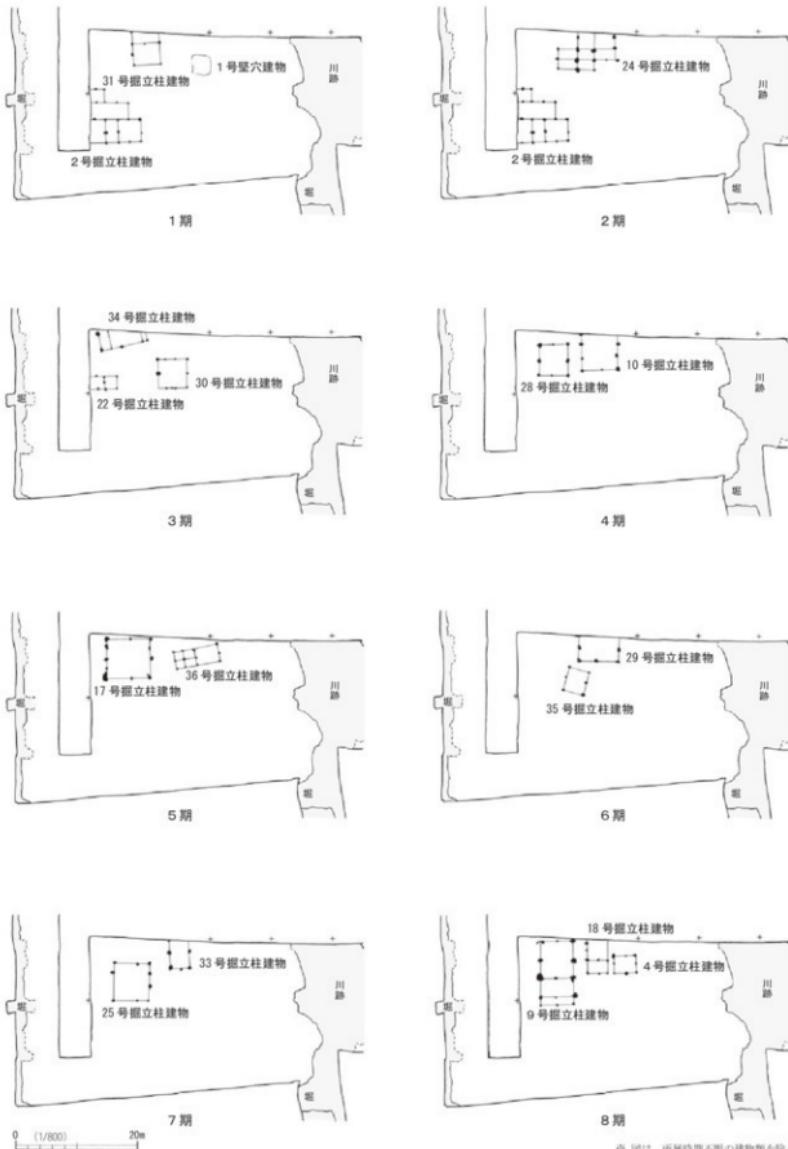
本遺跡出土の中世遺物で、最も古い時期に位置付けられるのは吉岡編年Ⅱ～Ⅲ期頃の珠洲焼である。ただし、13世紀代に該当するそれらの遺物がごく少量出土しているに過ぎないため、本遺跡の始まりをこの時期に求めるることは難しいであろう。遺物の組成にバリエーションが見られるようになるのは、14世紀後半になってからである。上田分類B-II類の青磁碗と吉岡編年IV期の珠洲焼が出土している。14世紀後葉から末頃になると、新たに瀬戸美濃焼が組成に加わる。15世紀に入ると、これまで組成の中心であった珠洲焼が激減する。減少した珠洲焼に代わり組成に加わるのが、瓦質土器擂鉢と信楽焼窓である。また、森田分類B群やD群の白磁皿類、藤澤編年古瀬戸後Ⅲ期から後Ⅳ期の碗皿類が新たに加わり、上田分類B類やD類の碗とともに供膳具を構成する。このような組成は15世紀中葉までは大きく変わらない。15世紀後葉頃からは、越前焼IV期以降の擂鉢や壺・甕類が組成に加わり、手づくね成形の京都系土器皿類も出土し始めるが、瀬戸美濃焼は減少し、信楽焼、瓦質擂鉢とともに15世紀末頃には組成から姿を消している。16世紀前葉は、供膳具では森田分類E群の白磁皿や京都系土器皿、田中・木村編年V期の越前焼の擂鉢と壺・甕類という組成になるが、前代に比べると全体の出土量は減少する。16世紀中葉の遺物は見られず、16世紀後葉後半頃になると大窯第3段階の瀬戸美濃焼の皿類が出土し始め、16世紀末には大窯第4段階の瀬戸美濃焼皿類と、大橋編年Ⅰ期の肥前系陶器碗・皿類が出土する。

近世になると、中世段階で見られたような器種や産地のバリエーションは見られなくなり、肥前系の陶磁器類でほぼ構成されるようになる。17世紀初頭は肥前系陶器の碗・皿などの食膳具で占められるが、17世紀の前葉後半を過ぎた頃になると、肥前系磁器の碗・皿類のほかに、肥前系陶器の擂鉢や壺・甕類も出土するようになる。17世紀後半に入ると、肥前系磁器碗の出土量も増え、本遺跡における肥前系陶磁器類の出土量がピークに達する。18世紀に入ると遺物の出土量は減少し、18世紀前半に本遺跡は終焉を迎える。

以上が、本遺跡出土の中・近世の土器・陶磁器の変遷である。14世紀代までは珠洲焼が調理具や貯蔵具の多くを占め、15世紀には珠洲焼が減少、それを補完するように瓦質土器擂鉢や信楽焼窓が組成に加わり、15世紀末頃に越前焼が入ってくる状況などは既往の研究成果（水澤2009b）を追認する結果といえる。また、中世段階までは様々な産地の器種により構成されていた陶磁器組成が、近世には肥前系陶磁器類が卓越するという状況も、これまでの調査や研究成果と概ね調和的であると評価できよう。

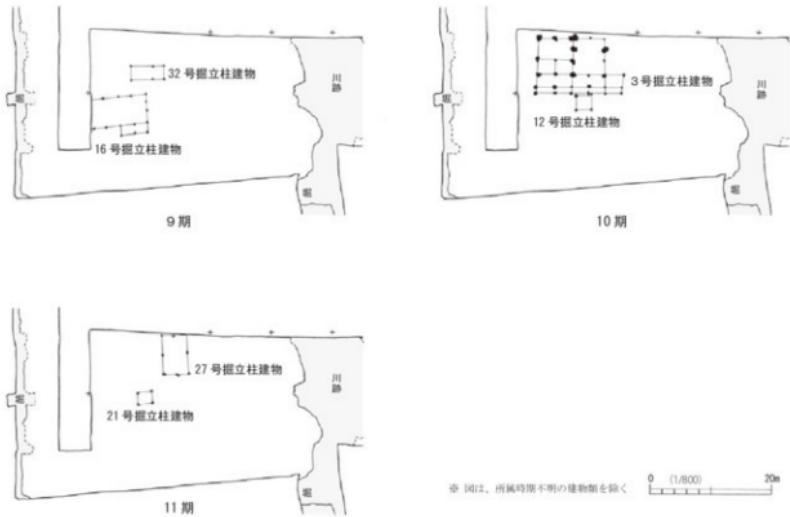
2 建物の消長と遺跡の変遷（第87・88図）

発掘調査では、800基を超えるピットとそれらから復元した掘立柱建物37棟、柵列3列、竪穴建物1棟を検出した。これらの遺構のほとんどが10m×10mの大グリッド3つ分の範囲に密集した状態で検出されていることから、限られた狭い範囲の中で幾度も建物が改築されていたことが想定できる。検出された建物の中で、重複関係にあるものの先後関係を整理し、建物を中心にその変遷を整理したところ、第87・88図に示した通り、11期に分かれることが判明した。なお、同図には所属時期を特定できない1・5～8・11・13～15・19・20・23・26・37号



第87図 建物類の変遷（1）

※ 同は、所属時期不明の建物類を除く



* 図は、所属時期不明の建物類を除く 0 (1/800) 20m

通称名	1 期	2 期	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期	8 期	9 期	10 期	11 期	備考
1号掘立柱建物												
2号掘立柱建物												
3号掘立柱建物												
4号掘立柱建物												
5号掘立柱建物												
6号掘立柱建物												
7号掘立柱建物												14・15・19号掘立柱建物とは併存しない
8号掘立柱建物												20号掘立柱建物とは併存しない
9号掘立柱建物												
10号掘立柱建物												
11号掘立柱建物												3号掘列とは併存しない
12号掘立柱建物												
13号掘立柱建物												
14号掘立柱建物												7・19号掘立柱建物とは併存しない
15号掘立柱建物												7・19号掘立柱建物とは併存しない
16号掘立柱建物												
17号掘立柱建物												
18号掘立柱建物												
19号掘立柱建物												7・11・15号掘立柱建物とは併存しない
20号掘立柱建物												8号掘立柱建物とは併存しない
21号掘立柱建物												
22号掘立柱建物												
23号掘立柱建物												26号掘立柱建物とは併存しない
24号掘立柱建物												
25号掘立柱建物												
26号掘立柱建物												23号掘立柱建物とは併存しない
27号掘立柱建物												
28号掘立柱建物												
29号掘立柱建物												
30号掘立柱建物												
31号掘立柱建物												
32号掘立柱建物												
33号掘立柱建物												
34号掘立柱建物												
35号掘立柱建物												
36号掘立柱建物												
37号掘立柱建物												
1号掘穴構造												
1号掘列												2号掘列とは併存しない
2号掘列												1号掘列とは併存しない
3号掘列												11号掘正社は物とは併存しない

— 建物等が存在していた時期 — 建物等が存在した可能性のある時期

第88図 建物類の変遷（2）

掘立柱建物と1～3号柵列は掲載していない。

1期 2号掘立柱建物と、その北東に位置する31号掘立柱建物、31号掘立柱建物の東に位置する1号堅穴建物で構成される。又下屋を有する2号掘立柱建物が、その規模から主屋の可能性がある。

2期 1期から継続して2号掘立柱建物が残り、それと新たに建てられた24号掘立柱建物で構成される。24号掘立柱建物も、總柱建物の可能性のある比較的大きな規模の建物であることから、2号掘立柱建物とは異なる性格の建物と想定される。底面から炭化物が大量に検出された10号溝も、この時期に当たる。

3期 底または下屋を有する34号掘立柱建物と、その南東側に30号掘立柱建物、南西側に22号掘立柱建物で構成される。34号掘立柱建物が調査区外へ延びているため全容は不明だが、平面構造から主屋に類する建物と想定される。

4期 10号掘立柱建物と、その西側に位置する28号掘立柱建物で構成される。いずれもあまり大きな建物ではないが、主屋が10号掘立柱建物で、28号掘立柱建物はそれに付属する建物と想定される。

5期 17号掘立柱建物と、その東に位置する36号掘立柱建物で構成される。この時期の建物もあまり大きな規模ものはないが、17号掘立柱建物が主屋と考えられる。

6期 29号掘立柱建物と、その南西に位置する35号掘立柱建物で構成される。北側が調査区外へと延びるため全容は不明だが、29号掘立柱建物が主屋で、35号掘立柱建物はそれに付属する建物であろう。

7期 25号掘立柱建物と、その北東側に隣接する33号掘立柱建物で構成される。33号掘立柱建物は、調査区北側へ延びていくため全容は不明だが、やや小規模な建物と考えられる。

8期 妻底を有する9号掘立柱建物と、その東側に隣接する18号掘立柱建物・4号掘立柱建物で構成される。建物規模から9号掘立柱建物が主屋で、4・18号掘立柱建物がそれに付属する建物であろう。

9期 南東部分に下屋を有する16号掘立柱建物と、その北側に位置する32号掘立柱建物で構成される。建物規模から、16号掘立柱建物が主屋で、32号掘立柱建物はそれに付属する建物と考えられる。

10期 今回の調査で検出された建物のうち、最も大きな規模の建物で主屋となる3号掘立柱建物と、その南に隣接する付属屋となる12号掘立柱建物で構成される。

11期 27号掘立柱建物と、その南西に位置する21号掘立柱建物で構成される。建物の規模から、27号掘立柱建物が主屋で、21号掘立柱建物は付属する建物であろう。

以上の11期に分けて遺跡の変遷をたどることができる。

各期の年代であるが、前節で示したとおり中世と近世で出土する陶磁器類の産地・器種の構成が全く異なる点に着目したい。4期以前の遺構からは中世の遺物のみが出土しているのに対し、5期以降はほとんどの時期の建物から肥前系陶磁器が出土している。このような状況から、本遺跡における中世と近世の境は4期と5期の間にあると考えることとしたい。そして、2期に位置付けられる10号溝から出土した炭化物の放射性炭素年代測定結果と、土器・陶磁器類の年代観から、1期を14世紀後半から15世紀中頃、2期を15世紀中頃から16世紀前葉、3・4期を16世紀代と考える。また、それに続く5期以降11期までを16世紀末以降から18世紀前半までの時期に当たるとし、出土遺物から10期は17世紀後半以降の年代を考えたい。

3 結語

今回の調査の結果、方半町規模の中世の方形居館といわれていた板山館跡は、中世だけでなく、近世に移行した後もその敷地を屋敷地として利用されていたことが判明した。館は、東側に山と川を背負うように立地し、南、西、北の三方に塀を巡らし築かれていた。出土遺物の年代から、14世紀後半から、16世紀中葉頃に一時その足跡は途

絶えるが、18世紀前半までその敷地は利用され、少なくとも11回にわたり建物の建替えが行われていたことが明らかとなつた。中世の館の主は不明ではあるが、方半町という館の規模から小領主クラスの館と考えられ、中国製や瀬戸美濃焼の天目茶碗や茶臼を保有し、茶を嗜んでいたことが推測される。近世に入ってからも館の敷地は屋敷地として利用されていたことはこれまで述べてきたが、その際に規模の大きな建物も築かれていることから、庄屋や名主といった地域の有力者クラスの屋敷地であったと想定される。

板山の地は、会津街道を赤谷方面から下関・米沢へと向かう際、小戸で加治川を渡り、板山から東へ折れて山沿いを北上し、南保、田貝、虎丸、三光から音谷へと抜ける往時の道（菅1961）の、山際と平野部の境にあたる交通の要衝であった。そして板山館の位置する場所は、秋葉山城が立地する秋葉山を東側に背負い、西側の平野部を広く望むことができ、また、山から流れ出る水が平野部へと注がれる入口にもあたる。これらのことから、板山を治める領主がこの地を館を築く場所として選んだ要因であることは、想像に難くないのではないだろうか。

引用・参考文献

- 和羽 重徳 2011「第VI章まとめ 2 中世 B 加工円盤の分類と用途」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第207集 北陸新幹線関係発掘調査報告書XIV 姫御前遺跡II・竹花遺跡I』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 阿部 洋輔 2017「付編 五十公野氏と新発田氏についての粗描」『五十公野館跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- 伊藤 喜代子・鈴木 睦ほか 2008『加治天王前遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- 伊藤 喜代子・鶴巻 康志ほか 2006『太田遺跡・笛師跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- 伊藤 啓雄 2006「新潟県における中世土師器と輸入陶磁器・瀬戸美濃製品―中世後半～近世初頭の様相―」『中世北陸のカワラケと輸入陶磁器・瀬戸美濃製品』北陸中世考古学研究会
- 伊万里市史編さん委員会編 2006『伊万里市史 陶磁器編 古唐津・鍋島』伊万里市
- 上田 秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』第2号、日本貿易陶磁研究会
- 大橋 康二 1989『考古学ライブラー55 肥前陶磁』ニューサイエンス社
- 小野 正敏 1982「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』第2号、日本貿易陶磁研究会
- 加藤 学 1999「第V章 上層の調査 1. 遺構」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第93集 上信越自動車道関係発掘調査報告書V 和泉A遺跡 (本文・観察表編)』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤 学・猪狩俊哉 2004「第V章 遺物 5 木製品 B 柱根・礎板・根路み 2 柱根の観察・計測項目」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第133集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書V 青田遺跡 (本文・観察表編)』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

- 加藤 学・石垣 義則ほか 2014『新潟県埋蔵文化財調査報告書第247集 一般国道7号新発田拡幅事業関係発掘調査報告書 小船渡遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 亀井 明徳編 2002『明代前半期陶瓷器の研究—首里城京の内SK01出土品— 専修大学アジア考古学研究報告書1』
- 九州近世陶磁学会事務局編 2000『九州陶磁の編年—九州近世陶磁学会10周年記念—』九州近世陶磁学会
- 新発田市史編纂委員会編 1980『新発田市史』上巻、新発田市
- 菅 善四郎編 1961『川東郷土史料』川東公民館
- 鈴木 晴・田中 耕作ほか 2004『上新田B遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- 閔 雅之 1999「所謂「新潟県新発田市板山産黒曜石」について—発見の経緯と分布についての覚書—」『北越考古学』第10号、北越考古学研究会
- 高桑 弘美 2003『I 土器 5 瓦質土器』東北中世考古学会編『中世奥羽の土器・陶磁器』高志書院
- 高橋 保雄・高橋 保ほか 2005『新潟県埋蔵文化財調査報告書第141集 管越自動車道関係発掘調査報告書 北野遺跡II (上刷) 本文編』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 田中 耕作 1983『小戸A遺跡・小戸B館跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- 田中 耕作・坂野井 純里ほか 2007『孤森B遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- 田中 耕作・鈴木 晴ほか 2014『中野遺跡・庄道田遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- 田中 耕作・鶴巻 康志 1992『館内遺跡D地点の調査』新発田市教育委員会
- 田中 耕作・鶴巻 康志ほか 1990『三光館跡・宝積寺館跡』新発田市教育委員会
- 田中 照久・木村 孝一郎 2005「越前窯」『全国シンポジウム 中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～ 資料集』全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会
- 津田 恵司 2011『太賀館跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- 鶴巻 康志・清水 美和ほか 1997『新発田城跡発掘調査報告書II (第7～10地点)』新発田市教育委員会
- 鶴巻 康志・永井いづみほか 2005『荒神裏A遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- 鶴巻 康志・高橋 正志 1999『寺内館跡発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- 戸根 与八郎・田中 耕作ほか 2017『五十公野館跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会
- 犀山遺跡発掘調査会 1988『縄文早期犀山遺跡発掘調査報告』『北越考古学』創刊号、北越考古学研究会
- 中村 隼人 2015『南部諸城の研究』『紀要』第34号、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 藤澤 良祐 2002『瀬戸・美濃大窯編年の再検討』(財)瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯、財团法人瀬戸市埋蔵文化財センター
- 2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
- 水澤 幸一 2004「15世紀前葉から中葉の貿易陶磁器様相」『貿易陶磁研究』第24号、日本貿易陶磁研究会
- 2005「越後の中世土器」『新潟考古』第16号、新潟県考古学会
- 2009a「15世紀末～16世紀中葉の陶磁器様相—貿易陶磁と越前一」『新潟県の考古学II』新潟県考古学会
- 2009b『日本海流通の考古学—中世武士団の消費生活—』高志書院
- 2017「中世後期の青磁盤」『中世土器の考古学』第五卷、雄山閣
- 宮本 長二郎 1999「日本中世住居の形成と発展」『建築史の空間—開口欲也先生退官記念論文集』中央公論美術出版
- 森田 勉 1982「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』第2号、日本貿易陶磁研究会
- 矢田 俊文・新潟県立歴史博物館編 2009『越後文書宝翰集 大見安田・水原氏文書』新潟県立歴史博物館
- 吉岡 康暢 1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館



調査区遠景（南東から）



調査区全景

図版2 基本土層、遺構検出状態。1・2号柵列



Be 3-5 調査区基本土層（西から）



Dg 5-1 調査区基本土層（南から）



Eh 1-3 調査区基本土層（北から）



Fi 3-5 調査区基本土層（東から）



Cf~Fhグリッド 遺構検出状態



Cf~Dfグリッド 柱穴検出状態



Cg~Dgグリッド 柱穴検出状態



1・2号柵列 完掘状態



3号掘立柱建物P300 土層堆積状態（北から）



3号掘立柱建物P356 土層堆積状態（南から）



3号掘立柱建物P543・9号掘立柱建物P639 柱根検出状態（南から）



3号掘立柱建物P553 土層堆積状態（西から）



9号掘立柱建物P359 柱根検出状態（西から）



17号掘立柱建物P734 底面植物遺存体検出状態（東から）



24号掘立柱建物P442・33号掘立柱建物P329 柱根検出状態（北から）



24号掘立柱建物P720 土層堆積状態（東から）

図版4 25・26・33号掘立柱建物柱穴, 1号竪穴建物, 1・3号井戸



25号掘立柱建物P388 土層堆積状態（西から）



25号掘立柱建物P496 柱根検出状態（南から）



26号掘立柱建物P454 柱根検出状態（北から）



33号掘立柱建物P386 柱根検出状態（西から）



1号竪穴建物 土層堆積状態（南から）



1号竪穴建物 完掘状態（東から）



1号井戸 完掘状態（東から）



3号井戸 検出状態（南から）



2号井戸 土層堆積状態（東から）



2号井戸 完掘状態（東から）



20号土杭 検出状態（西から）



20号土杭 検出状態（北西から）



40号土杭 土層堆積状態（南東から）



40号土杭 検出状態（南から）



50号土杭 土層堆積状態（南から）



50号土杭 検出状態（西から）

図版6 4・10・14・20号溝, 1号杭列, 堀



4号溝 土層堆積状態（東から）



10・20号溝 土層堆積状態（西から）



10号溝 土層堆積状態（南西から）



10号溝 完掘状態（南西から）



14号溝 土層堆積状態（西から）



14号溝 完掘状態（南東から）



1号杭列 断ち割り断面（東から）



堀（周辺） 土層堆積状態（南から）



堀（南辺西側）土層堆積状態（東から）



堀（南辺東側）土層堆積状態（東から）



堀（北西隅）完掘状態（西から）



堀（南西隅）完掘状態（北から）



堀（南東隅）完掘状態（南東から）



川路北壁 土層堆積状態（南西から）



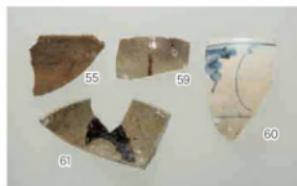
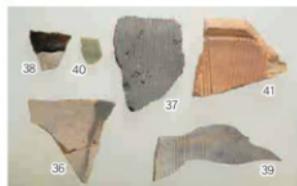
川路南壁 土層堆積状態（北東から）



川路 川底検出状態（南西から）

図版8 土器・陶磁器（1）





図版10 土器・陶磁器 (3)





図版12 石製品、石器





図版14 木製品 (2)



報 告 書 抄 錄

ふりがな	いたやまやかたあと はつくつちょうさほうこくしょ							
書名	板山館跡 発掘調査報告書							
副書名	県営担い手育成基盤整備事業（加治川右岸地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書IV							
シリーズ名	新発田市埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ番号	第57							
編著者名	本田 祐二・田中 耕作・黒沼 保子（㈱パレオ・ラボ）・ ㈱加速器分析研究所・㈱古環境研究所							
編集機関	新発田市教育委員会							
所在地	〒959-2323 新潟県新発田市乙次281番地2 TEL 0254-22-9534 FAX 0254-26-3755							
発行年月日	平成30（2018）年3月20日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いたやまやかたあと 板山館跡	新発田市板山 字舎ノ越2279 番1ほか	15206	96	37° 54' 16"	139° 24' 32"	20130529～ 20131225	1,878	県営担い手育成基 盤整備事業（加治 川右岸地区）
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項	
城館跡 その他 (屋敷跡)	中世 近世	掘立柱建物37棟、 堅穴建物1棟、柵 列3列、井戸3 基、土塁57基、溝 31条、杭列1列、 堀、川跡1筋	中世土器類、青磁、白磁、 青花、中国陶器、瀬戸美濃焼、 珠洲焼、越前焼、信楽 焼、瓦質土器、肥前系陶 器、肥前系磁器、加工円 盤、茶臼、粉引臼、砥石、 寛永通鑑、漆器	川を利用して築かれた14世紀後半から16世紀代の町方規格の方形居館で、近世には屋敷地となり、18世紀前半まで使用されていた。				

板山館跡 発掘調査報告書

県営担い手育成基盤整備事業（加治川右岸地区）
に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書 IV

発 行 平成 30（2018）年 3月 20 日

新発田市教育委員会

新潟県新発田市乙次 281 番地 2

印 刷 株エンジュ